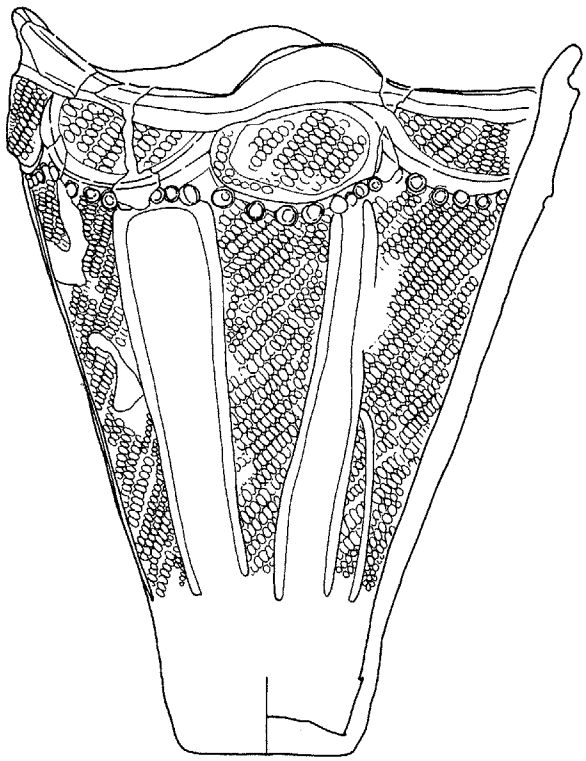
内堀遺跡群XII

—大室公園整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報—

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

内堀遺跡群 XII



B区Ｊ－１号住居址出土

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．調査区全景（B区）

2．B区H－23号住居址

3．平成11年度　調査区出土の土器

序

前橋市は、市内中央部を利根川、広瀬川が流れ、敷島公園や前橋公園、嶺公園、大室公園などの公園が市内各地にあり、近代詩のふるさとであり、「水と緑と詩のまち」と呼ばれる自然と文化、歴史に恵まれた町です。

市内には古代からの歴史を物語る古墳、寺跡などの史跡が残り、古代東国の中心地であったことがわかります。

国指定の史跡は10カ所を数え、全国でも有数の地域といえます。現在、その整備も進められており、21世紀に残る文化財として地域の歴史を知る貴重な存在です。

前橋市では、国指定の古墳である大室4古墳を中心とした総合公園を整備中です。公園の整備にともない各種公園施設が予定されており、事前の発掘調査を実施いたしました。

大室公園整備にともなう発掘調査は、内堀遺跡として12年目となりました。本年度は、縄文時代住居跡、古墳時代住居跡、周溝墓等の調査を行い、貴重な資料を得ることができました。

本調査実施にあたり、ご協力をいただきました関係各課、地元関係者の方々、酷暑の中調査に従事されました作業員の方々に感謝申し上げるとともに、本報告書が、市史解明の一助をなることを祈念して序といたします。

平成12年3月24日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　渡辺勝利

例　　言

1　本報告書は、前橋市が整備する大室公園に係る内堀遺跡群内堀遺跡、下縄引II遺跡の発掘調査報告書である。
　内堀遺跡…A区（管理用道路）、下縄引II遺跡…B区（管理用道路）

2　遺跡は群馬県前橋市西大室町2539番地に所在する。

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　渡辺勝利が前橋市長　荻原弥惣治と委託契約を締結して実施した。調査担当および調査期間は以下の通りである。
　調査担当者　　林　　信也・平野　岳志（前橋市埋蔵文化財発掘調査係員）
　発掘調査期間　平成11年４月30日～平成11年10月７日
　報告書作成期間　平成11年10月８日～平成12年３月24日

4　本書の原稿執筆・編集は林・平野が行った。整理作業をはじめ報告書の作成には、佐藤佳子・下境真由美・下境弥・高畑八栄子・内藤貴美子・峰岸あや子・吉田真理子の協力があった。

5　発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に、建設省国土地理院発行の１／20万地形図（長野・宇都宮）と１／５万（前橋）を使用した。

3　本遺跡の略称は１１Ｅ１１である。

4　各遺構・住居址の施設名の略称は次の通りである。
　Ｊ…縄文時代の住居址、Ｈ…古墳時代の住居址、Ｄ…土杭、Ｗ…溝状遺構、Ｘ…地割れ
　Ｆ…炉址、Ｐ…柱穴・貯蔵穴

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。
　遺構　　住居址・土坑・溝・地割れ…1/60、炉址・竈址…1/30、全体図…1/400,1/500,1/50000,1/200000
　遺物　　土器・石製品…１／３、１／４、土製品…１／２、１／３、石器・鉄製品…１／３、玉類…１／２

6　スクリーントーンの使用は次の通りである。
　遺構平面図　焼土…
　遺構断面図　焼土…、構築面…
　遺物実測図　須恵器断面…、石器使用痕…、火を受けた部分…

7　遺物分布図のシンボルの使用は次の通りである。
　●土器、▲土製品、■石器・石製品、○玉類、△須恵器、□鉄器
　なお接合状態は実線で結んだ。

8　本文中の数値の（　）は現存値を示し、［　］は復原地を示す。

9　火山降下物の略称と年代は次の通りである。
　Ａｓ－Ｂ（Ｂ軽石：供給火山・浅間山，1108年）
　Ｈｒ－ＦＰ（ＦＰ軽石：供給火山・榛名山，６世紀中葉）
　Ａｓ－Ｃ（Ｃ軽石：供給火山・浅間山，４世紀中葉）

目　　次

序

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地……5

2　歴史的環境……5

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針……8

2　調査経過……8

Ⅳ　層　　序……9

Ⅴ　遺構と遺物

1　A　区

（1）住居址……10

（2）周溝墓……11

（3）溝状遺構……12

2　B　区

（1）住居址……13

（2）溝状遺構……23

3　地割れ……24

Ⅵ　成果と問題点……25

1　下縄引Ⅱ遺跡の集落体系について……26

2　墓域と住居域について……28

3　祭祀との関連について……29

図　版

巻頭図版　1　調査区全景（B区）
　　2　B区H－23号住居址

PL. 1　A区全景、A区J－1・H－1号住居址、
　　C－1号周溝墓
　　2　A区X－1・2号地割れ、W－1号溝、
　　B区J－1号住居址
　　3　B区H－1～3号住居址
　　4　B区H－3～6号住居址
　　5　B区H－5・6・8号住居址
　　6　B区H－8～12号住居址
　　7　B区H－14・16・18・19号住居址
　　8　B区H－19～22号住居址
　　9　B区H－22・23号住居址
　　10　B区H－24～26号住居址、
　　D－1号土坑、X－1・2号地割れ

巻頭図版　3　平成11年度調査出土の土器

PL. 11　A区H－1号住居址、X－2号地割れ、
　　B区H－1～3号住居址出土の土器
　　12　B区H－3～6号住居址出土の土器
　　13　B区H－6・7号住居址出土の土器
　　14　B区H－6・8・9・11号住居址出土の土器
　　15　B区H－11・12・14号住居址出土の土器
　　16　B区H－14・16・18・19・20・22号住居址
　　出土の土器
　　17　B区H－20～23号住居址出土の土器
　　18　B区H－22～26号住居址出土の土器
　　19　B区J－1・H－6・11号住居址出土の土器
　　20　縄文土器
　　21　特殊遺物・鉄製品・石製品、石器・石製品

挿　図

頁

Fig. 1　内堀遺跡群の位置……1
　　2　内堀遺跡群調査全体図……3・4
　　3　内堀遺跡群と周辺遺跡……7
　　4　内堀遺跡群標準土層図……9
　　5　下縄引II遺跡集落分布図……33・34
　　6　A区H－1号住居址、X－2号地割れ……48
　　7　A区X－2号地割れ……49
　　8　A区J－1号住居址、W－2号溝、
　　X－1号地割れ……50
　　9　A区W－1号溝、C－1号周溝墓……51
　　10　A区D－1～9号土坑……52
　　11　B区H－1・4号住居址……53
　　12　B区H－2号住居址……54
　　13　B区H－3号住居址……55
　　14　B区H－5・7号住居址……56
　　15　B区H－7・9号住居址……57
　　16　B区H－6．8号住居址……58

頁

Fig. 17　B区H－6・8号住居址……59
　　18　B区H－11・12号住居址……60
　　19　B区H－14号住居址……61
　　20　B区H－10・17・13・15号住居址……62
　　21　B区H－18・19号住居址……63
　　22　B区H－19・26号住居址……64
　　23　B区H－16・20号住居址……65
　　24　B区H－21号住居址……66
　　25　B区H－22号住居址……67
　　26　B区H－23号住居址……68
　　27　B区H－24・25号住居址……69
　　28　B区J－1号住居址、D－1・2号土坑……70
　　29　B区W－1号溝、X－1・2号地割れ……71
　　30　A区H－1号住居址、X－2号地割れ
　　出土の土器……72
　　31　A区X－2号地割れ・J－1住居址、
　　B区H－1号住居址出土の土器……73

Fig.32　B区H－2・3号住居址出土の土器……74
33　B区H－3号住居址出土の土器……75
34　B区H－3～5号住居址出土の土器……76
35　B区H－5号住居址出土の土器……77
36　B区H－5・7号住居址出土の土器……78
37　B区H－7・6号住居址出土の土器……79
38　B区H－6号住居址出土の土器……80
39　B区H－6号住居址出土の土器……81
40　B区H－6号住居址出土の土器……82
41　B区H－6・8号住居址出土の土器……83
42　B区H－9～11号住居址出土の土器……84
43　B区H－11号住居址出土の土器……85
44　B区H－11号住居址出土の土器……86
45　B区H－12・14号住居址出土の土器……87
46　B区H－14～16号住居址出土の土器……88
Fig.47　B区H－16・18・19号住居址出土の土器……89
48　B区H－19・20号住居址出土の土器……90
49　B区H－21・22号住居址出土の土器……91
50　B区H－22号住居址出土の土器……92
51　B区H－22・23号住居址出土の土器……93
52　B区H－24～26号住居址、X－2号地割れ出土の土器……94
53　B区J－1号住居址出土の土器……95
54　B区出土の縄文土器……96
55　B区出土の縄文土器・玉類・土製品……97
56　土製品・鉄製品・石製品……98
57　B区出土の石製品……99
58　B区出土の石製品……100
59　石器……101

付　図

1　A区全体図
2　B区全体図

表

頁

Tab.1　内堀遺跡群下縄引II遺跡の住居址名対照表……v
2　発掘調査報告書抄録……vi
3　下縄引II遺跡住居址時期・標高別表……26
4　内堀遺跡群XII時期別・遺構別特殊遺物出土状況表……29
5　下縄引II遺跡住居址一覧表……35
6　A区柱穴観察表……40
7　B区柱穴観察表……41
8　A区土坑観察表……41
9　B区土坑観察表……41
10　A区遺物観察表……41
11　B区遺物観察表……42
12　石製品、鉄製品、特殊遺物観察表……45
13　縄文土器観察表……46

Tab.1　内堀遺跡群下縄引II遺跡の住居址名対照表

『内堀遺跡群XII』においては、便宜上J－1からH－26の名称を使用したが、遺跡の住居址連番号は、以下の通りとする。

本報告書名称	連番名称	本報告書名称	連番名称	本報告書名称	連番名称	本報告書名称	連番名称
J－1	J－183	H－7	H－190	H－14	H－197	H－21	H－204
H－1	H－184	H－8	H－191	H－15	H－198	H－22	H－205
H－2	H－185	H－9	H－192	H－16	H－199	H－23	H－206
H－3	H－186	H－10	H－193	H－17	H－200	H－24	H－207
H－4	H－187	H－11	H－194	H－18	H－201	H－25	H－208
H－5	H－188	H－12	H－195	H－19	H－202	H－26	H－209
H－6	H－189	H－13	H－196	H－20	H－203		

Tab. 2　発掘調査報告書抄録

ふりがな	うちぼりいせきぐん　じゅうに
書名	内堀遺跡群XII
副書名	大室公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	第12巻
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	林　信也　　平野岳志
編著機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編著機関所在地	〒371－0007　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	2000（平成12）年3月24日

ふりがな 所収遺跡群名	ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
内堀遺跡群（うちぼりいせきぐん）	内堀遺跡（うちぼり） 下縄引II遺跡（しもなわびきに）	前橋市西大室町 2517番地 2530番地	10201	11E11	36°23′15″	139°12′00″	19990430～ 19991007	3880	公園造成

所収遺跡群名 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内堀遺跡群 内堀遺跡	集落	縄文時代前期	住居址　1軒	土器	
		古墳時代前期	住居址　1軒 周溝墓　1基	土師器（樽式系、畿内系を含む。）	
		時代不明	土坑　9基 溝状遺構　2条 柱穴　15基		
内堀遺跡群 下縄引I遺跡	集落	縄文時代前期	住居址　1軒	土器・石器	
		古墳時代前期	住居址　4軒	土師器（石田川式・赤井戸式・樽式系を含む。）	
		古墳時代後期	住居址　23軒	土師器・石製品・土製品	
		時代不明	土坑　2基 溝状遺構　1条 柱穴　6基		

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市の「大室公園整備事業」に先立って行われたものである。この調査は昭和62年度に始まり今年度で13年目になるが、公園建設予定地の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料にすることが目的である。

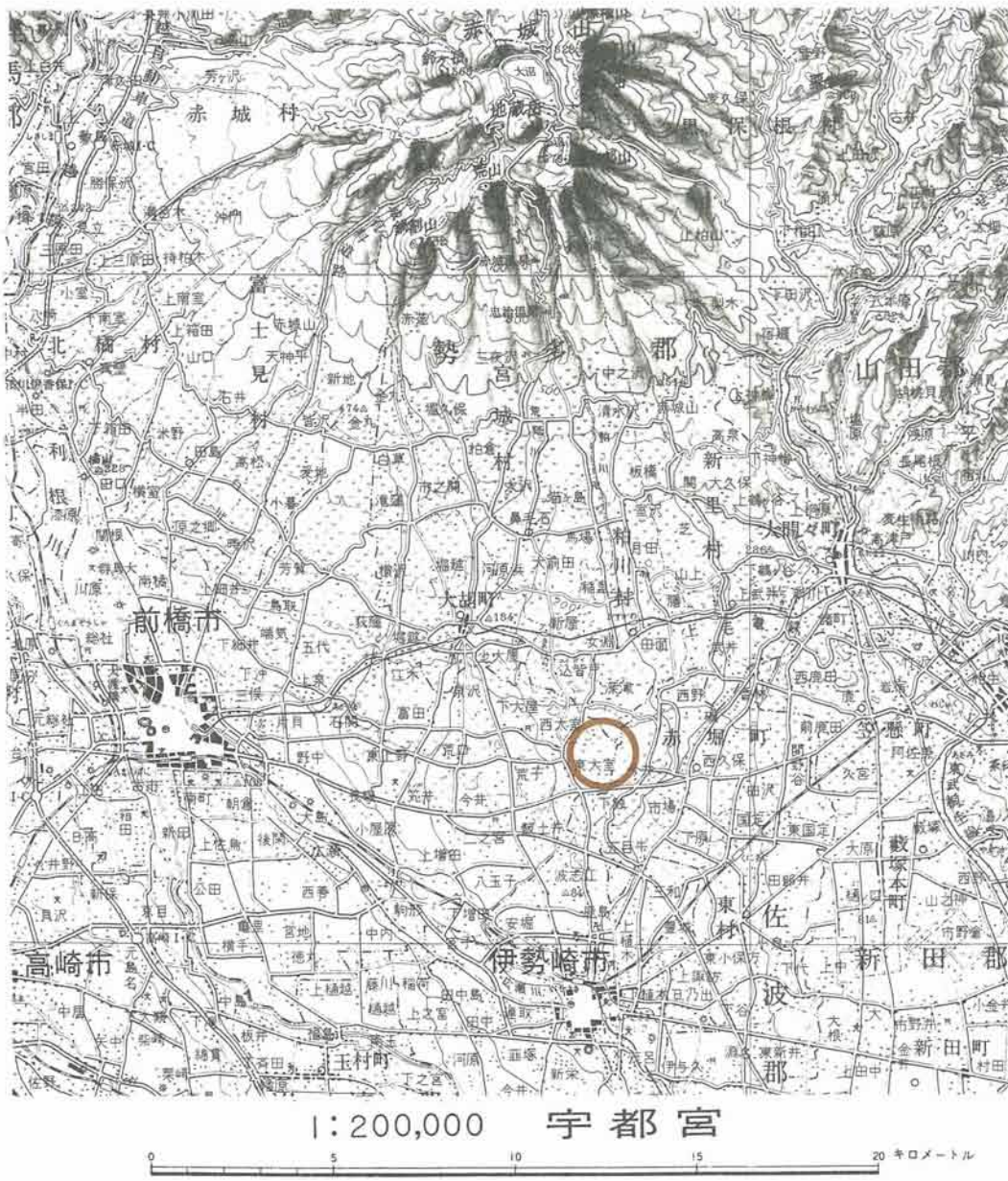


Fig. 1　内堀遺跡群の位置

昭和62年度は、公園予定地約369,000㎡のうち国指定史跡である、前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳や山林、沼などを除く約200,000㎡について、東西10m間隔でトレンチを入れる方法で確認調査を行い、予定地全域についての埋蔵文化財の分布状況を知るとともに、その結果を踏まえ（内堀遺跡群Ⅰに収録）、昭和63年度には予定地の北西部約10,000㎡についての発掘調査を実施した。（内堀遺跡群Ⅱ）。また、平成元年度は、昭和63年度調査区の西側を中心に約12,600㎡について発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅲ）。平成２年度は、昭和63年度と平成元年度の調査区を取り囲む範囲の発掘調査と確認調査を実施した。発掘調査の面積は約9,000㎡・確認調査の面積は約2,500㎡で合計11,500㎡である（内堀遺跡群Ⅳ）。

平成３年度は、平成元年度第１調査区の南および西側に隣接したＬ字型の区域約4,000㎡について、後二子古墳・小二子古墳範囲確認調査とともに発掘調査と実施した。平成４年度は公園予定地の北西部にある自然丘陵の東側と西側部分約9,400㎡について、前二子古墳の範囲確認調査と平行して発掘調査を実施した。またＭ－６号墳の範囲確認調査や一部試掘調査も行った（内堀遺跡群Ⅴ）。

平成５年度は、五料沼の北側の部分3,130㎡について、２カ年計画の２年次の中二子古墳範囲確認調査の前に発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅵ）。

平成６年度の調査は、平成５年度の調査区（Ａ区）の水路をはさんだ東側の部分1,200㎡について、２カ年計画の２年次の中二子古墳範囲確認調査と一部並行して発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅶ）。

平成７年度は、前橋市の指定文化財「関根家住宅（赤城型民家）」の移設予定地とその周辺道路部分の併せて3,000㎡について、小二子古墳の範囲確認調査と一部並行して発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅷ）。

平成８年度は、後二子古墳北側の管理用道路、赤城型民家の南側、内堀４号墳のトレンチ調査等を小二子古墳の調査の前後に実施した（内堀遺跡群Ⅸ）。

平成９年度は、内堀４号墳の全面調査、管理用道路、平成６年度の南側で五料沼に流れ込む水路の東側の調査を実施した。調査面積は確認・発掘調査で約3,881㎡である（内堀遺跡群Ⅹ）。

平成１０年度は、９年度に行われた水路東の対岸、約1,580㎡と、公園管理事務所約400㎡、桂川に沿った付替道路約2,500㎡、五料沼西のお祭り広場約440㎡の約4,920㎡の調査を実施した。（内堀遺跡群Ⅺ）

本年度は、五料沼の西側、東に中二子古墳、北に後二子古墳をのぞむ両古墳のほぼ結線上に位置する交差部分（調査区外）を起点に東・西・南へ延びる園内管理用道路約2,160㎡と、五料沼の北から東側を南下し、沼の南端近くで東と西に分岐して延びる園内管理用道路約1,220㎡の計3,380㎡の調査を実施した。

調査した部分は、公園整備が予定されている地域で、記録保存を目的とした調査である。なお、初年度以前の経緯については『内堀遺跡群Ⅰ』に詳しく述べられているので本書では省略する。

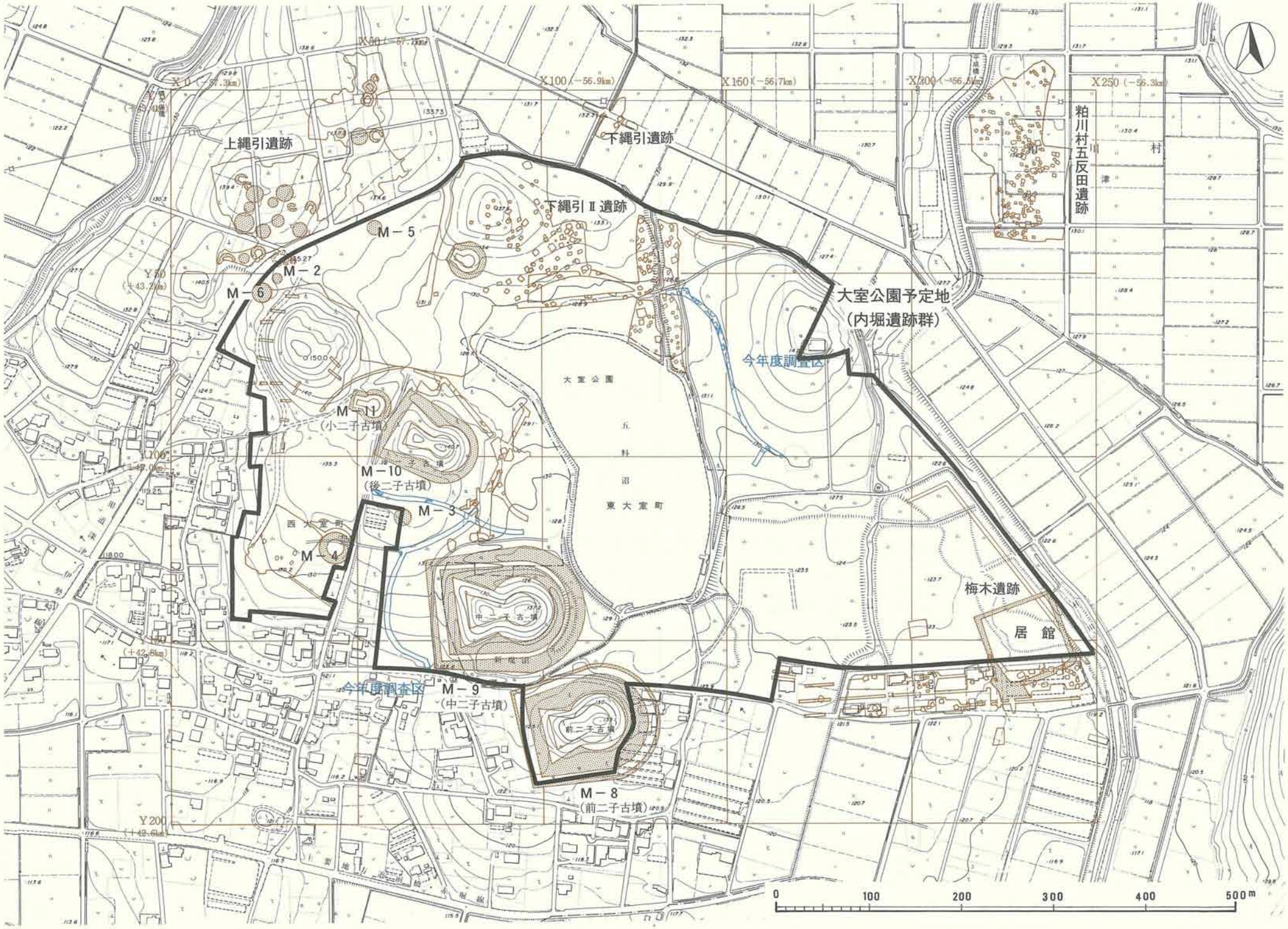


Fig. 2　内堀遺跡群調査区全体図

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

内堀遺跡群が所在する前橋市西大室町は、前橋市の中心市街地から東へ約15kmの所にある。遺跡は国道50号線東大室十字路より北へ２kmで、県道前橋・赤堀線と県道伊勢崎・深津線の交差点から北東1kmに位置している。またＪＲ両毛線伊勢崎駅から遺跡は北約７kmにあり、上毛電鉄新屋駅から近い。東側は多田山と呼ばれる火山泥流による丘陵地形があり、赤堀町との境となっている。また、北に位置する粕川村とは、七ツ石とよばれる信仰の対象となっている巨石のある丘陵とそれに連なる丘陵地形を行政上の境界としている。

平成11年度の調査区は、内堀遺跡群（公園予定地内）の中において、Ａ区（園内管理用道路）は中二子古墳西側・後二子古墳南側に、Ｂ区（園内管理用道路）は五料沼北から南東側に位置している。

本遺跡群の東端には五料山とよばれる自然丘陵があり、また、後二子古墳の南側、さらには前二子古墳が造られた所も丘陵地形となっている。この地区の丘陵地形の基盤は、すべて粗粒安山岩よりなる火山泥流によって形成されており、それが露出しているのが、七ツ石や石山観音、産泰神社裏の巨石などである。また、平成3年度の調査区内から小さな谷地が入り、かつては湧水による小河川があったものと推定される。現在、五料山の西側には小河川が流れているが、近世頃にこの谷地の南側に堤を造り、堰止めてできたものが五料沼である。本遺跡のある丘陵の北側には現在水田地帯が広がっているが、下縄引Ｉ遺跡や粕川村五反田遺跡の存在からこの地域を当時の生産基盤と考えることが難しいため、上記の谷地を含めた南側に生産基盤を求めたい。平成11年度の調査区の標高は、128m～135mである。

2　歴史的環境

内堀遺跡群のある荒砥地区は自然に恵まれた風光明媚な所であるとともに、大室４古墳をはじめとした周知の遺跡が存在する考古学上にも重要な地域である。そこで、本遺跡群を理解するために周辺の歴史的環境を見てみたい。

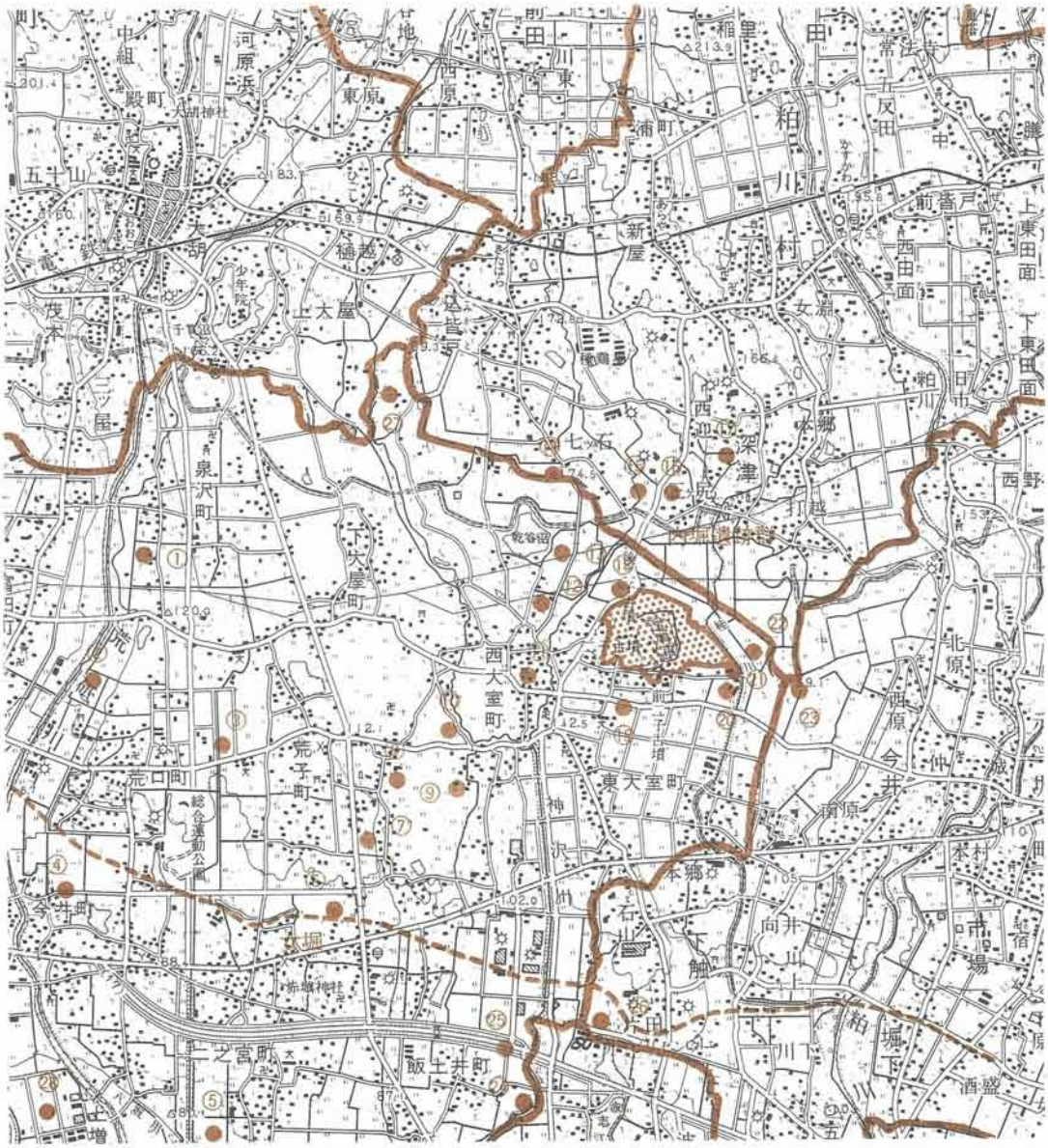
まず旧石器時代の遺跡として、荒砥川流域の洪積台地先端部を中心に尖頭器がまとまって出土した荒砥北三木堂遺跡④、ＡＴ下の国内最大の「環状ブロック群」が検出された下触牛伏遺跡㉖、また、宮川の沖積地に臨む柳久保遺跡群③においてナイフ形石器、細石刃等の旧石器文化の遺物が出土している。

続く縄文時代には、草創期の遺跡として爪形文土器が検出された下触牛伏遺跡㉖がある。二本

松遺跡㉕や柳久保遺跡群からは、田戸下層期の土器が出土している。前期の遺跡は、荒砥二之堰遺跡㉔、荒砥上ノ坊遺跡⑥、荒砥上諏訪遺跡⑲など検出例は多い。中期後半の遺跡も多く確認されているが、いずれも5～10軒の中・小規模の集落にとどまっており、赤城村三原田遺跡、赤堀町曲沢遺跡のような大規模遺跡の存在は知られていない。

弥生時代の遺跡は水田耕作に適した沖積地を臨む大地や微高地に立地しており、中期後半から後期の小規模集落が荒砥島原遺跡⑤、荒砥上川久保遺跡⑳、西原遺跡⑯、西迎遺跡⑰などでみられる。古墳時代前期の遺跡としては、本遺跡の北西に隣接する上縄引遺跡⑱をはじめ、北山遺跡⑬、七ツ石遺跡⑭、久保皆戸遺跡㉒、梅木遺跡㉑などがある。この時期の遺跡は、住居出土の土器を見る限り複雑な様相を呈しており、弥生時代後期の樽式・赤井土式土器はこの時期まで残存し、土師器と共伴する。そのうち、浅間C軽石降下後およびFA降下前の各遺跡の住居は、内堀遺跡群下縄引II遺跡の集落に対応するものであると考えられる。また、下縄引IIの集落の墓域として上縄引遺跡の周溝墓群を考えている。5世紀後半から6世紀代に入ると、赤堀茶臼山古墳㉓をはじめ強大な支配者の存在を暗示する大室4二子古墳が築造され、この地区が当時の中心的様相を呈するようになる。梅木遺跡で検出された首長層の居宅は大室4二子古墳と何らかの関係があると推定される。このほかに居館址として、荒砥荒子遺跡⑦、丸山遺跡①などがある。また、荒砥荒子遺跡の豪族居宅遺構と関連し、舞台遺跡1号古墳⑧および西大室丸山遺跡⑨があり、豪族の勢力格差により居宅・古墳の規模、祭祀行為に相違があったことが窺える。6世紀後半から7世紀代に入ると小円墳の群集化が進み、1～3基程度の散在する小円墳も出現するようになり、支配階層の多層化と系列化が進んだことを意味している。粕川村深津の三ヶ尻西遺跡⑮では、7世紀後半の製鉄遺構3基と住居址が確認された。古墳群が密集した地域であることから、有力な豪族が招いた技術者の集落址で鉄製品造りの拠点となっていたと推定される。また、西大室では赤城南麓の古墳時代終末期を代表する載石切組積石室をもつ富士山古墳⑩が築造され、高度な石材加工技術を習得していたことが窺える。

奈良・平安時代には住居域が台地全体に広がり、水田開発が進み、荒砥諏訪西遺跡②では微高地まで水田化している。また、12世紀の中頃、開削されたとされる女堀の遺構も残在している。また、奈良～平安の炭窯址が横俵遺跡群㉗や粕川村の西原古墳群、大胡町の上大屋・樋越地区遺跡群等の近隣市町村から検出されており、当時赤城南麓の近隣で盛んに木炭生産が行われていたことが窺える。中世以降の城郭としては、大室城⑪、元大室城⑫、今井城、赤石城などがあり、荒砥北三木堂遺跡などでは多数の墓坑が調査されている。また、井戸や溝など近世の遺構も多くの遺跡で確認されている。



①丸山遺跡 ②荒砥諏訪西遺跡 ③柳久保遺跡群 ④荒砥北三木堂遺跡 ⑤荒砥島原遺跡 ⑥荒砥上ノ坊遺跡 ⑦荒砥荒子遺跡 ⑧舞台遺跡1号古墳 ⑨西大室丸山遺跡 ⑩富士山古墳 ⑪大室城 ⑫元大室城 ⑬北山遺跡 ⑭七ツ石遺跡 ⑮三ケ尻西遺跡 ⑯西原遺跡 ⑰西迎遺跡 ⑱上縄引遺跡 ⑲荒砥上諏訪遺跡 ⑳荒砥上川久保遺跡 ㉑梅木遺跡 ㉒久保皆戸遺跡 ㉓赤堀茶臼山古墳 ㉔荒砥二之堰遺跡 ㉕二本松遺跡 ㉖下触牛伏遺跡 ㉗横俵遺跡群 ㉘中原遺跡群

Fig. 3 内堀遺跡群と周辺遺跡

III　調査の経過

1　調　査　方　針

調査の実施にあたっては、国家座標に基づいた原点を据えて、内堀遺跡群全体グリッド（4mグリッドを基本とし、西から東へX0～X250・北から南へY0～Y200グリッドの設定枠）を用いた。ちなみにX151－Y80のグリッドは第Ⅸ系の＋43080.000m・－56696.000mで、北緯36° 23′ 11″ .9287・東経139° 12′ 04″ .6351に当たる。調査区が2箇所に分かれているため、五料沼西部をA区（内堀遺跡）、五料沼東部をB区（下縄引II遺跡）と呼称し、両区とも全面調査を実施した。総調査面積は、約3380㎡である。

調査には期間的制約があるため掘削用重機を用いて表土の除去を行うことにした。並行してグリッド設定、ベンチマーク（水準点）の設定を行った。その後、平板測量で遺構の配置図を作成し、各遺構の調査工程を検討した。具体的には

1　遺構の掘り下げは、セクションベルトを設けて土層観察を行いながら進める。

2　遺物について、10cm四方以上のものは縮尺1／20にて図化し、それ以下についてはドットで表記した平面図を作成する。取り上げに際しては、遺物台帳に諸属性を記録する。

3　炉と竈の図化については、原則として縮尺1／10にて、遺構平面図については、原則として縮尺1/20にて作成する。

以上の方針の下に調査を進めた。

2　調　査　経　過

発掘調査は、平成11年4月より現地調査、発掘事務手続き、公園緑地課との事前協議などを十分に行ってから、現場事務所の設置や発掘調査用具の搬入など本格的な準備を行い、5月7日より発掘調査を開始した。調査区が分かれているため、今年度の調査区をA区（中二子古墳西側管理用道路）・B区（五料沼東側管理用道路）として、調査を実施した。調査工程を考慮して、A区→B区へと調査を進めることにした。

5月7日から発掘調査を開始した。同日から、バックフォー（0.4㎥）でA区表土掘削を開始した。不順な天候と埋設された電気ケーブルが表土掘削を難しいものにしたが、17日にA区表土掘削が終了した。これに続いて，18日から21日までB区表土掘削を行った。表土掘削に追従してプラン確認を行い、A区から遺構の掘り下げを進めた。調査の結果、A区からは住居址2軒・土坑9基・溝状遺構2条・周溝墓1基・柱穴18基・地割れ1条が検出された。6月10日にA区西側北より部分の3グリッドに旧石器確認のための掘り下げか所（ソフトローム層～暗色帯）を設定

した。翌11日から掘削用重機（0.25m³）で掘り下げを行い、精査したが、いずれも検出には至らなかった。23日にA区の全景写真を撮影した。それから7月1日まで埋め戻しを行い、A区の調査は終了した。7月2日より3日まで、大室公園内南東に位置する「じゃぶじゃぶ池」建設予定地の試掘を行った。ここは、当初調査予定地となっていた。しかし、「遺構なし」と認められたため、調査は実施しなかった。6日から、B区の掘り下げ・精査を始めた。B区からは、住居址27軒・土坑2基・溝状遺構1条・柱穴12基・地割れ2条が検出された。その後、3ヶ月間を要してB区の調査を進めた。そして10月6日に、ラジコンヘリコプターによるB区空中写真撮影を行った。翌7日をもって図面作成を終え、全調査を終了した。

10月18日に器材・出土品の搬出と整理作業事務所の開設をし、翌19日から3月24日まで遺物整理作業と報告書作成を行った。

Ⅳ 層　序

X－98－Y23グリッドの土層を基にして本遺跡の標準土層図を作成した。本遺跡は、内堀遺跡群の南東部に存在し、約20から30万年前に赤城山の山体崩壊により引き起こされた梨木泥流によって形成された「流れ山」を中心とした標高129mから137mの丘陵性台地である。「流山」の頂上には梨木泥流によって運ばれた大形の礫が一部露出し、土層の堆積も薄く、ちなみにⅦ層のＡＴ（姶良丹沢パミス）が表面から50～60cm程度で検出できる。

Ⅰａ層　黒褐色粗砂層。耕作土層。Ａｓ－Ｂ（浅間Ｂテフラ：1108年降下）を含む粗砂層。粘性なく、締まりはある。

Ⅰｂ層　黒褐色土層。As－B、As－C（浅間C軽石：4世紀中葉降下）、Hr－ＦＰ（榛名二ツ岳軽石：6世紀中葉降下）を含む粗砂層。粘性なく、締まりはある。

Ⅱａ層　As－Ｂ純層。天仁元（1108）年に浅間山より降下した軽石層。わずかに間層をはさんで上部にＡｓ－Ｋｋ（浅間粕川テフラ）が存在する場合もある。

Ⅱｂ層　黒色細砂層。Ａｓ－Ｃ、Ｈｒ－ＦＰ（径20㎜）を15％含む細砂層。粘性を有し、締まりが弱い。

Ⅱｃ層　暗灰黄色細砂層。粘性は少しあり、締まりが弱い。

Ⅲ　層　黄褐色細砂層。淡色黒ボク土。粘性は少しあり、締まりが弱い。縄文時代遺物包含層。

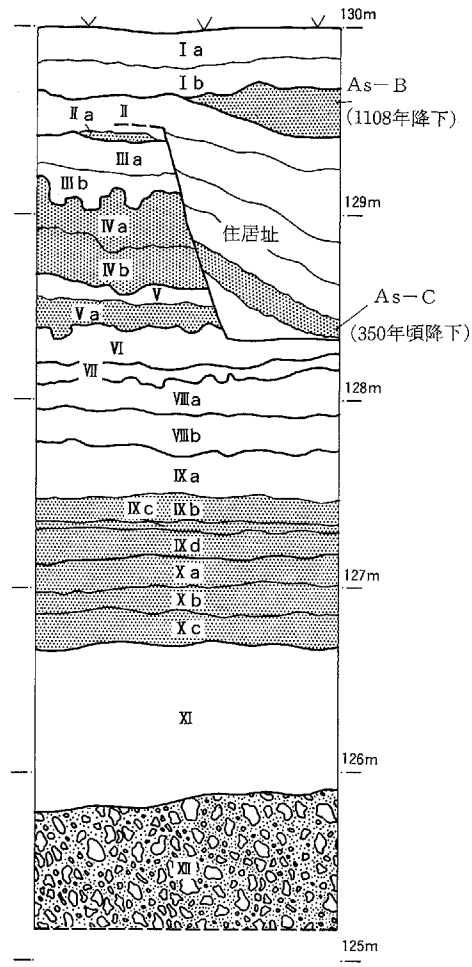


Fig. 4　内堀遺跡群標準土層図

Ⅳａ層　明黄褐色硬質ローム層。As－ＹＰ（浅間板鼻黄色軽石：約1.3～1.4万年前）を10％、As－Ｓｒ（浅間白糸軽石：約1.8万年前）やAs－ＯＰ１（浅間大窪沢第１軽石）を５％含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅳｂ層　明黄褐色土層。ハードローム層。As－ＹＰを５％、As－ＳｒまたはAs－ＯＰ１を10％程度含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。

Ｄ　層　明黄褐色硬質ローム層。As－ＢＰをブロックで20～30％程度含む層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅵ　層　明黄褐色硬質ローム層。As－ＢＰをブロックで15％程度含む層。粘性があり、締まりが弱い。

Ⅶ　層　明黄褐色微砂層。風化土壌。粘性をがあり、締まりは弱い。上部にＡＴ（姶良丹沢パミス：約2.2～2.5万年前）の含有が最大値を示す。

Ⅷ　層　明黄褐色粘土層。暗色帯。粘性が強く、締まりの弱い粘土層。色調でａ・ｂの２亜層に分類できる。

Ⅸ　層　明黄褐色粘土層。粘性が強く、締まりのある粘土層。ａ～ｄの４亜層に分類できる。

Ｘ　層　明黄褐色軽石層。Hr－ＨＰ（榛名八崎軽石：4.1～4.4万年前）。３亜層に分類できる。Ｘａ層は比較的大粒な軽石層、Ｘｂ層は火山灰層、Ｘc層は軽石層である。

Ⅺ　層　褐色粘土層。水性堆積で非常に粘性が強い。

Ⅻ　層　青灰色砂礫層。巨礫によって構成される。梨木泥流（約20万～30万年前）によって形成されたと考えられる「流山」。

Ⅴ　遺構と遺物

１　Ａ区　（Fig. ２、ＰＬ. １）

（１）住居址

Ｊ－１号住居址（Fig. ８、ＰＬ. １）

（位置） Ｘ55～56－Ｙ108～110Ｇ　**（形状）** 方形と推定される。　**（方位）** Ｎ－20°－Ｅ

（規模） 長軸［5.4］×短軸［3.2］m。確認面からの壁高11～21㎝。**（面積）** ［14.7］㎡

（覆土） 灰褐色土の混入したローム主体層。

（床面） ほぼ平坦であるが、堅床面は殆ど認められず。

（柱穴） ５基検出。

P_2…33×30×23cm　P_3…30×33×32cm　P_6…40×30×32cm

P_7…33×30×25cm　P_8…38×38×22cm

柱穴間　P_2-P_3…2.9m

（遺物）総数78点が出土。深鉢（胴～底部）・使用痕のある石各１点他。

（備考）縄文時代早期末から前期初頭。北側は調査区外、南側はW－２号溝状遺構に切られた上、さらに削平を受けているため範囲の確認には至らなかった。また西壁の立上がりも明瞭さを欠くため、P_2の位置等により範囲を推し量った。

H－１号住居址（Fig. ６、ＰＬ. １）

（位置）X80～82－Y116～117G　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－55°－Ｅ

（規模）長軸（4.2）×短軸4.1m。確認面からの壁高18～43cm。　（面積）（13.6）m^2。

（覆土）As－C、ローム土の混入率の違いにより７層に大別できる。４層にAs－Ｃ主体層を確認。

（床面）ほぼ平坦でやや堅緻。南東壁際に沿って地山堀方を残したとみられる盛り上がり有り。そのほぼ中央とみられる部分から南西、北東寄りに柱穴２基（P_8・P_{10}）が検出されたことからも、入り口部として使用されていた可能性がある。

（炉址）中央部とみられる部分から北寄りに52×41×９cmの地床炉を１カ所検出。

（柱穴）８基検出。

P_2…25×32×49cm　P_3…70×44×57cm　P_4…56×52×64cm

P_6…32×26×48cm　P_7…48×42×24cm　P_8…28×18×31cm

P_9…22×20×18cm　P_{10}…30×21×14cm

（遺物）総数99点が出土。樽式系甕（口縁～頸部）・瓻（胴～底部）・畿内系坩（口縁部）各１点他。

（備考）４世紀前半。北東側は調査区外のため調査できず。

（２）周溝墓

C－１号周溝墓（Fig. ９、ＰＬ. １）

（位置）X67～69－Y111G　（形状）ほぼ円形と推定される。　（規模）東西に長軸をもつ。台部：長径（6.3）×短径（2.0）m。全形：長径（8.0）×短径（3.4）m。

（覆土）台部は後世の削平により滅失したとみられる。周溝内の覆土は、As－C、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。４層にAs－Ｃ純層（層厚約10cm）を確認。

（周溝）断面は緩やかなＵ字形を呈し、上幅110～155cm、下幅45～97cm、深さ27～37cmを測る。東側で途切れるが、調査区南壁際サブトレンチに同様な断面を検出、ブリッジ部分を確

認した。

（主体部）確認できず。

（遺物）総数６点。いずれも周溝覆土より出土の縄文土器片・土師器片であり、埋没の際の流入であるとみられる。

（備考）４世紀中葉。南側は調査区外のため調査できず。

（３）溝状遺構

Ｗ－１号溝（Fig. ９、ＰＬ. ２）

（位置）Ｘ61－Ｙ125～127Ｇ、調査区西際に位置。　（形状・規模）断面は緩やかなＵ字形を呈し、幅94～142cm、深さ10～39cm、長さ（6.9）ｍを測る。調査区西側より発し方形を描くように途切れるため、周溝墓周溝の可能性も想定、しかしサブトレンチ設定の結果、延長部分は認められなかった。

（覆土）Ａs－Ｃ、ローム土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（遺物）出土遺物なし。

（備考）時期は不明。

Ｗ－２号溝（Fig. ８）

（位置）Ｘ54～55－Ｙ108～110Ｇ、調査区北部を北西～南東へ横断するものとみられる。

（形状・規模）断面は極緩やかなＵ字形を呈し、幅145～185cm、深さ18～25cm、長さ［6.8］ｍを測る。

（覆土）Ａs－Ｃ、ローム土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（遺物）総数３点が出土。縄文土器片。いずれも覆土中の遺物であり、埋没時の流入である可能性が高い。

（備考）時期は不明。立上りが不明瞭である南東側の範囲は推定。Ｊ－１号住居址と重複し同住居を切る。Ｘ－１号地割れとも重複する可能性があるが、推定範囲内につき確認には至らず。

（４）土坑　　Tab. ８　参照。９基を確認する。

（５）柱穴　　Tab. ６　参照。１５基を確認する。

2　B区　(Fig. 2、巻頭図版1)

(1) 住居址

J－1号住居址 (Fig. 28、PL. 2)

(位置) X164～165－Y99～100G　(形状) ほぼ円形と推定される。

(規模) 長径3.5×短径 (2.5) m。確認面からの壁高14～27cm。　(面積) (7.3) ㎡

(覆土) ローム土・ロームブロックの混入率の違いにより3層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、壁周囲はあまり堅くない。

(炉址) 中央部とみられる部分からやや南東隅寄りに63×58×39cmの石組みの地床炉を一カ所検出。

(遺物) 総数438点が出土。深鉢6 (うちほぼ完形・口縁～胴部各1) 点、石斧1点他。

(備考) 縄文時代中期後半 (加曾利E 3期)

H－1号住居址 (Fig. 11、PL. 3)

(位置) X134～135－Y55G　(形状) 方形と推定される。　(方位) N－25°－W

(規模) 長軸3.4×短軸 (2.2) m。確認面からの壁高28～38cm。　(面積) (5.6) ㎡

(覆土) As－C、Hr－FP、ローム土の混入率の違いにより10層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦であるがあまり堅くない。

(遺物) 総数68点が出土。樽式系統土器片・土師器 (2段口縁) 壷 (口縁部) 各1点他。

(備考) 4世紀前半。南側は調査区外のため調査できず。

H－2号住居址 (Fig. 12、PL. 3)

(位置) X136～137－Y54～56G　(形状) 方形と推定される。　(方位) N－26°－W

(規模) 長軸4.7×短軸4.4m。確認面からの壁高22～50cm　(面積) (16.9) ㎡

(覆土) As－C、Hr－FP、ローム土、焼土の混入率の違いにより6層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅緻。直上の覆土所々に焼土溜まりを認める。

(竈址) 北西壁中央やや西寄りに位置し、主軸方向はN－35°－W、全長127cm、幅107cmを測る。両袖はローム土を掘り残す形で構築。

(貯蔵穴) 竈南西隣、北西隅に1基検出。P_5…51×51×54cm

(柱穴) 3基検出。

P_1…38×42×71　P_3…49×47×48cm　P_4…40×51×54cm

柱穴間　$P_1－P_4$…1.8m　$P_3－P_4$…1.8m

(遺物) 総数956点が出土。土師器坏5点、小甕1点他

(備考) 6世紀中～後半。南西コーナー付近は調査区外のため調査できず。

H－3号住居址（Fig. １３、ＰＬ. ３）

（位置）X137～139－Y54～55G　（形状）方形と推定される。（方位）W－53°－N

（規模）長軸（4.1）×短軸（3.6）m。確認面からの壁高15～39m。　（面積）（8.0）㎡

（覆土）As－C、ローム土、焼土の混入率の違いにより６層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。北東側床面に粘土溜まりが点在。

（貯蔵穴）南隅寄りに１基検出。P_5…53×100×66cmの方形。

（柱穴）１基検出。P_2…35×36×54cm

（遺物）総数1,117点が出土。土師器甕６（うち小甕４）点、甑４点、坏３点、高坏（坏部・脚部）２点、椀・ミニチュア鉢各１点他。

（備考）５世紀末～６世紀初頭。北側は調査区外のため調査できず。

H－4号住居址（Fig. １１、ＰＬ. ４）

（位置）X138～139－Y54～55G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－34°－W

（規模）長軸2.8×短軸［2.6］m。　（面積）［7.1］㎡

（覆土）As－C、ローム土、焼土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦であるが柔らかい。所々にロームブロックが混入。

（炉址）ほぼ中央と推定される部分より50×51×12cmの地床炉を１カ所検出。

（柱穴）２基検出。

P_4…65×32×46cm　P_6…52×42×70cm

（遺物）総数84点が出土。樽式系統土器片２点、土師器小甕１点他。

（備考）４世紀後半。南側を中心に削平を受けているとみられ、北西壁および北東・南西壁コーナー以南の範囲は推定による。

H－5号住居址（Fig. １４、ＰＬ. ４・５）

（位置）X140～141－Y56～57G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－11°－W

（規模）長軸（4.6）×短軸4.4m。確認面からの壁高48～52cm。　（面積）（11.9）㎡

（覆土）As－C、ローム土、焼土、炭化物の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がる。西壁・南東隅周溝際に建築材とみられる炭化木、西壁南隅に火を受けた痕跡を残す編物石とみられる集石を確認。

（周溝）幅10～20cm、深さ２～７cmで検出範囲を全周。

（柱穴）１基検出。P_2…32×31×31cm

（遺物）総数1,088点が出土。土師器坏５点、甕２（うち小甕１）点、甑・碧・土製支脚・高坏（坏部）・（滑石製）臼玉・石製模造品（剣型模造品の一部か）各１点他。

（備考）６世紀前半。北東側は調査区外のため調査できず。Ｈ－７号住居址と重複し同住居に切

られる。

H－6号住居址（Fig. １６・１７、ＰＬ. ４・５）

（位置）X141～142　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－54°－Ｅ

（規模）長軸4.1×短軸3.1m。　（面積）（12.7）㎡

（覆土）As－C、ローム土、焼土の混入率の違いにより７層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、竈焚き口から貯蔵穴南西にかけて高まりが認められる。また、竈左袖北西付近に構築材とみられる炭化木、中央部に火を受けて割れたとみられる集石を検出。ただし石群については周囲に焼土等が認められないことから、外から持ち込まれた可能性が強い。

（炉址）北東壁ほぼ中央に位置し、主軸方向はＮ－58°－Ｅ、全長132cm、幅118cmを測る。ただし右袖は一部を欠く。焚き口ほぼ中央部よりずれた支柱石とみられる石を検出。またその上部の灰・焼土溜まりからは底部に坏を被る甕が出土、廃棄時に置かれたものと思われる。

（貯蔵穴）竈南東隣、東コーナー隅に１基検出。Ｐ$_5$…76×65×90cm

（遺物）総数1,071点が出土。土師器甕12（うち小甕６）点、坏７点、甑３点、手捏土器２（ミニチュア椀・鉢）点、器台（脚部）１点、（碧玉製）管玉６点他。甕と小甕のうち１点には胴下部～底部に整形時に使用されたとみられる編篭等の押圧痕が認められる。

（備考）５世紀末～６世紀初頭。南西隅は調査区外のため調査できず。Ｈ－８号住居址・Ｐ－２と重複し前者を切り後者に切られる。なお、北西壁外のＰ－１については外部柱穴の可能性も考えられる。

H－7号住居址（Fig. １４・１５）

（位置）X140～141－Y56から57G　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－14°－W

（規模）長軸［4.9］×短軸（3.5）m。確認面からの壁高26～33cm。　（面積）［8.3］㎡

（覆土）As－C、Hr－ＦＰ、ローム土、焼土の混入率の違いにより８層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦。西壁から東へ20～30cmにはロームを彫り込んだ堅緻面が認められるが、以東は焼土、炭化物、ローム粒の混入した柔らかい面。これは重複するＨ－５号住居址の埋土を利用したものとみられる。

（竈址）西壁やや南寄りに位置するものと推定される。主軸方向はＮ－87°－W、全長70cm、幅76cmを測る。焚き口ほぼ中央部より甕（底→胴部）出土。廃棄時に置かれたものとみられる。

（貯蔵穴）竈南隣より１基検出。Ｐ$_5$…62×56×57cmの方形。縁部に炭化物を認める。

（遺物）総数371点が出土。土師器甕１点他。

（備考）６世紀末。北側は調査区外のため調査できず。また南側も壁の立上りが不明瞭であるため、南西コーナーの延長上で範囲を想定した。Ｈ－５号住居址と重複し同住居を切る。

Ｈ－８号住居址（Fig. １６・１７、ＰＬ．５・６）

（位置）Ｘ142～143－Ｙ57～59Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－25°－Ｗ

（規模）長軸4.8×短軸（4.3）ｍ。確認面からの壁高39～65cm。　（面積）（14.7）㎡

（覆土）As－Ｃ、ローム土、炭化物の混入率の違いにより12層に細分できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、南東壁中央やや南西寄りの柱穴Ｐ$_7$付近に高まり有り。入り口部であった可能性も考えられる。

（炉址）中央部から北西壁寄りに60×48×10cmの地床炉を１カ所検出。炉底部からは土器等が置かれたとみられる敷石が出土。

（貯蔵穴）南隅より１基検出。Ｐ$_5$…63×48×65cm

（柱穴）７基検出。

Ｐ$_1$…57×55×66cm　Ｐ$_2$…44×41×51cm　Ｐ$_3$…41×37×55cm　Ｐ$_6$…22×16×16cm

Ｐ$_7$…35×28×50cm　Ｐ$_8$…50×45×13cm　Ｐ$_9$…44×39×14cm

柱穴間　Ｐ$_1$－Ｐ$_2$…1.8m　Ｐ$_2$－Ｐ$_3$…1.8m

（遺物）総数623点が出土。土師器台付甕４（うち台部のみ２）点、小甕２点、壷（口縁～頸部）・坩・ミニチュア坩・ミニチュア甕各１点他。

（備考）４世紀後半。北東側は調査区外のため調査できず。Ｈ－６号住居址と重複し同住居に切られる。

Ｈ－９号住居址（Fig. １５、ＰＬ．６）

（位置）Ｘ143～144－Ｙ60～61Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－12°－Ｗ

（規模）長軸（3.2）×短軸（2.0）ｍ。確認面からの壁高44～49cm。　（面積）（3.3）㎡

（覆土）As－Ｃ、ローム土、焼土、炭化物の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。東壁南寄り付近に焼土範囲、調査区南西壁際両隅に構築材とみられる炭化物を検出。

（遺物）総数153点が出土。土師器坩３点、椀・高坏（坏部）各１点他。

（備考）５世紀初頭。南西側は調査区外のため調査できず。

Ｈ－10号住居址（Fig. ２０、ＰＬ．６）

（位置）Ｘ145～146－Ｙ62～63Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－10°－Ｅ

（規模）長軸（2.6）×短軸（2.1）ｍ。確認面からの壁高12～17cm。　（面積）（3.1）ｍ

（覆土）As－Ｃ、ローム土、焼土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦であるがロームブロックが混入した柔らかい面。部分的にカクランが入る。重複するH－17号住居址を意図的に埋め床面を構築した形跡がみられる。

（炉址）調査区南西壁断面に地床炉とみられる焼土主体層（３層）を確認。しかし床面部分にはカクランが入り形状・規模等は不明。

（遺物）総数144点が出土。土師器高坏（坏部）・甕（口縁～頸部）各１点他。

（備考）４世紀末～５世紀初頭。南西側は調査区外のため調査できず。H－17号住居址と重複。同住居と出土遺物が時期的に近い、床面にH－17号住居址を意図的に埋めた形跡がみられることなどから、本住居は17号を拡張したものであると推定できる。

H－11号住居址（Fig. １８、ＰＬ. ６）

（位置）X144～145－Y60～61G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－29° －W

（規模）長軸4.6×短軸（2.1）m。確認面からの壁高18～29cm。　（面積）（10.9）㎡

（覆土）As－C、ローム土、焼土、炭化物の混入率の違いにより８層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（炉址）調査区北東壁際、床面中央とみられる部分からやや北西寄りに（43）×33×１８cmの地床炉を１カ所検出。

（貯蔵穴）調査区北東壁際、北西壁寄りに１基検出。P_5…45×42×54cm

（遺物）総数588点が出土。樽系統土器（壷・口縁部）・赤井戸式系統土器（小甕・二段口縁部）各２点、石田川式系器台１点、土師器高坏（うち脚部２）５点、小甕（うち１点には胴部に小孔）・壷（うち小壷１）・鉢・器台２点、椀・手捏土器各１点他。

（備考）４世紀中葉。北東側は調査区外のため調査できず。H－12号住居址と重複し同住居に切られる。

H－12号住居址（Fig. １８、ＰＬ. ６）

（位置）X145～146－Y60～61G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－10° －W

（規模）長軸5.3×短軸（4.4）m。　（面積）（13.7）㎡

（覆土）As－C、Hr－ＦＰ、ローム土、焼土の混入率の違いにより７層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（周溝）幅13～28cm、深さ５～15cmで検出範囲を全周。

（柱穴）２基検出。P_1…50×（35）×60cm　P_2…47×46×44cm

柱穴間　P_1－P_2…2.1m

（遺物）総数981点が出土。土師器坏２点、甑（口縁部）１点他。

（備考）６世紀後半。東側は調査区外のため調査できず。H－11号住居址と重複し同住居を切る。

H－13号住居址（Fig. ２０）

（位置）X148－Y65～66G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－10°－E

（規模）長軸（3.9）×短軸（1.2）m。　（面積）（3.0）㎡

（覆土）As－C、Hr－FP、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（遺物）総数１4点が出土。縄文土器片、土師器片。

（備考）時期は不明。東側は調査区外のため調査できず。

H－14号住居址（Fig. １９、PL. ７）

（位置）X146～147－Y65～66G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－62°－E

（規模）長軸5.5×短軸（2.1）m。確認面からの壁高55～64cm。　（面積）（10.1）㎡

（覆土）As－C、Hr－FP、ローム土、焼土の混入率の違いにより12層に細分できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（周溝）幅７～17cm、深さ２～８cmで検出範囲をほぼ全周。

（竈址）北東壁中央やや南東寄りに位置し、主軸方向はN－60°－E、全長114cm、幅77cmを測る。北西にややずれた位置に旧竈とみられる痕跡が重なること、周溝がその手前でいったん途切れることなどから、その造り替えであるとみられる。両袖先端部および右袖側面には土器（大甕胴部他）をあてがい補強した跡が認められる。また焚き口ほぼ中央部から廃棄時に置かれたかと思われる高坏（坏部）を検出。

（貯蔵穴）竈南隣、南東壁際より１基検出。P_5…84×90×75cmの方形。周囲に高まりをもつ。

（柱穴）２基検出。P_3…35×38×59cm　P_4…48×（29）×53cm

柱穴間　P_3－P_4…2.0m

（遺物）総数1,622点が出土。土師器甕（うち大甕口縁～胴部１）４点、坏３点、高坏（坏部）・土製勾玉各１点他。

（備考）５世紀末。南西側は調査区外のため調査できず。X－１号地割れと重複し、切られる。

H－15号住居址（Fig. ２０）

（位置）X148～149－Y67～68G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－43°－W

（規模）長軸（2.0）×短軸（1.3）m。確認面からの壁高47～60cm。　（面積）（1.3）㎡

（覆土）As－C、Hr－FP、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（遺物）総数48点が出土。土師器甕（胴～底部）１点他。

（備考）６世紀初頭。東側は調査区外のため調査できず。

H－16号住居址（Fig. ２３、ＰＬ. ７）

（位置）X148～149－Y69～71G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－18°－W

（規模）長軸［6.4］×短軸［4.1］m。確認面からの壁高20～32cm。　（面積）［19.6］㎡

（覆土）As－C、ローム土の混入率の違いにより２層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、壁周辺は柔らかい。

（周溝）幅６～17cm、深さ３～８cm。範囲確認のできた南東壁ほぼ中央とみられる部分から南東隅の貯蔵穴部分を除く北東壁北西寄りまでを検出。

（炉址）南東隅寄りに38×（37）×５cmの地床炉を１カ所検出。

（貯蔵穴）南東隅に１基検出。P_5…64×49×39cm。覆土最上層にAs－C主体層が認められる。

（柱穴）１基検出。P_4…（20）×33×28cm

（遺物）総数699点が出土。樽式系統小甕（胴～底部）・石田川式系統台付甕各１点、土師器甕・壷・高坏（脚部）１点他。

（備考）４世紀中葉。南西側は調査区外のため調査できず。H－20号住居址と重複し同住居に切られる。北西壁および北東・南西壁の一部は不明瞭であり確認には至らず範囲を想定。

H－17号住居址（Fig. ２０）

（位置）X145－Y62～63G　（形状）方形と推定される。　（方位）N－５°－E

（規模）長軸（2.2）×短軸（0.9）m。確認面からの壁高22～28cm。　（面積）（1.1）㎡

（覆土）As－C、ローム土の混入率の違いにより２層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。東壁際に一部カクラン。

（遺物）総数23点が出土。土師器片。

（備考）４世紀末か。南西側は調査区外のため調査できず。H－10号住居址と重複し同住居に切られる。出土遺物がH－10号と時期的に近く、またH－10号に本住居を拡張した形跡がみられることから、２つの住居はほぼ同時期に前後して存続していたものと推定できる。

H－18号住居址（Fig. ２１、ＰＬ. ７）

（位置）X146～147－Y64～65G　（形状）長方形と推定される。　（方位）N－62°－W

（規模）長軸（4.6）×短軸（3.4）m。確認面からの壁高14～20cm。　（面積）（11.8）㎡

（覆土）１層。As－C・ローム土が混入した褐灰色土。

（床面）ほぼ平坦であるが柔らかく、ロームブロックが混入する。

（遺物）総数322点が出土。土師器坏２点、器台１点他。

（備考）４世紀後半。北東隅は調査区外のため調査できず。H－19号住居址と重複し同住居に切られる。

H－19号住居址（Fig. ２１・２２、ＰＬ. ７・８）

（位置）X146～147－Y63～64G　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－60°－Ｅ

（規模）長軸4.2×短軸（3.7）m。確認面からの壁高22～49cm。　（面積）（14.8）㎡

（覆土）As－C、ローム土の混入率の違いにより６層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がる。南東隅Ｐ３付近および周囲に帯状の高まり有り。

（周溝）幅６～18cm、深さ１～５cmで竈南東側からＰ５周囲南西側高まりを除き検出範囲をほぼ全周。

（竈址）北東壁やや南東よりに位置し、主軸方向はＮ－62°－Ｅ、全長136cm、幅90cmを測る。断面に崩落を免れた天井部の一部とみられる層が認められる。

（貯蔵穴）竈南東隣、南東隅に１基検出。Ｐ５…71×76×115cm。周囲に帯状の高まりをもつ。

（柱穴）７基検出。

Ｐ１…37×32×52cm　Ｐ２…32×39×60cm　Ｐ３…33×35×65cm

Ｐ４…33×33×55cm　Ｐ６…25×34×14cm　Ｐ７…32×35×46cm

Ｐ８…35×33×77cm

柱穴間　Ｐ１－Ｐ２…1.6m　Ｐ２－Ｐ３…1.4m　Ｐ３－Ｐ４…1.5m　Ｐ１－Ｐ４…1.4m

（遺物）総数473点が出土。土師器坏３点、高坏２（うち接合部・脚部各１）点、甕・甑各１点、須恵器坏蓋１点他。

（備考）６世紀前半。南西側は調査区外のため調査できず。Ｈ－18号住居址と重複し同住居を切る。なお、北西辺上に検出されたＰ８は外部柱穴である可能性がある。

H－20号住居址（Fig. ２３、ＰＬ. ８）

（位置）X148～149－Y70～71G　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－73°－Ｗ

（規模）長軸4.6×短軸（3.8）m。確認面からの壁高32～56cm。　（面積）（12.0）㎡

（覆土）As－C、Hr－ＦＰ、ローム土、焼土、粘土の混入率の違いにより９層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。調査区西壁付近に粘土粒・小ブロックが点在。南東コーナーのＰ３・Ｐ５周囲等に帯状の高まりあり。

（周溝）幅15～23cm、深さ４～12cmで竈袖と思われる部分を除き検出範囲はほぼ全周。

（竈址）調査区西壁際、南東壁やや北西寄りと推定される箇所に左袖とみられる部位を検出。上層の粘土は補強材か。焼土等を使用した形跡は認められず、造り替えて間もない竈の一部ではないかと思われる。

（柱穴）２基検出。Ｐ３…37×27×70cm　Ｐ４…53×28×60cm

（遺物）総数392点が出土。土師器坏８点、甕、鉄製品（釘）１点他。

（備考）６世紀中～後半。北西側は調査区外のため調査できず。Ｈ－16号住居址と重複し、同住居を切る。

H－21号住居址（Fig. ２４、ＰＬ. ８）

（位置）Ｘ149～150－Ｙ74～76Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－24°－Ｗ

（規模）長軸7.1×短軸（3.4）m。確認面からの壁高44～69cm。（面積）（22.6）㎡

（覆土）As－C、ローム土、焼土、粘土の混入率の違いにより11層に細分できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、南西コーナー付近、主にＰ５周囲に帯状の高まりが認められる。

（炉址）調査区東壁際、ほぼ中央と推定される部分からやや北西寄りに79×47×６cmの地床炉を１カ所検出。

（貯蔵穴）南東壁際、南西コーナー寄りに１基検出。Ｐ５…64×75×98cmの方形。南東壁～南西壁にかけて周囲に帯状の高まりをもつ。

（柱穴）２基検出。Ｐ１…43×42×90cm　Ｐ２…42×43×85cm

柱穴間：Ｐ１－Ｐ２…3.3m

（遺物）総数799点が出土。土師器甕（うち底部１）２点・小甕・坩・小丸底椀各１点、手捏土器２（うち模造品１）点、（碧玉製）管玉２点、（滑石製）臼玉・石製模造品（勾玉形模造品）・袋状鉄斧・各１点他。

（備考）４世紀末。北東側は調査区外のため調査できず。

H－22号住居址（Fig. ２５、ＰＬ. ８・９）

（位置）Ｘ149～150－Ｙ72～73Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｗ－70°－Ｎ

（規模）長軸5.6×短軸（2.9）m。確認面からの壁高32～50cm。　（面積）（15.9）㎡

（覆土）As－C、Hr－ＦＰ、ローム土、焼土、粘土の混入率の違いにより８層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、南西コーナーの周囲にには帯状の高まりが認められる。

（周溝）幅８～19cm、深さ４～11cmでＰ５周囲高まり部分を除き検出範囲をほぼ全周。

（竈址）南西壁やや南東寄りに位置し、主軸方向はＷ－70°－Ｎ、全長116cm、幅（82）cmを測る。ただし左袖は検出されず。焚き口内に天井から崩落した補強材とみられる粘土を検出。天井部に渡した加工粘土層の一部か。

（貯蔵穴）竈南東隣、南西コーナーから１基検出。Ｐ５…99×113×90cmの方形。周溝部分を除く周囲に帯状の高まりをもち、一段下がって底部になる。

（柱穴）２基検出。Ｐ１…25×26×70cm　Ｐ２…18×23×70cm

柱穴間：Ｐ１－Ｐ２…2.1m

（遺物）総数1,272点が出土。土師器甕９（うち小甕７・口縁部１・底部１）点、坏７点、鉢３（うち片口・丸底浅鉢各１）点、甑２（うち壺型１）点、コップ型土器・土製円盤・（滑石製）有孔円盤各１点他。

（備考）５世紀末～６世紀初頭。北東側は調査区外のため調査できず。

H－23号住居址（Fig. ２６、ＰＬ. ９）

（位置）Ｘ150～151－Ｙ80～82Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－42°－Ｗ

（規模）長軸6.3×短軸（5.2）ｍ。確認面からの壁高77～104cm　（面積）（17.8）㎡

（覆土）As－Ｃ、Hr－ＦＰ、ローム土、焼土、炭化物の混入率の違いにより17層に細分できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻面が広がるが、炉址周辺及び北東コーナーとみられる壁面部等を中心に所々に焼土や焼け跡が認められる。また壁際数カ所より垂木・茅留めの杭等、建築材に使用されたとみられる炭化木を検出。南東壁際南西寄りにはＰ５を挟んで南東・南西に延びる帯状の高まりがある。

（炉址）ほぼ中央とみられる部分から北東壁寄りに51×31×６cmの地床炉を１カ所検出。

（貯蔵穴）調査区西壁際、南東壁やや南西寄りと推定される部分に１基検出。Ｐ５…77×62×51cmの方形。南東・南西側縁部からは両方向に延びる帯状の高まりが認められる。

（柱穴）２基検出。Ｐ１…34×19×71cm　Ｐ４…29×22×69cm

柱穴間：Ｐ１－Ｐ４…2.8m

（遺物）総数949点が出土。樽式系統甕１点、土師器甕（小甕２うち胴～底部１）２点、坏・鉢各１点、砥石１点他。

（備考）４世紀末。南西側は調査区外のため調査できず。床面及び壁面に残る焼け跡・炭化木等の検出状況から埋土が流入する前に焼失したものとみられる。なお、北東壁及び南東壁外側より検出されたＰ－４～６は、内部柱穴との位置関係等から本住居址の外部柱穴である可能性がある。

H－24号住居址（Fig. ２７、ＰＬ. １０）

（位置）Ｘ152～153－Ｙ88～89Ｇ　（形状）方形と推定される。　（方位）Ｎ－16°－Ｗ

（規模）長軸7.1×短軸（2.1）ｍ。確認面からの壁高15～25cm。　（面積）（10.8）㎡

（覆土）As－Ｃ、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦であるがロームブロックが混入する柔らかい面。

（周溝）幅10～18cm、深さ３～11cmでカクラン部分を除き検出範囲をほぼ全周。

（柱穴）１基検出。Ｐ３…27×10×24cm

（遺物）総数95点が出土。土師器甕１点他。

（備考）５世紀後半～６世紀初頭。南西側は調査区外のため調査できず。

H－25号住居址（Fig. ２７、ＰＬ. １０）

（位置）Ｘ154～155－Ｙ92Ｇ　（形状）長方形と推定される。　（方位）Ｎ－34°－Ｅ

（規模）長軸2.4×短軸（2.0）ｍ。確認面からの壁高24～32cm。　（面積）（3.4）㎡

（覆土）As－Ｃ、ローム土、焼土の混入率の違いにより４層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（炉址）調査区南西壁際中央部より71×（47）×10cmの地床炉を１カ所検出。

（柱穴）１基検出。P_3…30×37×24cm

（遺物）総数64点が出土。土師器坩（胴～底部）・器台各１点他。

（備考）４世紀末。南西側は調査区外のため調査できず。北東辺が短く、炉址の位置から南東・北西辺を長辺とする長方形が推定される。

Ｈ－26号住居址（Fig. ２２、ＰＬ. １０）

（位置）Ｘ160～161－Ｙ97～98Ｇ　（形状）正方形。　（方位）Ｎ－18°－Ｗ

（規模）長軸3.0×短軸2.8m。確認面からの壁高38～56cm。　（面積）7.0㎡

（覆土）Ａs－Ｃ、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅緻。

（周溝）幅８～18cm。深さ１～５cmでほぼ全周。

（炉址）中央部からやや北西寄りに38×32×６cmの地床炉を１カ所検出。

（柱穴）２基検出。P_1…26×21×35cm P_2…33×38×22cm

柱穴間：P_1－P_2…1.2m

（遺物）総数50点が出土。土師器坏２点、台付甕・小甕各１点他。

（備考）４世紀末。Ｗ－１号溝址と重複し同溝に北東壁上部を切られる。

（２）溝状遺構

Ｗ－１号溝（Fig. ２９）

（位置）Ｘ160～161－Ｙ96～98Ｇ、南部で南・東へ分岐する調査区交差点部分を南北に横断する。

（形状・規模）断面は緩やかなＶ字形を呈し、幅120cm～152cm、深さ41～59cm、長さ（7.0）ｍを測る。

（覆土）Ａs－Ｂ、ローム土等の混入率の違いにより６層に大別できる。２層と４層にＡs－Ｂ主体層を確認。前者は２次堆積によるものと考えられる。

（遺物）総数５点が出土。縄文土器片、土師器片。いずれも覆土中からの出土であり、埋没時の流入である可能性が高い。

（備考）11世紀末～12世紀初頭か。Ｈ－26号住居址と重複して同住居を切る。

（３）土坑　Tab. ９　参照。２基を確認する。

（４）柱穴　Tab. ７　参照。６基を確認する。

3 地　割　れ

（1）A　区

X－1号地割れ（Fig. 8、PL. 2）

（位置）X53～55－Y108～110G　（形状）調査区北西隅を北西から南東にかけて延びる。調査区内では、幅0.3～0.68m、深さ0.4～0.68m、長さ9.3mを測る。断面は不整形なV字形を呈する。

（備考）地震等の自然現象によって形成された地割れと考えられる。

X－2号地割れ（Fig. 6・7、PL. 2）

（位置）X78～79－Y114～148G　（形状）後二子古墳と中二子古墳との境界、調査区交差点付近を132.0mの等高線に沿うように、南北に延びる。調査区域内では、幅1.45～2.00m、深さ1.01～1.36m、長さ12.6mを測る。下部には、亀裂の入った際にロームの地山が崩れ落ちたと思われるロームブロックの塊が認められる。これは地震によって起こった液状化現象に伴う墳砂の結果とも考えられる。断面は不整形なV字形を呈していた。

（備考）地震等の自然現象によって形成された地割れと考えられ、弘仁九(818)年の大地震の際に形成された地割れである可能性がある。

（2）B　区

X－1号地割れ（Fig. 29、PL. 10）

（位置）X147～148－Y65～67G　（形状）調査区中央部北寄りを南北に延びる。調査区内では幅0.15～0.43m、深さ0.38～0.69m、長さ8.2mを測る。断面はV字形を呈していた。

（重複）5世紀末に比定されるH－14号住居址を斬って、壁の一部を破壊している。

（備考）地震等の自然現象によって形成された地割れと考えられ、弘仁九(818)年の大地震の際に形成された地割れである可能性がある。

X－2号地割れ（Fig. 29、PL. 10）

（位置）X158～160－Y98～99G　（形状）五料沼東岸の南端近く、調査区分岐点付近を128.9mの等高線に沿うように北西から南東にかけて延びる。下部には、本調査のA区調査区X－2号地割れと同じような、ロームブロックの塊が認められた。断面は不整形なV字形を呈していた。

（備考）地震等の自然現象によって形成された地割れと考えられ、弘仁九(818)年の大地震の際に形成された地割れという可能性がある。

以上、五料沼を挟んでそれぞれ2条ずつの地割れが検出された。4条の地割れとも平面的には、ある程度の幅をもち、南北もしくは南東・北西の方向に延びる亀裂として検出された。このことは、『内堀遺跡群II』及び『内堀遺跡群Ⅳ』で報告された調査結果と類似している。また、4条の地割れとも断面がV字形を基調としており、この点も類似する。さらに、A区・B区両方のX－2号地割れにいたっては、等高線に沿って亀裂が延びている点も類似点として挙げられる。この2つの地割れは、亀裂が完全に埋没しきった段階で上部にAs－B(浅間B軽石:1108年降下)の主体層が堆積していた。このことから12世紀以前の地震が地割れの原因とも考えられ、弘仁九(818)年の大地震の際形成された地割れである可能性がある。

B区X－1号地割れは、5世紀末と比定されるH－14号住居址との重複関係から、5世紀末以降に形成されたものであることははっきりしているが、時期は特定できない。しかし、埋没の状況等からX－2号地割れと同時期のものと推定される。

（注）本文中、

①計測値の（　）は現存値、［　］は推定値を表す。

②炉址、貯蔵穴、柱穴の計測値は長径×短径×深さで表記。

③遺物総数は出土集計時、各機種数は接合～復元後の点数である。

Ⅵ　成果と問題点

本年度の調査区は、五料沼を隔てたA・B区（付図1、2）で実施した。ともに幅約5mの園内管理用道路敷設部分であり、A区は沼の西、中・後二子古墳にほぼ挟まれた緩斜面に、B区は沼の北東～東、「風のわたる丘」から五料山にかけての斜面縁辺部に位置する。A区から2軒（縄文時代早期末～前期初頭・古墳時代前期各1軒）、B区では27軒（縄文時代中期1軒・古墳時代前期12軒・中期6軒・後期7軒・時期不明1軒）の住居址を検出した。これにより、B区の属する下縄引II遺跡の住居址数は、古墳時代前期99軒、中期36軒、後期35軒他37軒（縄文時代中期1軒、平安時代2軒、時期不明18軒、確認調査のみ16軒）の計207軒となった。

今回の調査では、この他に古墳時代前期の周溝墓1基（A区）が確認された。またB区を中心とした複数の住居址より祭祀関係をはじめとした特殊遺物の出土が目を引いた。

そこで本項では、まずこれらの検出遺構等に係り、主として下縄引II遺跡に重きをおいた集落体系、墓域と住居域、祭祀との関連という3つの視点から考察を加えていきたい。ただし、両調査区ともその形状から、全容が確認された遺構等は極めて少なく、得られた情報も断片的かつ狭小であることは否めない。また筆者自身の非力さゆえに、以下の過程において甚だ不十分な論及にとどまる箇所があろうことを予めお断りしておきたい。大方のご批正を乞うものである。

1　下縄引II遺跡の集落体系について

前年度報告書「内堀遺跡群XI(1999)」では、それまでの検出状況を踏まえて、その集落分布及び構成上の特徴として次の6点を指摘している。

(集落分布)

ア．遺跡自体は4世紀の住居址を主体とした集落であるが、6世紀まで継続する。

イ．標高が下がるにしたがって，時期の下る住居址が増加する。

ウ．各時期ごとに大型住居址を伴い、特殊な施設、遺物が検出されている。

(集落構成)

ア．比較的早い時期から大型住居を伴い成熟した社会構成を見せる。

イ．大型住居は各時期ともバランスよく配置されている。

ウ．大型住居を中心に出土遺物の中に祭祀関係遺物や特殊遺物を含んでいる。

ここでは、これらとの整合に照らしながら、今回新たに得られたデータを加味した集落体系について言及していきたい。

本調査により新たに下縄引II遺跡に加わった住居址は27軒である。その内訳は前述した通りであり、その結果総住居址数は207軒に達することとなった。このうち大半を占める古墳時代住居址は、170軒に及ぶ。まず、これらを前述の指摘に則って時期別・標高別に3つに分け再構成すると次表のようになる。

時期別の検出数にやや偏りはみられるものの、集落分布における標高と住居占有地の関係については、ほぼ同様な傾向をくみ取ることができる。新たに加わった25軒を検出した調査区B区は

Tab. 3　下縄引II遺跡住居址時期・標高別表

標高 / 時期	137 ～ 134 m		134 ～ 130 m		130 以下 m			
古墳時代前期（4世紀代）	17軒 —	10.0%	60軒 （8）	35.3%	22軒 （4）	12.9	99軒 (12)	58.2%
古墳時代中期（5世紀代）	2軒 —	1.2%	15軒 （4）	8.8%	19軒 （2）	11.2%	36軒 （6）	21.2%
古墳時代後期（6世紀代）	—	—	9軒 （4）	5.3%	26軒 （3）	15.3%	26軒 （3）	20.6%
合　　計	19軒	11.2%	84軒 (16)	49.4%	67軒 （9）	39.4%	170軒 (25)	100%

【註】（　）内の数は、今回の検出数。

現在、「風のわたる丘」と称される丘陵の東端から五料山の裾部をなぞるように五料沼の南東付近まで達する。すなわち、丘陵の未調査部分の縁辺部をほぼカバーしていることになる。その検出状況をみると、沼北東部から東側にかかる部分（標高129.0～130.5m付近）では、4～6世紀代住居の混在がみられたが、東側を南下するにつれ5・6世紀代住居は次第に姿を消し、代わりに4世紀代の比較的大型な住居址の検出が目を引くようになった（標高131m付近）。本調査区の西、沼のほとりに位置する低地帯、前年度調査区A区（現在「さくら草の湿原」と称される箇所、標高126.8～128.4m）では、逆に4世紀代の住居址の検出は皆無であることからも、本調査区（標高129.1～131.0m）がほぼ、6世紀代住居の東限であり、同時に4世紀代集落占地の縁辺部にほぼ重なるとみて差し支えないものと思われる。

こうした5～6世紀代における低地への集落の拡大・異動の背景について前出の「XI」では気象状況や地形変化による同地の高燥化を挙げている。現在、五料沼となっている部分が、古くは小河川の流れ込む湿地帯であったが、長期間にわたる浸食によって湿地が流され周辺部より次第に乾燥していった結果、住居進出が可能になったのではないかということである。沼西側の微高地に展開する今回調査区A区では、中・後二子両古墳に挟まれた交差部分より4世紀前半の住居址を検出している。また、前年度までに沼西岸には中期以降の住居址が発見されており、このことは先のB区とは逆の方角からも低地帯に向けて集落が拡大・移動していったであろうことを示唆するものと言えないだろうか。本遺跡の周辺一帯には赤城山の火山活動によって生じた泥流による独立丘陵である「流れ山」が点在する。その一部である北西から北東にかけて丘陵性台地もしくは微高地に占地していた4世紀代の集落が5・6世紀には次第に南の低地帯に広がりをみせていった様相を、先の背景に照らして、より肯定的に裏付ける資料となるものと考える。

この集落分布の拡大・移動からもう1つ看取できることに、その成立と不可分の関係を成す生産基盤の成熟がある。6世紀代に入る頃には、生産活動自体も4世紀段階の弥生文化の流れをくむ不完全な稲作農耕から本格的な農業社会への転換が図られていたとみて、ほぼ間違いないだろう。なお、その生産域については住居進出に伴う可耕地の拡大があったとしても、従来通り現五料沼を挟む南と北に開けた低地である沖積地に求めることが妥当であると思われる。

最後に集落の構成に係る大型住居址（住居番号107・4世紀後半、49・4世紀末～5世紀初頭、140・5世紀後半、178・6世紀初頭：Tab.6）の検出が報告されている。いずれも一辺が8mを超し、祭祀系あるいは特殊遺物を十なうことが共通項として挙げられる。また、49号は馬蹄状・階段状施設、178号は張出ピット、間仕切り溝などの特殊な施設を伴う。これらの資料は、祭事等に係る首長級階層の存在を想起させる。「XI」では178号住居址について、出土遺物の紡錘車と結びつけて機織技術集団の長であった可能性について言及している。今年度調査区B区においても、これら住居の規模等にほぼ匹敵するとみられる4世紀末の住居址（H－21号、Fig.24、PL.8）を検出した。北東側は調査区外であったため未確認であることが悔やまれるが、長辺は7.1mを測り、当時としては最大級に迫るものと推定される。また、手捏土製模造品、石製模造

品（勾玉形）、管玉、臼玉、有孔円盤などの祭祀系・特殊遺物を共伴すること、占地場所が西側低所を見下ろす五料山東斜面縁辺ほぼ中央部であることなどからも、当時の集落内における有力階層の居宅の１つであった可能性を秘めている。本遺跡の古墳時代前期集落においては、弥生文化の系譜をくむ石田川式、樽式、赤井戸式系統や、一部外来系及びそれらの融合とみられる在地系土器などが多岐にわたり、複雑な様相を見せている。これは当時に早くから多系統の文化を受け入れるだけの社会的・文化的素地が形づくられ、それに伴う社会分化が進みつつあったことを物語るものと言えないだろうか。ならば、これら４世紀後半からの大型住居の出現は、その醸成の結果ともみてとれよう。そして前出の超大型住居址周辺に、時期こそ明確でないが、大型の掘立柱建物址が複数確認されていることは、その後の集落構成の変容・発展を示唆するものとして興味深い資料である。５～６世紀代には、社会分化の一層の発展を背景に、有力階層による統率の下、これら大型住居を軸とした集落構成の整備が進められていったものと推察できる。

２　墓域と住居域について

標高137.0m、「流れ山」東斜面より広がりをみせる下縄引Ⅰ・Ⅱ遺跡の北西から西側には、上縄引遺跡(Fig.３)が所在する。同遺跡は昭和55年と平成３年の２度にわたって調査され、円形周溝墓10基、方形周溝墓３基、前方後方形周溝墓１基、合計14基の周溝墓を検出した。これらはその築造時期、ほぼ共伴する出土遺物や地理的条件から当時の下縄引Ⅱ遺跡集落の墓域であるとみられている。周溝簿はその覆土にＡｓ－Ｃ（浅間Ｃ軽石：４世紀中葉降下）純層が入るものと、同軽石を含む黒色土を有する２グループに分けられる。このことから、『内堀遺跡群Ⅴ(1993)』では、周溝墓群が自然丘陵の南東斜面の頂上付近である北側から南に向かって造られていったことが分かるとしている。

今回の調査においてＡ区より検出された周溝墓（Ｃ－１号：Fig.9、PL.1）は、後二子古墳から数ｍ南側で検出された。主体部及び台部はすでに削平を受けたものとみられ、周溝とブリッジ部分の北側のみを確認するにとどまった。ごく部分的な検出であったため、その全容については不明な点が多いが、円形を呈するものとみられること、全径は８ｍを超えるとみられること、周溝幅は1.1～1.5m内外に納まること、周溝覆土下層に層厚約10cmのＡｓ－Ｃ純層が堆積していることなどの点から、上縄引の周溝墓群との比較・検討を試みた結果、同遺跡４号周溝墓と形状・規模・構築時期等がほぼ類似していることが判明した。すなわち今回の後二子古墳以南における周溝墓の検出は、上縄引の周溝墓群が後二子古墳築造以前の南東方面へさらに広がりをみせていた可能性を示唆するものと言える。一方、このＣ－１号周溝墓から数m隔てた東隣には、ほぼ同時期に存続していたとみられるＨ－１号住居址（Fig.6、PL.1）が接している。このことからは、この地点が古墳時代前期における墓域と集落との境界にあたる可能性を指摘できる。

Ｃ－１号の周辺を見渡してみると、北最寄りに後二子、南最寄りにはＭ－３号墳、その数十m先に中二子古墳が横たわり、南西にはＭ－４号墳が控える。時期の隔たりこそあれ、墓域と見な

す不自然でない場所であることに気づく。もちろん、四二子古墳については「梅木遺跡の居館」との関連も論じられており、慎重な検討が必要である。しかしながら、下縄引II遺跡を中心とした住居址群が4世紀より6世紀代に存続した伝統集落である以上、6世紀代にも前代からのパターンが引き継がれる蓋然性は高いと考えられる。C－1号が上縄引の周溝墓群と同等な版図に入るか否かはまた別の問題になるとしても、その周辺部に同規模の周溝墓が存在することは想像に難くないと思われる。今後の周辺調査の進展による資料の増加に期待したい。

3　祭祀との関連について

今回の調査では、B区を中心に点数こそ多くはないが、器種的に比較的バラエティーに富んだ特殊遺物が出土した。ここでは、それらの中で祭祀に係るとみられる遺物に焦点を当て、集落内におけるこれらのもつ意味について考察していきたい。

まず、本調査において出土した特殊遺物を時期別・遺構別に摘出してみると下表のようになる。

Tab. 4　内堀遺跡群XII時期別・遺構別特殊遺物出土状況表

時　期	出土遺構	遺構規模（m）	特殊遺物（土器を含む）	その他の出土遺物
4世紀前半	A区H－1	(4.2) × 4.1	碧1	樽式系甕・畿内系坩各1
中葉	B区H－11	4.6 × (2.1)	手捏・小甕（胴部に小孔）各1	樽式系壷・赤井戸式系小甕各2、石田川式系器台1、高坏6、壷3、甕・鉢各2、台付甕・椀・器台各1
後半	B区H－8	4.8 × (4.3)	ミニチュア坩・ミニチュア甕各1	石田川式系台付甕1、台付甕5、小甕・壷・高坏各1
4世紀末	B区H－21	7.1 × (3.4)	手捏2、碧玉製管玉・滑石製臼玉・石製模造品（勾玉	台付甕・小甕・高坏・坩各1
	B区H－23	6.3 × (5.2)	碧玉製管玉・砥石各1	樽・赤井戸・石田川式系甕各1、甕・壷・坏各1
5世紀末～6世紀初頭	B区H－14	5.5 × (2.1)	土製勾玉1	甕5、坏4、高坏1
	B区H－3	(4.1) × (3.6)	ミニチュア鉢1	甕7、甑・高坏・坏・椀各1
	B区H－6	(4.1) × (3.1)	手捏2、碧玉製管玉6	甕12、坏7、甑3、器台1
6世紀前半	B区H－5	(4.6) × 4.4	滑石製臼玉・石製模造品（剣形）各1	甕3、坏2、甑・土製支脚・高坏各1

この表から、次の5点が指摘できる。

ア．特殊的な遺物は器種の点で比較的バラエティーに富み、祭祀系とみられるものが大半を占める。

イ．それらを用途別にみると、明らかに祭祀儀器とわかるもの（土製・石製模造品、ミニチュア・異形土器等）、装身具を兼ねるもの（管玉、臼玉、勾玉）、道具類（砥石、鉄斧）に大別できる。

ウ．祭祀系遺物は、集落が存続したとみられる４世紀代～６世紀代のほぼ各時期にわたる住居より出土しており、また器台、高坏等の生活什器と儀器を兼ねたとみられる土器を共伴することが多い。

エ．その器種別の出土傾向を時期的にみると、４世紀前～後半までは、玉類・模造品類は見られない。４世紀末（～６世紀初頭）～特殊土器に混じり、碧玉製、滑石製の玉造製品が見られるようになる。６世紀前半～では、滑石製品のみの出土にとどまるといった傾向が認められる。

オ．ただし、数量的には分散しており、多数が集中して出土した住居は認められない。

これまでの調査においても祭祀系とみられる遺物の出土は報告されているが、上記のイ、ウ、エ、オについては今回とほぼ同様な傾向を示している（ただし前年度Ａ区では超大型住居址より臼玉158点の集中出土がみられた）。今回の祭祀関連遺物に限ってみても、純然たる祭祀儀器に絞った場合、点数的には一層疎らになり、これらを一集落単位での統合的な祭事との直接的な関わりをもつものと想定するには無理があろう。むしろ、日常什器や装飾品を兼ねるものを伴うことから、日常生活における個々の単位での祭祀的な営みと結び付ける方が妥当性に勝ると言えよう。自然環境に大きく左右される当時の不安定な生活の中で先人たちの各住居内に祀られた神前に、日々の暮らしの安泰と向上を祈り念じ続けたことだろう。規模・形態がどのようなものであったにせよ、少なくとも本集落において祭祀が日々の暮らしの中で重要な意味をもち、存続期を通してほぼ継続的に営まれたことは、その特殊遺物中における割合、出土遺構の時期等からも明らかであろう。

今回の出土器種に比較的多彩さが見受けられることも、そうした祭祀との継続的な係わりの一端をうかがわせるものと思われる。各時期より着目すべき遺物をいくつか取り上げてみると、まず４世紀代前半・中葉の住居址から碌（Fig. ３１、ＰＬ. １１）、胴部に小孔のあく小甕（Fig. ４４、ＰＬ. １５）が出土している。これらはその形状や技法上の細やかさから、祭祀遺物とみてほぼ誤りないであろう。本集落が成立して間もない時期から、定型的ではないにしても祭祀的な営みが行われていたことを示唆しているものと思われる。また管玉（Fig. ５５、ＰＬ. ２１）は４世紀末と５世紀末～６世紀初頭の住居址より検出されているものがある。いずれも碧玉製であるが、両者を比較してみると前者は後者に比して明らかに細身であり、実用品としてでなく祭祀にも用いられた可能性が考えられる。４世紀末といえば、県内の玉造系譜の中で最古の部類に相当する。当時の希少価値を考慮に入れれば、さらにその確度は高まるものと思われる。滑石製品では石製模造品(勾玉形)（Fig. ５５、ＰＬ. ２１）１点が臼玉（Fig. ５５、ＰＬ. ２１）とともに４世紀末の住居址より出土している。これは県内玉造において滑石製模造品生産が開始される上限期に近く、本集落がいち早くそれらを取り込んだ営みを展開していたことをうかがわせる。さらに５世紀～６世紀代にかけての住居址では、手捏・土製・石製等の模造品が目立つようになる。この時期は玉造系譜からみても、滑石製を主流とした模造品量産の最盛期にあたり、本

遺跡内においても祭祀遺物としてその定着化を看て取れる。これらのうち、5世紀末の住居址より出土した土製円盤は、中央部につまみ状の盛り上がりをもつことから、鏡を象ったものとみられる。甘楽町「白倉下原・天引向原遺跡Ⅳ(1997)」でも、6世紀前半に比定される類例3点が「手鏡形土製品」として報告されており、その特殊性において際立つものと言える。しかし本遺跡において、6世紀前半～中葉の滑石製模造品を主体とした出土を最後に祭祀系遺物はほとんど見られなくなる。6世紀も半ばを過ぎると県内玉造も須恵器の流行や子持勾玉等の台頭で需要を失い、次第に衰退に向かっていく。本遺跡におけるこうした出土傾向の移り変わりは、玉造系譜の衰退をほぼそのまま映し出すと同時に、祭祀そのものの形態も徐々に変容していったことを意味するものと推定される。

以上のように、下縄引II遺跡を中心とした集落は、その成立時よりほぼ間断なく祭祀との深い係わりの中で発展、存続してきたものとみて、ほぼ間違いないと思われる。しかし、今回は残念ながらその規模・形態といった側面まで踏み込むことはできなかった。本集落内において首長的存在に司られる統括的な祭事が執り行われていたかについては、依然憶測の域を出ない。ただ、当時の社会的背景の中に祭祀の意味をとらえた時、それはむしろ必然性をもつものとして認識され得ないだろうか。本遺跡に比較的近い、赤城南麓の荒砥川・神沢川合流点に位置する「荒砥前原遺跡(1985)」では、祭祀址の検出に伴い、水源神を祀るといった水に係る祭祀を想定している。当時の農業社会において経済的な基盤を成す生産力の向上なくして、集落の存続と繁栄はあり得ないと言っていい。地域首長らにとって、従来の低湿可耕地に限定されていた古墳時代前期からの生産域の拡大は、統べる集落自体の存亡に係る重大な責務であっただろう。しかし、それには水を支配する必要があった。治水こそが可耕地の拡大に欠くべからざるものであり、当時の首長に求められていた主要な課題の一つであったと考えられる。4～6世紀代に小河川の走る湿地であった低所へ集落の拡大・進出がみられた本遺跡における祭事もそれに類する営みと無縁では無いだろう。

以上、本遺跡の変遷について、今回までの調査結果を基に3つの視点から述べてきたが、これまでの報告書の中で論及されている点を跡付けするにとどまった箇所、或いは行き過ぎた考察等、その使命を全うしていない部分も多々あろうと思う。今後の調査進展の中で正していただければ幸いである。本遺跡群の所在する大室地区は四二子古墳、梅木遺跡の居館祉をはじめ、古墳時代を中心に周辺に多くの遺跡を内包している。本遺跡についても、今後の資料の増加に伴うそれらとの総合的な検討の中でその性格が一層浮き彫りになることを期待して結びとしたい。

参　考　文　献

桑原　昭・園部守央　1988　『内堀遺跡群』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

園部守央・加部二生　1989　『内堀遺跡群II』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

園部守央・鈴木雅浩　1990　『内堀遺跡群III』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前原　豊・伊藤　良　1991　『内堀遺跡群IV』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

伊藤　良・前原　豊・戸所慎策　1993　『内堀遺跡群V』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

関口　孝・前原　豊・戸所慎策　1994　『内堀遺跡群VI』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前原　豊・戸所慎策　1995　『内堀遺跡群VII』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前原　豊・新井真典　1996　『内堀遺跡群VIII』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前原　豊・宮内　毅　1997　『内堀遺跡群IX』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

戸所慎策・安立　聡　1998　『内堀遺跡群X』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

佐藤則和・安立　聡　1999　『内堀遺跡群XI』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

中澤充裕ほか　1984　『芳賀東部団地遺跡I』　前橋市教育委員会

女屋和志雄ほか　1989　『下佐野遺跡II地区（1）』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

右島和夫ほか　1992　『神保下条遺跡』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

右島和夫ほか　1997　『白倉下原・天引向原遺跡IV』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

真下高幸ほか　1997　『緑埜遺跡群・緑埜上郷遺跡・竹沼遺跡』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

石坂　茂ほか　1992　『新保田中村前遺跡II』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

石坂　茂ほか　1993　『新保田中村前遺跡III』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

井上唯雄・女屋和志雄ほか　1988　『群馬の考古学』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

藤巻幸雄ほか　1985　『荒砥前原遺跡　赤石城址』　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

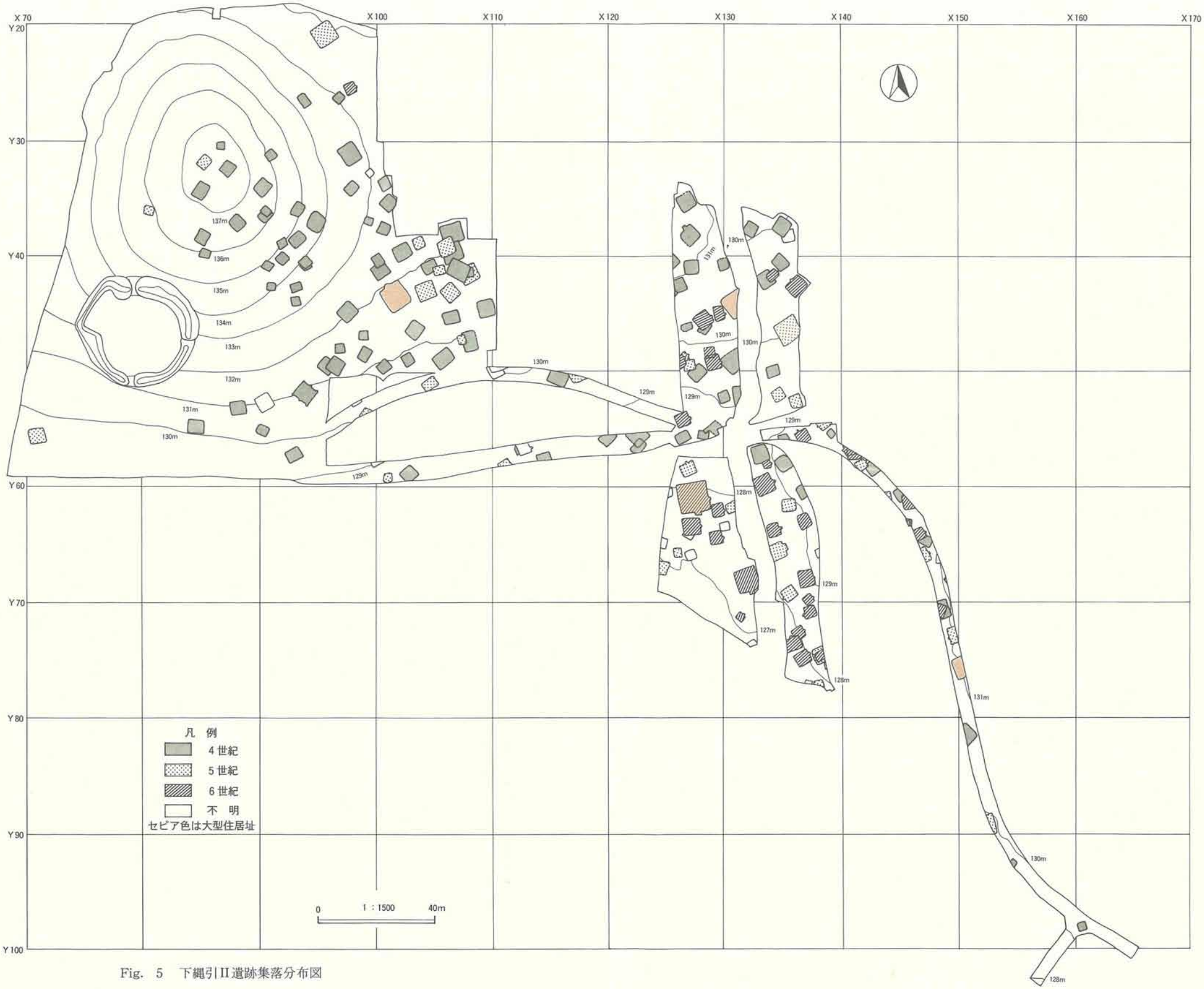


Fig. 5 下縄引II遺跡集落分布図

Tab. 5　下縄引II遺跡住居址一覧表

号数	規模 東西×南北(m)深さ(cm)	主軸方向	竈・炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 住居番号
1	3.65×3.60 65	N-74° -W	炉址64×52×7	甕(赤井戸5、樽3、他5)、台付甕(赤井戸1、樽1)、高坏3、器台1、打斧1		4C中	II 1
2	4.53×4.50 12	N-85° -W	不明	小破片		4C後	II 2
3	5.60×4.48 70	N-78° -W	炉址92×52×10	甕(赤井戸1、樽2、十王台2)、小甕2、甑1、器台1、鉢2、手捏1		4C後	II 3
4	4.00×2.80 28	N-56° -E	炉址54×52×15	甕(赤井戸1、樽1)、器台1、		4C後	II 4
5	3.40×3.05 60	N-80° -E	なし	甕(樽2)、台付甕2、高坏1、打斧1	ベッド状遺構(南壁)	4C中	II 5
6	4.10×3.20 30	N-65° -E	炉址64×55×9	甕1、高坏1		4C後	II 6
7	4.00×4.00 30	N-49° -W	炉址90×80×14	甕(樽1)、高坏1、礫器2、打斧1、スクレイパー4		4C中	II 7
8	3.58×3.52 20	N-59° -E	不明	甕(樽1、他1)		不明	II 8
9	3.15×2.70 45	N-88° -E	なし	甕(赤井戸1、樽1、他2)		4C中	II 9
10	3.10×3.16 15	N-27° -E	炉址40×36×5			4C中	II10
11	7.40×8.04 84	N-46° -E	炉址59×42×6	器台1		4C中	II11
12	4.00×3.18 40	N-67° -W	炉址88×70×17	甕(樽1、赤井戸+樽1、十王台2)、甑1、スクレイパー1		4C後	II12
13	5.50×5.55 80	N-35° -W	炉址80×44×8 炉縁石	高坏1、打斧1	ベッド状遺構(南西隅)	不明	II13
14	5.40×4.40 75	N-61° -E	炉址56×36×7	甕(樽1、他1)瓢壺1		4C後	II14
15	6.57×5.82 80	N-38° -E	炉址F1:60×50×6 F2:60×44×6	甕(赤井戸2、樽5、月影1)、台付甕(樽1)、高坏3、勾玉1、紡錘車(断面台形・石1、断面炉形・土2)		4C中	II15
16	5.84×5.82 65	N-61° -W	炉址64×64×16 土器転用の炉縁石	甕(赤井戸1、樽1、他1)、高坏1、勾玉1、石鏃1、スクレイパー1		4C中	II16
17	5.43×5.13 45	N-50° -W	炉址90×65×14	甕(樽2)、台付甕(赤井戸1)、紡錘車1		4C中	II17
18	4.22×5.07 70	N-30° -E	不明	甕(樽1)、高坏1		4C後	II18
19	5.50×5.16 8	N-86° -E	不明	高坏1		5C後	II19
20	3.74×3.84 32	N-30° -E	炉址40×50×9	甕3、高坏1、器台1		4C中	III 1
21	5.00×4.90 65	N-40° -W	炉址48×21×4 炉縁石	台付甕1、甕1、坩1、坏1		4C中	III 2
22	4.11×4.20 19	N-25° -E	炉址58×43×9	甕3、台付甕1、坩1、器台1		4C中	III 3
23	3.15×2.65 17	N-25° -E	なし			4C後	III 4
24	6.08×7.12 93	N-35° -E	炉址75×34×5	甕(樽1、他8)、台付甕(赤井戸1、石田川4)、壺(赤井戸1、他1)、高坏3、器台1、ハソウ1	馬蹄形状施設(南壁)	4C中	III 5
25	4.62×3.72 75	N-35° -E	炉址67×45×6	甕(赤井戸1、他4)、椀1	馬蹄形状施設	4C中	III 6
26	6.03×5.03 81	N-35° -E	炉址90×54×10	甕(赤井戸2、樽1、他1)、台付甕2、高坏7、器台2	ベッド状遺構(北側)	4C中	III 7
27	5.93×4.30 35	N-44° -E	炉址80×56×7	甕(赤井戸1、他1)、壺(赤井戸1)		4C中	III 8
28	3.35×3.21 58	N-44° -E	炉址50×38×4		馬蹄形状施設(西壁)	4C中	III 9
29	4.90×5.49 80	N-40° -E	炉址72×57×6 炉縁石	甕(樽1、他2)、高坏1、紡錘車3		4C中	III10
30	3.56×3.57 58	N-40° -W	炉址65×53×7 土器片	甕(樽1)、壺2、甑2、高坏1、器台1、椀1、片口土器1		4C中	III11
31	5.03×4.74 6	N-40° -E	炉址87×56×9	小甕(赤井戸1、他1)、高坏2		4C中	III12
32	4.76×3.63 26	N-30° -E	炉址78×70×10	甕(赤井戸1、樽1、樽+月影1)、紡錘車1		4C後	III14
33	4.69×3.58 52	N-44° -E	不明	甕(赤井戸1、他1)		4C中	III15
34	2.61×2.39 26	N-44° -E	なし			不明	III16
35	4.58×5.30 80	N-35° -E	炉址60×44×6 炉縁石	壺(樽1、他1)、高坏(樽1、他1)、器台2、椀1、紡錘車1、砥石1	ベッド状遺構 馬蹄形状施設	4C後	IV35
36	4.04×4.86 63	N-38° -E	炉址77×49×2 土器片2、石1	椀2	馬蹄形状施設(南東壁)	5C前	IV36
37	4.60×5.37 77	N-29° -E	炉址61×54×8 土器片	壺(赤井戸1)、高坏2	馬蹄形状施設(南東壁)	4C後	IV37
38	3.75×3.08 68	N-81° -W	炉址F1:68×34×9 炉縁石 F2:46×38	小壺1	馬蹄形状施設(南東壁)	5C前	IV38
39	7.84×8.06 43	N-57° -E	炉址60×57×8 炉体土器	台付甕1、小甕1、壺1、高坏(赤井戸1、他1)、器台1		5C前	IV39
40	3.06×5.10 18	N-34° -W	炉址53×48	甕(樽1)、小鉢1		4C後	IV40
41	欠番						
42	3.24×3.47 46	N-46° -E	なし	壺1、土製円盤1		4C後	IV42

号数	規模 東西×南北(m)深さ(m)	主軸方向	竈・炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 住居番号
43	3.76×3.71 58	N-25° -W	竈址東壁中央 長:141、幅:115・粘土	大甕1、模倣坏2、須恵蓋(MT15)		6C前	Ⅳ43
44	3.85×4.27 26	N-23° -W	炉址F1:98×76、F2:44×28	甑1、器台1		4C中	Ⅳ44
45	5.28×5.89 29	N-37° -E	炉址F1:130×99×6 F2:81×40	甕(赤井戸4、樽1、他1)、台付甕(樽1、他1)、壷(赤井戸1、赤井戸+樽1)、高坏3、土製円盤1、紡錘車1		4C中	Ⅳ46
46	4.49×4.27 77	N-48° -E	炉址F1:72×41×3炉縁石 F2:86×39×4	甕(赤井戸1)、台付甕(樽1、他1)、小甕(樽1)、壷(樽1)、高坏3、滑石製管玉1、住居周辺から滑石製管玉1、敲石1	馬蹄形状施設(西壁)	4C中	Ⅳ46
47	3.80×4.88 72	N-31° -E	炉址F1:82×51×5 F2:39×37×6炉縁石	甕(樽3、赤井戸2)、台付甕2、大甕1、小甕1、壷(樽1)、高坏12、器台2、椀2、石鏃1	馬蹄形状施設(南東壁)	4C中	Ⅳ47
48	3.80×3.80 9	N-2° -W	炉址75×39	甕(赤井戸1)、手捏1		4C後	Ⅳ48
49	8.72×9.50 11	N-34° -W	炉址F1:100×75×8 F2:88×84×8	甕(赤井戸1、樽1、他1)、台付甕4、大甕1、小甕2、甑1、高坏7、小鉢1、椀3、壷(外来系1、他1)、器台4、特殊器台4、土師質椀1、手捏2、土製品1、算盤玉状土製品1、匙形土製品1、土製円盤1、鉄器2、砥石1、凹石1	馬蹄形状施設(南東壁) 階段状施設(北西壁)	4C中	Ⅳ49
50	3.77×3.43 55	N-82° -E	炉址73×67×5	甕(赤井戸3、樽3、東関東系1)、台付甕(樽1、他1)、片口付小甕1、壷1、小壷1、高坏5、器台1、大鉢1、鉄器1		4C後	Ⅳ50
51	6.28×6.12 16	N-68° -E	炉址F1:43×31 F2:2.98×60	台付甕1、甑1、椀1		5C前	Ⅳ51
52	4.22×3.83 13	N-71° -E	炉址F1:76×61 F2:70×53	甕1、高坏2		5C前	Ⅳ52
53	6.04×5.33 69	N-66° -E	炉址57×38×6	台付甕(樽1、他1)、小S字台甕、壷4、坩3、器台1、小土器1、手捏2、鉄器1		4C後	Ⅳ53
54	3.56×4.25 30	N-30° -E				4C後	Ⅳ54
55	欠番						
56	5.17×4.88 11	N-56° -E	炉址136×83			4C後	Ⅳ56
57	5.66×6.04 30	N-56° -E	炉址F1:103×94×7 F2:92×64	小甕(赤井戸1)、壷(樽1)、高坏1、手捏1		4C中	Ⅳ57
58	2.87×2.58 14	N-83° -E	炉址39×30			4C後	Ⅳ58
59	6.80×5.18 87	N-50° -E	炉址F1:68×38×8 F2:101×52×6土器片	甕(樽1、赤井戸1)、台付甕1、大甕(樽1)、高坏3、小鉢1、手捏2、土製品1、紡錘車1、鉄器1	馬蹄形状施設(南東壁) ベッド状遺構(北、東隅)	4C中	Ⅳ59
60	6.40×(2.20) 55	N-17° -W	不明	片口鉢1		不明	Ⅳ42
61	(5.93)×6.82 44	N-16° -W	炉址F1:120×86×8 F2:86×62×6	甕(樽1、赤井戸1)、壷(樽1)、紡錘車1、鉄器1、砥石1		4C中	Ⅳ61
62	6.74×5.80 30	N-75° -E	炉址F1:127×115×6 F2:103×55	甕2、台付甕(赤井戸1、他1)、小台付甕1S字台甕1、壷(南関東系1、他1)、高坏1、椀1、小形土器2	馬蹄形状施設(南壁)	4C後	Ⅳ62
63	5.37×5.43 43	N-42° -E	炉址71×43×8炉縁石	甕1、高坏1、砥石1	類ベッド状遺構(北西・南東壁)	5C前	Ⅳ63
64	7.20×6.74 66	N-68° -W	炉址99×66×9炉体土器	台付甕2、S字台甕2、壷2、坩1、高坏2、器台2、蓋1、土製品1		4C後	Ⅳ64
65	4.02×3.21 34	N-74° -E	炉址45×31	甕3、甑1、坩4、高坏5、砥石1		5C前	Ⅳ65
66	5.62×5.45 68	N-64° -W	炉址46×38	小甕1、坩2、鉄器、敲石1	馬蹄形状施設(東隅)	5C前	Ⅳ66
	67~81は確認調査のみ						
82	5.04×4.25 80	N-61° -E	炉址61×42×6 2個の炉縁石	甕(赤井戸2、他3)、台付甕(赤井戸1、他4)、S字台甕1、小甕1、壷2、小壷1、高坏4、器台1、手捏1、鉄器1、敲石1、勾玉1	横穴式貯蔵穴 馬蹄形状施設(南隅)	4C中	Ⅳ82
83	2.80×2.96 30	N-61° -E	炉址42×32	高坏1、敲石1		5C前	Ⅳ83
84	6.29×5.81 81	N-61° -E	炉址F1:73×44×7炉縁石 F2:31×22	甕(樽1、赤井戸1、他1)、台付甕2、小甕2、甑1、壷1、高坏1、砥石1		5C前	Ⅳ84
85	7.10×6.26 42	N-67° -E	不明	甕1、台付甕3、壷3、高坏1、器台2、手捏1	馬蹄形状施設(南壁)	4C後	Ⅳ85
86	7.67×6.62 73	N-74° -E	不明	甕(赤井戸1)、台付甕2		4C後	Ⅳ86
87	確認調査のみ						
88	5.98×(5.12) 42	N-68° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:116、幅:104・石と粘土	甕1、坏1須恵坏3、敲石1		平安	Ⅵ28
89	4.01×3.13 54	N-77° -E	不明			4C中	Ⅳ89

号数	規模 東西×南北(m)深さ(m)	主軸方向	竈・炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 住居番号
90	5.77×4.47 26	N-75° -E	炉址F 1:109×104 F 2:75×52× 3 F 3:43×40	甕(赤井戸1)、鉄器1	馬蹄形状施設(南壁)	4C後	Ⅳ90
91	(2.52)×(1.75) 18	N-32° -E	炉址45×20			不明	Ⅳ91
92	5.56×5.76 92	N-29° -W	炉址F 1:74×26× 5 F 2:34×18 F 3:22×22、F 4:24×21 F 5:54×36× 1	甕(樽4、十王台1、月影1、他1)、小甕1、壷(樽1、他1)、小壷1、高坏1、器台1、特殊器台1、蓋1、紡錘車1、土玉1	横穴貯蔵穴 ベッド状遺構(北東隅)	4C後	Ⅵ1
93	5.66×6.58 68	N-41° -W	炉址F 1:104×62×10 中央に炉縁石 F 2:44×44 F 3:70×23× 5	甕(樽1)、高坏(赤井戸1、他1、)、椀1、磨製石鏃1	階段状施設(北西壁) 横穴貯蔵穴	4C中	Ⅵ2
94	(4.06)×(4.40) 98	N-45° -W	炉址(40)×(26)×4	甕(樽1)、台付甕1		4C後	Ⅵ3
95	5.58×5.19 69	N-1° -W	炉址F 1:(66)×16× 6 F 2:140×12× 5	小甕1、高坏2		4C後	Ⅵ4
96	3.54×4.44 61	N-12° -W	炉址F 1:50×44× 4 土器使用 F 2:56×42× 5	壷(樽1、赤井戸1)、高坏2、器台1、椀1	間仕切り溝	4C後	Ⅵ5
97	4.18×5.36 42	N-73° -E	竈址・東壁中央南 長:132 、幅:94・粘土	壷1、坏(模倣坏2)、手捏1		6C後	Ⅵ6
98	(4.14)×(4.92) 41 竈南に1.14×0.8の張出部	N-36° -E	竈址・東壁 長:126 、幅:96・粘土	甕3、甑1、坏1、鉢1、砥石1		6C後	Ⅵ7
99	4.36×5.22 19	N-48° -E	炉址48×(44)×6	甕(赤井戸1)、台付甕1、高坏2、器台1		4C後	Ⅵ8
100	(3.06)×(6.88) 33	N-9° -W	不明	甕1、鉢1		4C後	Ⅵ9
101	3.62×4.14 12	N-17° -W	炉址96×50×12	鉢1		4C後	Ⅵ10
102	3.60×3.05 12	N-92° -E	炉址34×26× 6	台付甕1		4C後	Ⅵ11
103	4.64×3.45 28	N-62° -E	炉址60×44× 5			4C後	Ⅵ12
104	(4.36)×2.64 7	N-20° -E	炉址152×32× 7	甕1、台付甕3、小甕1、甑1、器台1		4C後	Ⅵ13
105	(1.76)×(1.68) 42	N-40° -E	不明	台付甕1		4C後	Ⅵ14
106	[5.02]×[4.57] 39	N-68° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:128 、幅:96・石と粘土	坏1、坏蓋1、坏身1		6C前	Ⅵ15
107	[7.94]×(8.44) 80	N-34° -E	炉址92×38× 9	壷3、高坏2、鉢1、手捏2、紡錘車状1、砥石1		4C後	Ⅵ16
108	[2.96]×2.12 38	N-58° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:116、幅:96・土器と粘土	甕(月影1、他4)、小甕1、甑2、椀1		6C前	Ⅵ17
109	3.18×2.84 30	N-73° -E	竈址・東影中央南寄り 長:96、幅:100・土器と粘土	甑1、高坏1、坏(模倣坏2、内斜口縁1)、砥・敲石1		5C後	Ⅵ18
110	5.34×5.04 38	N-75° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:140、幅:100・土器と粘土	甕5、小甕3、坏(模倣坏7、内斜口縁1、他1)、椀3、手捏2		6C前	Ⅵ19
111	7.80×7.80 33	N-45° -E	F 1:84×68× 9 F 2:124×80× 8 F 3:39×22× 5 F 4:80×44×10 F 5:152×94× 9 F 6:74×38× 6	Ⅵ甕(赤井戸2、樽1)、台付甕1、小甕1、壷2、甑1、高坏3、器台2、椀1、台付片口鉢1		4C後	Ⅵ20
112	5.74×5.32 79	N-52° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:126、幅:96・石と粘土	甕2、小甕5、甑3、坏(模倣坏3、内斜口縁2)、椀3、手捏2		6C前	Ⅵ21113
114	(3.16)×(2.52) 65	N-53° -E	不明	甕(樽1)		4C後	Ⅵ23
115	(3.56)×(4.64) 61	N-27° -E	炉址54×(15)×8	高坏1	横穴貯蔵穴	5C前	Ⅵ24
116	(0.66)×(3.16) 11	N-14° -W	不明	高坏1		4C後	Ⅵ25
117	5.62×3.78 57	N-59° -E	炉址118×48×6 中央に炉体土器	甕1、小甕1、甑1高坏1、片口鉢1、椀1		5C前	Ⅵ26
118	(3.36)×(0.44) 42	N-26° -W	不明			不明	Ⅵ27
119	(6.54)×(5.28) 13	N-28° -E	炉址(64)×(32)×9	小甕1、高坏1		4C後	Ⅵ29
120	[4.80]×[4.36] 30	N-26° -W	不明	甕(赤井戸1)、高坏2		5C前	Ⅵ30
121	(3.36)×(1.72) 78	N-33° -W	不明	砥・敲・磨石1、敲・磨石1		不明	Ⅵ31
122	3.02×3.30 35	N-1° -E	炉址112×54× 8	高坏2、紡錘車1		5C前	Ⅵ33
123	5.26×5.38 90	N-41° -W	炉址F 1:176×65×10 F 2:30×10× 2	甕(赤井戸1)、壷(赤井戸1)、高坏2、器台1、片口鉢1、椀1、紡錘車1、敲・磨石1	類ベッド状遺構2(北・東壁)	5C前	Ⅵ33

号数	規模 東西×南北(m)深さ(cm)	主軸方向	竈・炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書住居番号
124	4.16×(2.73) 54	N-30°-W	炉址74×54×9 炉縁石	甕(赤井戸1)、甑(赤井戸1)	横穴貯蔵穴	5C前	VI34
125	5.24×(4.56) 27	N-22°-W	竈址・東壁中央南寄り 長:126、幅:100・粘土	坏1		平安	VI35
126	3.00×(5.06) 45	N-11°-W	炉址80×56×8	高坏1	馬蹄形状施設(東壁)	4C後	VI36
127	[6.22]×[6.16] 51	N-40°-W	不明	椀1、器台1、手捏1		4C後	VI37
128	(4.12)×5.46 55	N-44°-E	炉址(40)×(36)×6	甕(赤井戸1)台付甕(樽1)、高坏1、鉢1	馬蹄形状施設(西壁)	4C後	VI38
129	2.72×(0.78) 23	N-12°-W	不明	手捏1		6C後	VI39
130	(2.18)×(1.12) –	N-3°-W	炉址40×34×6			4C後	VI40
131	[3.54]×(2.82) 73	N-42°-E	炉址(58)×(30)×5 炉縁石	甕(赤井戸1,他1)、小甕1、壺1、片口鉢1		4C後	VI41
132	(1.50)×(2.58) 39	N-31°-E	不明			4C後	VI43
133	(3.80)×(2.60) 20	N-20°-W	炉址48×34×6	高坏1		4C後	VI44
134	5.50×5.82 55	N-33°-E	炉址75×65×14	甕3、台付甕3、高坏2、凹石1、縄文磨石1		4C後	VII1
135	4.31×4.70 22	N-28°-E	炉址F1:65×42×8 炉縁石4 F2:35×32×7	坩2、器1、磨石1、台・敲石1、砥・磨石1		4C後	VII2
136	5.81×4.81 31	N-39°-W	炉址75×72×14	台付甕(赤井戸1)		4C後	VII3
137	5.78×5.52 31	N-32°-W	炉址82×50×12	甕1、台付甕(赤井戸1、樽1)、器台2、坏1、磨石2		4C後	VII4
138	4.46×2.58 20	N-50°-E	竈址・東壁中央南寄り 長:155、幅:90・粘土	甕1、坏2、砥石1、編物石3		6C前	VII5
139	5.24×6.59 46	N-46°-E	竈址・北壁中央 長:102、幅:97・粘土	甕2、高坏1、須恵高坏1(TK47)、坏(模倣坏6、内斜口縁1)、須恵ハソウ1、石製模造品(剣形2)、砥石2、敲石2	馬蹄形状施設(南壁)	6C前	VII6
140	8.30×8.38 12	N-63°-E	炉址69×63×16	甕3、椀1、青銅製品1、砥石3、敲石1		5C後	VII7
141	4.60×(3.50) 17	N-76°-E	不明	甕2、坏(模倣坏1)、手捏1、砥石1、敲石1		6C前	VII8
142	4.15×5.10 23	N-17°-W	炉址64×55×15	甕1、台付甕1、壺1、坩4、坏(模倣坏5、他1)、高坏1、椀1		5C後	VII9
143	4.28×3.74 16	N-55°-E	炉址F1:60×22×14 F2:44×55×10 F3:30×22×8	甕2、壺2、坏2、椀1		5C後	VII10
144	4.06×(2.44) 34	N-10°-W	炉址90×63×10	坩2		5C前	X1
145	2.92×(1.46) 19	N-16°-W	不明			不明	X2
146	5.66×4.86 81	N-60°-W	竈址・東壁中央 長:135、幅:107・粘土	須恵坏(TK10)		6C前	X3
147	(0.74)×2.78 30	N-86°-W	不明			不明	X4
148	(4.14)×3.64 89	N-63°-E	竈址・東壁中央南寄り・粘土	坏(模倣坏1)、須恵坏(MT85～43)		6C中	X5
149	(5.98)×5.10 88	N-73°-E	竈址・北壁中央 長:120、幅:105・粘土	長胴甕1、高坏1、須恵坏1(TK43)、手捏1、土玉1、土製管玉1		6C中	X6
150	4.34×4.16 70	N-58°-E	竈址・東壁中央 長:90、幅:87・粘土	長胴甕1、甑1、坏(模倣坏7、他1)、土玉1		6C前	X7
151	4.12×4.06 88	N-74°-E	竈址・西壁中央 長:116、幅:108・土器芯	長胴甕1、小甕1、坏(模倣坏1、他1)、手捏1		6C前	X8
152	5.06×4.72 59	N-54°-W	竈址・西壁中央 長:112、幅:93・土器芯	甕1、小甕1、坏(内斜口縁3、他1)、土製勾玉1		5C後	X9
153	3.66×3.20 73	N-53°-E	竈址・東壁中央 長:122、幅:72・土器芯	長胴甕1、坏(模倣坏1、他1)、椀1、手捏4、石製模造品(剣形3)、須恵器蓋1(MR15)、須恵ハソウ1		6C前	X10
154	5.68×5.68 74	N-78°-E	竈址・東壁中央 長:148、幅:120・土器芯	長胴甕2、小甕4、甑1、坏(模倣坏2、内斜口縁2、他2)、手捏1		6C前	X11
155	(2.12)×3.44 66	N-70°-E	不明			不明	X12
156	(6.00)×5.80 53 張出部:2.62×0.96	N-68°-E	竈址・東張出部北寄り 長:60、幅:36・粘土／馬蹄状	坩1、坏(内斜口縁2、他1)、石製模造品1		5C後	X15
157	4.78×4.56 72	N-68°-E	竈址・東壁中央 長:138、幅:81・土器芯	広口椀1		6C前	X16
158	5.12×4.72 73	N-65°-E	竈址・東壁中央 長:128、幅:94・土器芯	長胴甕3、広底壺1、坏(模倣坏4)、滑石臼玉1		6C前	X17
159	4.88×4.48 30	N-85°-E	炉址100×52×10	甕1、高坏3、手捏1		5C後	X18
160	(3.34)×4.96 42	N-55°-E	炉址50×46×6 土器	甕(十王台1、樽1)、坩1		4C後	X19
161	6.60×6.66 80	N-65°-E	竈址・東壁中央 長:120、幅:90・土器芯	長胴甕2、甑1、坏(模倣坏3)、須恵坏蓋1(MT85)、須恵高坏(MT85)、砥石1		6C中	X20

号数	規模 東西×南北(m)深さ(cm)	主軸方向	竈・炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 住居番号
163	2.74×(2.70) 54	N-66° -E	竈址・東壁中央 長:102、幅:32・土器芯	甕1、小甕1、坏(模倣坏1)		6C中	X 22
164	6.34×(6.16) 66	N-73° -E	不明	台付甕1、甕1、 須恵坏蓋1(TK47)、須恵甕(TK47)、須恵ハソウ(TK47)		4C後	X 23
165	(5.14)×5.58 69	N-67° -E	不明	甕1、坩1、高坏7、須恵把手付椀1		5C後	X 24
166	(4.50)×(1.00)	確認調査のみ				不明	X-1
167	(3.50)×(2.00) 16	N-24° -W	不明			不明	XI 1
168	2.90×2.80 59	N-42° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:90、幅:91・粘土、土器芯	坏(模倣坏1)		6C前	XI 2
169	(3.50)×4.40 26	N-12° -W	不明	台付甕1、坏1、高坏1		5C前	XI 3
170	3.40×2.90 10	N-11° -W	炉址100×50×7	甕1、小甕1、坏(模倣坏1)、高坏1		5C後	XI 4
171	3.80×3.20 12	N-70° -E	炉址62×46×6			不明	XI 5
172	8.10×8.00 43 南に張出部: 1.4×1.2	N-73° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:113、幅:117・粘土	甕2、坏(模倣坏1、他1)、高坏2、磨石1		6C前	XI 6
173	(2.30)×3.70 9	N-13° -E	不明			不明	XI 7
174	6.20×5.90 70	N-84° -E	竈址・東壁中央 長:121、幅:112・粘土	甕7、小甕2、甑2、坏(模倣坏7、他3)、高坏1、鉢1、臼玉1		6C前	XI 8
175	3.40×(2.20) 22	N-37° -E	炉址38×30×4			不明	XI 9
176	4.40×4.30 57	N-78° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:82、幅:88・粘土	小甕1、坏(模倣坏2)、砥石1		6C前	XI10
177	3.50×2.80 35	N-76° -E	不明			不明	XI11
178	10.20×10.10 59	N-81° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:200、幅:132・粘土	大甕2、甕9、小甕7、坏(模倣坏11、内斜口縁5、他17)、大型坏2、坩1、高坏4、器台2、須恵坏身1、ガラス小玉7、管玉1、臼玉158、紡錘車5、砥石2、刀子片1、打斧1		6C前	XI12
179	4.70×4.00 61	N-79° -E	竈址・東壁中央南寄り 長:133、幅:89・石と粘土 /煙道に土器使用	甕4、甑2、坏(模倣坏5、他3)、高坏1、須恵高盤1、土製支脚1、砥石1		6C後	XI13
180	(3.90)×3.50 14	N-65° -E	不明	甕1、坏(模倣坏1、他6)		5C後	XI14
181	(1.70)×3.40 18	N-88° -E	不明			不明	XI15
182	5.10×5.00 40	N-25° -W	竈址・北壁中央東寄り 長:131、幅:93・粘土	小甕1、甑1、坏(模倣坏2、内斜口縁7、他2)、高坏2、鉢1、坩1		5C後	XI16
183	3.50×(2.50) 21 ほぼ円形	不明	炉址65×58×39 炉縁石	深鉢6、石斧1	J-1	加曽利E 3	XII 1
184	3.43×(2.20) 33	N-25° -W	不明	壺(二段口縁1)	H-1	4C前	XII 2
185	4.73×4.43 35	N-26° -W	竈址・東壁やや西寄り 長:127、幅:107	小甕1、付5	H-2	6C後	XII 3
186	(4.05)×(3.60) 38	N-50° -W	竈址・西壁 長:62、幅:76	甕2、小甕3、甑4、坏3、高坏2、椀1、小鉢1	H-3	5C末~6C初	XII 4
187	(2.25)×(2.80) 12	N-34° -W	炉址50×51×12	小甕1	H-4	4C後	XII 5
188	4.38×4.60 52	N-11° -W	不明	甕1、小甕1、坏5、ハソウ1、高坏1、土製支脚1、滑石製臼玉1、石製模造品1	H-5	6C中	XII 6
189	(4.12)×(3.44) 60	N-54° -E	竈址・東壁やや南寄り 長:132、幅:118	甕6、小甕6、甑3、坏7、器台1 手捏土器(ミニチュア椀1、ミニチュア鉢1)、碧玉製管6	H-6	5C後~6C初	XII 7
190	(4.90)×(3.47) 47		竈址・東壁・長:70、幅:76	甕3、坏1	H-7	6C末	XII 8
191	4.30×4.92 55	N-25° -W	炉址60×48×10	小甕2、台付甕5坩1、壺1	H-8	4C後	XII 9
192	(2.00)×(3.20) 40	N-12° -W	不明	坩3、高坏1、椀1	H-9	5C初	XII10
193	(2.05)×(2.60) 15	N-10° -E	不明	甕1、高坏1	H-10	4C末	XII11
194	(2.05)×4.50 33	N-29° -W	炉址(43)×33×18	甕(樽1)、小甕(赤井戸1、他2)、高坏5、鉢2、椀1、壺(樽2、二段口縁1、他1)、小甕1、器台(石田川1、他1)、手捏土器1	H-11	4C中	XII12
195	(4.36)×5.28 50	N-10° -W	不明	甕1、坏1	H-12	6C後	XII13
196	(1.48)×(3.85) 35	N-1° -E	不明	縄文土器片、土師器片	H-13	不明	XII14
197	5.48×(2.10) 70	N-62° -E	竈址・東壁やや南寄り 長:114、幅:77	大甕2、甕3、坏4、高坏1、土製勾玉1	H-14	5C末	XII15

号数	規模 東西×南北(m)深さ(cm)	主軸方向	竈・炉 位置・規模（cm）・素材	出土遺物	施設	時期	報告書住居番号
198	(2.00)×(1.32) 58	N-43°-W	不明	甕1		6C初	XII16
199	(4.12)×6.38 23	N-18°-W	炉址38×37×5	甕2、小甕1、台付甕（石田川1）、高坏1、坩（樽1）		4C中	XII17
200	(0.90)×(2.15) 25	N-5°-E	不明	土師器片		4C末	XII18
201	(4.55)×3.40 20	N-62°-W	不明	坏3、器台1		4C後	XII19
202	(3.67)×4.18 38	N-60°-E	竈址・東壁やや南寄り 長:136、幅:90	高坏3、坏1、甕1、甑1、須恵器坏蓋1		6C前	XII20
203	(3.82)×4.59 35	N-73°-W	竈址・南東壁やや北西寄りに左袖部位を検出。	坏7、甕1、鉄製品1		6C中~後	XII21
204	(3.42)×7.10 63	N-24°-W	炉址79×47×6	台付甕1、小甕1、高坏1、坩1、手捏土器（模造品1、他1）、管玉2、臼玉1、石製模造品（勾玉形模造品）1、袋状鉄斧1、釘1		4C末	XII22
205	(2.93)×5.64 50	N-78°-W	竈址・西壁やや南寄り 長：116、幅:82	甕2、小甕7、坏6、鉢（片口鉢1、丸底浅鉢1、他1）、甑（壺型1、他1）、コップ型土器1、土製円盤1、有孔円盤1		5C末~6C初	XII23
206	(5.22)×6.28 90	N-42°-W	炉址51×31×6	甕（樽式）1、小甕2、坏・鉢・砥石各1		4C末	XII24
207	(2.10)×7.08 25	N-16°-W	不明	甕1		5C後~6C初	XII25
208	2.42×(1.97) 25	N-34°-E	炉址71×（47）×10	坩1、器台1		4C末	XII26
209	3.02×2.78 50	N-18°-W	炉址38×32×6	坏2、台付甕1、小甕1		4C末	XII27

Tab. 6　A区柱穴観察表

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
P－1	X60-Y154G	円	32	30	33	
P－2	X58-Y135G	楕円	32	30	23	
P－3	X58-Y134G	楕円	40	33	34	
P－4	X64-Y124･125G	円	32	32	33	
P－5	X68-Y122	楕円	38	25	24	
P－6	X69-Y122	不整形	25	23	62	
P－7	X73-Y120	不整形	38	27	33	
P－8	X75-Y118	楕円	30	27	42	
P－9	X75-Y118	楕円	32	26	54	
P－10	X56-Y110	長方形	37	26	36	
P－11	X56-Y110	長方形	36	32	36	
P－12	X81-Y117	長方形	35	37	66	
P－13	X81-Y117	長方形	27	20	61	
P－14	X82-Y117	長方形	60	37	40	
P－15	X82-Y117	円	28	28	44	

Tab. 7　B区柱穴観察表

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
P－1	X141－Y57G	不整形	(40)	47	46	
P－2	X141－Y57G	不整形	(34)	32	47	
P－3	X151－Y82G	楕円	35	32	43	
P－4	X151－Y82G	楕円	32	25	39	
P－5	X151－Y82G	楕円	35	32	37	

Tab. 8　A区土坑観察表（単位：cm）

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
D－1	X57-Y148G	円形	75	67	43	
D－2	X58-Y132G	(楕円形)	137	(50)	42	
D－3	X66-Y123G	楕円形	85	73	69	
D－4	X68-Y122･123G	円形	93	90	72	
D－5	X72-Y110G	(楕円形)	(107)	113	53	
D－6	X72･73－Y120G	(楕円形)	92	(32)	29	
D－7	X57-Y110G	(不整形)	(165)	(85)	61	
D－8	X62･63－Y111G	(楕円形)	120	(51)	44	
D－9	X62-Y111G	楕円形	63	54	24	

(註)　(　) は推定形状及び現存値を表す。

Tab. 9　B区土坑観察表（単位：cm）

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
D－1	X145－Y62G	(楕円形)	(158)	85	33	
D－2	X62-Y111G	(楕円形)	(95)	(30)	33	

(註)　(　) は推定形状及び現存値を表す。

Tab.10　A区遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
1	H－1	坩	[13.6]	(8.1)	①細粒②良好③橙④破片	外面篦磨き。内面横ナデ、篦磨き。	－	唐古第5様式
2	H－1	壺	－	(13.2)	①細粒②良好③橙④4／5	外面篦磨き。内面横方向のナデ。	1	
3	H－1	甕	19.2	(14.2)	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	外面口縁横方向のナデの後篦磨き、肩部波状文・靡状文。内面横方向のナデ、磨き。	6	樽式系
4	X-2覆土	高坏		(10.7)	①細粒②良好③にぶい橙④1／2	外面横ナデ、篦削り、ナデ、篦磨き。内面ナデ。	－	
5	X-2覆土	坏	[12.4]	5.1	①細粒②良好③橙④3／4	外面ナデ、横ナデ。内面横ナデ、暗文。	－	
6	X-2覆土	小鉢	[7.6]	(6.0)	①細粒②良好③橙④1／2	外面ナデ、横ナデ。内面横ナデ、暗文。	－	
7	X-2覆土	高坏	[14.8]	(9.4)	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り、ナデ。内面坏部は摩滅のため不明、脚部はナデ。	－	
8	X-2覆土	甕	(6.4)	[18.0]	①細粒②良好③にぶい黄橙	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	－	
9	X-2覆土	円筒埴輪	(21.3)	(16.0)	①細粒②良好③橙④破片	外面刷毛目。内面横方向のナデ。	9	

Tab.11　B区遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
13	H－1	壺	[17.4]	(3.3)	①細粒②良好③橙④破片	外面刷毛目の後篦磨き、ナデ。内面横ナデ、篦磨き。二段口縁	15	
14	H－2	坏	12.8	4.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	70	
15	H－2	坏	12.3	4.6	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	158	
16	H－2	坏	[13.3]	4.2	①細粒②良好③橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	84	
17	H－2	坏	13.0	(4.2)	①細粒②良好③橙④1／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	85	
18	H－2	坏	[14.0]	(3.1)	①細粒②良好③にぶい黄橙④2／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	97	
19	H－2	小甕	[12.6]	(9.1)	①細粒②良好③橙④破片	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	147	
20	H－2覆土	高坏	[28.3]	(8.2)	①細粒②良好③浅黄橙④坏部	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	162	石田川系
21	H－3	小甕	13.2	15.5	①細粒②良好③にぶい赤褐④1／4	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	16	
22	H－3	甑	25.4	26.6	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、ナデの後篦削り。内面ナデ。	173	
23	H－3	小鉢	[6.4]	5.9	①細粒②良好③橙④破片	外面横ナデ、ナデ。埋面横ナデ、ナデ。	－	
24	H－3	坏	[12.4]	(5.3)	①細粒②良好③明赤褐④2／3	横ナデ、ナデの後篦磨き。	39	
25	H－3	坏	14.1	5.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗文。	87	
26	H－3	坏	[19.2]	(4.5)	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、暗文。	67	
27	H－3	椀	[10.6]	6.8	①細粒②良好③橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	143	
28	H－3	小甕	10.4	(11.2)	①細粒②良好③明赤褐④1／2	外面横ナデ、篦削りの後篦磨き。内面横ナデ、ナデの後篦磨き。	188	
29	H－3	高坏	－	(7.1)	①細粒②良好③橙④2／3	外面ナデ、内面ナデ。	132	
30	H－3	高坏	15.0	(6.0)	①細粒②良好③明赤褐橙④坏部	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	160	
31	H－3	小甕	14.4	(11.7)	①細粒②良好③橙④1／3	外面横ナデ、縦方向に篦削り。内面横ナデ、ナデ。	23	
32	H－3	甕	[14.4]	26.2	①細粒②良好③にぶい橙①2／3	外面横ナデ、刷毛目の後ナデ。内面横ナデ、ナデ。	4	
33	H－3	甑	[32.4]	30.8	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、刷毛目の後ナデと篦削り。内面横ナデ、刷毛目の後縦方向にナデ。	6	
34	H－3	甕	[15.4]	(23.5)	①細粒②良好③橙④4／5	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	19	
35	H－3	甑	17.7	14.2	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。合い面横ナデ、ナデ。	1	赤色塗彩
36	H－3	小甕	15.0	(18.9)	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削りから刷毛目の後ナデ。内面横ナデ、ナデ。	65	
37	H－4	小甕	6.0	－	①中粒②良好③にぶい橙④破片	外面刷毛目の後ナデから篦磨き。内面は摩滅のため不明。	3	
38	H－5覆土	ハソウ	[9.1]	9.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り、篦磨き。内面横ナデ、ナデ。	250	
39	H－5	土製支脚	5.5	(11.8)	①細粒②良好③橙④1／3	外面ナデ、横ナデ。内面ナデ、底部に孔。	259	
40	H－5	甕	[20.4]	(19.3)	①細粒②良好③橙④1／5	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	375	
41	H－5覆土	坏	[12.0]	(4.9)	①細粒②良好③にぶい橙④1／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗文。	177	内面は黒色
42	H－5覆土	坏	[12.0]	(3.7)	①細粒②良好③橙④1／5	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	186	
43	H－5覆土	坏	[11.0]	4.6	①細粒②良好③橙④1／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	162	
44	H－5	坏	[24.2]	(8.0)	①細粒②良好③にぶい黄④1／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	328	
45	H－5	坏	[12.1]	(4.7)	①細粒②良好③にぶい黄④破片	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	311	
46	H－5	甑	28.4	25.2	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面篦削りの後ナデ、横ナデ。内面横ナデ、ナデ。	252	
47	H－5	高坏	－	(4.3)	①細粒②良好③浅黄橙④破片	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	341	
48	H－5	小甕	[17.8]	17.3	①細粒②良好③にぶい黄橙④2／5	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	393	
49	H－7	甕	－	(24.7)	①細粒②良好③橙④1／2	外面ナデの後篦削り。内面刷毛目後ナデ。	138	
50	H－5覆土	甕	[15.3]	(14.2)	①細粒②良好③浅黄橙④破片	外面刷毛目の後ナデ、篦削り、横ナデ。内面篦削りの後ナデ、横ナデ。	9	
51	H－7覆土	甕	19.6	25.0	①細粒②良好③にぶい橙④3／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	6	
52	H－7覆土	坏	[13.8]	(4.0)	①細粒②良好③橙④破片	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	－	
53	H－6	器台	[7.9]	7.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④4／5	外面篦削り、篦磨き、ナデ。内面ナデ。	43	
54	H－6	坏	[13.1]	5.7	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	116	
55	H－6	坏	[13.0]	6.2	①細粒②良好③橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	113	
56	H－6	坏	[12.8]	5.1	①細粒②良好③赤④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗文。	84	
57	H－6	坏	[13.5]	5.3	①細粒②良好③橙④1／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ，案文。	33	
58	H－6	甑	[27.2]	31.7	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	1	
59	H－6	甕	12.0	20.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	外面ナデ。内面横ナデ後ナデ。胴下部～底部に編籠の押圧痕。	81	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
60	H－6	甕	15.6	25.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面刷毛目後ナデ。横ナデ。内面刷毛目、ナデ、横ナデ。	109	
61	H－6覆土	甕	15.3	27.5	①細粒②良好③明赤褐④ほぼ完形	外面刷毛目の後ナデ、篦削り、横ナデ。	6	
62	H － 6	小 甕	[12.3]	9.7	①細粒②良好③浅黄④1／3	外面ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	113	
63	H － 6	小 甕	[12.0]	11.5	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	50	
64	H － 6	小 甕	13.2	13.0	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面刷毛目後篦削り、横ナデ。内面ナデ、横ナデ。	127	
65	H － 6	小 甕	[13.3]	(12.6)	①細粒②良好③橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	10	
66	H － 6	甑	－	(21.3)	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／3	外面刷毛目後ナデ。内面刷毛目後ナデ。	74	
67	H － 6	小 甕	12.4	8.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④3／4	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	145	
68	H － 6	小 甕	12.6	14.0	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	114	
69	H － 6	甕	22.0	29.3	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面刷毛目の後ナデ、篦削り、横ナデ。内面横ナデ、刷毛目、ナデ。	106	
70	H － 6	甑	21.8	29.4	①細粒②良好③浅黄④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ、篦磨き。	115	
71	H － 6	甕	[16.6]	(26.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／2	外面横ナデ、刷毛目の後ナデ、篦削り。内面横ナデ、刷毛目。	64	
72	H － 6	坏	13.6	7.2	①細粒②良好③にぶい黄橙④3／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	137	内面赤色塗彩
73	H － 6	坏	13.4	7.4	①細粒②良好③にぶい橙④2／3	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面ナデ。	111	
74	H － 6	坏	13.7	7.7	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面ナデ。	80	
75	H － 6	甕	13.1	21.7	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面横方向のナデ、ナデ。内面ナデ。胴張～底部に煤煙の押圧痕。	136	
76	H － 6	甕	14.4	21.8	①細粒②良好③にぶい橙④完形	外面横ナデ、刷毛目後ナデ。内面横ナデ、刷毛目後、ナデ。	138	
77	H － 8	小 甕	[5.4]	4.9	①細粒②良好③にぶい橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	－	
78	H － 8	坩	[7.8]	4.0	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦磨き。内面篦磨き。丁寧なつくり。	22	
79	H － 8	小 甕	[8.8]	(6.7)	①細粒②良好③にぶい橙④1／4	外面横ナデ、刷毛目。内面横ナデ、ナデ。	－	
80	H － 8	壺	11.4	(6.7)	①細粒②良好③橙④口縁部	外面篦磨き、ナデ。内面篦磨き、ナデ。	1	
81	H － 8	台付甕	－	(6.6)	①細粒②良好③橙④脚部	外面ナデ。内面ナデ。	15	
82	H － 8	台付甕	－	(6.9)	①細粒②良好③にぶい黄橙④台部	外面刷毛目後ナデ。内面ナデ。	35	
83	H － 8	台付甕	14.8	(20.2)	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外横ナデ、刷毛目後ナデ。内面横ナデ、刷毛目後、ナデ。	51	
84	H － 8	台付甕	12.4	－	①細粒②良好③橙④3／4	外面横ナデ、印毛目後ナデ。内面横ナデ、ナデ、刷毛目。	49	
85	H － 9	坩	[8.3]	3.4	①細粒②良好③明赤褐④4／5	外面横ナデ、刷毛目後ナデ。内面ナデ、刷毛目後横ナデ。	7	
86	H － 9	坩	9.2	8.6	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	20	
87	II － 9	坩	8.6	8.6	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	6	
88	H － 9	高 坏	16.9	(7.3)	①細粒②良好③橙④坏部	外面横ナデ、篦削り後ナデ。内面横ナデ、ナデ。	1	
89	H － 9	椀	[10.6]	7.1	①細粒②良好③にぶい橙④2／5	外面ナデ、内面横ナデ、ナデ。	23	
90	H － 10	高 坏	[21.6]	(6.0)	①細粒②良好③橙④破片	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ。	22	
91	H － 10	甕	[17.0]	(5.9)	①細粒②良好③にぶい赤褐④破片	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	28	
92	H － 11	高 坏	13.9	11.5	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面ナデ、篦削り後、篦磨き。内面横ナデの後篦磨き。脚部はナデ。透孔4 単位。	159	
93	H － 11	椀	[9.0]	5.1	①細粒②良好③にぶい橙④1／3	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、篦削り。	113	
94	H － 11	小 甕	10.4	(11.6)	①細粒②良好③橙④3／4	外面縦文RL、頸部ナデ、胴から底部篦磨き。内面ナデ、篦磨き。	36	赤井戸式系
95	H － 11	鉢	14.5	5.2	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面篦削り後篦磨き。内面横ナデ、篦磨き。	103	
96	H － 11	鉢	16.6	8.2	①細粒②良好③橙④完形	外面篦磨き、底部は篦削り。内面横ナデ後篦磨き。	104	
97	H － 11	壺	[9.8]	(4.7)	①細粒②良好③橙④破片	外面篦磨き。内面篦磨き。	30	赤井戸式系
98	H － 11	甕	[15.2]	(7.2)	①細粒②良好③にぶい橙④口縁部	外面口縁波状文・簾状文。内面篦磨き。	33	樽式系
99	H － 11	壺	[19.1]	(39.9)	①細粒②良好③橙④1／2	外面口縁刷毛目、頸部簾状文、肩部波状文、胴部篦磨き。内面篦磨き、ナデ。	5	樽式系
100	H － 11	高 坏	－	(5.6)	①細粒②良好③橙④台部	外面ナデ。内面ナデ。	46	
101	H － 11	器 台	8.3	8.4	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面ナデ。内面ナデ。透孔4 単位。	1	石田川式系
102	H － 11	器 台	[6.4]	(3.1)	①細粒②良好③にぶい橙④破片	外面篦磨き。内面篦磨き、ナデ。	77	
103	H － 11	小 甕	－	(11.1)	①細粒②良好③明赤褐④頸～底部	外面篦削り後篦磨き。内面横ナデ、ナデ。	105	
104	H － 11	小 甕	7.0	9.1	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り後篦磨き。内面ナデ、横ナデ、篦磨	101	胴下部に小穿孔
105	H － 11	小 甕	7.3	8.7	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り後ナデ。内面横ナデ、ナデ。	102	
106	H － 11	壺	12.0	23.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面刷毛目後篦磨き。内面ナデ。	117	
107	H － 11	高 坏	[12.2]	9.2	①細粒②良好③橙④3／4	外面篦磨き。内面篦磨き，ナデ。	54	赤色塗彩
108	H － 11	高 坏	16.2	12.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦削り後ナデ。内面ナデ。	73	赤色塗彩
109	H － 11	高 坏	[16.0]	(11.3)	①細粒②良好③橙④3／5	外面篦削り後ナデ。内面ナデ、篦磨き。	82	
110	H － 12	甕	[22.2]	(11.6)	①細粒②良好③にぶい黄橙④破片	外面横ナデ、篦削り。内面ナデ、ナデ。	31	
111	H － 12	坏	[11.8]	4.6	①細粒②良好③橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	12	
112	H－1覆土	坏	13.8	5.8	①細粒②良好③黒④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	54	
113	H － 14	甕	18.8	(17.3)	①細粒②良好③にぶい橙④1／4	外面刷毛目の後ナデ、横ナデ。内面横ナデ、刷毛目、ナデ。	263	
114	H － 14	甕	17.8	(20.7)	①細粒②良好③浅黄橙④1／4	外面横ナデ、刷毛目後ナデと篦磨き。内面刷毛目の後ナデと篦磨き。	18	
115	H － 14	坏	[12.2]	4.7	①細粒②良好③橙④1／3	外面横ナデ、篦削り後ナデ。内面横ナデ、暗文。	56	
116	H － 14	坏	[12.0]	6.2	①細粒②良好③浅黄橙④3／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	94	
117	H － 14	坏	[15.5]	7.4	①細粒②良好③にぶい橙④3／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	104	
118	H － 14	高 坏	16.1	7.3	①細粒②良好③浅黄橙④坏部	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、暗文。	270	
119	H － 14	甕	[16.3]	27.2	①細粒②良好③橙④2／3	外面横ナデ、刷毛目後ナデ、内面横ナデ、ナデ。	9	
120	H － 14	甕	25.2	(11.5)	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／4	外面横ナデ、刷毛目。内面横ナデ、刷毛目。	120	
121	H － 15	甕	－	(12.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙④胴～底部	外面篦削り、ナデ。内面ナデ。	17	
122	H － 16	台付甕	16.2	24.0	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面刷毛目、ナデ。内面ナデ。	12	S字口縁
123	H － 16	小 甕	－	(5.7)	①細粒②良好③橙にぶい橙④口縁部欠損	外面櫛状文、波状文、胴部篦磨き。内面ナデ。	32	樽式系
124	H － 16	高 坏	－	(4.5)	①細粒②良好③橙④脚部2／3	外面ナデ。内面ナデ。	6	
125	H － 16	壺	－	(22.0)	①細粒②良好③黄橙④2／3	外面篦磨き。内面篦磨き、ナデ。	2	
126	H － 16	甕	[8.8]	(23.5)	①細粒②良好③にぶい橙④1／2	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ、篦磨き。	19	木の葉痕有り
127	H － 18	器 台	6.1	8.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面ナデ、内面ナデ。透孔4 単位。	1	
128	H － 18	坏	[12.4]	(3.0)	①細粒②良好③橙④破片	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	－	
129	H － 18	坏	[12.8]	(3.5)	①細粒②良好③にぶい黄橙④破片	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	－	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
130	H－19	須恵蓋	12.1	4.0	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面ロクロナデ、回転篦削り。内面ロクロナデ。	8	
131	H-19覆土	坏	[10.0]	2.2	①細粒②良好③橙④1／4	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ。	—	
132	H-19覆土	坏	[10.8]	(3.3)	①細粒②良好③橙④1／5	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	—	
133	H－19	坏	13.6	5.7	①細粒②良好③橙④3／4	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗文。	9	
134	H－19	高 坏	10.6	7.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	55	
135	H-19覆土	高 坏	—	(5.6)	①細粒②良好③橙④台部	外面篦削り後横ナデ。内面ナデ、横ナデ。	—	
136	H－19	甕	16.6	15.0	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	43	
137	H－19	甑	[23.6]	(14.6)	①細粒②良好③浅黄橙④不明	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	4	
138	H－20	甕	[14.0]	(12.6)	①細粒②良好③にぶい橙④破片	外面横ナデ、刷毛目。内面横ナデ、ナデ。	29	
139	H－20	坏	12.0	4.5	①細粒②良好③黒褐④2／3	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	37	
140	H－20	坏	11.8	4.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	68	
141	H－20	坏	12.8	4.5	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	69	
142	H－20	坏	13.0	4.4	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／2	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	45	
143	H－20	坏	14.2	4.8	①細粒②良好③黒褐④2／3	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	42	
144	H－20	坏	14.2	4.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	114	
145	H－20	坏	14.2	4.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	43	
146	H-20覆土	坏	11.2	[6.9]	①細粒②良好③赤褐④1／3	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	33	
147	H－21	椀	[9.2]	[5.3]	①細粒②良好③橙④3／4	外面横ナデ、篦削り。内面刷毛目、ナデの後横ナデ。	10	
148	H－21	坩	[9.8]	(5.7)	①細粒②良好③橙④1／3	外面刷毛目後篦削り、横ナデ。内面刷毛目後横ナデ、横ナデ。	13	
149	H－21	甕	—	(7.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙④底部のみ	外面ナデ。内面ナデ。	8	
150	H－21	小 甕	[13.0]	(12.7)	①細粒②良好③にぶい黄橙④2／3	外面刷毛目後横ナデ、ナデ。内面刷毛目後横ナデ、ナ	34	
151	H－22	小 甕	—	(15.3)	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	101	
152	H－22	甕	[23.2]	[28.5]	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／4	外面横ナデ、篦削り、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	30	
153	H－21	甕	[16.7]	23.9	①細粒②良好③にぶい橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	22	
154	H-22覆土	甕	—	—	①細粒②良好③橙④口縁破片	横ナデ。	—	
155	H－22	ｺｯﾌﾟ型土器	[7.2]	6.0	①細粒②良好③にぶい橙④1／3	外面ナデ。内面ナデ。	176	
156	H－22	片口鉢	6.5	7.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	外面ナデ。内面ナデ。	165	
157	H－22	坏	12.9	5.7	①細粒②良好③明黄褐④4／5	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	170	
158	H－22	坏	[13.2]	5.8	①細粒②良好③橙④1／2	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗文。	172	
159	H－22	坏	13.2	6.5	①細粒②良好③橙④2／3	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ、ナデ。	171	
160	H-22覆土	坏	12.6	[5.1]	①細粒②良好③橙④1／3	外面篦削り、横ナデ。内面横ナデ。	146	
161	H－22	坏	12.8	5.3	①細粒②良好③橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、暗文。	100	
162	H－22	坏	12.2	5.5	①細粒②良好③明赤褐④完形	外面横ナデ、篦削り、ナデ。内面横ナデ。	177	
163	H－22	坏	12.3	5.8	①細粒②良好③明赤褐④1／2	概念横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	190	
164	H－22	甕	—	(7.4)	①細粒②良好③にぶい橙④底部破片	ナデ。	49	
165	H－22	丸底浅鉢	[18.4]	(8.9)	①細粒②良好③にぶい橙④1／2	外面刷毛目後横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	202	
166	H－22	小 甕	[17.8]	11.3	①細粒②良好③橙④1／3	外面刷毛目後横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	150	
167	H－22	鉢	10.4	10.0	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。内面ナデ。	285	
168	H－22	小 甕	13.2	15.8	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面横ナデ、刷毛目後ナデ。内面横ナデ、ナデ。	300	
169	H－22	甑	[15.3]	13.4	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面刷毛目後横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	310	
170	H－22	小 甕	[14.4]	12.6	①細粒②良好③にぶい褐④1／2	外面横ナデ、篦削り後ナデ。内面横ナデ、ナデ。	83	底部に編籠痕
171	H－22	小 甕	13.6	13.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。内面篦削り。	112	
172	H－22	小 甕	12.0	13.0	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ、ナデ。	179	
173	H－22	小 甕	[13.2]	13.9	①細粒②良好③浅黄④1／3	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ、ナデ。	70	
174	H－23	小 甕	12.0	9.7	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り、ナデ。内面横ナデ、暗文。	69	
175	H－23	甕	[13.2]	17.8	①細粒②良好③橙④4／5	外面口縁から肩部波状文、頸部隆状文、胴部篦磨き、内面ナデ、篦磨き。	86	樽式系
176	H－23	鉢	[12.9]	6.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面横ナデ、ナデ。底部篦削り。内面暗文。	1	
177	H-23覆土	坏	[12.4]	(3.6)	①細粒②良好③にぶい橙④破片	外面横ナデ、ナデ。内面横ナデ。	66	
178	H－23	小 甕	10.0	9.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④1／4	外面篦削り、ナデ。内面篦削り、横ナデ。	31	
179	H－24	甕	[15.8]	30.1	①細粒②良好③にぶい黄橙④4／5	外面横ナデ、刷毛目の後篦削り、ナデ。内面横ナデ、刷毛目の後ナデ。	1	
180	H－25	坩	—	(10.2)	①細粒②良好③橙④口縁部欠損	外面ナデ後篦磨き。内面ナデ。	1	
181	H－25	器 台	[6.6]	9.7	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面篦磨き。内面篦磨き、刷毛目の後ナデ。透孔4単位。	2	
182	H－26	坏	9.4	5.3	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	14	
183	H－26	坏	8.9	4.4	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面横ナデ、篦削り。内面横ナデ。	15	
184	H－26	台付甕	10.9	23.9	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面刷毛目後篦削り、ナデ。内面横ナデ、刷毛目後ナデ。	1	
185	H－26	小 甕	12.4	12.2	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面横ナデ、篦削り。頸負面篦削り、ナデ。	2	
186	X－2覆土	甕	—	—	①細粒②良好③にぶい黄橙④破片	ナデ。	9	古墳時代に移行す時期の樽式系

註）1．観察項目は、胎土、焼成、色調、残存、整形方法の順で記載した。

2．①胎土は細粒(0.9㎜以下)、中粒(1.0～1.9㎜)、粗粒(2.0㎜以上)とした。
②焼成は極良、良好、不良の3段階評価とした。
③色調は土器外面を観察し、色名は新版標準土色帖(小山・竹原1976)によった。
④おおきさの単位はcm、gであり、現存値を(　)、復元値を[　]で示した。その他小片については所属部位を記載した。

Tab.12　石製品、鉄製品、特殊遺物観察表

番号	出土位置	器種	①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤残存⑥石材	登録番号	備考
247	B区表採	土玉	①2.9 ②2.8 ③2.5 ④19.0 ⑤完形	---	明赤褐色。篦磨き。
248	H-12覆土	土製勾玉	①2.5 ②0.9 ③1.0 ④3.2 ⑤完形	—	にぶい黄橙色。ナデ。
249	H-14覆土	土製勾玉	①2.2 ②0.8 ③1.0 ④3.5 ⑤完形	—	橙色。ナデ。
250	H-6	管玉	①1.9 ②0.7 ③0.7 ④1.8 ⑤完形 ⑥碧玉	①	
251	H-6	管玉	①1.2 ②0.8 ③0.8 ④1.3 ⑤完形 ⑥碧玉	②	両端より穿孔。
252	H-6	管玉	①2.4 ②0.7 ③0.7 ④2.2 ⑤完形 ⑥碧玉	③	
253	H-6	管玉	①2.1 ②1.1 ③1.1 ④2.0 ⑤完形 ⑥碧玉	④	
254	H-6	管玉	①1.2 ②1.1 ③1.0 ④0.8 ⑤完形 ⑥碧玉	⑤	
255	H-6覆土	管玉	①1.2 ②1.1 ③1.1 ④0.8 ⑤完形 ⑥碧玉	—	
256	H-21	管玉	①2.1 ②0.5 ③0.4 ④0.7 ⑤完形 ⑥碧玉	47	細身。
257	H-21	管玉	①1.7 ②0.5 ③0.5 ④0.7 ⑤完形 ⑥碧玉	51	細身。
258	B区X150-Y81	管玉	①(1.6)②0.6 ③0.6 ④0.9 ⑤欠損 ⑥碧玉	—	
259	H-5	臼玉	②1.2 ③1.2 ④1.7 ⑤完形 ⑥滑石	251	
260	H-21	臼玉	②1.1 ③0.5 ④0.9 ⑤完形 ⑥滑石	46	
261	H-6覆土	臼玉	②0.6 ③0.2 ④— ⑤完形 ⑥滑石	—	
262	H-11	手捏土器（台形）	①(2.6) ②2.6 ③3.2 ⑤3/4	—	橙色。焼成良。
263	H-6	手捏土器（椀）	①4.3 ②1.9 ③2.1 ⑤2/3	—	橙色。焼成良。指圧え。ナデ。
264	H-6	手捏土器（鉢）	①3.6 ②2.6 ③1.9 ⑤1/3	—	橙色。焼成良。ナデ。
265	H-21	手捏土器（台付甕）	⑤脚部	—	にぶい黄橙色。焼成良。ナデ。
266	B区X-2覆土	土製円盤	②4.8 ③1.1 ④25.2 ⑤完形	—	
267	H-14覆土	土製紡錘車	②(4.4) ③2.2 ④7.8 ⑤1/6	—	橙色。焼成良。ナデ。孔径［0.6cm］。
268	H-22	土製円盤	②［7.8］ ③［1.3］ ④［59.5］ ⑤完形	82	ナデ。鏡形模造品。
269	H-22	有孔円盤	①2.4 ②3.5 ③0.6 ④8.5 ⑤完形 ⑥滑石	81	
270	H-21	石製模造品	①(3.3) ②2.1 ③0.7 ④5.3 ⑤1/2 ⑥滑石	32	勾玉形模造品。
271	H-5	石製模造品	①(3.4) ②(1.1) ③(0.5) ④3.1 ⑤破片 ⑥滑石	366	剣形模造品の一部か。
272	A区表採	鏃	①(5.2) ②(2.7) ③(0.7) ④(12.0) ⑤不明	—	
273	A区表採	丸鈎	①(4.1) ②(0.9) ③(0.9) ④(4.2) ⑤不明	—	
274	B区X-1覆土	刀子	①(3.1) ②(1.2) ③(0.5) ④(2.7) ⑤不明	—	
275	H-20	鈎	①(5.7) ②(1.1) ③(1.1) ④(4.0) ⑤不明	58	
276	H-21	鈎	①5.4 ②0.7 ③0.6 ④2.6 ⑤不明	23	
277	H-21	袋状鉄斧	①12.3 ②6.5 ③4.3 ④280 ⑤ほぼ完形	60	
278	A区J-1	磨石	①9.2 ②7.5 ③3.4 ④310 ⑤完形 ⑥粗粒安山岩（1面使用）	10	
279	A区表採	砥石	①11.1 ②3.2 ③4.1 ④(190) ⑤不明 ⑥砥沢石（3面使用）	—	
280	H-23	砥石	①7.7 ②3.1 ③2.2 ④(83) ⑤不明 ⑥チャート（3面使用）	127	
281	H-5	編物石	①(12.8) ②(5.9) ③(2.6) ④(180) ⑤不明 ⑥閃緑岩	石－4	凹石を転用。欠損部分が多い。
282	H-5	編物石	①13.5 ②5.4 ③4.7 ④(550) ⑤不明 ⑥閃緑岩	石－3	被熱部分あり。剝離多い。
283	H-5	編物石	①13.6 ②6.7 ③3.6 ④(460) ⑤不明 ⑥細粒安山岩	石－6	剝離有り。
284	H-5	編物石	①14.4 ②6.8 ③4.7 ④(660) ⑤不明 ⑥石英閃緑岩	石－2	砥石を転用。全面に被熱。一部欠損。
285	H-5	編物石	①14.5 ②6.4 ③4.8 ④(690) ⑤不明 ⑥不明	石－5	2面に被熱。欠損有り。
286	H-5	磨石・敲石	①13.6 ②8.2 ③3.9 ④790 ⑤完形 ⑥不明（3面使用）	270	
287	H-5	編物石	①14.5 ②7.5 ③3.6 ④(560) ⑤不明 ⑥細粒安山岩	石－1	片面が被熱部分多い。剝離有り。
288	H-12覆土	磨石	①12.1 ②13.7 ③3.0 ④820 ⑤完形 ⑥石英閃緑岩（1面使用）	---	
289	H-23	磨石	①10.6 ②6.1 ③4.5 ④420 ⑤完形 ⑥頁岩（1面使用）	133	
290	H-23	敲石	①15.2 ②5.5 ③4.2 ④250 ⑤完形 ⑥細粒安山岩（先端使用）	132	
291	H-11	磨石・敲石	①14.5 ②5.0 ③4.4 ④520 ⑤完形 ⑥石英閃緑岩（先端使用）	47	
292	H-20覆土	凹石	①12.2 ②8.0 ③4.7 ④450 ⑤完形 ⑥細粒安山岩（2面使用）	—	
293	H-20	磨石	①13.5 ②7.9 ③3.7 ④590 ⑤完形 ⑥石英閃緑岩（1面使用）	97	
294	B区D-1	凹石・砥石	①21.7 ②17.4 ③13.3 ④368 ⑤完形 ⑥粗粒安山岩（4面使用）	3	
295	A区表採	石鏃	①2.8 ②1.5 ③0.4 ④1.1 ⑤完形 ⑥頁岩	—	
296	A区表採	石鏃	①2.7 ②1.9 ③0.5 ④1.4 ⑤完形 ⑥黒色頁岩	—	
297	B区X148-Y69	石鏃	①3.0 ②1.6 ③0.3 ④0.9 ⑤完形 ⑥黒色頁岩	—	
298	A区X-2覆土	打製石斧	①13.2 ②(7.2) ③(1.8) ④180 ⑤不明 ⑥黒色頁岩	—	欠損が多い。
299	A区表採	三角錐形石器	①11.8 ②5.8 ③5.7 ④(460) ⑤不明 ⑥黒色頁岩	—	一部欠損。
300	H-10覆土	打製石斧	①10.4 ②5.8 ③(1.5) ④(110) ⑤不明 ⑥黒色頁岩	9	欠損有り。
301	B区J-1	打製石斧	①(6.6) ②(4.3) ③(1.9) ④(61.0) ⑤破片 ⑥黒色頁岩	66	
302	B区J-1覆土	打製石斧	①(5.9) ②(4.3) ③(2.1) ④(67.0) ⑤破片 ⑥黒色頁岩	—	
303	B区表採	打製石斧	①(11.3) ②(4.8) ③(2.6) ④(150) ⑤不明 ⑥黒色頁岩	—	一部欠損。

註）1．大きさの単位は、cm、gであり、現存値は（ ）、復元値は［ ］で示した。その他の小片については所属部位を記載した。
2．手捏土器の①～③は口径、底径（厚さ）の最大値を表し、臼玉・土製円盤・土製紡錘車の②は最大径を示す。

Tab.13　縄文土器観察表

番号	区	出土位置	器形	①胎土　②焼成　③色調　④残存　⑤文様・整形方法	登録番号	備考
10	A	J－1	深鉢	①繊維 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤貝殻条痕文	1	前期初頭
11	A	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④口縁 ⑤貝殻条痕文	5	前期初頭
12	A	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④口縁 ⑤貝殻条痕文	14	前期初頭
187	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④ほぼ完形 ⑤沈線、隆帯、充填縄文ＲＬ・ＬＲ、刺突。	1	加曾利Ｅ３
188	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線、充填縄文ＲＬ・ＬＲ、把手付。	2	加曾利Ｅ３
189	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④把手 ⑤橋状把手、微隆起、縄文ＬＲ。	3	加曾利Ｅ３
190	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④底部 ⑤沈線、縄文ＲＬ。	4	加曾利Ｅ３
191	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④底部 ⑤沈線、微隆起、縄文ＲＬ。	5	加曾利Ｅ３
192	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線、微隆起、縄文ＲＬ・ＬＲ。	6b	加曾利Ｅ３
193	B	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④口縁 ⑤沈線による渦巻き、縄文ＲＬ。	11	加曾利Ｅ３
194	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤沈線による渦巻き、隆帯、縄文ＲＬ。	10	加曾利Ｅ３
195	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁～胴部 ⑤沈線、微隆起、縄文ＲＬ・ＬＲ。	6	加曾利Ｅ３
196	B	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③明褐灰色 ④口縁～胴部 ⑤沈線、縄文ＲＬ。	7	加曾利Ｅ３
197	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤沈線、縄文ＲＬ・ＬＲ。	6c	加曾利Ｅ３
198	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線、縄文ＲＬ。	9	加曾利Ｅ３
199	B	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線、隆帯、縄文ＲＬ。	8	加曾利Ｅ３
200	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線、押捺。	109	加曾利Ｅ３
201	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤条線、沈線。	—	加曾利Ｅ３
202	B	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤沈線止画、磨消縄文。	47	加曾利Ｅ３
203	B	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤条線（６～７本歯）。	—	加曾利Ｅ３
204	B	J－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤条線。	—	加曾利Ｅ３
205	B	J－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤条線。	156	加曾利Ｅ３
206	A	H－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤縄文ＬＲ、沈線。	—	堀之内１
207	A	W－2	深鉢	①繊維 ②良好 ③明赤褐色 ④胴部 ⑤貝殻条痕文。	—	早期終末～前期初頭
208	A	西トレンチ	深鉢	①繊維 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤貝殻条痕文。	—	早期終末～前期初頭
209	A	表採	深鉢	①繊維 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤貝殻条痕文。	—	早期終末～前期初頭
210	A	表採	深鉢	①繊維 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤貝殻条痕文。	—	早期終末～前期初頭
211	A	表採	深鉢	①繊維 ②良好 ③にぶい褐色 ④胴部 ⑤外面縄文ＲＬ、内面貝殻条痕文。	—	前期初頭
212	A	表採	深鉢	①繊維 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤縄文ＬＲ．ＲＬ、菱形文構成。	—	前期初頭
213	A	表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④胴部 ⑤半截竹管による連続爪形文、木の葉文。	—	諸磯ｂ
214	B	H－8	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤半截竹管による連続爪形文、平行沈線。	—	諸磯ｂ
215	B	H－10	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤半截竹管による連続爪形文。	18	諸磯ｂ
216	B	H－10・12	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤半截竹管による連続爪形文。	12	諸磯ｂ
217	B	H－12	深鉢	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④胴部 ⑤肋骨文、円管文。	—	諸磯ａ
218	B	H－12	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④口縁 ⑤半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
219	B	H－17	深鉢	①繊維 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④胴部 ⑤外面縄文ＲＬ、内面貝殻条痕文。	—	前期初頭
220	B	H－18	深鉢	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④胴部 ⑤平行沈線による木の葉文、縄文ＬＲ。	6ほか	諸磯ｂ
221	B	W－1	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④胴部 ⑤縄文ＬＲ、条線、沈線。。	—	加曾利Ｅ３
222	B	X－2	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤平行沈線間に鎖状の押捺、縄文ＲＬ。	—	加曾利Ｅ３
223	B	X－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤平行沈線、縄文ＬＲ。	—	堀之内II
224	B	X164-Y99G	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤条線（５本歯）。	—	加曾利Ｅ３
225	B	X162-Y98G	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤	—	加曾利Ｅ３
226	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤矢羽状。	—	加曾利Ｅ３
227	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤条線（５～６本歯）。	—	加曾利Ｅ３
228	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤縄文ＲＬ、沈線区画。	—	加曾利Ｅ３
229	B	X161-Y98G	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤懸垂文、磨消縄文。	—	加曾利Ｅ３
230	B	X164-Y99G	深鉢	①細粒 ②良好 ③黄橙色 ④胴部 ⑤縄文ＲＬ、隆帯による渦巻き。	—	加曾利Ｅ３
231	B	X160-Y98G	深鉢	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴部 ⑤縄文ＬＲ、磨消縄文、沈線。	—	加曾利Ｅ３
232	B	X165-Y100G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤縄文ＬＲ・ＲＬ沈線、微隆起。	—	加曾利Ｅ３
233	B	X159-Y97G	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線、縄文ＲＬ、ＬＲ。	—	加曾利Ｅ３
234	B	X163-Y98G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤沈線。	—	加曾利Ｂ
235	B	X160-Y97G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤ひも線文。	—	加曾利Ｂ
236	B	X152-Y88G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤平行沈線、縄文ＬＲ。	—	諸磯ｂ
237	B	X148-Y69G	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④口縁 ⑤半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
238	B	X144-Y50G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④口縁 ⑤半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
239	B	X144-Y60G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤沈線、半截管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
240	B	表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤縄文、ナデ。	—	前期初頭
241	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③明赤褐色 ④胴部 ⑤沈線。	—	堀之内
242	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤鋸歯状平行沈線。	—	諸磯ｂ
243	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④胴部 ⑤縄文ＬＲ、半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
244	B	表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
245	B	表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④胴部 ⑤沈線、半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ
246	B	表採	深鉢	①中粒 ②良好 ③浅黄橙色 ④胴部 ⑤半截竹管による連続爪形文。	—	諸磯ｂ

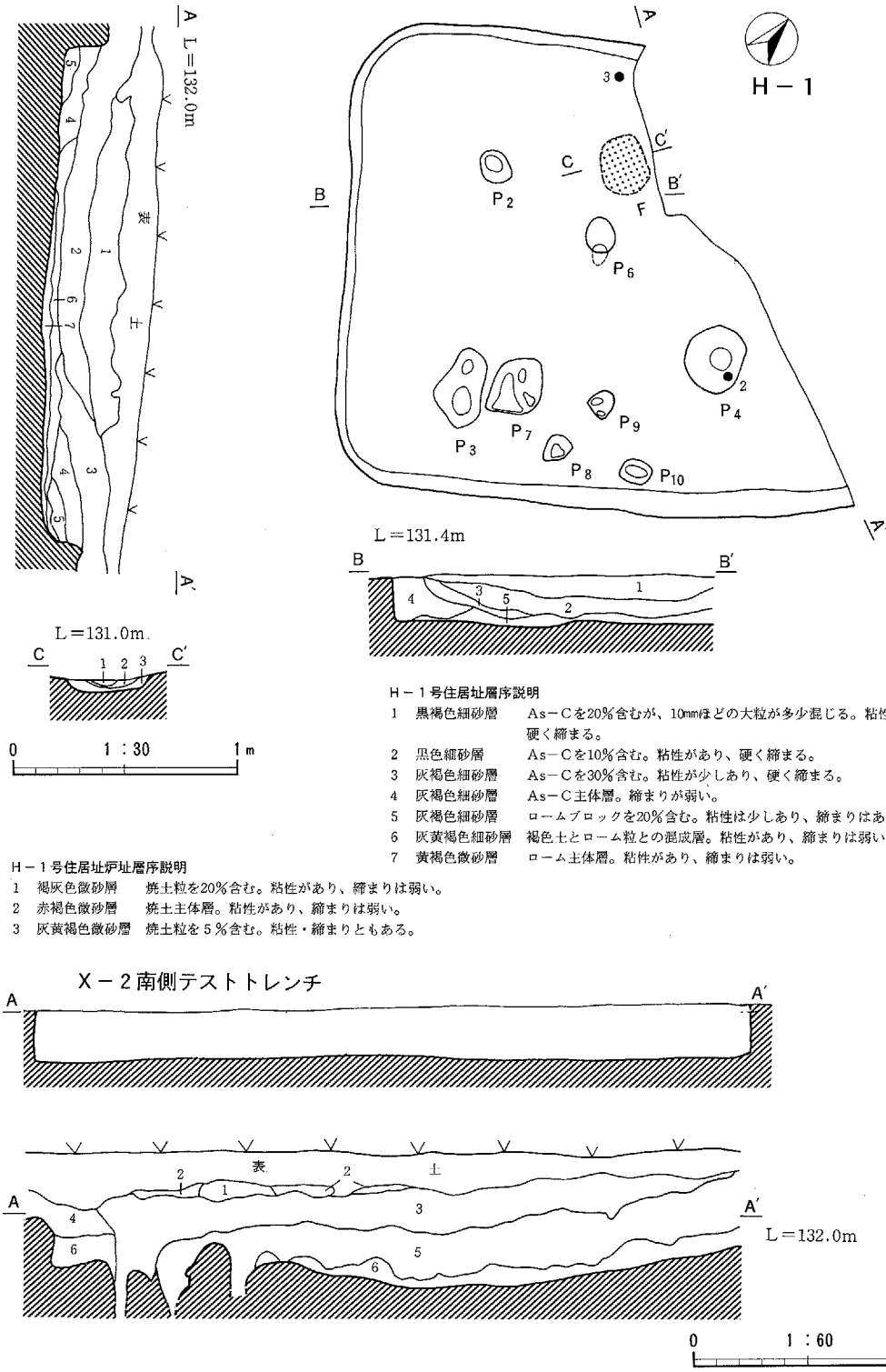
註）1．縄文土器の観察項目は、①胎土②焼成③色調④残存⑤文様・整形方法の順で記載した。

2．①胎土は細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1,9㎜）、粗粒（2.0㎜以上）とした。（特徴的な鉱物が入る場合には、鉱物名を記載した。）

②焼成は極良、良好、不良の３段階評価した。

③色調は土器外形を観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1995）によった。

④大きさの単位は㎜、ｇであり、現存値を（　）、復元値を［　］で示した。その他の小片については所属部位を記録した。



H－1号住居址層序説明

1	黒褐色細砂層	As－Cを20%含むが、10mmほどの大粒が多少混じる。粘性があり、硬く締まる。
2	黒色細砂層	As－Cを10%含む。粘性があり、硬く締まる。
3	灰褐色細砂層	As－Cを30%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
4	灰褐色細砂層	As－C主体層。締まりが弱い。
5	灰褐色細砂層	ロームブロックを20%含む。粘性は少しあり、締まりはある。
6	灰黄褐色細砂層	褐色土とローム粒との混成層。粘性があり、締まりは弱い。
7	黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

H－1号住居址炉址層序説明

1	褐灰色微砂層	焼土粒を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	赤褐色微砂層	焼土主体層。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色微砂層	焼土粒を5%含む。粘性・締まりともある。

Fig. 6　A区H－1号住居址・X－2号地割れ

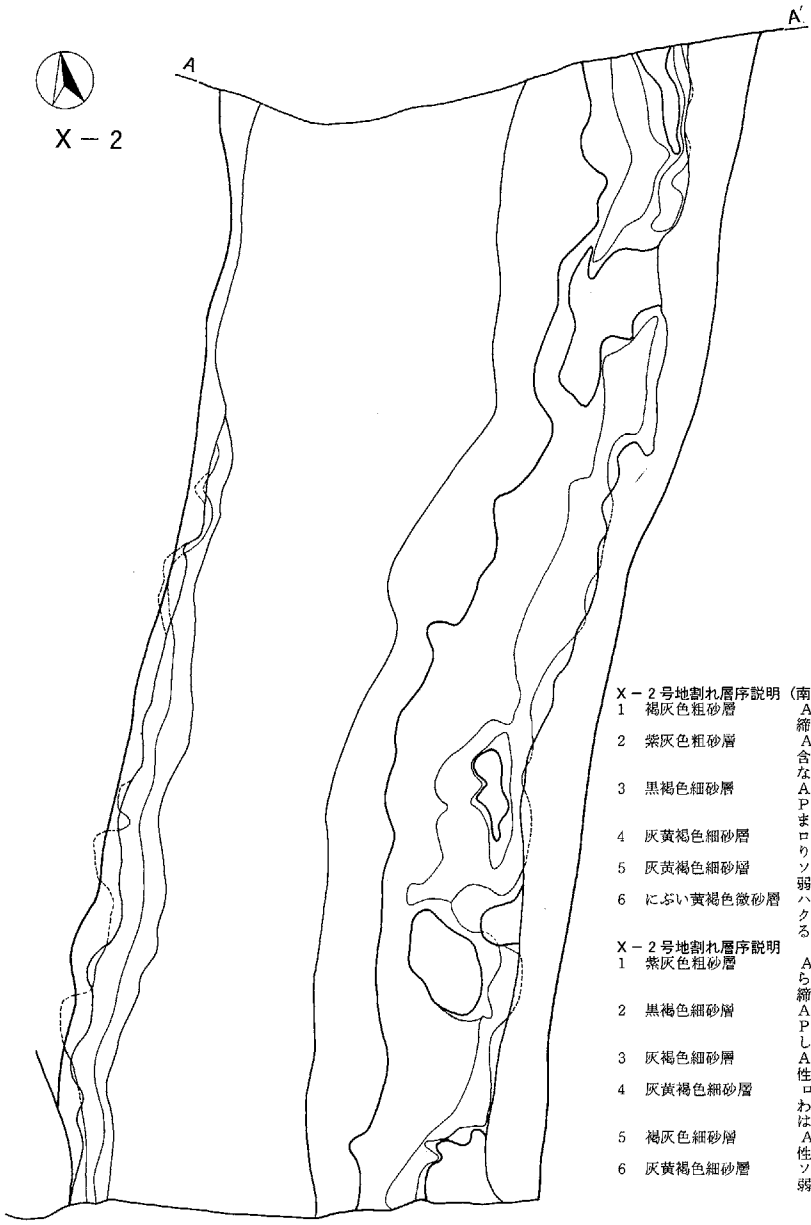


Fig. 7 A区X－2号地割れ

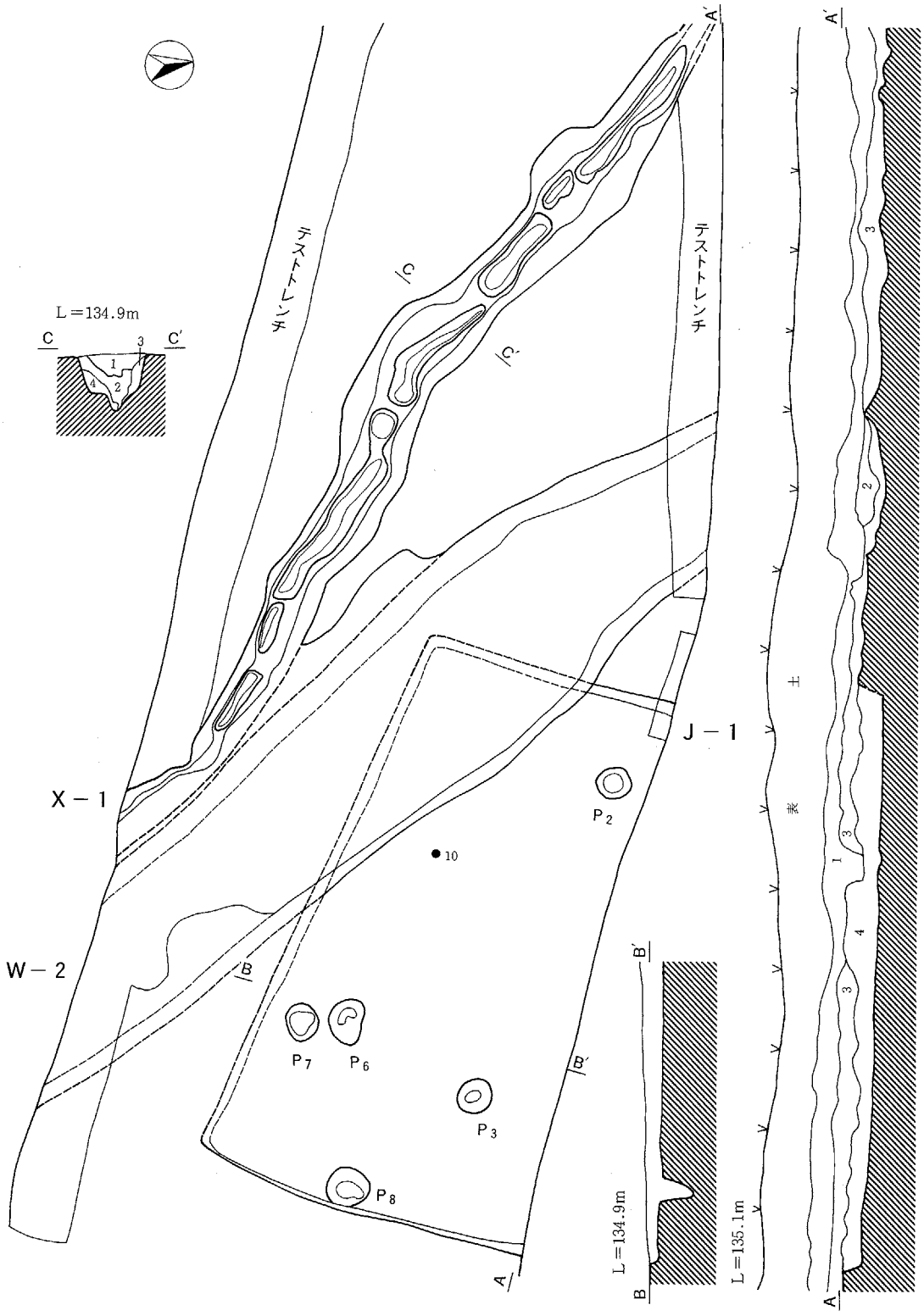
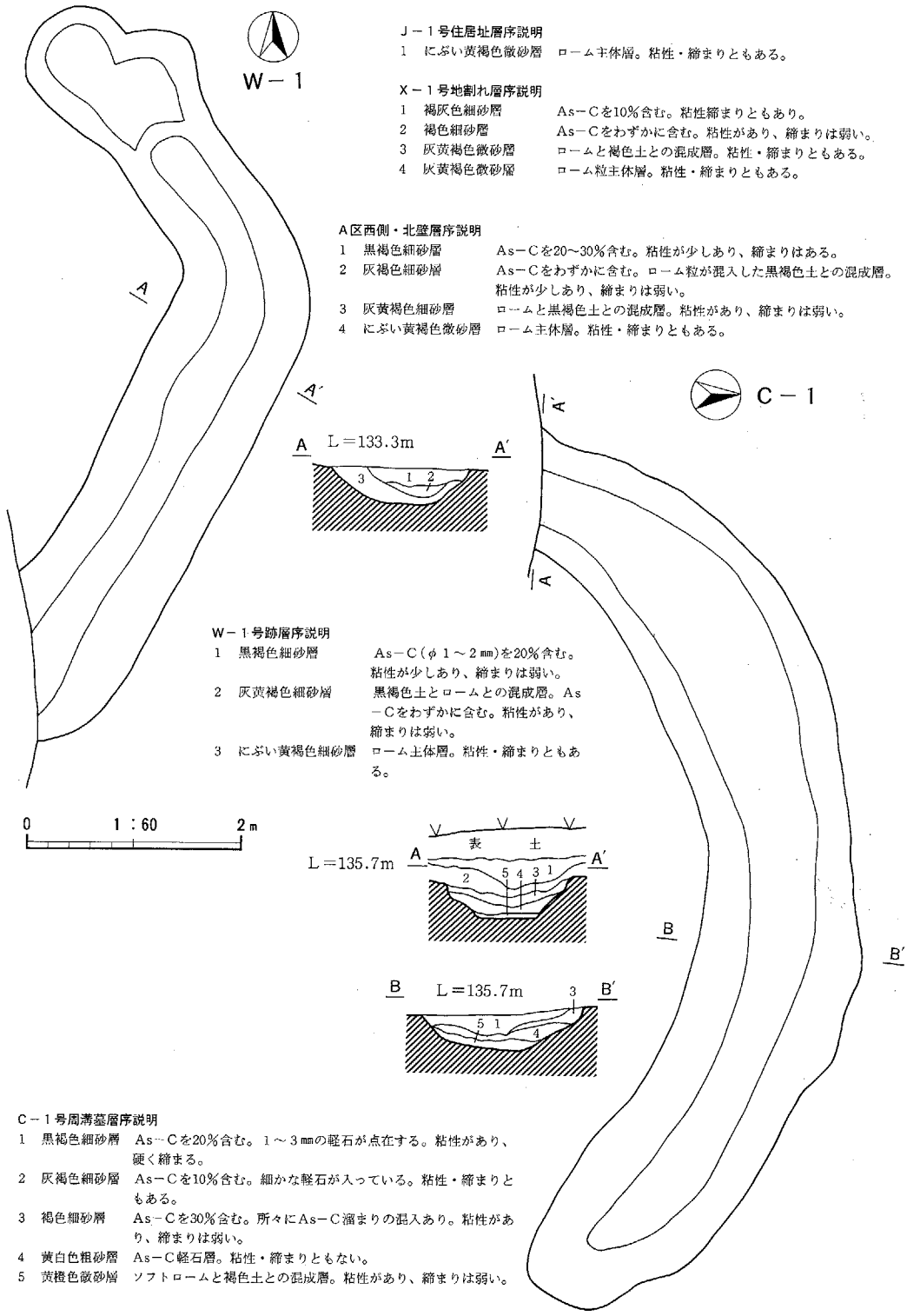


Fig. 8　A区J－1号住居址、W－2号溝、X－1号地割れ



J－1号住居址層序説明

1　にぶい黄褐色微砂層　ローム主体層。粘性・締まりともある。

X－1号地割れ層序説明

1　褐灰色細砂層　As－Cを10%含む。粘性締まりともあり。
2　褐色細砂層　As－Cをわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3　灰黄褐色微砂層　ロームと褐色土との混成層。粘性・締まりともある。
4　灰黄褐色微砂層　ローム粒主体層。粘性・締まりともある。

A区西側・北壁層序説明

1　黒褐色細砂層　As－Cを20～30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2　灰褐色細砂層　As－Cをわずかに含む。ローム粒が混入した黒褐色土との混成層。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　灰黄褐色細砂層　ロームと黒褐色土との混成層。粘性があり、締まりは弱い。
4　にぶい黄褐色微砂層　ローム主体層。粘性・締まりともある。

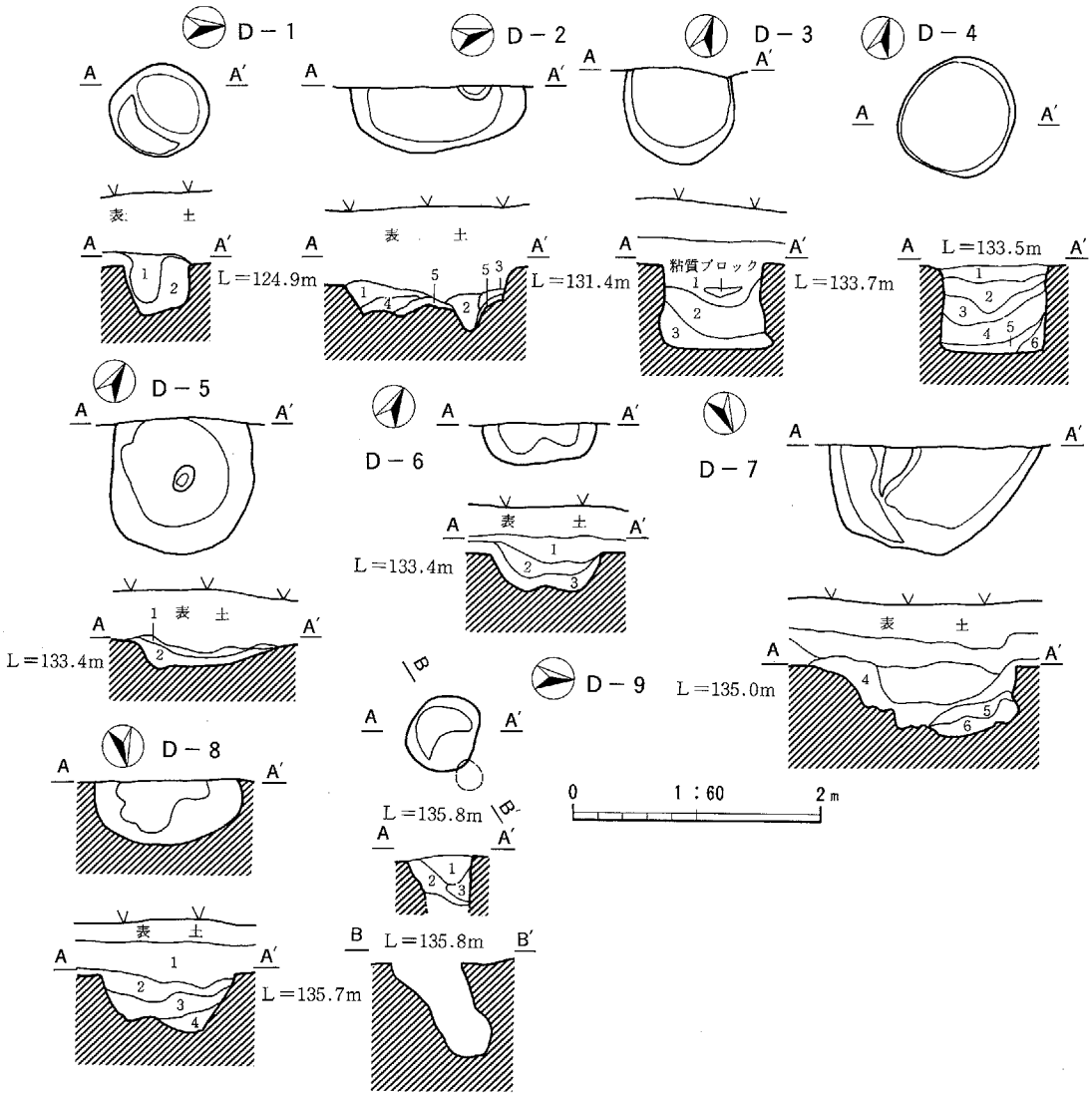
W－1号跡層序説明

1　黒褐色細砂層　As－C（φ1～2㎜）を20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2　灰黄褐色細砂層　黒褐色土とロームとの混成層。As－Cをわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3　にぶい黄褐色細砂層　ローム土体層。粘性・締まりともある。

C－1号周溝墓層序説明

1　黒褐色細砂層　As－Cを20%含む。1～3㎜の軽石が点在する。粘性があり、硬く締まる。
2　灰褐色細砂層　As－Cを10%含む。細かな軽石が入っている。粘性・締まりともある。
3　褐色細砂層　As－Cを30%含む。所々にAs－C溜まりの混入あり。粘性があり、締まりは弱い。
4　黄白色粗砂層　As－C軽石層。粘性・締まりともない。
5　黄橙色微砂層　ソフトロームと褐色土との混成層。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 9　A区W－1号溝、C－1号周溝墓



D－1号土坑層序説明

1	黒褐色細砂層	ローム粒(φ＝10㎜)を10％含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝30～50㎜)を20％含む。粘性・締まりともある。

D－2号土坑層序説明

1	灰黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～30㎜)を10％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	As－C・ローム粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
3	黒褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10㎜)をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～30㎜)を５％含む。
5	明黄褐色細砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

D－3号土坑層序説明

1	灰黄褐色細砂層	ローム粒主体層。ロームブロック(φ＝1～5㎜)を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	黒褐色粘土層	ローム粒を20％含む黒褐色粘土ブロック。
3	褐色細砂層	黒褐色土が斑状に混入する。ロームブロック(φ＝3～5㎜)を20％含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	褐色細砂層	ローム粒と褐色土との混成層。粘性があり、締まりは弱い。

D－4号土坑層序説明

1	灰黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝2～10㎜)を30％含む。粘性・締まりともある。
2	灰褐色細砂層	ロームブロック(40％)と灰褐色ブロックと黒褐色ブロックとの混成層。粘性・締まりともある。
3	灰褐色細砂層	ロームブロック(60％)と灰褐色ブロックと黒褐色ブロックとの混成層。粘性・締まりともある。
4	灰褐色細砂層	ロームブロック(φ＝1～3㎜)を20％、黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5	灰褐色細砂層	ロームブロック(φ＝1～3㎜)を40％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	褐色細砂層	崩れやすい層。上部にローム粒を含む。

D－5号土坑層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

D－6土坑層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C(φ＝1～3㎜)の軽石を含み、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰黄褐色細砂層	ロームと褐色土との混成層。As－Cを５％含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。褐色土の混入あり、粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 10　A区D－1～9号土坑

D－7土坑層序説明

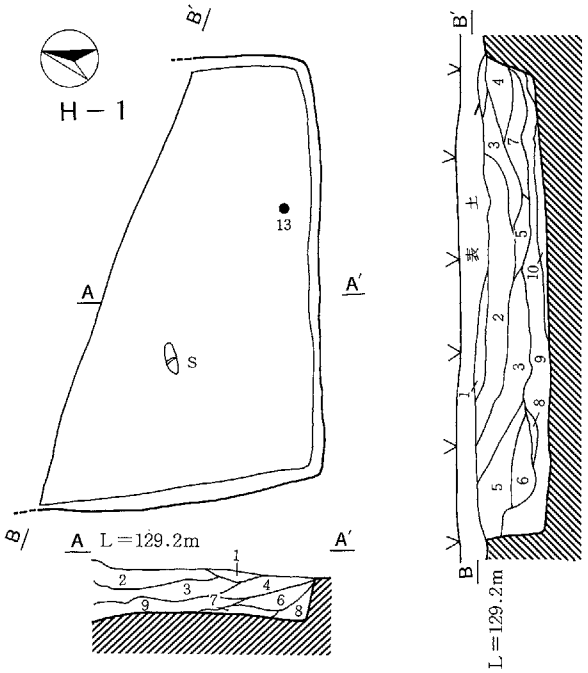
1	褐灰色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝2～3㎜)を20%含む。粘性。締まりともある。
2	灰褐色細砂層	As－C・ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝30～40㎜)を40%含む。粘性・締まりともある。
4	にぶい黄褐色微砂層	ロームブロック主体層。黒褐色土粒を含む。粘性・締まりともある。
5	灰黄褐色細砂層	ローム粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
6	黄褐色細砂層	ロームブロック主体層。黒褐色土粒を含む。粘性・締まりともある。

D－8土坑層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C(φ＝5～10㎜)を5%、ロームブロック(φ＝2～3㎜)を30%含む。粘性・締まりともある。
2	灰黄褐色微砂層	As－C小粒をわずかに、ロームブロック(φ＝2～3㎜)を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色微砂層	ロームブロック(φ＝20～30㎜)を20%含む。下部にローム粒が集まる。粘性があり、締まりは弱い。
4	黄褐色微砂層	ソフトローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

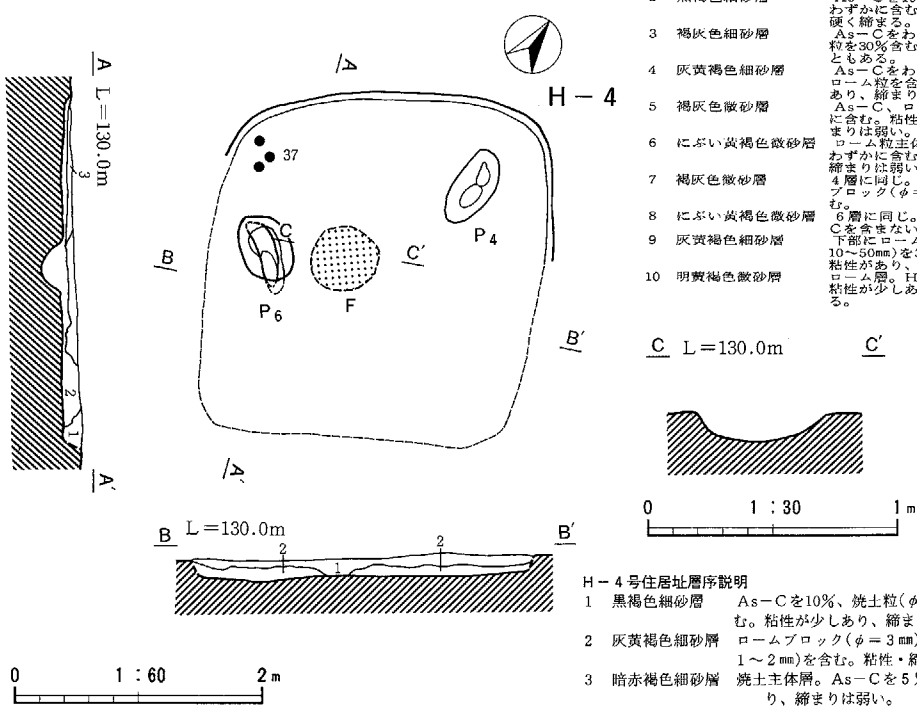
D－9土坑層序説明

1	褐灰色細砂層	As－C(φ＝0.5～1㎜)を10%、ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	褐色微砂層	上部にAs－Cをわずかに、下部にロームブロックを5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色微砂層	灰褐色土とローム粒との混成層。崩れやすい。粘性があり、締まりは弱い。



H－1号住居址層序説明

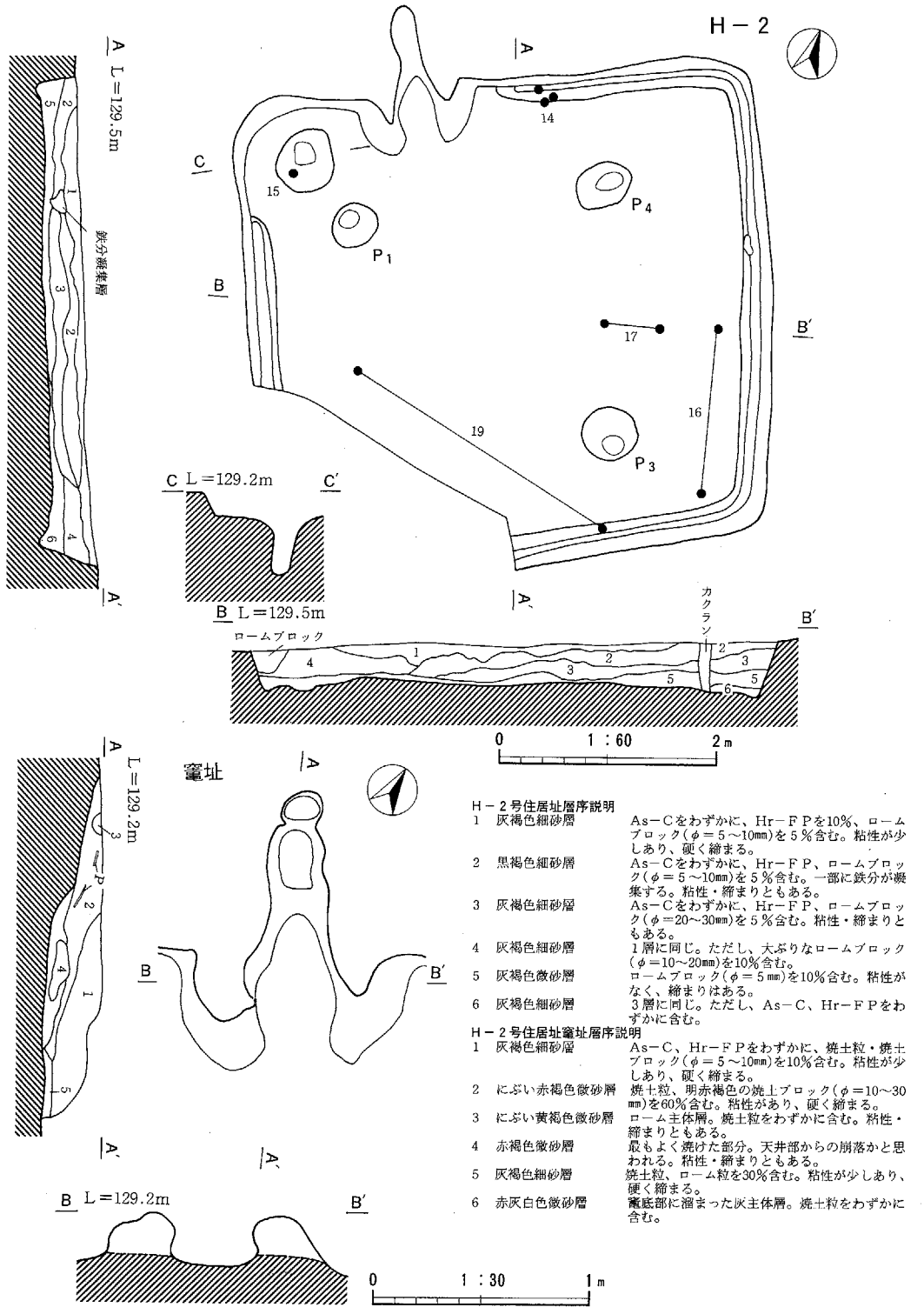
1	灰褐色細砂層	As－Cを5%、Hr－FPを10%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
2	黒褐色細砂層	As－Cを10%、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、硬く締まる。
3	褐灰色細砂層	As－Cをわずかに、ローム粒を30%含む。粘性・締まりともある。
4	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、全体にローム粒を含む。粘性が少しあり、締まりはある。
5	褐灰色微砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	にぶい黄褐色微砂層	ローム粒主体層。As－Cをわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
7	褐灰色微砂層	4層に同じ。ただし、ロームブロック(φ＝10～20㎜)を含む。
8	にぶい黄褐色微砂層	6層に同じ。ただし、As－Cを含まない。
9	灰黄褐色細砂層	下部にロームブロック(φ＝10～50㎜)を30%含む。強い粘性があり、締まりはある。
10	明黄褐色微砂層	ローム層。H－1の掘り方。粘性が少しあり、締まりはある。



H－4号住居址層序説明

1	黒褐色細砂層	As－Cを10%、焼土粒(φ＝2㎜ほど)を含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝3㎜)、ローム粒(φ＝1～2㎜)を含む。粘性・締まりともある。
3	暗赤褐色細砂層	焼土主体層。As－Cを5%含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 11　B区H－1・4号住居址



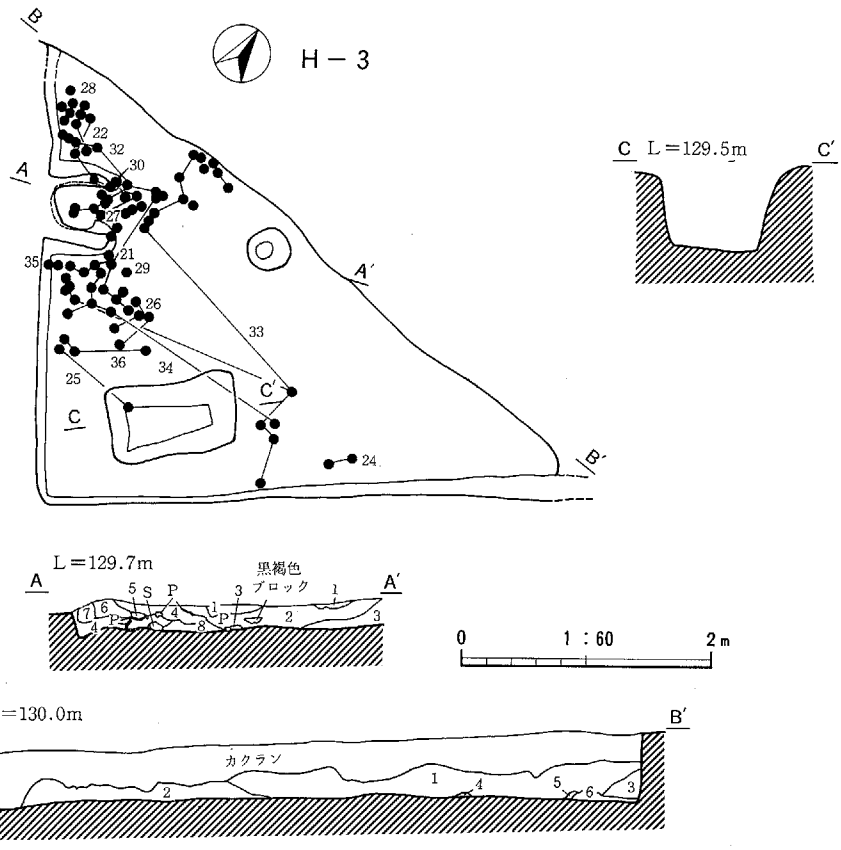
H－2号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cをわずかに、Hr－FPを10%、ロームブロック(φ＝5～10㎜)を5%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
2	黒褐色細砂層	As－Cをわずかに、Hr－FP、ロームブロック(φ＝5～10㎜)を5%含む。一部に鉄分が凝集する。粘性・締まりともある。
3	灰褐色細砂層	As－Cをわずかに、Hr－FP、ロームブロック(φ＝20～30㎜)を5%含む。粘性・締まりともある。
4	灰褐色細砂層	1層に同じ。ただし、大ぶりなロームブロック(φ＝10～20㎜)を10%含む。
5	灰褐色微砂層	ロームブロック(φ＝5㎜)を10%含む。粘性がなく、締まりはある。
6	灰褐色細砂層	3層に同じ。ただし、As－C、Hr－FPをわずかに含む。

H－2号住居址竈址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに、焼土粒・焼土ブロック(φ＝5～10㎜)を10%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
2	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒、明赤褐色の焼土ブロック(φ＝10～30㎜)を60%含む。粘性があり、硬く締まる。
3	にぶい黄褐色微砂層	ローム主体層。焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
4	赤褐色微砂層	最もよく焼けた部分。天井部からの崩落かと思われる。粘性・締まりともある。
5	灰褐色細砂層	焼土粒、ローム粒を30%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
6	赤灰白色微砂層	竈底部に溜まった灰主体層。焼土粒をわずかに含む。

Fig. 12　B区H－2号住居址



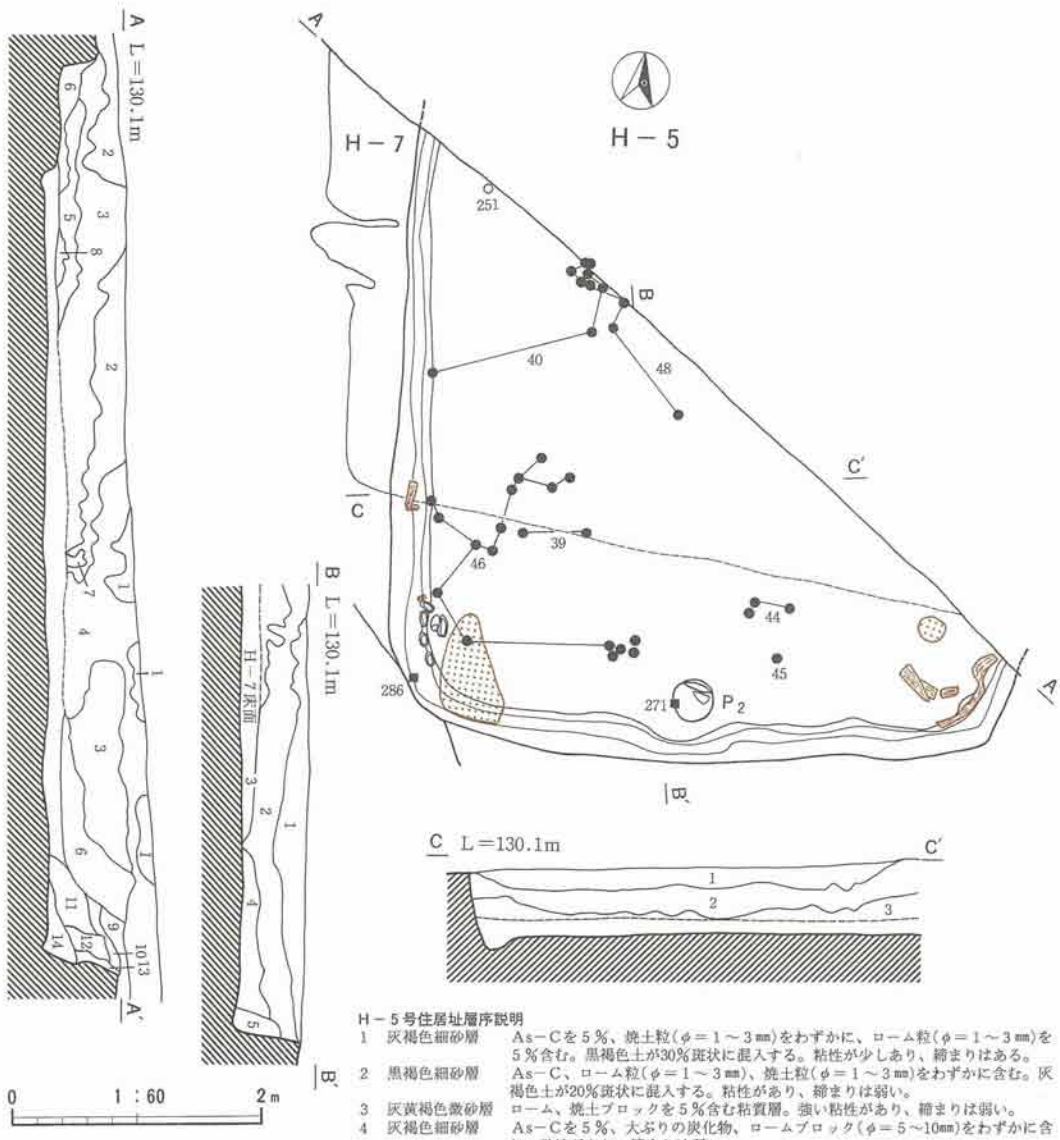
H－3号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに、ロームブロック(φ＝5～30㎜)を20%含む。粘性・締まりともある。
2	灰褐色細砂層	As－C、Hr－FP、上部に焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
3	褐色細砂層	ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
4	にぶい赤褐色細砂層	焼土粒を30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
5	褐色細砂層	焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
6	にぶい黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

H－3号住居址竈址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cを5%、Hr－FPを10%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
3	灰褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに、ロームブロック(φ＝5～30㎜)を20%含む。粘性・締まりともある。
4	灰赤褐色細砂層	As－Cをわずかに、焼土粒を20%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
5	灰赤褐色細砂層	As－Cをわずかに、焼土粒を30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
6	にぶい赤褐色細砂層	焼土主体層。明赤褐色の焼土ブロック(φ＝5～10㎜)を40%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。
7	明赤褐色微砂層	焼土主体層。竈の天井部分と考えられる。粘性があり、硬く締まる。
8	灰赤褐色細砂層	焼土主体層。明赤褐色の焼土ブロック(φ＝5～15㎜)を60%含む。粘性・締まりともある。
9	明赤褐色微砂層	焼土主体層。竈天井部の崩落層と考えられる。粘性・締まりともある。

Fig. 13　B区H－3号住居址



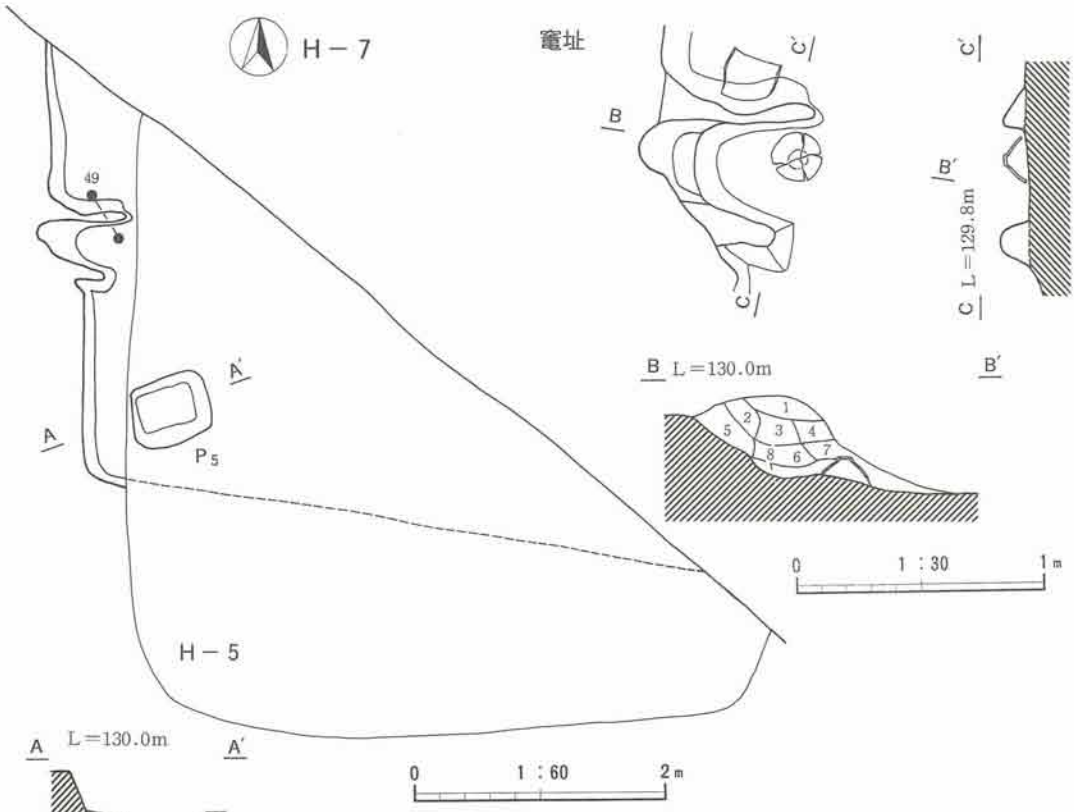
H－5号住居址層序説明

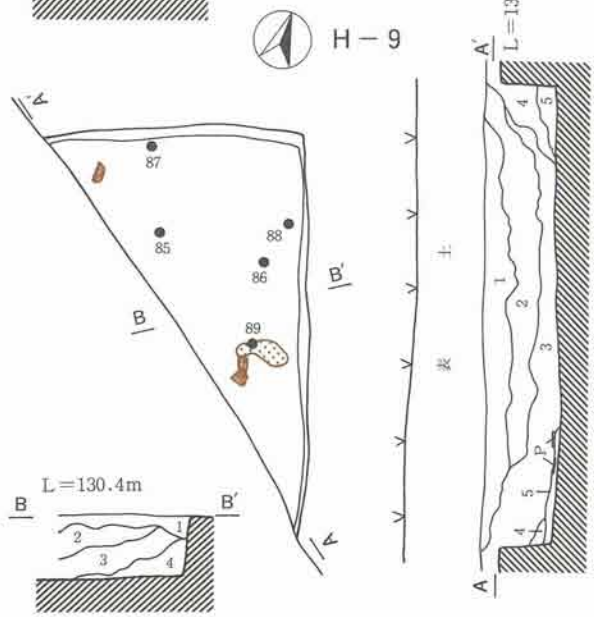
1	灰褐色細砂層	As－Cを5％、焼土粒(φ＝1～3㎜)をわずかに、ローム粒(φ＝1～3㎜)を5％含む。黒褐色土が30％斑状に混入する。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－C、ローム粒(φ＝1～3㎜)、焼土粒(φ＝1～3㎜)をわずかに含む。灰褐色土が20％斑状に混入する。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色微砂層	ローム、焼土ブロックを5％含む粘質層。強い粘性があり、締まりは弱い。
4	灰褐色細砂層	As－Cを5％、大ぶりの炭化物、ロームブロック(φ＝5～10㎜)をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	灰褐色細砂層	ローム粒(φ＝1～3㎜)を30％含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－5・7号住居址層序説明

1	オリーブ褐色細砂層	As－C、Hr－FPを5％含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－C、Hr－FPを10％、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	明黄褐色細砂層	As－Cを10％、Hr－FPを5％、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	暗オリーブ褐色細砂層	As－C；Hr－FP(φ＝1～3㎜)を10％、焼土粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝3～10㎜)を30％、焼土ブロック(φ＝1～10㎜)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	明黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝3～5㎜)を5％、焼土粒(φ＝1～3㎜)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
7	明赤褐色細砂層	焼土粒(φ＝1～3㎜)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
8	赤褐色細砂層	焼土主体層。粘性が少しあり、締まりはない。
9	灰褐色細砂層	As－Cを5％、焼土粒(φ＝1～3㎜)をわずかに、ローム粒(φ＝1～3㎜)を5％含む。黒褐色土が30％斑状に混入する。粘性が少しあり、締まりはある。
10	黒褐色細砂層	As－C、ローム粒(φ＝1～3㎜)、焼土粒(φ＝1～3㎜)をわずかに含む。灰褐色土が20％斑状に混入する。粘性があり、締まりは弱い。
11	灰黄褐色微砂層	ローム、焼土ブロックを5％含む粘質層。強い粘性があり、締まりが弱い。
12	灰褐色細砂層	As－Cを5％、大ぶりの炭化物、ロームブロック(φ＝5～10㎜)をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
13	灰褐色細砂層	ローム粒(φ＝1～3㎜)を30％含む。粘性が少しあり、締まりはある。
14	にぶい黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝40㎜)を30％含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 14　B区H－5・7号住居址





H－7号住居址竈址層序説明

1	灰赤褐色細砂層	焼土粒を5％含む。粘性があり、硬く締まる。
2	灰赤褐色細砂層	焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
3	明赤褐色細砂層	焼土主体層。粘性があり、硬く締まる。
4	灰赤褐色細砂層	竈上部が崩れたものと思われる。粘性・締まりともある。
5	灰赤褐色細砂層	ロームブロック（φ＝5～10mm）を5％含む。粘性・締まりともある。
6	赤褐色細砂層	焼土粒を10％含む。粘性・締まりともある。
7	灰褐色細砂層	竈上部が崩れたものと思われる。粘性・締まりともある。
8	暗褐色細砂層	焼土粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－9号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cを20％、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	黒褐色細砂層	As－Cを30％、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	褐灰色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック（φ＝10～20mm）を10％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	灰黄褐色細砂層	褐色土とローム粒との混成層。ロームブロック（φ＝10～30mm）を30％含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	にぶい赤褐色細砂層	全体的に焼土粒を、炭化物をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 15　B区H－7・9号住居址

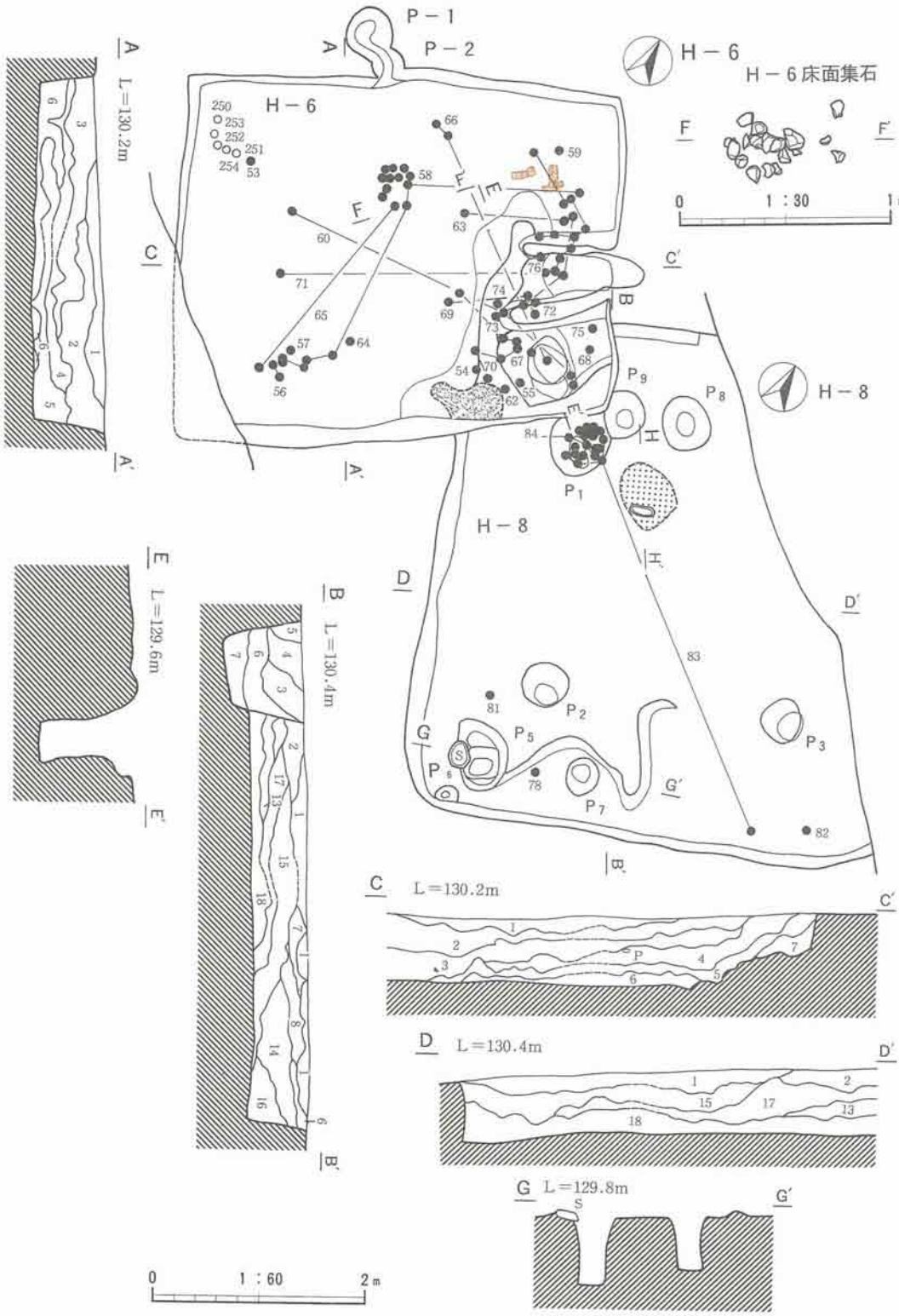
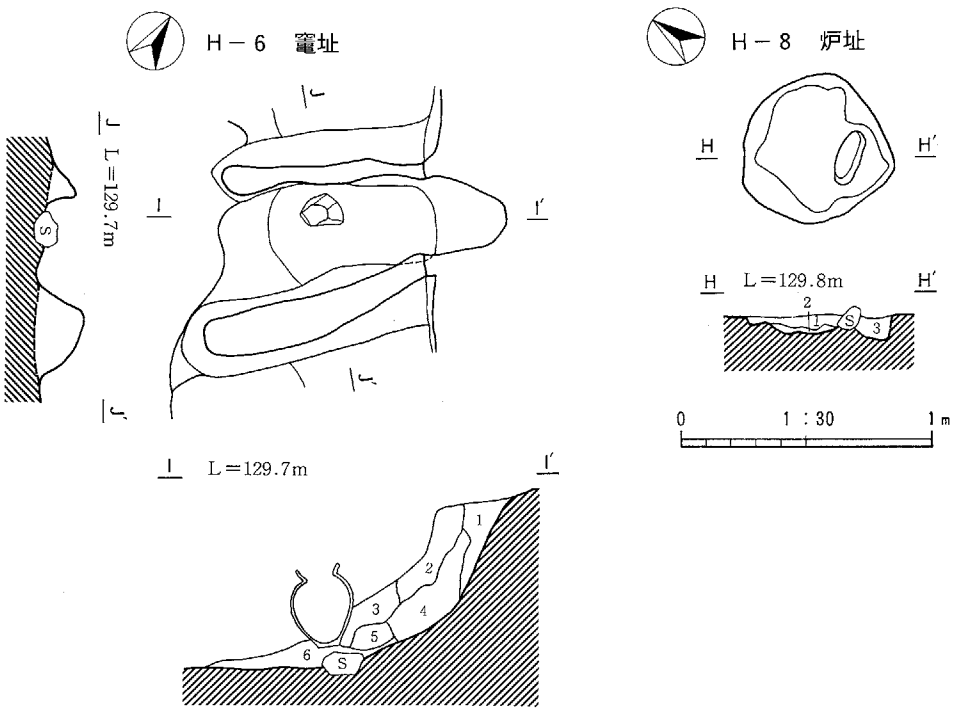


Fig. 16　B区H－6・8号住居址



H－6号住居址層序説明

1	黄褐色細砂層	As－Cをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	にぶい黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～50㎜)を10%含む。粘性・締まりともある。
3	黒褐色細砂層	As－Cをわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	にぶい黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～30㎜)を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～30㎜)を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	暗灰褐色細砂層	ロームブロック(φ＝30㎜ほど)・ローム粒を50%含む。粘性があり、締まりは弱い。
7	にぶい黄褐色細砂層	As－Cを10%、焼土粒(φ＝2～10㎜)とロームブロック(φ＝40㎜)を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－6号住居址竈址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C、焼土、ロームブロック(φ＝5～10㎜)をわずかに含む。粘性・締まりともある。
2	にぶい赤褐色微砂層	As－Cをわずかに、焼土ブロック(φ＝5～10㎜)を20%、ロームブロック(φ＝5～20㎜)を10%含む。粘性・締まりともある。
3	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒を30%、ローム粒を10%、灰と思われる炭化物を10%含む。粘性・締まりともある。
4	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒10%、明赤褐色の焼土ブロック(φ＝10～20㎜)を20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
6	明赤褐色微砂層	焼土主体層。粘性が少しあり、締まりは弱い。

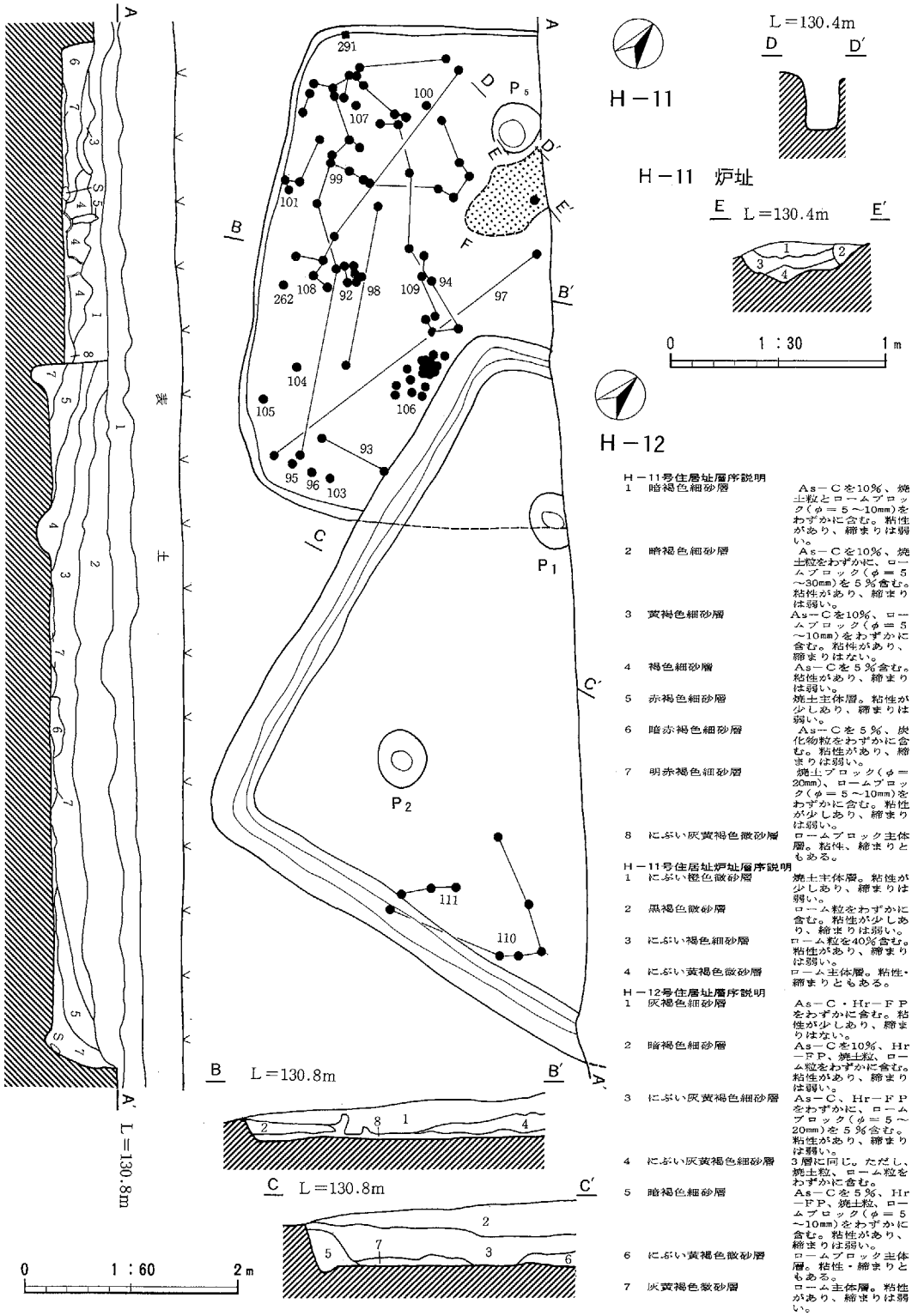
H－6・8号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	褐灰色細砂層	As－Cを20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝20～30㎜)を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	にぶい黄褐色細砂層	ロームと灰褐色土との混成層。As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝30～50㎜)を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	にぶい黄褐色細砂層	ロームと灰褐色土との混成層。As－Cわずかに、ロームブロック(φ＝20～30㎜)を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	褐灰色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝5～10㎜)を5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
7	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロックを全体に含む。粘性・締まりともある。
8	にぶい黄褐色細砂層	ローム主体のロームと灰褐色土との混成層。粘性・締まりともある。
9	黒褐色細砂層	15層に同じ。ただし、全体的にローム粒を含む。
10	暗褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝10～50㎜)を10%、炭化物をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。H－6の立ち上がりか。
11	にぶい暗赤褐色細砂層	焼土粒を30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
12	褐色細砂層	全体的にローム粒を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
13	黒褐色細砂層	As－Cを5%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
14	にぶい黄褐色微砂層	ロームと灰褐土との混成層。As－Cをわずかに含む。粘性・締まりともある。
15	黒褐色細砂層	As－Cを20%、下部にロームブロック(φ＝30～50㎜)を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
16	褐色細砂層	ローム粒・ブロック(φ＝5～10㎜)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
17	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。
18	灰褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～30㎜)を20%、炭化物をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－8号住居址炉址層序説明

1	にぶい灰赤褐色細砂層	焼土粒を10%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	明赤褐色微砂層	焼土主体層。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性・締まりともある。

Fig. 17　B区H－6・8号住居址



H－11号住居址層序説明

1	暗褐色細砂層	As－Cを10%、焼土粒とローム・ブロック（φ＝5～10mm）をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	As－Cを10%、焼土粒をわずかに、ローム・ブロック（φ＝5～30mm）を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	黄褐色細砂層	As－Cを10%、ローム・ブロック（φ＝5～10mm）をわずかに含む。粘性があり、締まりはない。
4	褐色細砂層	As－Cを5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	赤褐色細砂層	焼土主体層。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	暗赤褐色細砂層	As－Cを5%、炭化物粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
7	明赤褐色細砂層	焼土ブロック（φ＝20mm）、ローム・ブロック（φ＝5～10mm）をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
8	にぶい灰黄褐色微砂層	ローム・ブロック主体層。粘性、締まりともある。

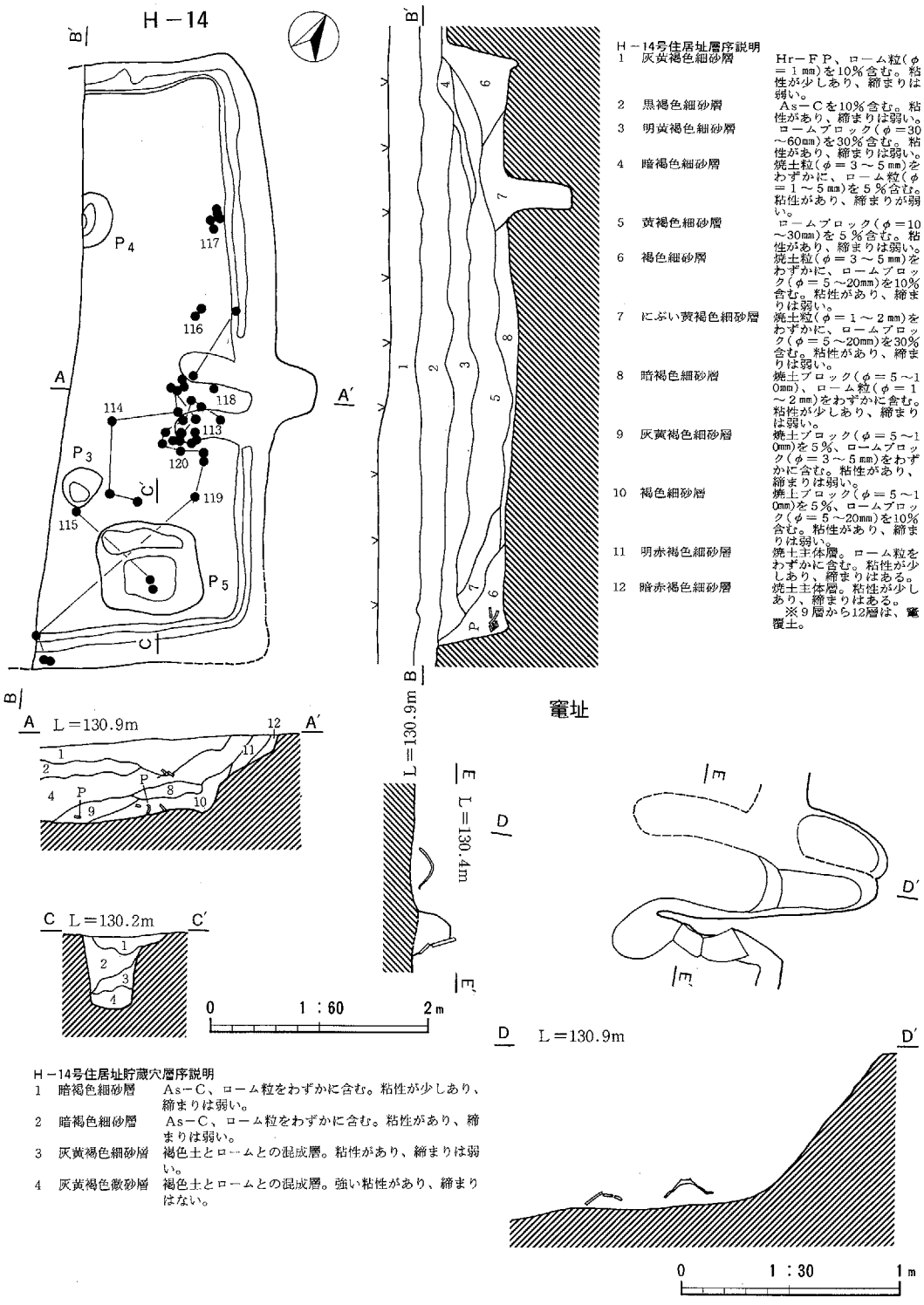
H－11号住居址炉址層序説明

1	にぶい橙色微砂層	焼土主体層。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	黒褐色微砂層	ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	にぶい褐色細砂層	ローム粒を40%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	にぶい黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性・締まりともある。

H－12号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C・Hr－FPをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
2	暗褐色細砂層	As－Cを10%、Hr－FP、焼土粒、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	にぶい灰黄褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに、ローム・ブロック（φ＝5～20mm）を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	にぶい灰黄褐色細砂層	3層に同じ。ただし、焼土粒、ローム粒をわずかに含む。
5	暗褐色細砂層	As－Cを5%、Hr－FP、焼土粒、ローム・ブロック（φ＝5～10mm）をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	にぶい黄褐色微砂層	ローム・ブロック主体層。粘性・締まりともある。
7	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 18　B区H－11・12号住居址



H－14号住居址層序説明

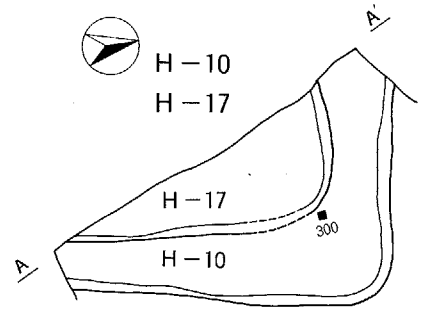
1	灰黄褐色細砂層	Hr－FP、ローム粒(φ＝1㎜)を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	黒褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	明黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝30～60㎜)を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	暗褐色細砂層	焼土粒(φ＝3～5㎜)をわずかに、ローム粒(φ＝1～5㎜)を5%含む。粘性があり、締まりが弱い。
5	黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝10～30㎜)を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	褐色細砂層	焼土粒(φ＝3～5㎜)をわずかに、ロームブロック(φ＝5～20㎜)を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
7	にぶい黄褐色細砂層	焼土粒(φ＝1～2㎜)をわずかに、ロームブロック(φ＝5～20㎜)を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
8	暗褐色細砂層	焼土ブロック(φ＝5～10㎜)、ローム粒(φ＝1～2㎜)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
9	灰黄褐色細砂層	焼土ブロック(φ＝5～10㎜)を5%、ロームブロック(φ＝3～5㎜)をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
10	褐色細砂層	焼土ブロック(φ＝5～10㎜)を5%、ロームブロック(φ＝5～20㎜)を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
11	明赤褐色細砂層	焼土主体層。ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
12	暗赤褐色細砂層	焼土主体層。粘性が少しあり、締まりはある。

※9層から12層は、竈覆土。

H－14号住居址貯蔵穴層序説明

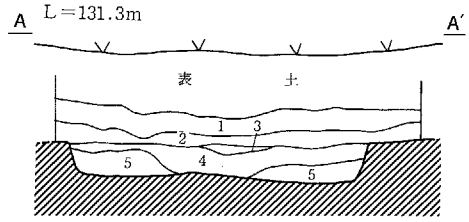
1	暗褐色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色細砂層	褐色土とロームとの混成層。粘性があり、締まりは弱い。
4	灰黄褐色微砂層	褐色土とロームとの混成層。強い粘性があり、締まりはない。

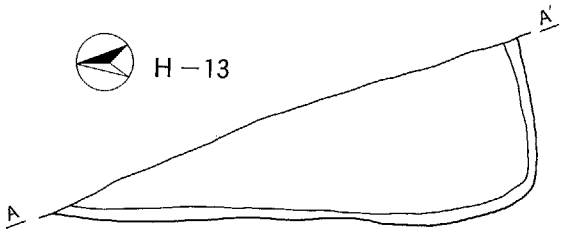
Fig. 19　B区H－14号住居址



H－10・17号住居址層序説明

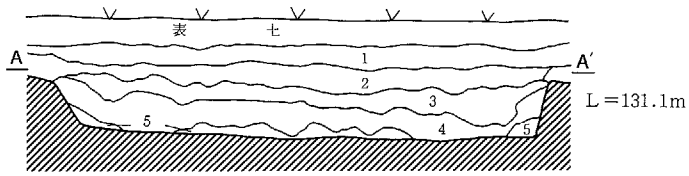
1	黒褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰褐色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	明赤褐色微砂層	焼土主体層。H－10の炉址部分と考えられる。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	灰褐色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	黒褐色微砂層	As－Cを5%、ロームブロック(φ＝5～10㎜)をわずかに含む。粘性・締まりともある。

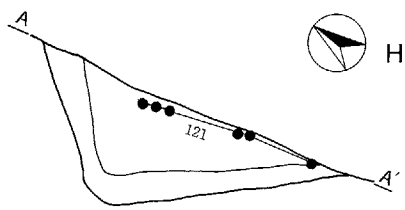




H－13号住居址層序説明

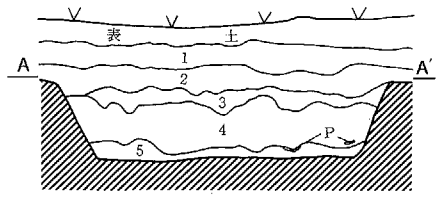
1	灰褐色細砂層	As－Cを10%、Hr－FPを5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	黒褐色細砂層	As－Cを20%、Hr－FPを10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	灰黄褐色細砂層	ロームと灰褐色土との混成層。As－C、Hr－FPをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4	にぶい黄褐色細砂層	ローム主体層。粘性が少しあり、締まりはある。
5	黄褐色細砂層	ローム主体層。ロームブロック(φ＝30～50㎜)を50%含む。粘性があり、締まりは弱い。





H－15号住居址層序説明

1	黄褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	黒褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	暗褐色細砂層	As－Cを5%含む。粘性・締まりともある。
4	褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝30～50㎜)を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	明黄褐色細砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。



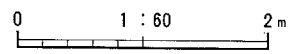
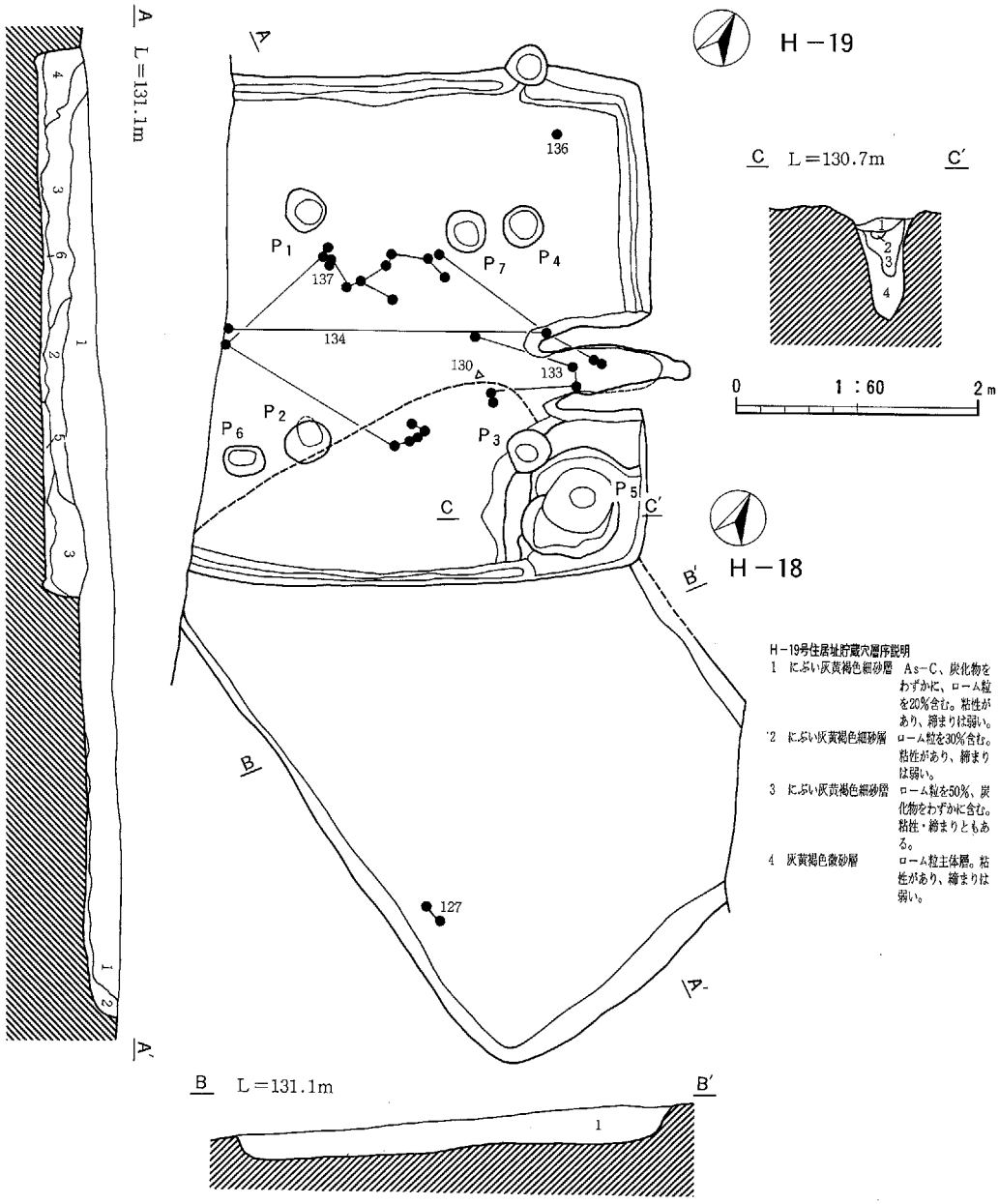


Fig. 20　B区H－10・17・13・15号住居址



H－19号住居址貯蔵穴層序説明

1	にぶい灰黄褐色細砂層	As-C、炭化物をわずかに、ローム粒を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	にぶい灰黄褐色細砂層	ローム粒を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	にぶい灰黄褐色細砂層	ローム粒を50%、炭化物をわずかに含む。粘性・締まりともある。
4	灰黄褐色微砂層	ローム粒主体層。粘性があり、締まりは弱い。

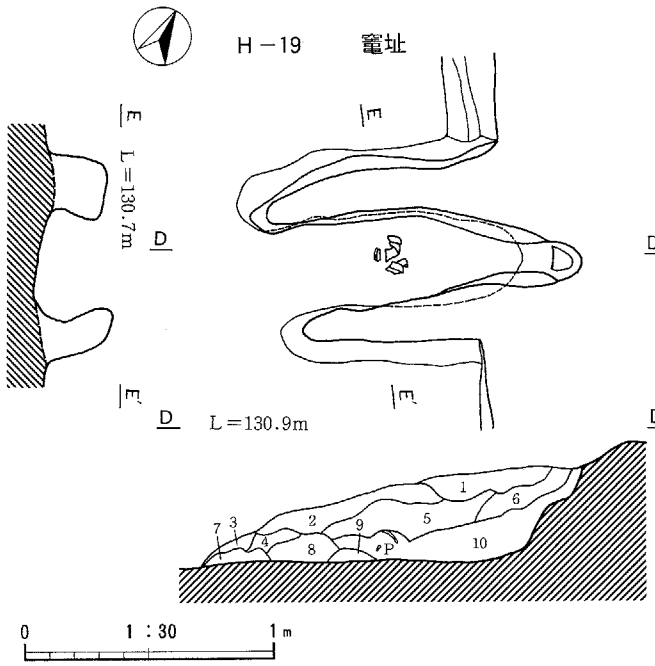
H－18号住居址層序説明

1	褐灰色細砂層	As－Cを10%、ロームブロック(φ＝10～20mm)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－18・19号住居址層序説明

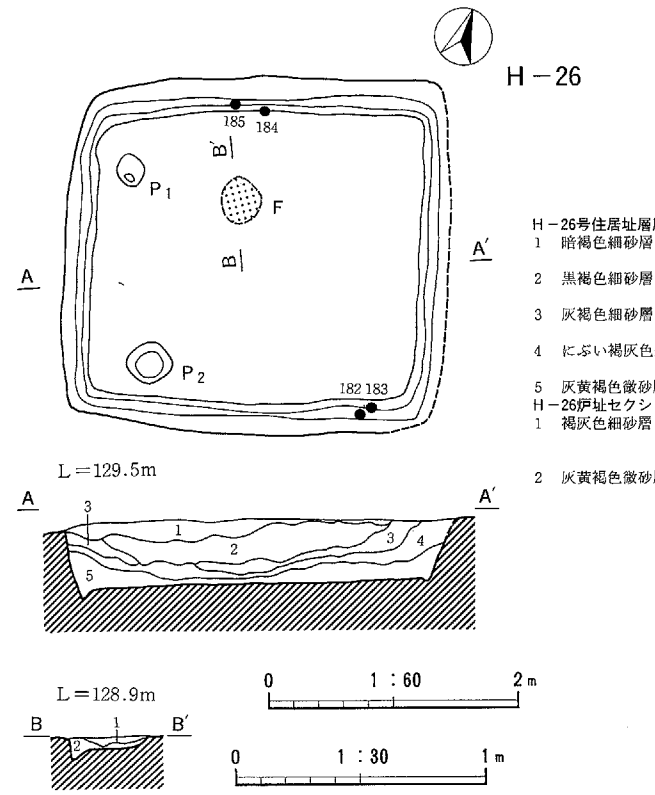
1	褐灰色細砂層	As－Cを10%、ロームブロック(φ＝10～20mm)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－Cを20%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	黒褐色微砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	褐灰色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	灰黄褐色微砂層	ロームと黒褐色土との混成層。粘性があり、締まりは弱い。
6	褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 21　B区H－18・19号住居址



H－19号住居址竈址層序説明

1	灰黄褐色微砂層	焼土粒、ローム粒をわずかに含む。強い粘性があり、硬く締まる。竈の天井部と考えられる。
2	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒を20%、ローム粒をわずかに含む。強い粘性があり、硬く締まる。竈の天井部と考えられる。
3	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒を30%、ローム粒を20%含む。粘性・締まりともある。天井又は袖の崩落層と考えられる。
4	にぶい赤褐色微砂層	焼土粒を20%、ローム粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。天井部の崩落層と考えられる。
5	にぶい赤褐色微砂層	焼土ブロック20%、焼土粒、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。天井部の崩落層と考えられる。
6	褐灰色細砂層	灰、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
7	赤褐色細砂層	焼土ブロック主体層。粘土とローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。焚き口より流れた焼土溜まりと考えられる。
8	褐灰色微砂層	灰主体層。焼土粒を10%、ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
9	にぶい赤褐色細砂層	焼土粒主体層。ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
10	にぶい赤褐色微砂層	灰主体層。焼土粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。



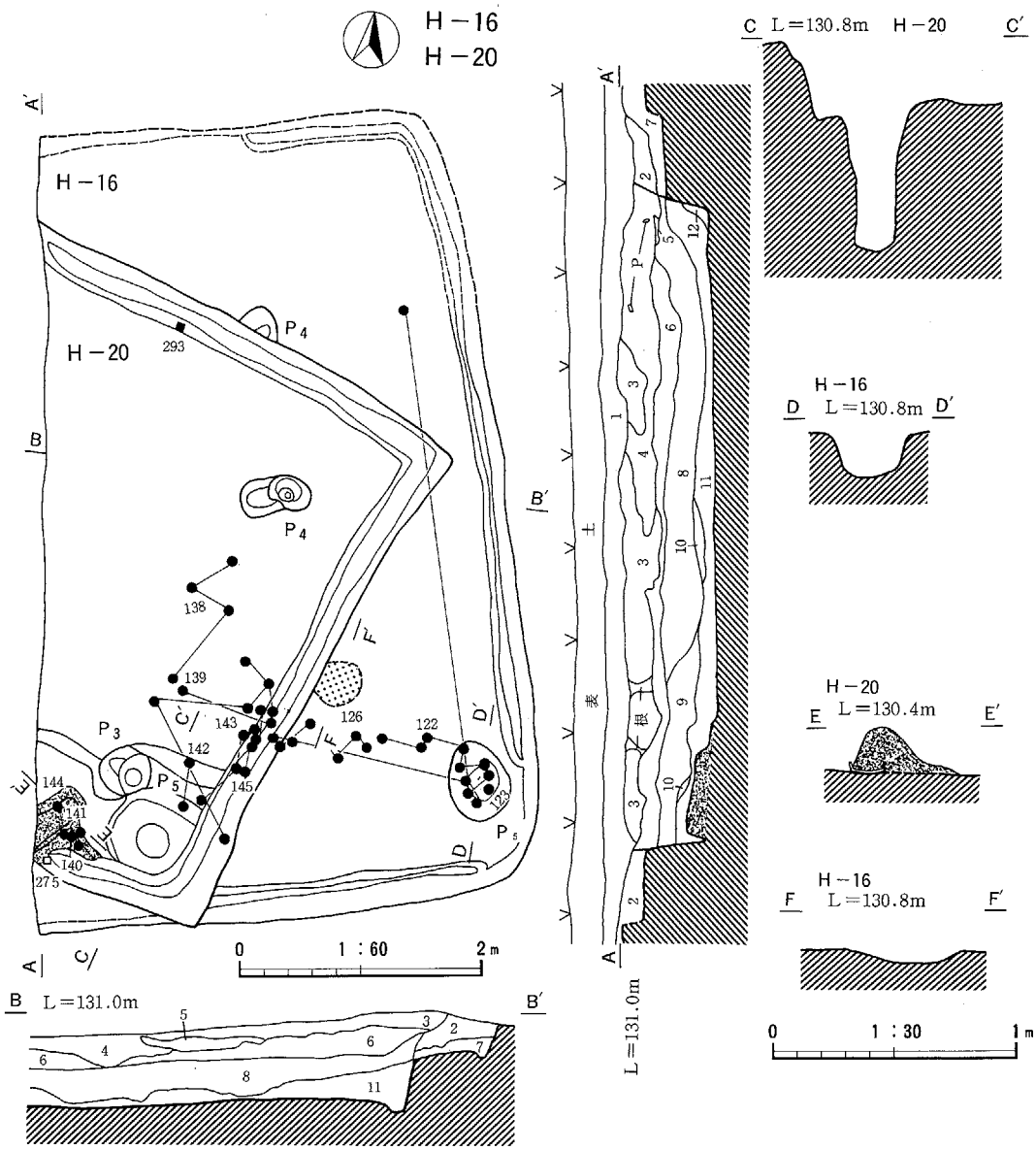
H－26号住居址層序説明

1	暗褐色細砂層	As－Cを20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－Cを30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	灰褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4	にぶい褐灰色細砂層	As－Cをわずかに、ローム粒を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。

H－26炉址セクション（S．P．S－S．P．N）

1	褐灰色細砂層	焼土ブロック、ロームブロック（φ＝30㎜）を20%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

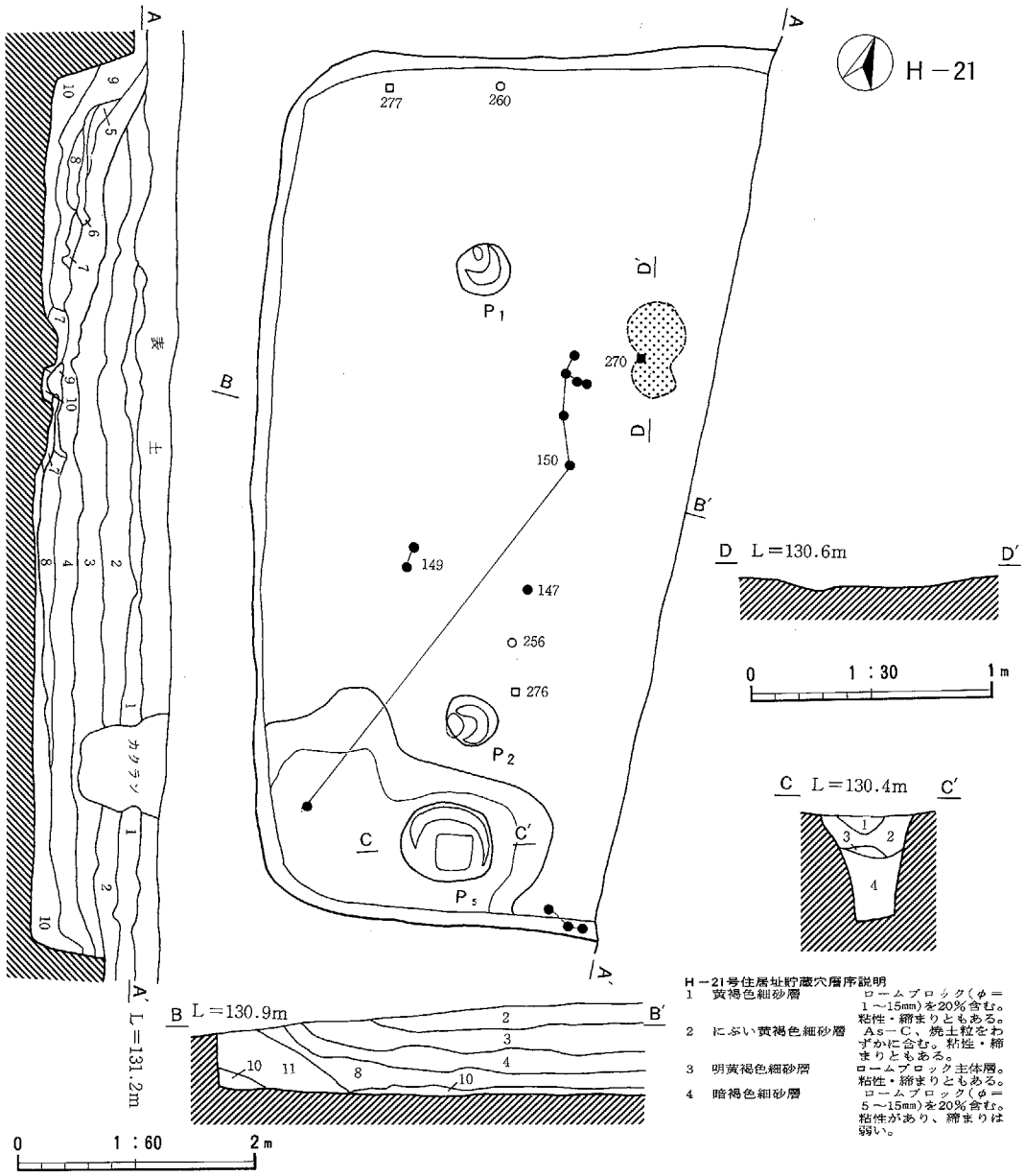
Fig. 22　B区H－19・26号住居址



H－16・20号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cを10%、Hr－FP、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－Cを5%、ローム粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	灰褐色細砂層	As－Cを20%、Hr－FP、ローム粒、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しある。硬く締まるが、著しく硬く締まる部分あり。
4	褐色細砂層	As－Cを20%、Hr－FPを10%含む。粘性が少しあり、硬く締まる。著しく硬く締まる部分あり。
5	褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに含む。粘性・締まりともある。
6	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝5～10mm)を30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
7	にぶい黄褐色微砂層	ソフトローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。
8	暗褐色細砂層	As－C、Hr－FPを10%、ロームブロック(φ＝10～40mm)を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
9	にぶい灰褐色細砂層	As－C、粘土粒を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
10	黒褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロック(φ＝10mm)を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
11	にぶい灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、ロームブロックを20%、ローム粒を10%、粘土ブロック(φ＝10～20mm)、粘土粒を含む。粘性があり、締まりは弱い。
12	灰褐色細砂層	ローム粒を20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig. 23 B区H－16・20号住居址



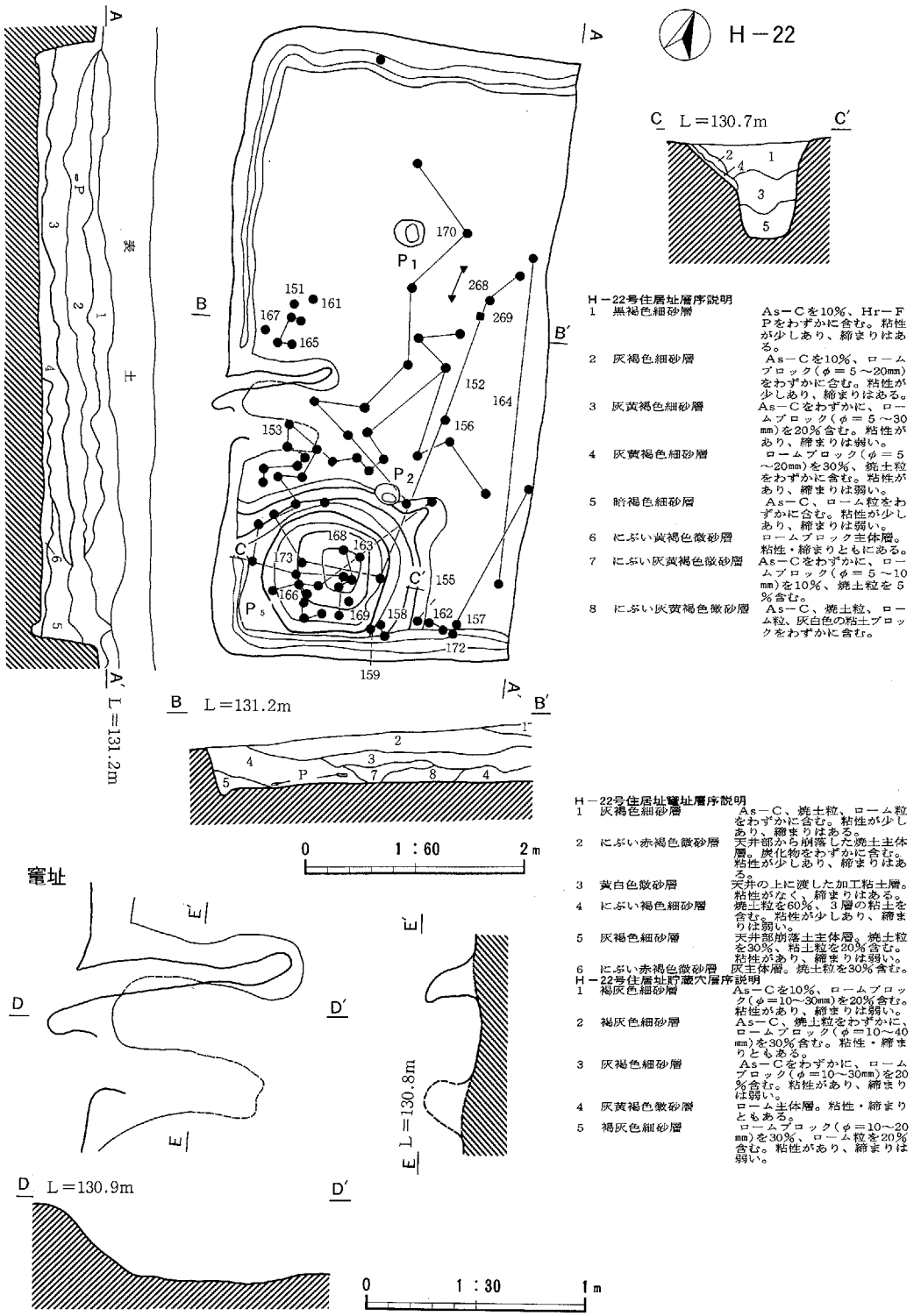
H－21号住居址貯蔵穴層序説明

1	黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝1～15㎜)を20%含む。粘性・締まりともある。
2	にぶい黄褐色細砂層	As－C、焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
3	明黄褐色細砂層	ロームブロック主体層。粘性・締まりともある。
4	暗褐色細砂層	ロームブロック(φ＝5～15㎜)を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－21号住居址層序説明

1	暗褐色細砂層	As－Cを10%、焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
2	にぶい黄褐色細砂層	As－Cを20%、焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
3	黒褐色細砂層	As－Cを5%、焼土粒をわずかに含む。粘性・締まりともある。
4	にぶい黄褐色細砂層	As－Cを10%、ロームブロック(φ＝5～10㎜)を5%含む。粘性・締まりともある。
5	褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性・締まりともある。
6	灰黄褐色細砂層	灰白色の粘土主体層。強い粘性があり、締まりは弱い。
7	明赤褐色細砂層	焼土主体層。強い粘性があり、締まりはない。
8	暗褐色細砂層	As－C、焼土粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
9	黒色微砂層	焼土粒(φ＝1～3㎜)を10%含む。粘性があり、締まりはない。
10	明黄褐色細砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。
11	黄褐色細砂層	As－Cを10%、焼土粒、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 24　B区H－21号住居址



H－22号住居址層序説明

1	黒褐色細砂層	As－Cを10%、Hr－FPをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰褐色細砂層	As－Cを10%、ローム ブロック（φ＝5～20mm）をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、ローム ブロック（φ＝5～30mm）を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	灰黄褐色細砂層	ローム ブロック（φ＝5～20mm）を30%、焼土粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	暗褐色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	にぶい黄褐色微砂層	ローム ブロック主体層。粘性・締まりともにある。
7	にぶい灰黄褐色微砂層	As－Cをわずかに、ローム ブロック（φ＝5～10mm）を10%、焼土粒を5%含む。
8	にぶい灰黄褐色微砂層	As－C、焼土粒、ローム粒、灰白色の粘土ブロックをわずかに含む。

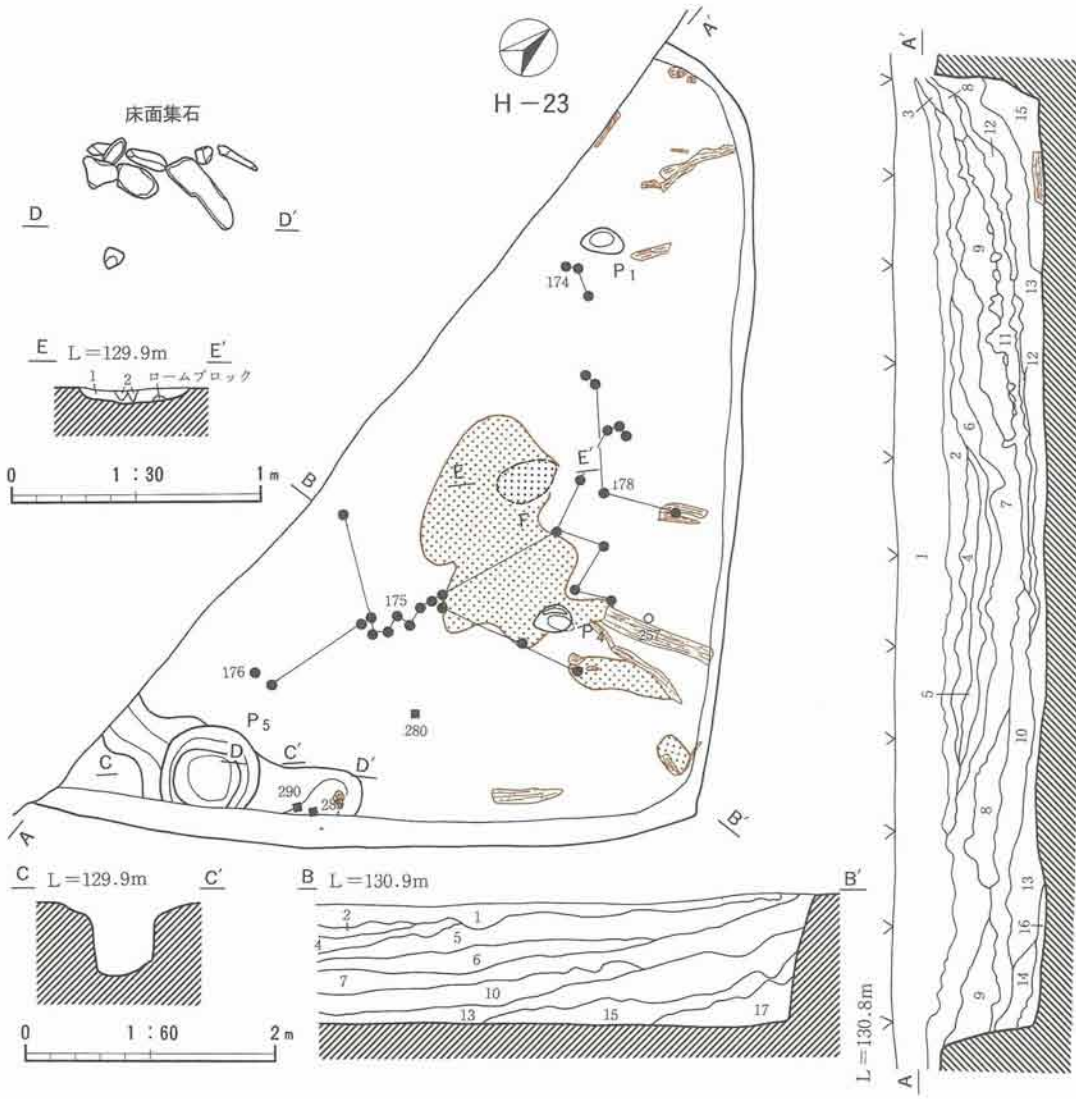
H－22号住居址竈址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－C、焼土粒、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	にぶい赤褐色微砂層	天井部から崩落した焼土主体層。炭化物をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	黄白色微砂層	天井の上に渡した加工粘土層。粘性がなく、締まりはある。
4	にぶい褐色細砂層	焼土粒を60%、3層の粘土を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5	灰褐色細砂層	天井部崩落土主体層。焼土粒を30%、粘土粒を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	にぶい赤褐色微砂層	灰主体層。焼土粒を30%含む。

H－22号住居址貯蔵穴層序説明

1	褐灰色細砂層	As－Cを10%、ローム ブロック（φ＝10～30mm）を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	褐灰色細砂層	As－C、焼土粒をわずかに、ローム ブロック（φ＝10～40mm）を30%含む。粘性・締まりともある。
3	灰褐色細砂層	As－Cをわずかに、ローム ブロック（φ＝10～30mm）を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性・締まりともある。
5	褐灰色細砂層	ローム ブロック（φ＝10～20mm）を30%、ローム粒を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 25　B区H－22号住居址



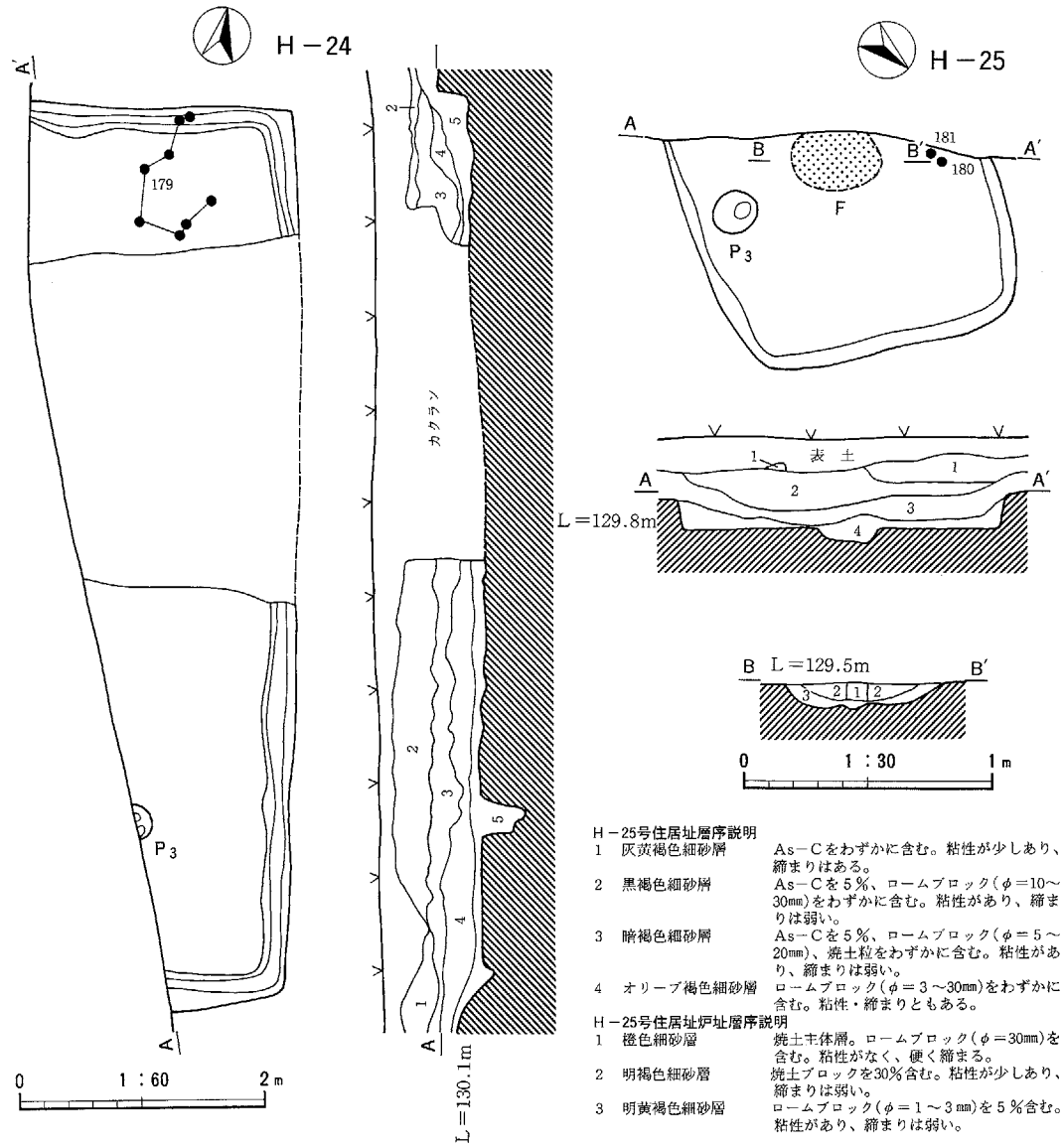
H－23号住居址層序説明

1	灰褐色細砂層	As－Cを10%、Hr－FP、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－Cを10%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	黒褐色細砂層	As－C、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4	灰褐色細砂層	As－Cを20%、ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5	褐灰色細砂層	As－Cを30%、ローム粒、ロームブロック(φ＝5～20㎜)を20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	褐灰色細砂層	As－C、ロームブロック(φ＝5～20㎜)、ローム粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
7	灰黄褐色微砂層	As－Cをわずかに、ローム粒を40%含む。粘性があり、締まりは弱い。
8	暗褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
9	褐灰色微砂層	As－Cをわずかに、ローム粒を30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
10	褐色細砂層	As－Cを5%、ローム粒を20%、下部に炭化物、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
11	黒色微砂層	火山灰と炭化物との混成層と考えられる。ローム粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
12	にぶい灰褐色微砂層	11層の黒色土と褐色土の混成層。粘性があり、締まりは弱い。
13	灰黄褐色細砂層	As－C、焼土粒、炭化物をわずかに、ローム粒を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
14	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、焼土ブロック(φ＝1～5㎜)、焼土粒、炭化物を10%、ローム粒を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
15	にぶい黄褐色微砂層	ロームブロック主体層。下部に焼土粒、炭化物を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
16	にぶい暗赤褐色細砂層	炭化物と焼土粒との混成層。ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
17	黄褐色微砂層	ローム主体層。下部に焼土粒・炭化物をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－23号住居址炉址層序説明

1	灰褐色細砂層	焼土粒をわずかに、ローム粒を30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	にぶい灰黄褐色細砂層	ローム粒を50%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig. 26　B区H－23号住居址



H－25号住居址層序説明

1	灰黄褐色細砂層	As－Cをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	黒褐色細砂層	As－Cを5％、ロームブロック(φ＝10～30㎜)をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	暗褐色細砂層	As－Cを5％、ロームブロック(φ＝5～20㎜)、焼土粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	オリーブ褐色細砂層	ロームブロック(φ＝3～30㎜)をわずかに含む。粘性・締まりともある。

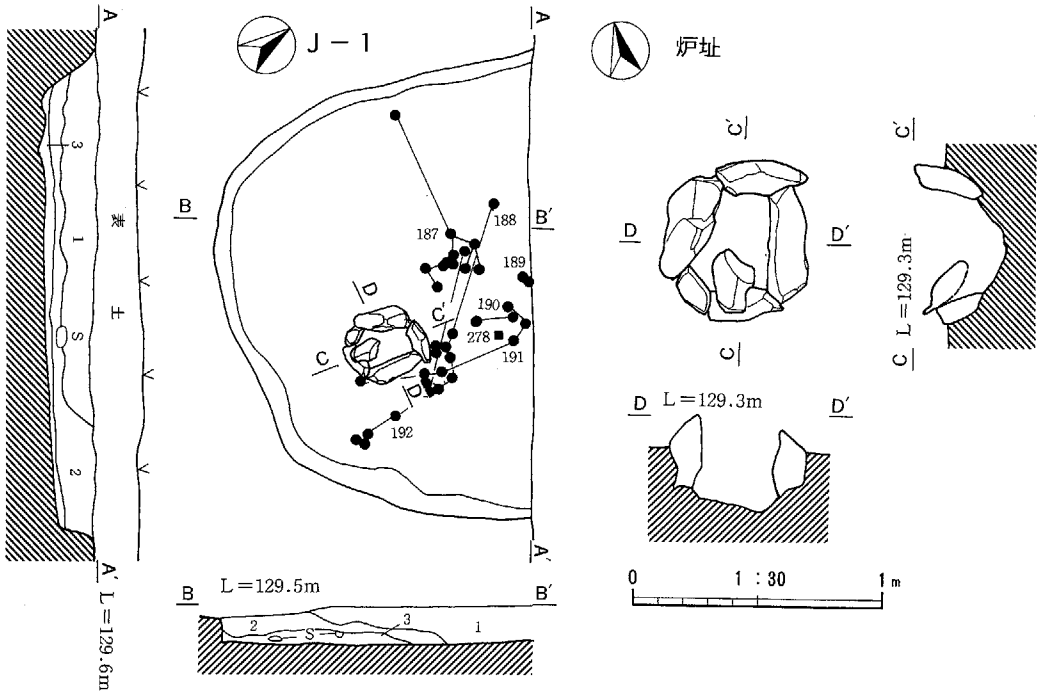
H－25号住居址炉址層序説明

1	橙色細砂層	焼土主体層。ロームブロック(φ＝30㎜)を含む。粘性がなく、硬く締まる。
2	明褐色細砂層	焼土ブロックを30％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	明黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝1～3㎜)を5％含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－24号住居址層序説明

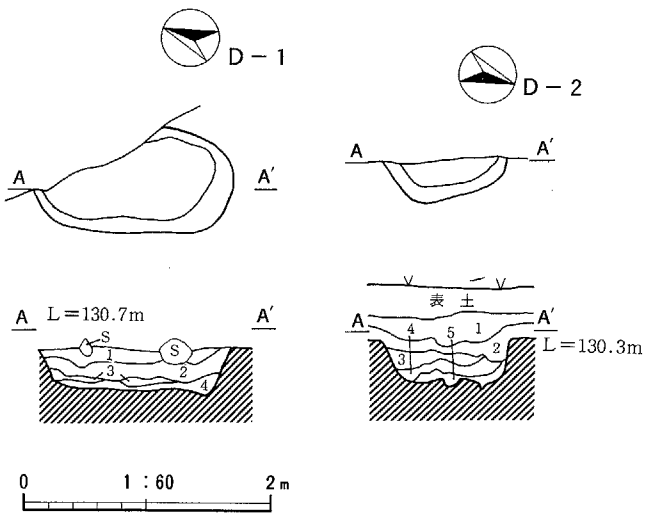
1	灰黄褐色細砂層	As－C、ローム粒を5％含む。粘性・締まりともある。
2	灰黄色細砂層	粘性・締まりともある。
3	黒褐色細砂層	As－Cをわずかに、ローム粒を5％含む。強い粘性があり、締まりはある。
4	暗褐色細砂層	As－Cを5％、ロームブロック(φ＝10～20㎜)をわずかに含む。強い粘性があり、締まりはある。
5	オリーブ褐色細砂層	ロームブロック(φ＝5～30㎜)をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 27　H－24・25号住居址



J－1号住居址層序説明

1	にぶい灰褐色微砂層	ローム と褐色土との混成層。ロームブロック(φ＝5㎜)を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	にぶい灰黄褐色微砂層	ローム と褐色土との混成層。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	にぶい黄褐色微砂層	ローム主体層。ロームブロックを30%含む。粘性・締まりともある。



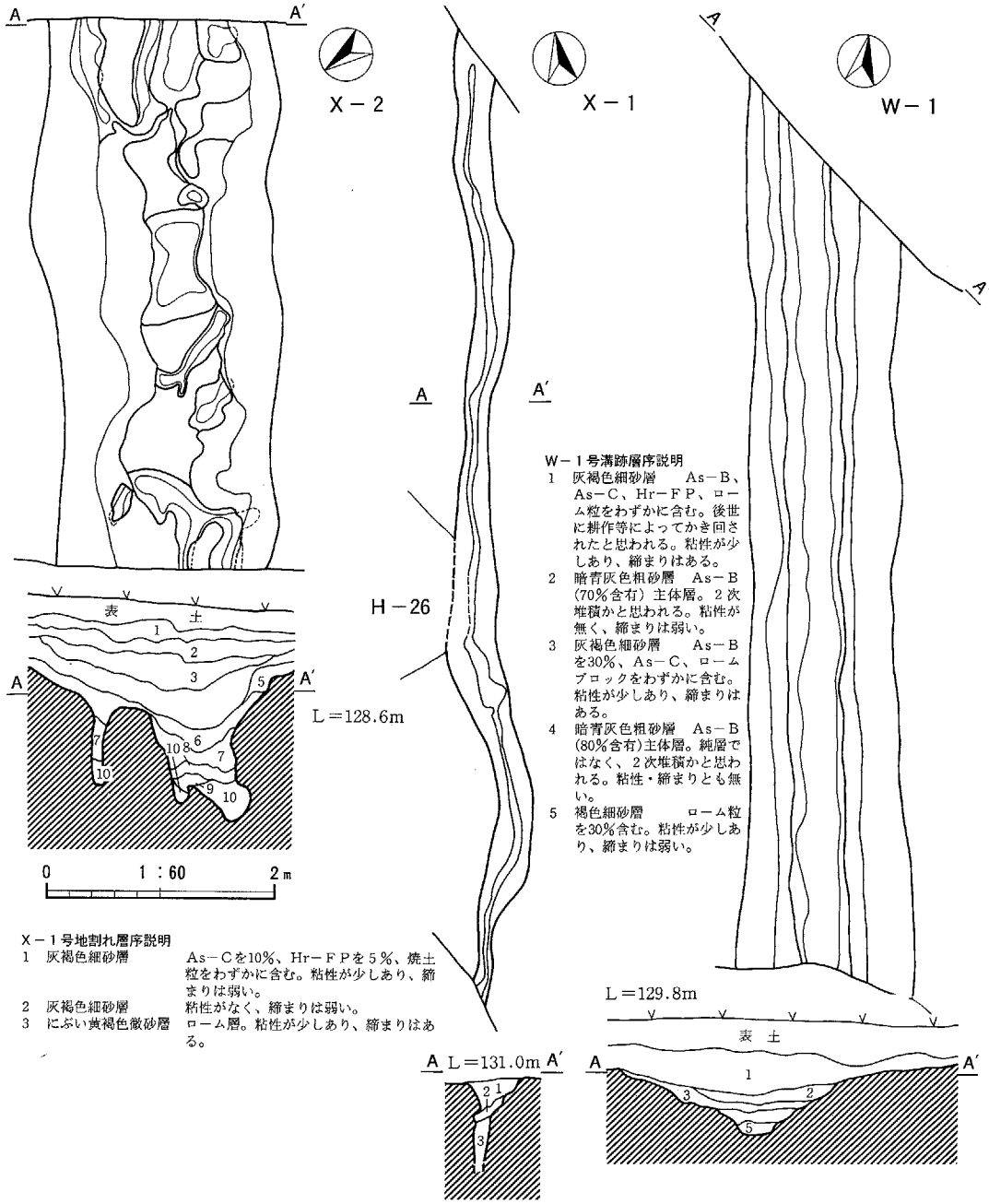
D－1土坑層序説明

1	黒褐色細砂層	As－Cをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	灰褐色細砂層	As－C、ロームブロック(φ＝10～15㎜)をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	灰黄褐色細砂層	灰褐色土とローム粒(40%含有)との混成層。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性が少しあり、締まりはある。

D－2土坑層序説明

1	暗褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰褐色細砂層	As－C、Hr－FPをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	灰褐色細砂層	As－C、Hr－FP、ローム粒をわずかに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	にぶい灰黄褐色細砂層	ローム と褐色土との混成層。粘性があり、締まりは弱い。
5	灰黄褐色微砂層	ローム主体層。粘性・締まりともある。

Fig. 28　B区J－1号住居址、D－1・2号土坑



W－1号溝跡層序説明

1　灰褐色細砂層　As－B、As－C、Hr－FP、ローム粒をわずかに含む。後世に耕作等によってかき回されたと思われる。粘性が少しあり、締まりはある。
2　暗青灰色粗砂層　As－B(70%含有)主体層。2次堆積かと思われる。粘性が無く、締まりは弱い。
3　灰褐色細砂層　As－Bを30%、As－C、ロームブロックをわずかに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4　暗青灰色粗砂層　As－B(80%含有)主体層。純層ではなく、2次堆積かと思われる。粘性・締まりとも無い。
5　褐色細砂層　ローム粒を30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

X－1号地割れ層序説明

1　灰褐色細砂層　As－Cを10%、Hr－FPを5%、焼土粒をわずかに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2　灰褐色細砂層　粘性がなく、締まりは弱い。
3　にぶい黄褐色微砂層　ローム層。粘性が少しあり、締まりはある。

X－2号地割れ層序説明

1	明黄褐色細砂層	As－B軽石を含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	灰褐色粗砂層	As－Bを80%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	黒褐色細砂層	As－Cを10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	暗褐色細砂層	As－Cを20%、Hr－FPを10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	黄褐色細砂層	As－Cをわずかに、ローム粒を5%含む。粘性・締まりともある。
6	にぶい黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝1～10mm)を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。
7	黄褐色細砂層	ロームブロック(φ＝20～30mm)を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
8	黒褐色細砂層	ローム粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
9	暗褐色細砂層	ローム粒を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
10	褐色細砂層	ローム粒を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig. 29　B区W－1号溝・X－1・2号地割れ

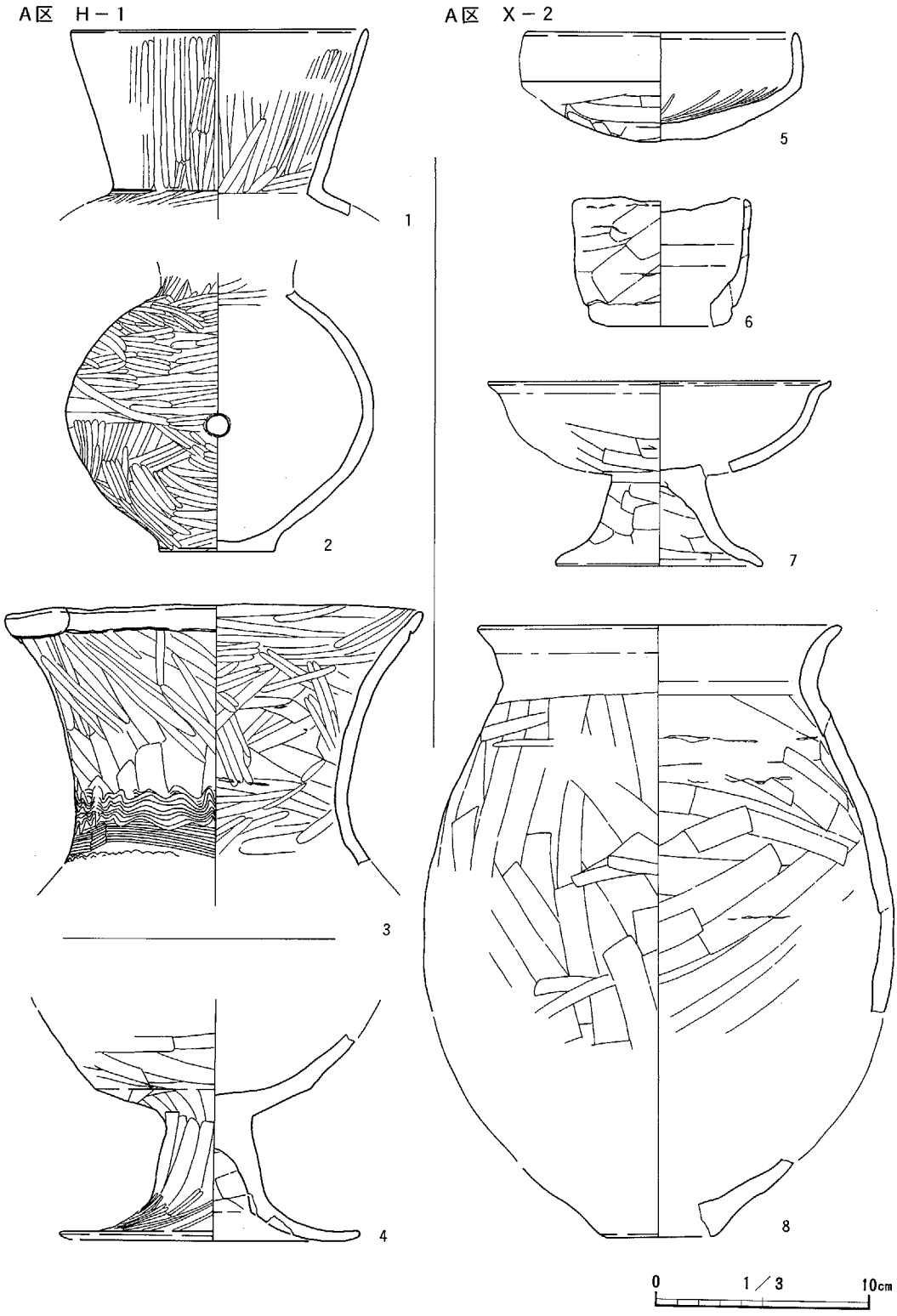


Fig. 30　A区H－1号住居址、X－2号地割れ出土の土器

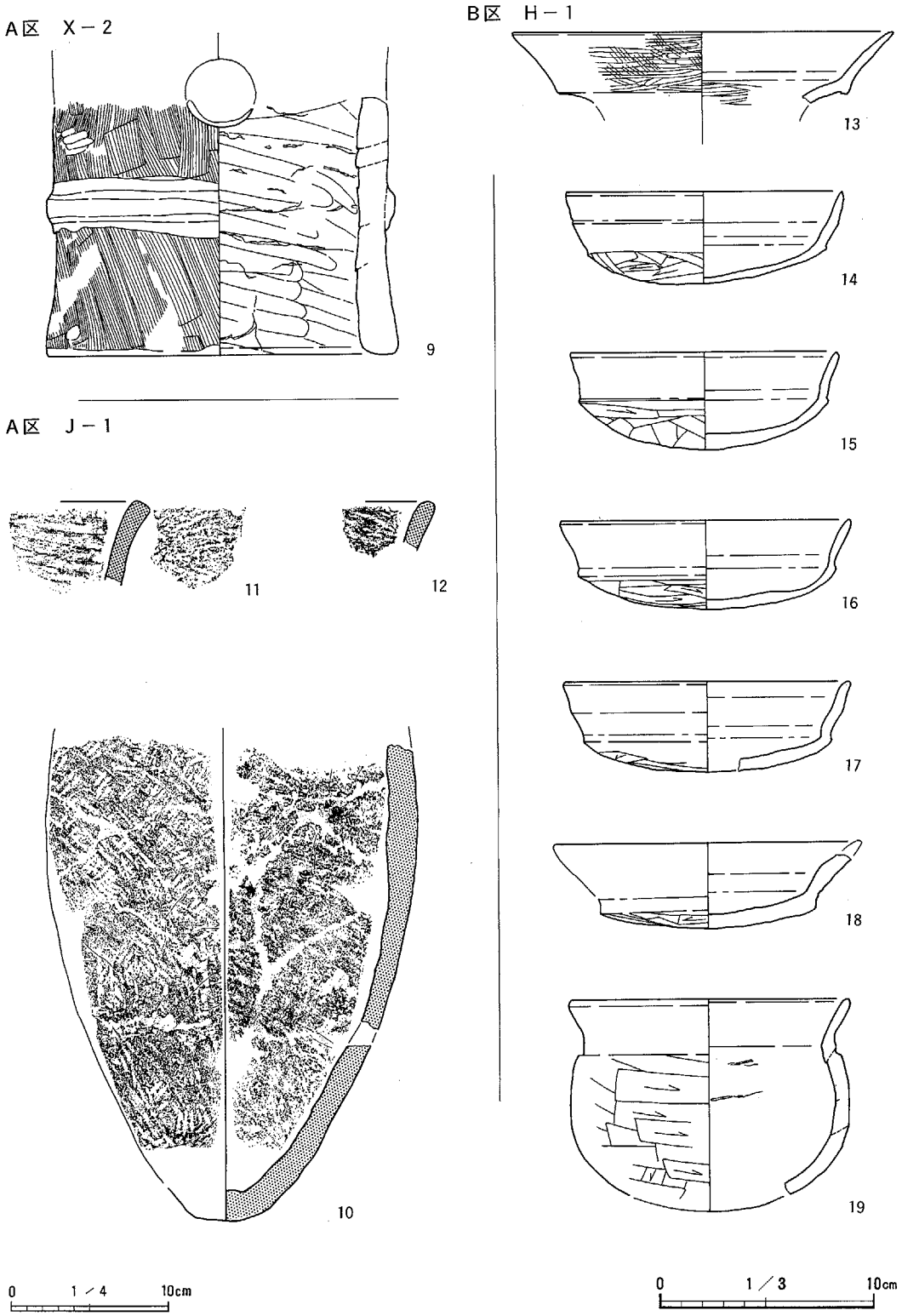


Fig. 31　A区X－2号地割れ、J－1号住居址、B区H－1号住居址出土の土器

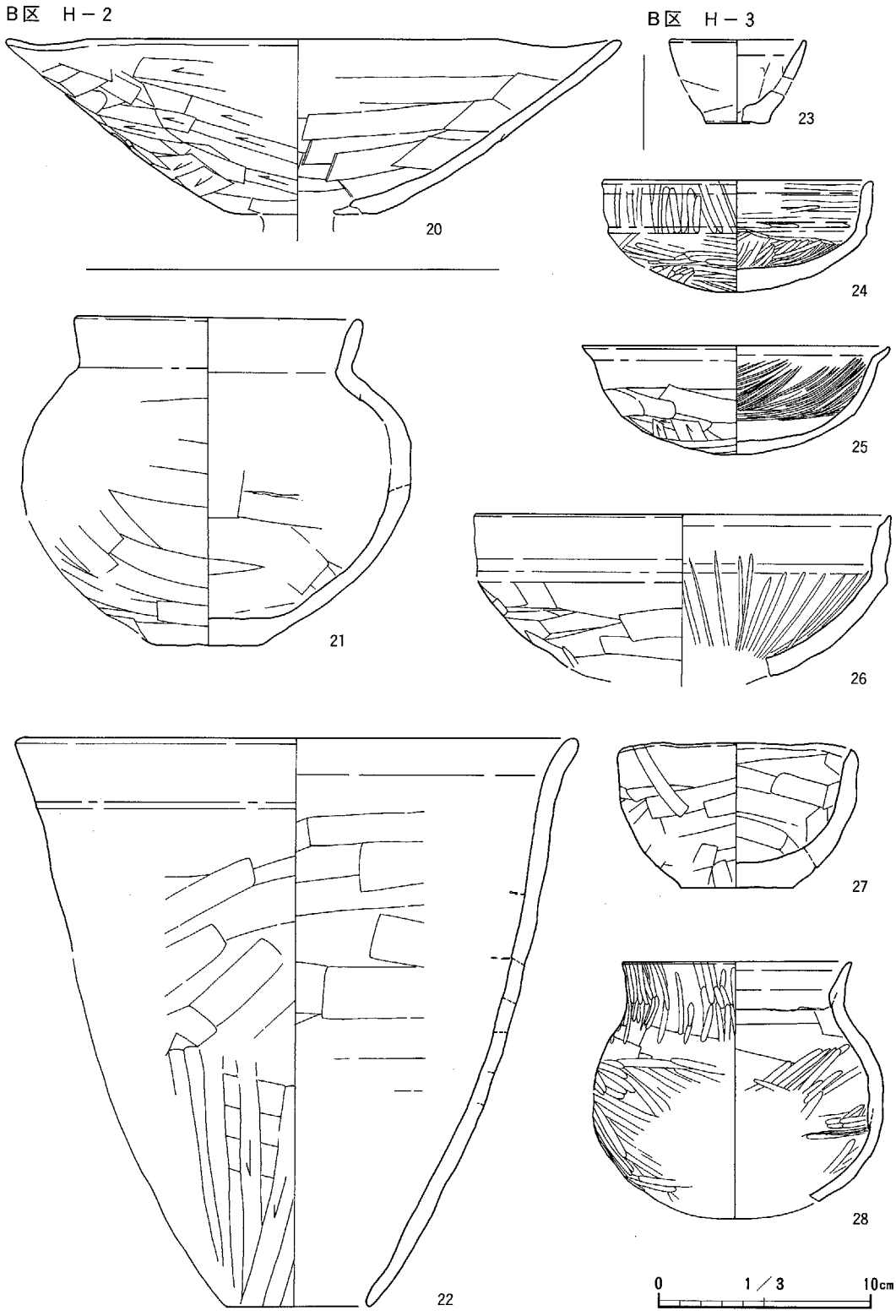


Fig. 32　B区H－2・3住居址出土の土器

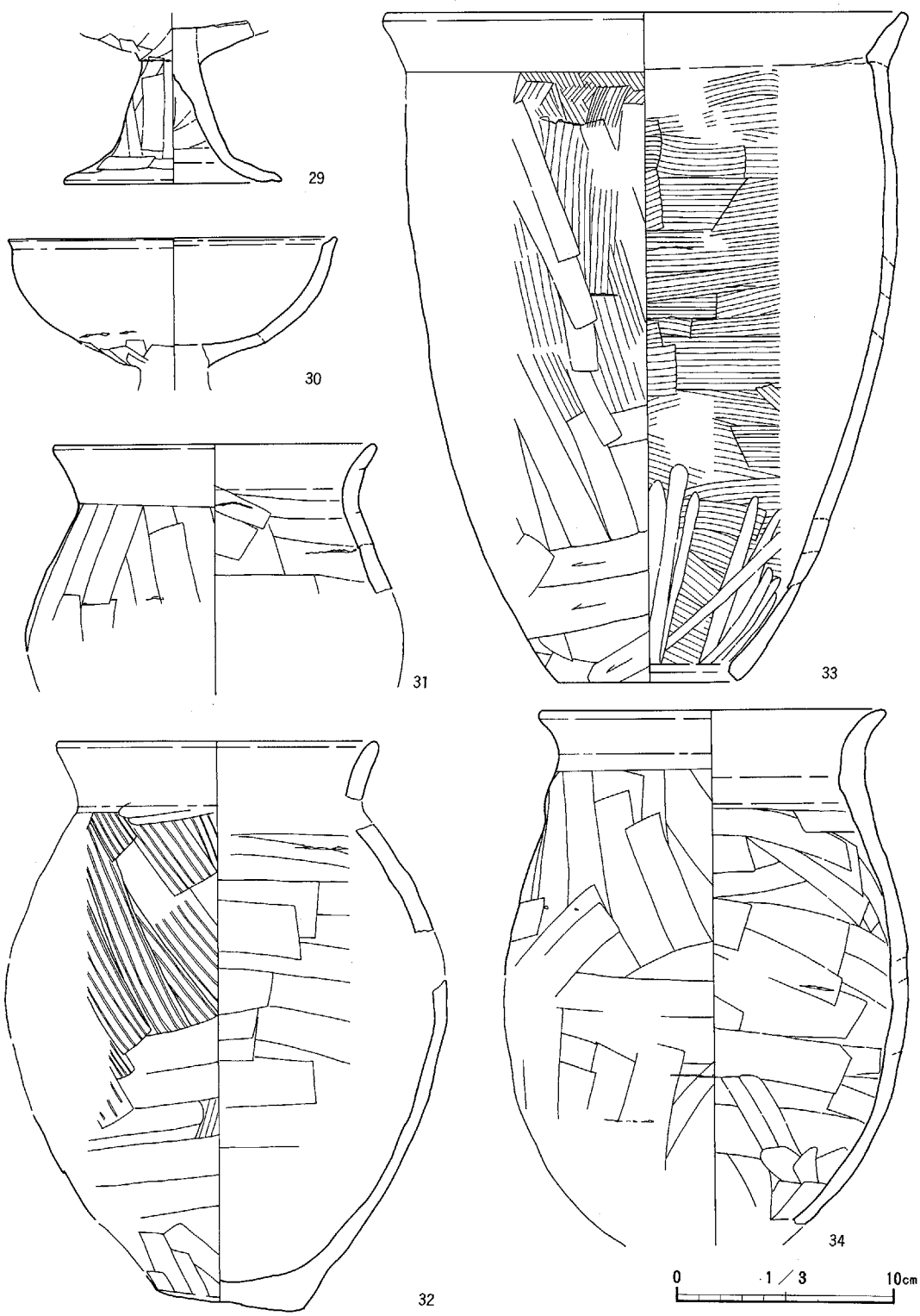


Fig. 33　B区H－3号住居址出土の土器

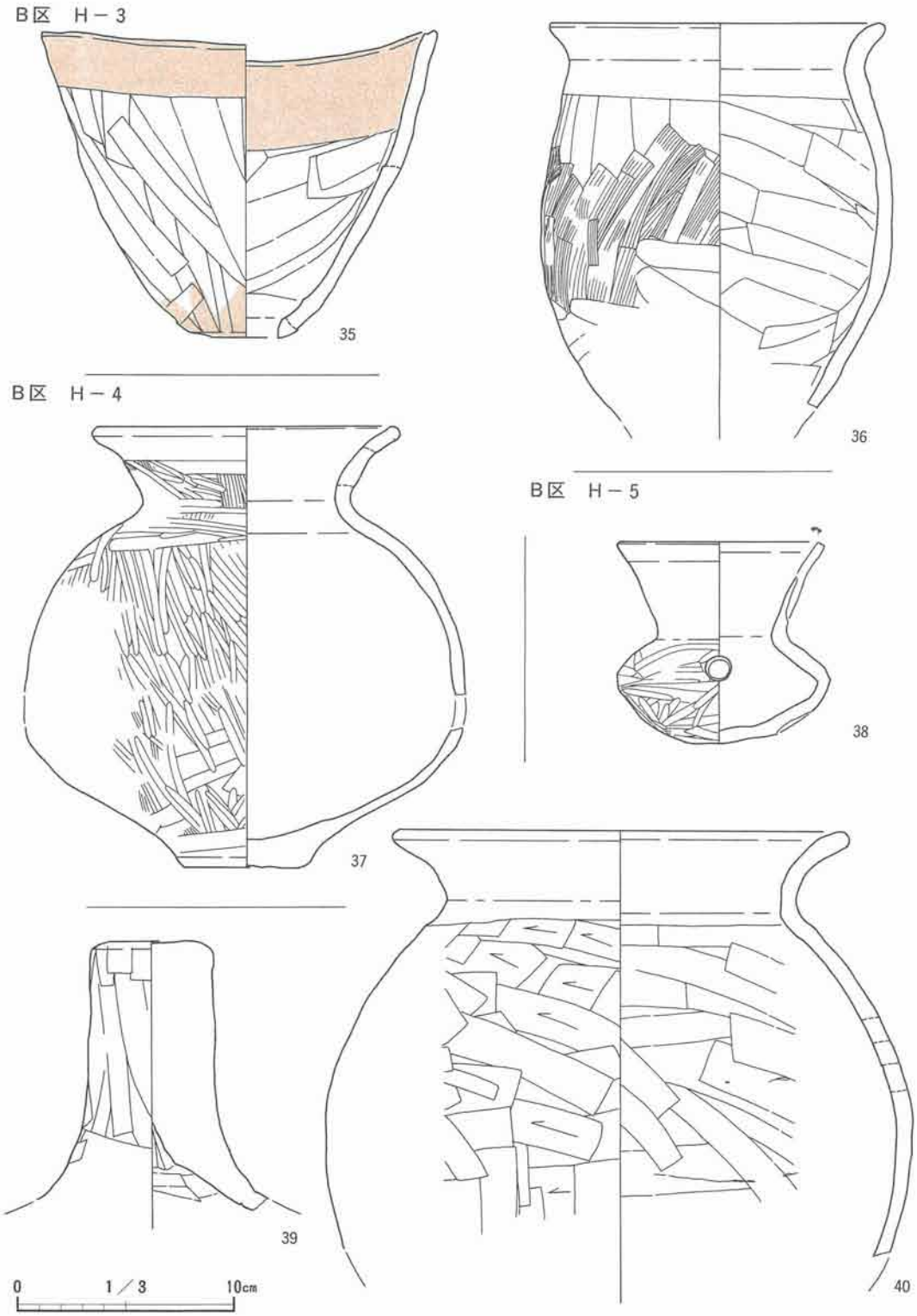


Fig. 34　B区H－3～5号住居址出土の土器

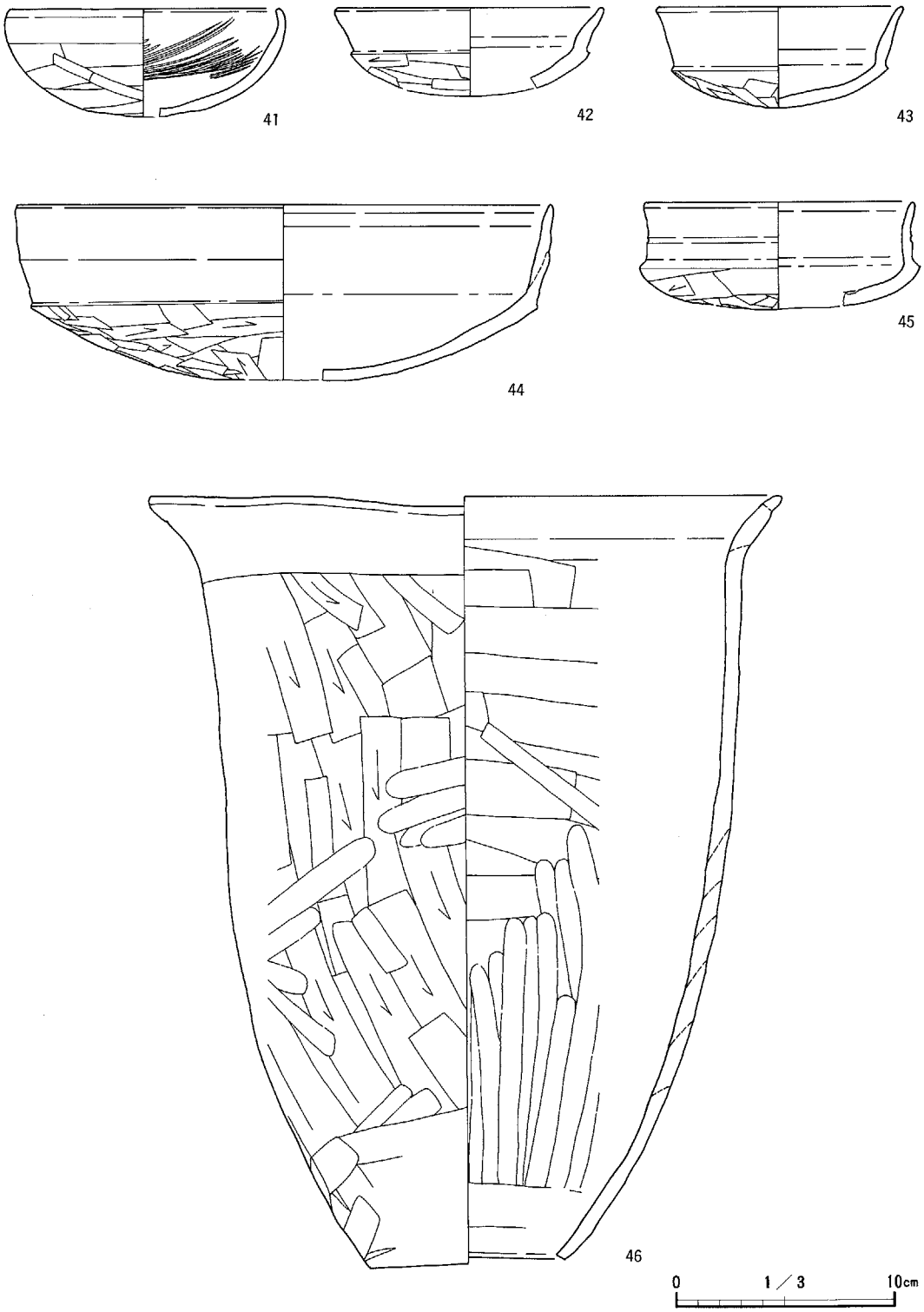


Fig. 35　B区H－5号住居址出土の土器

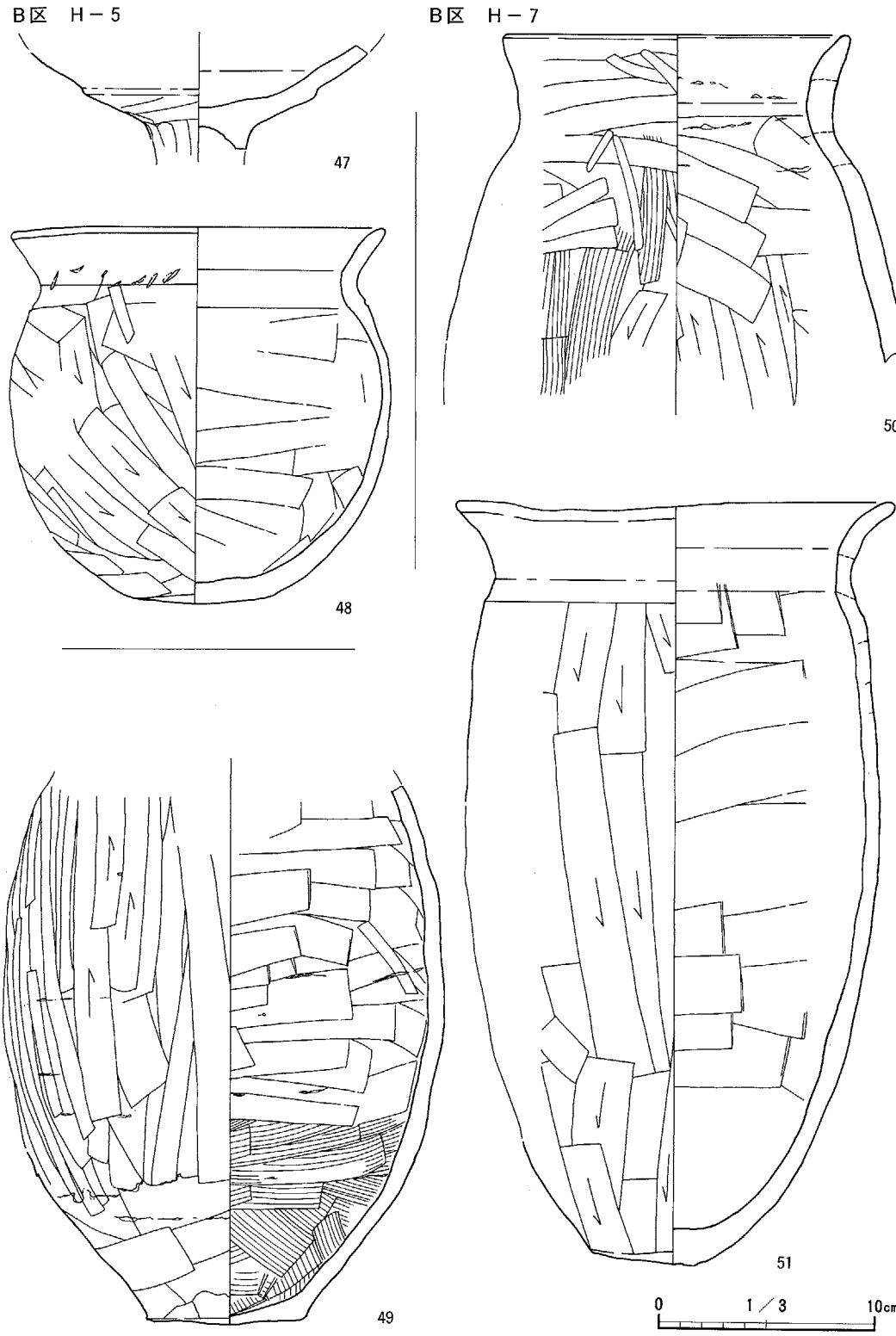


Fig. 36　B区H－5・7号住居址出土の土器

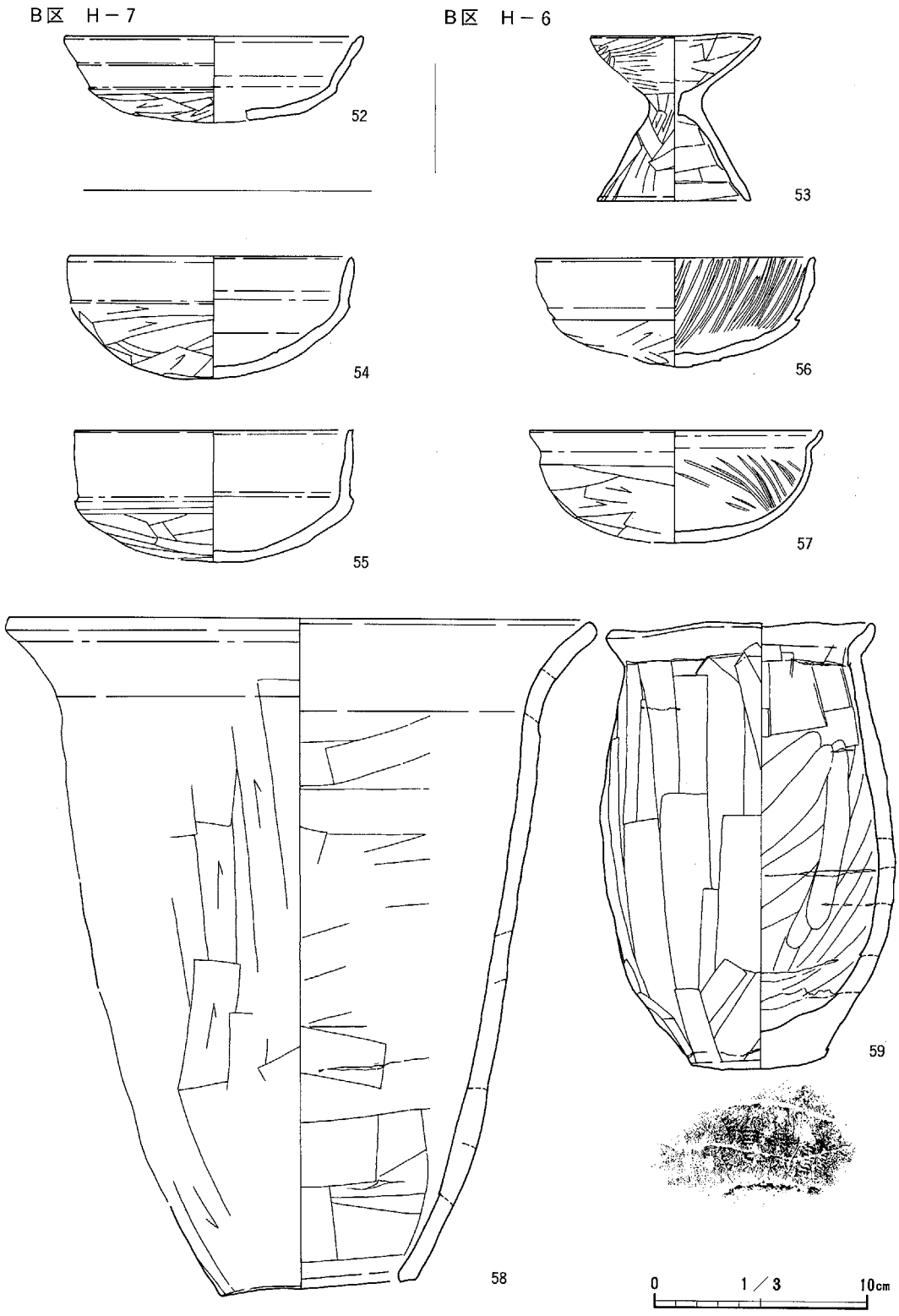


Fig. 37　B区H－7・6号住居址出土の土器

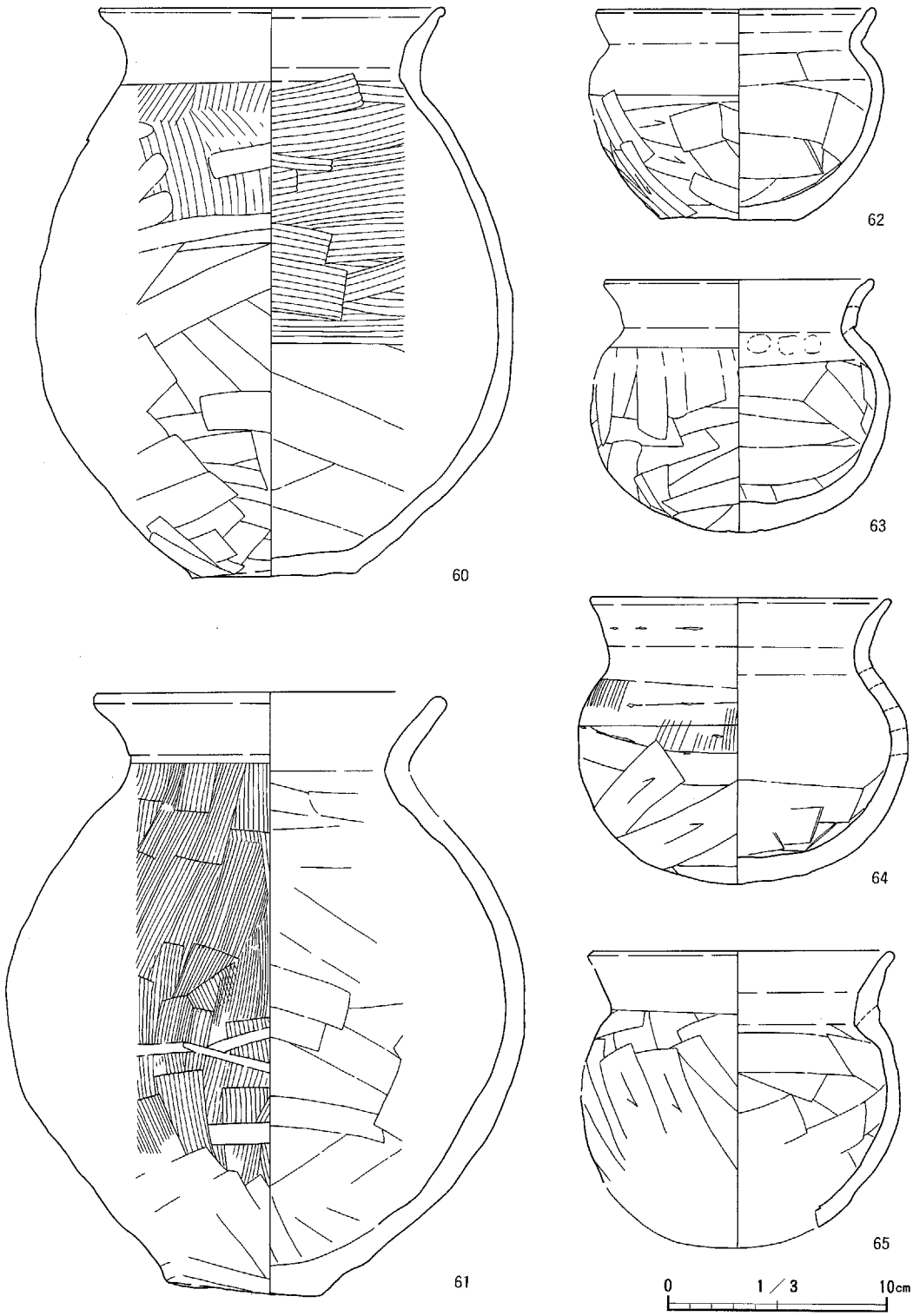


Fig. 38　B区H－6号住居址出土の土器

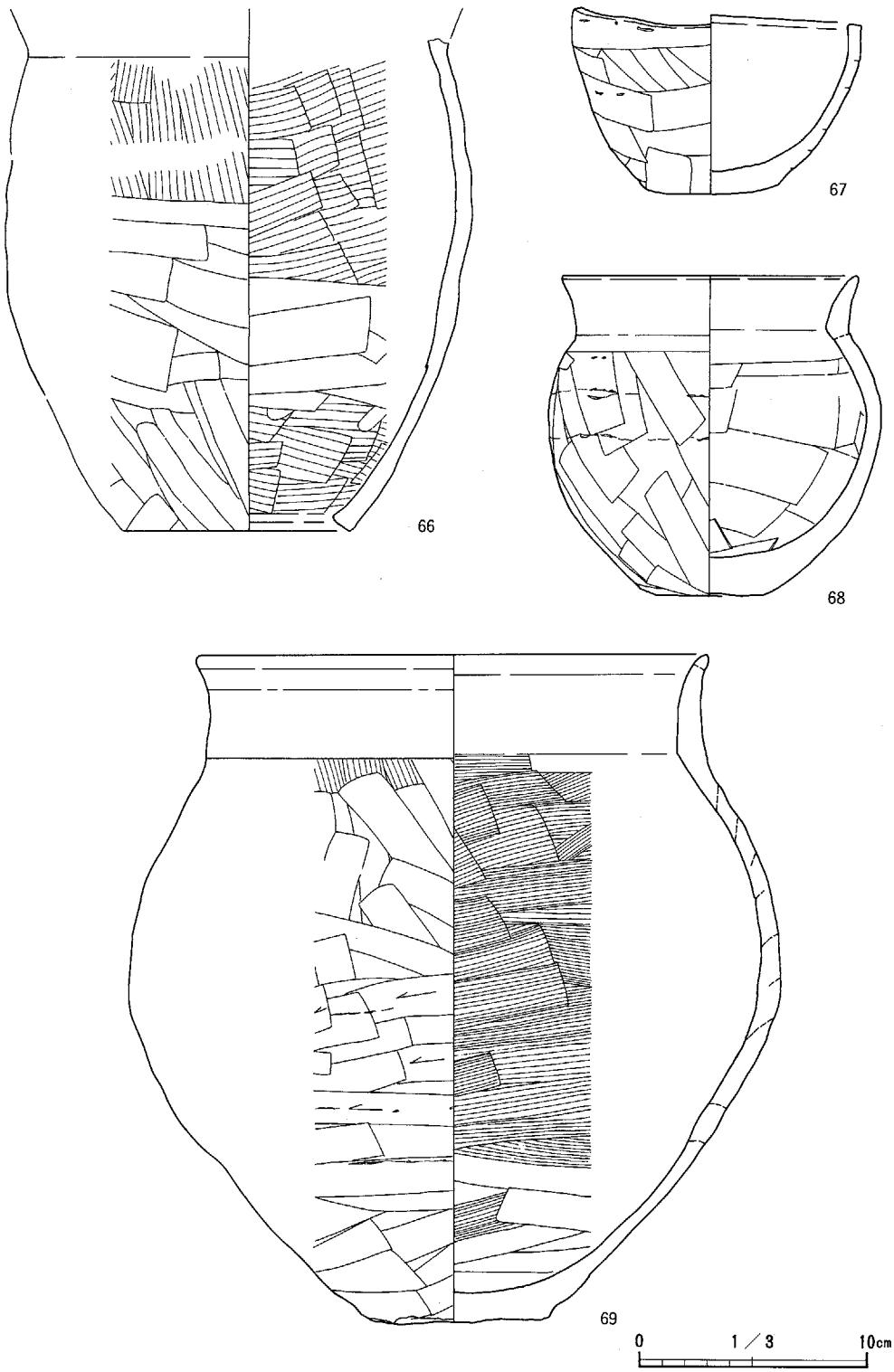


Fig. 39　B区H－6号住居址出土の土器

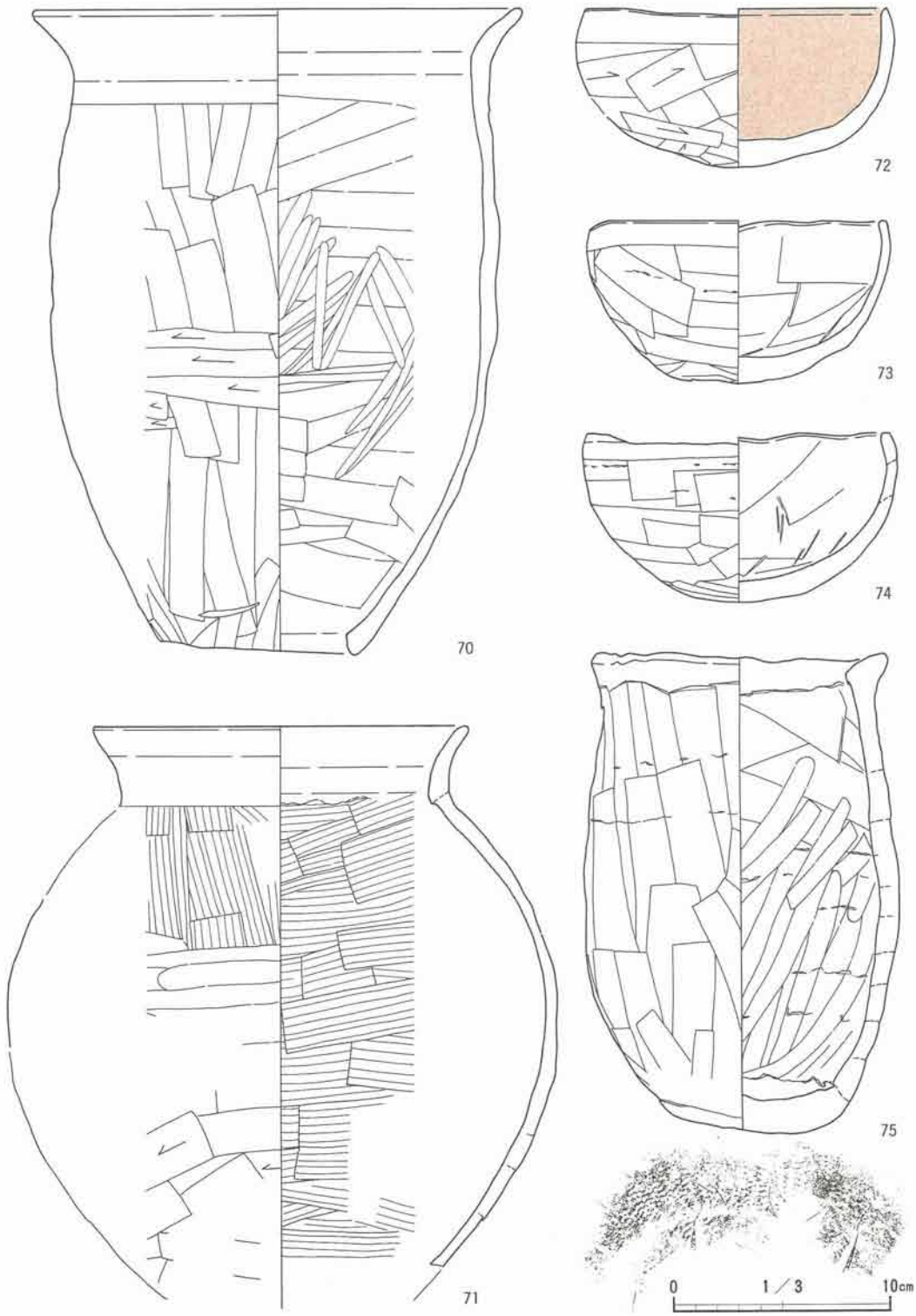


Fig. 40　B区H－6号住居址出土の土器

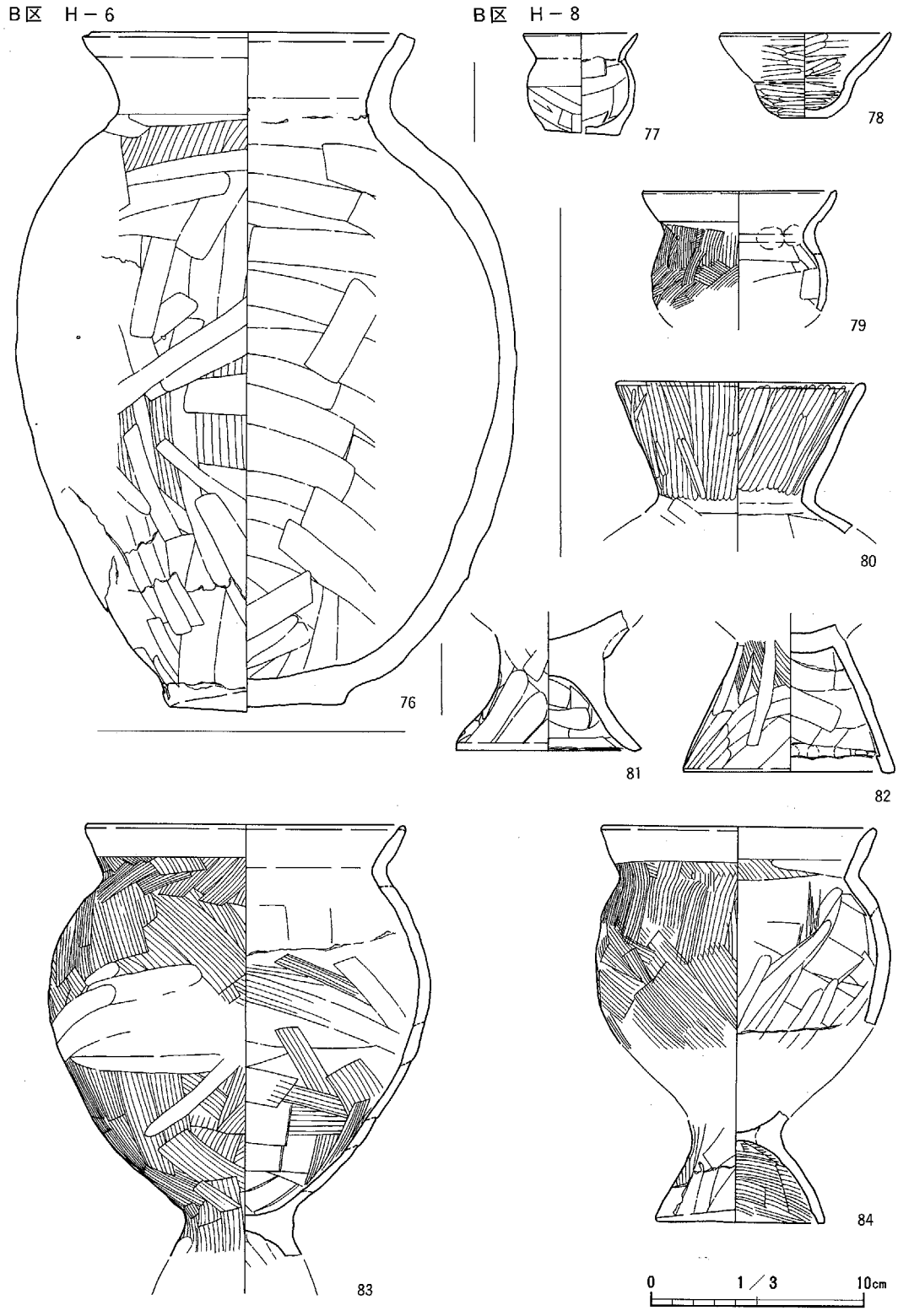


Fig. 41　B区H－6・8号住居址出土の土器

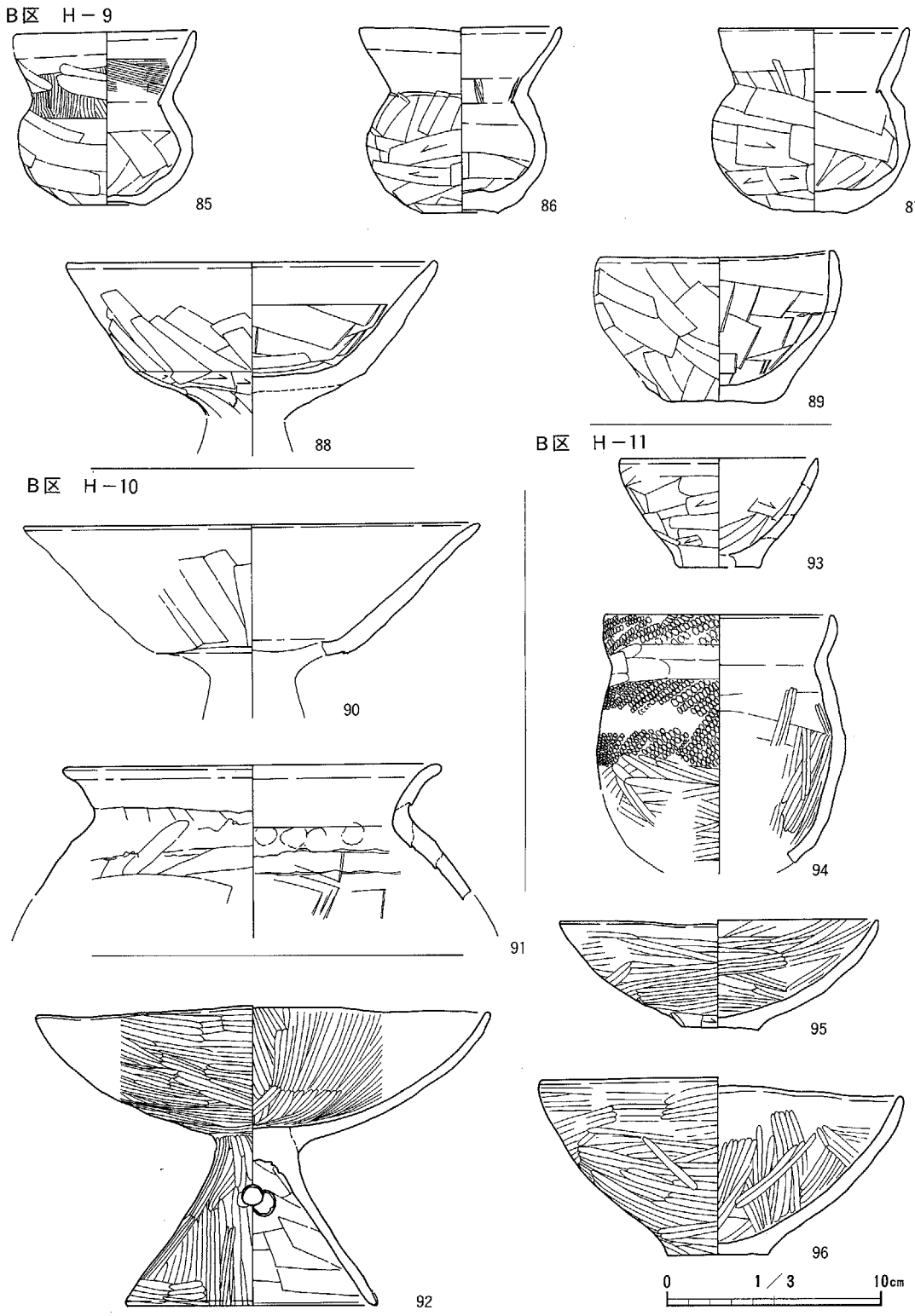


Fig. 42　B区H－9～11号住居址出土の土器

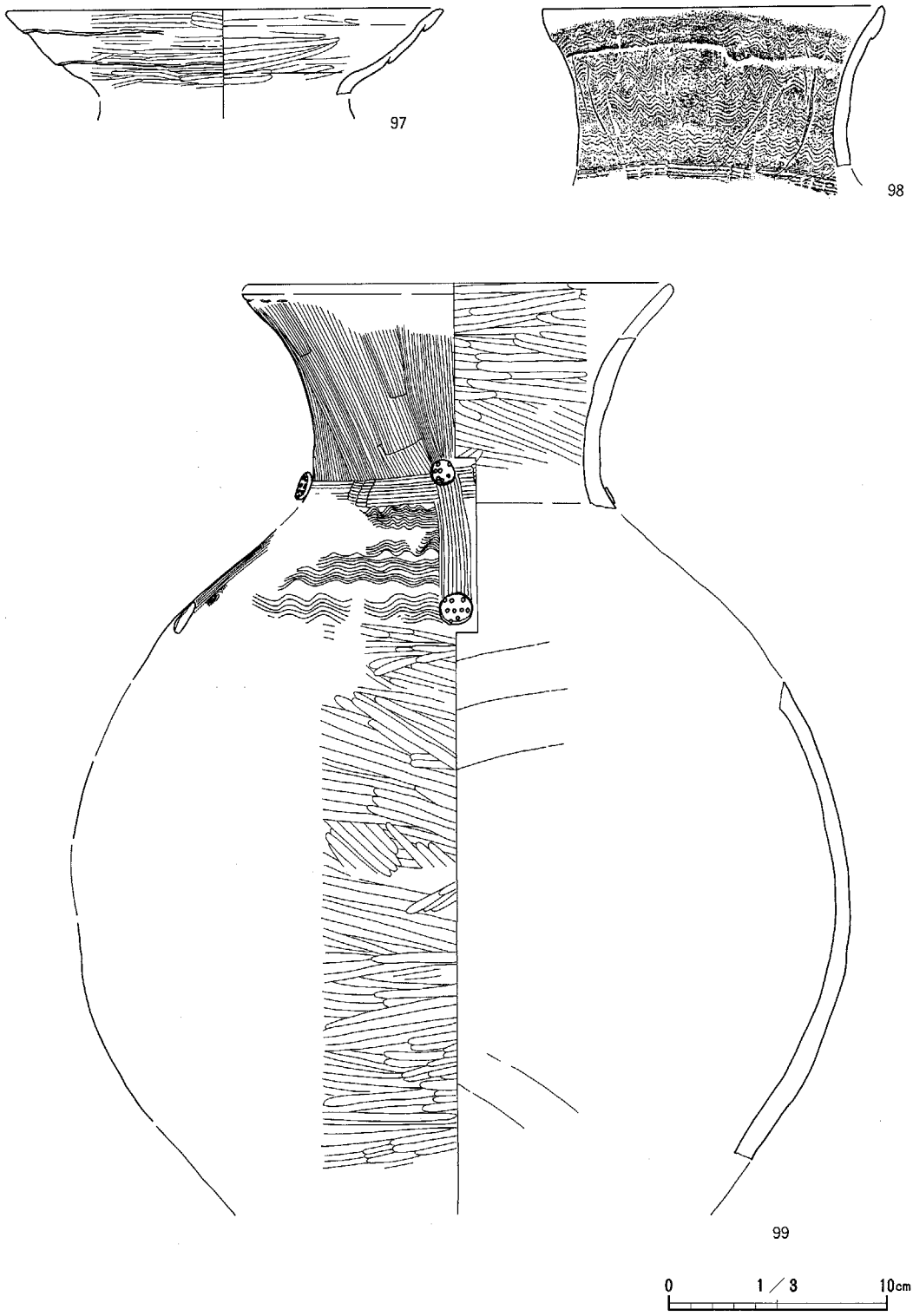


Fig. 43　B区H－11号住居址出土の土器

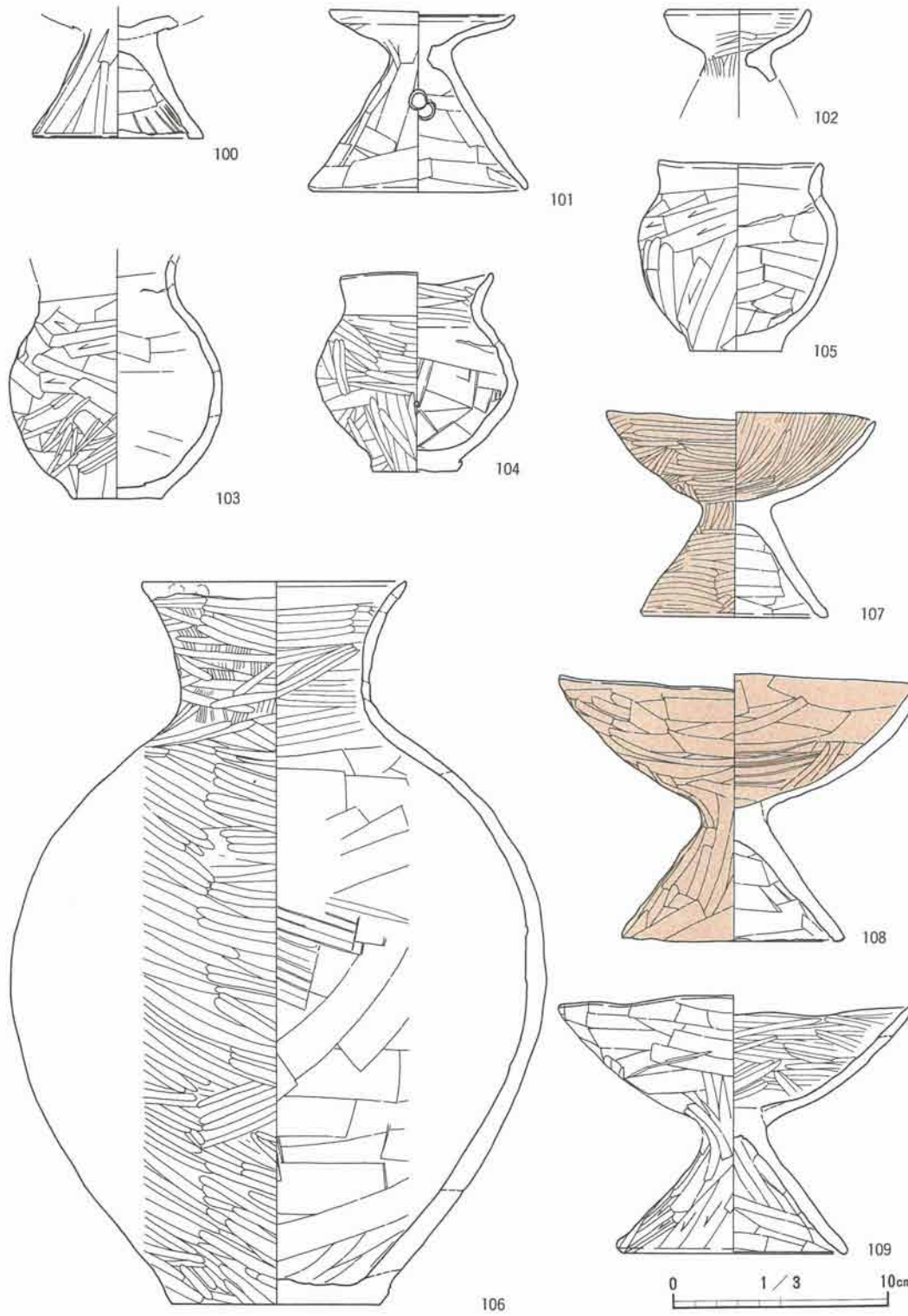
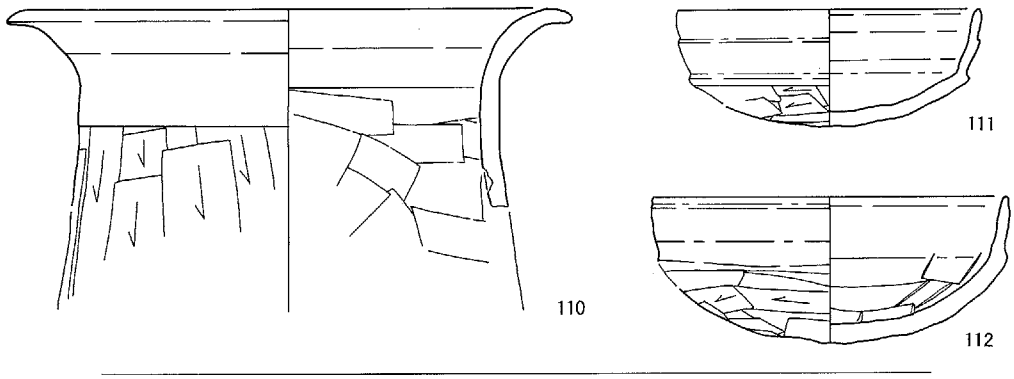


Fig. 44　B区H－11号住居址出土の土器

B区　H－12



B区　H－14

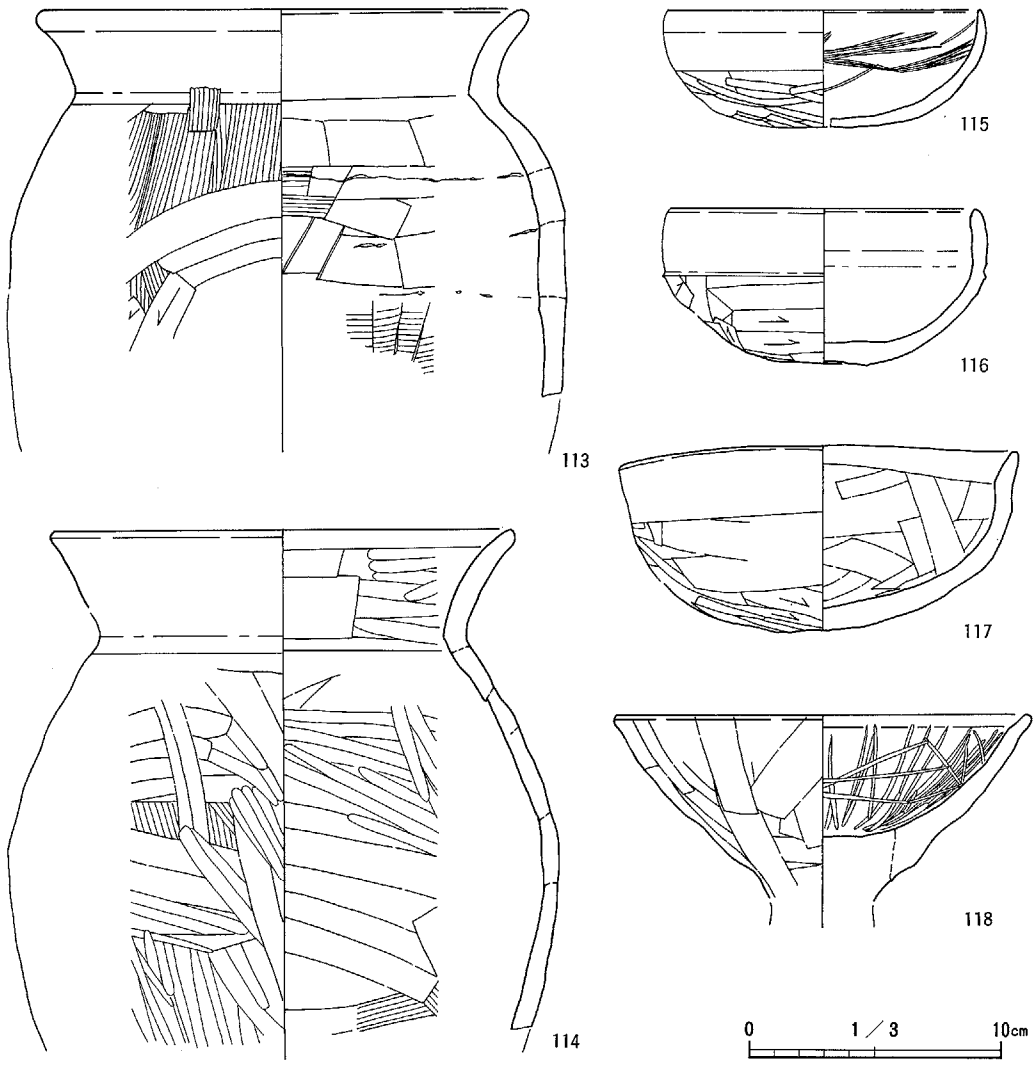


Fig. 45　B区H－12・14号住居址出土の土器

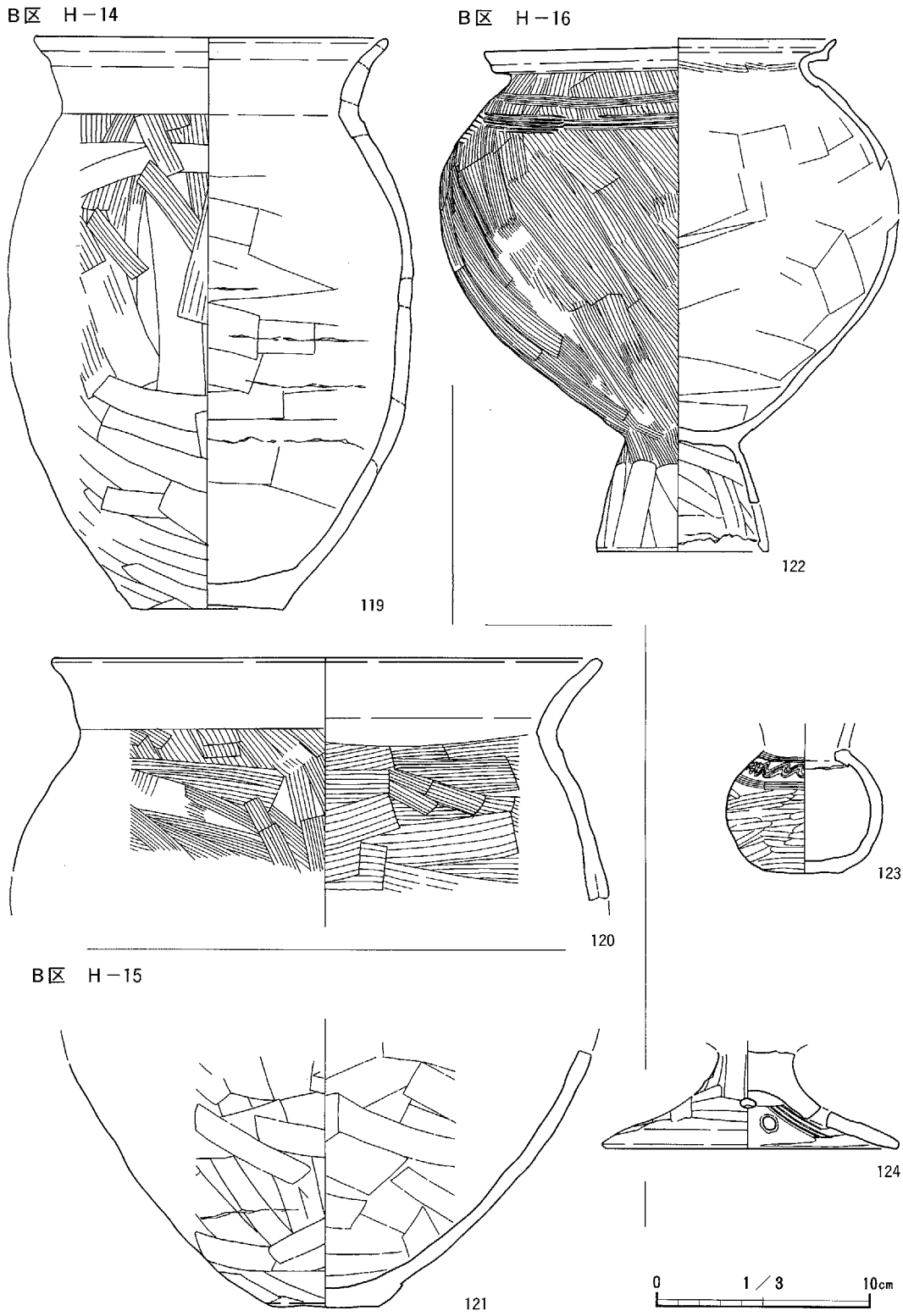


Fig. 46　B区H－14～16号住居址出土の土器

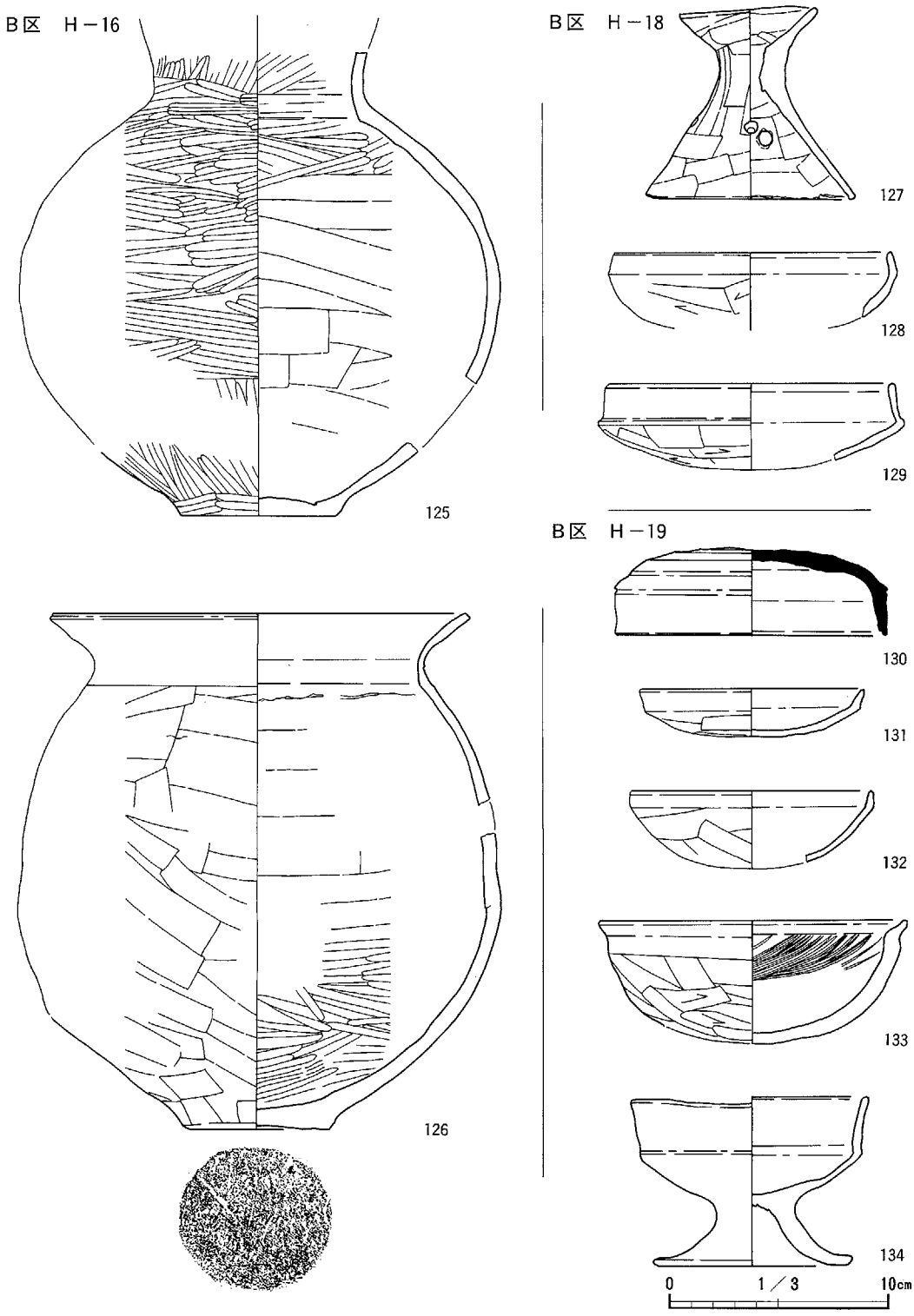


Fig. 47　B区H－16・18・19号住居址出土の土器

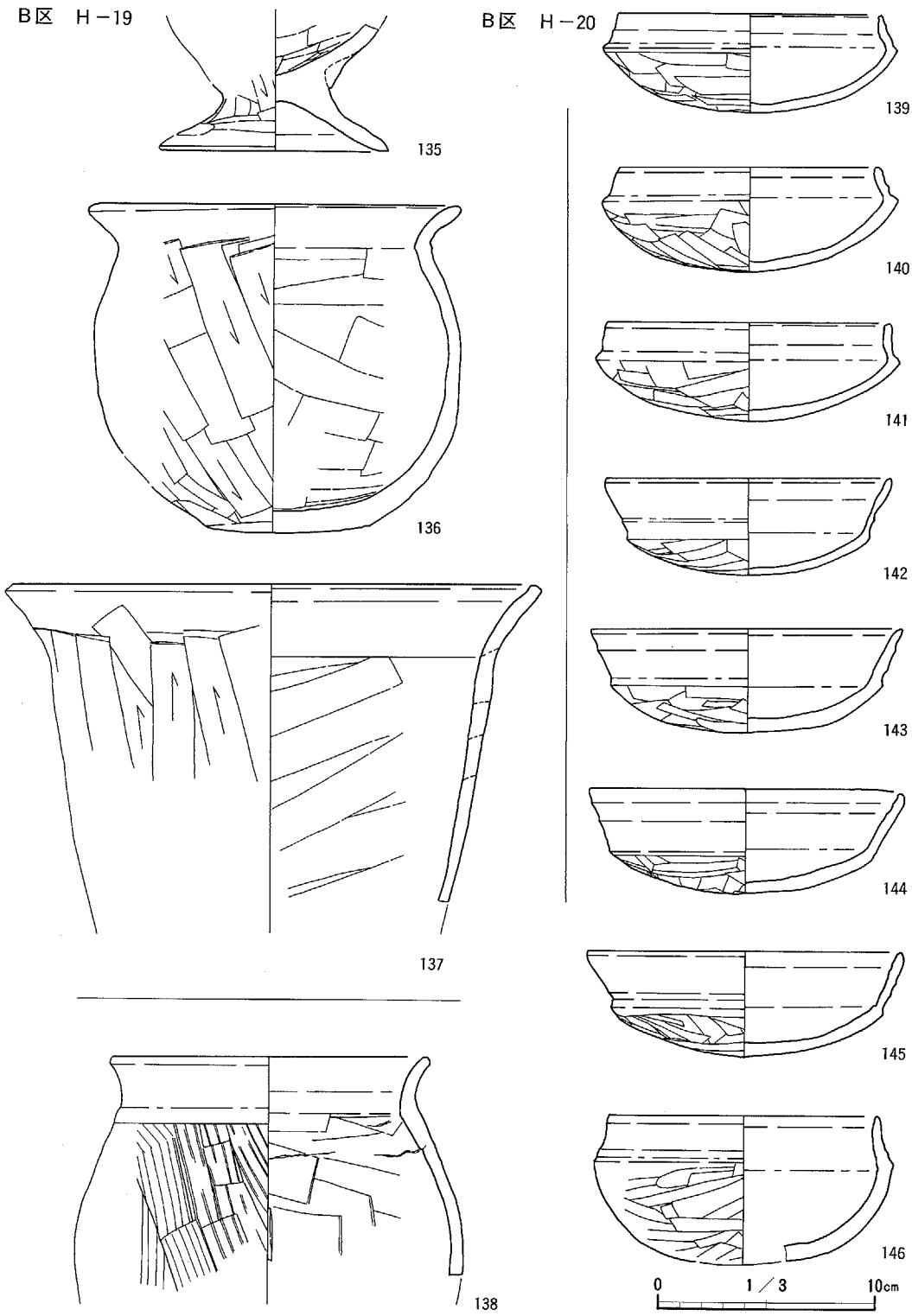


Fig. 48　B区H－19・20号住居址出土の土器

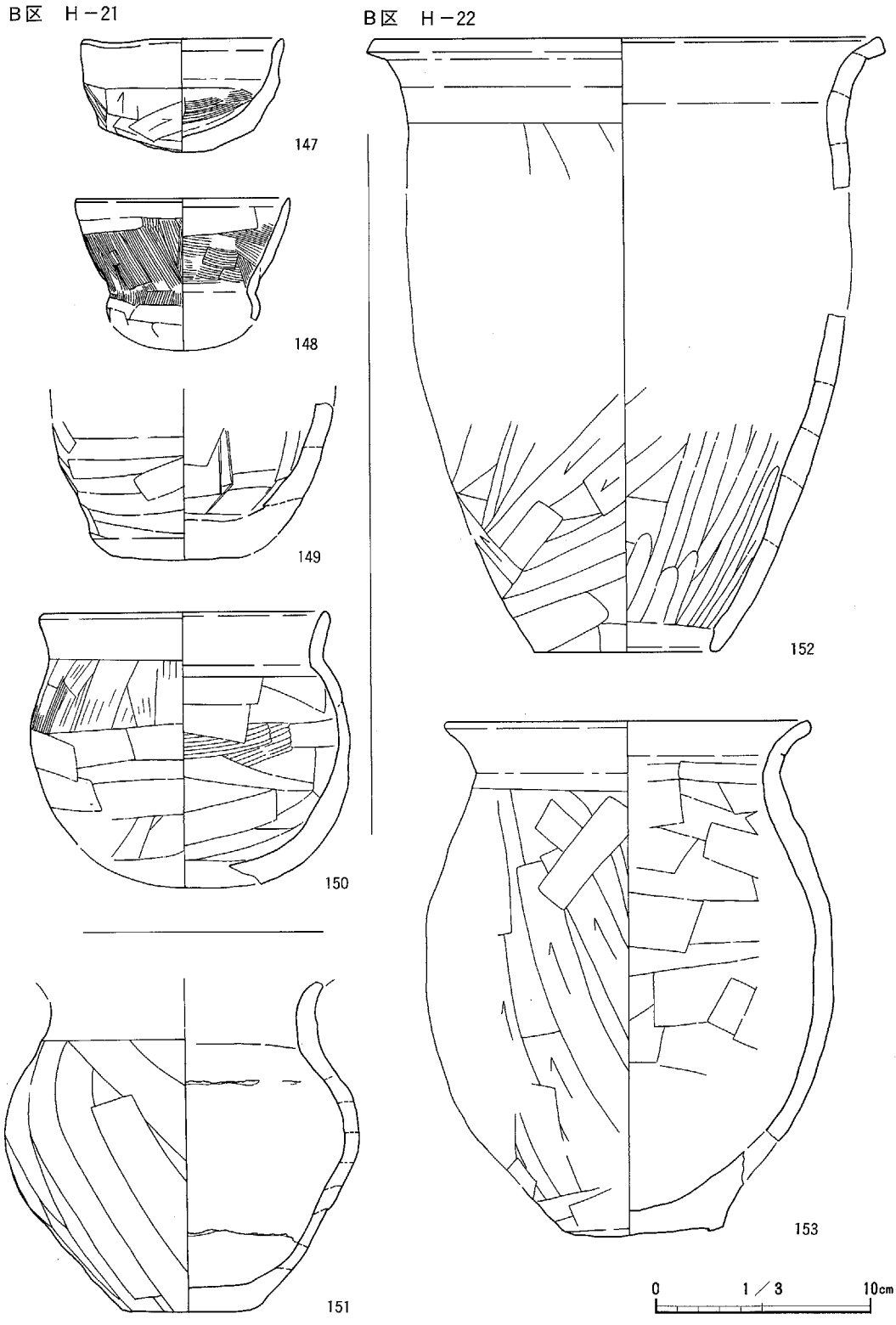


Fig. 49　B区H－21・22号住居址出土の土器

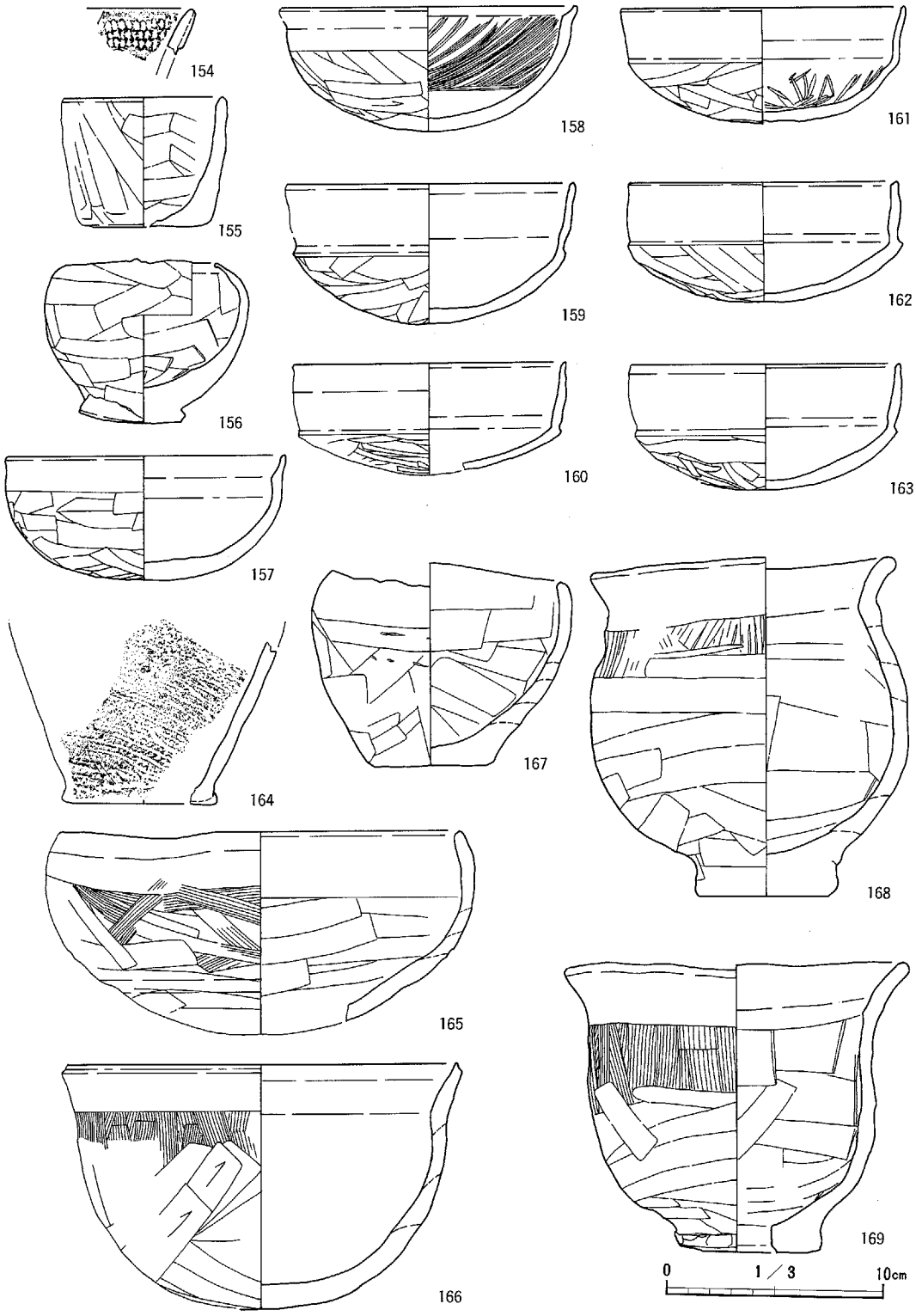


Fig. 50　B区H－22号住居址出土の土器

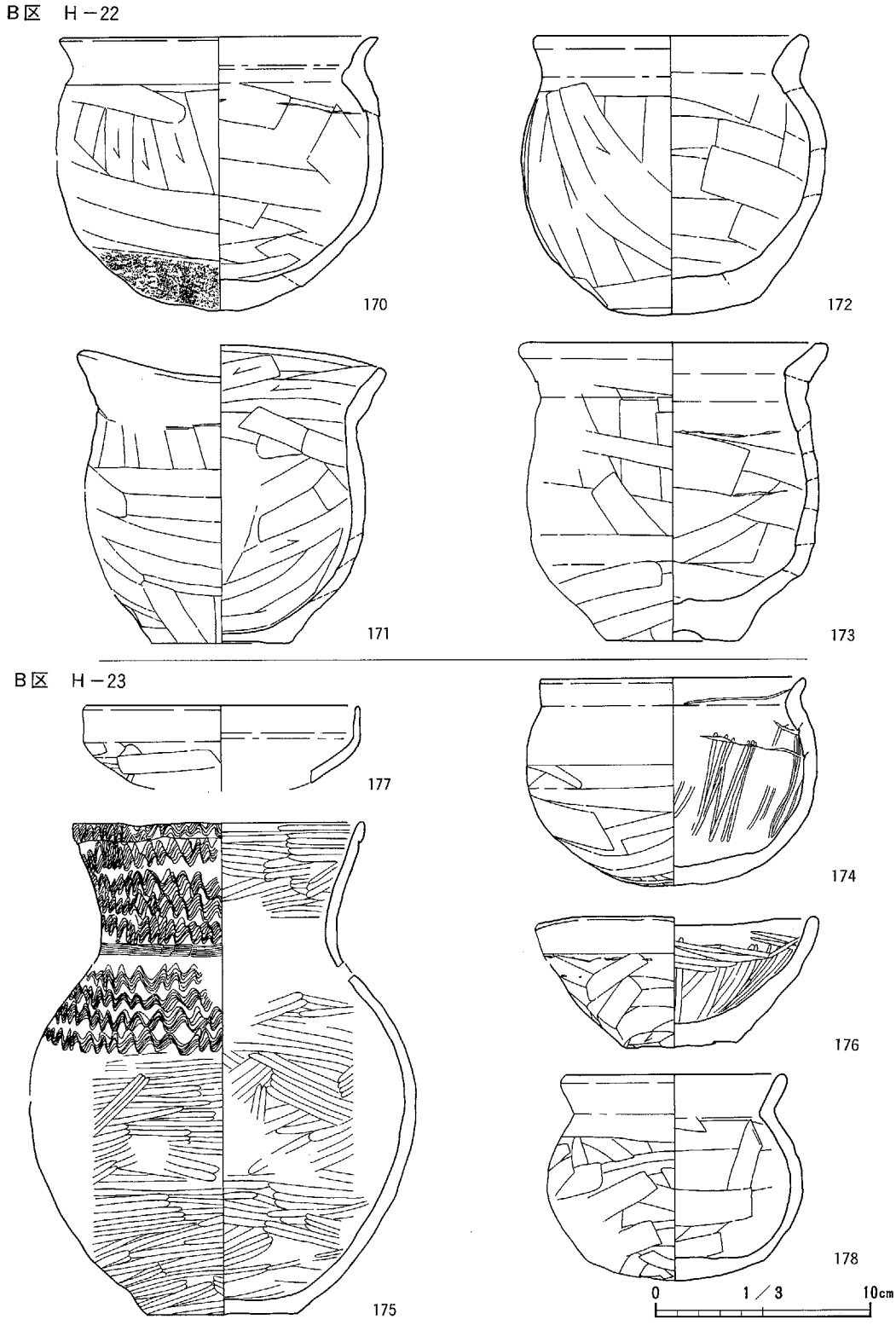


Fig. 51　B区H－22・23号住居址出土の土器

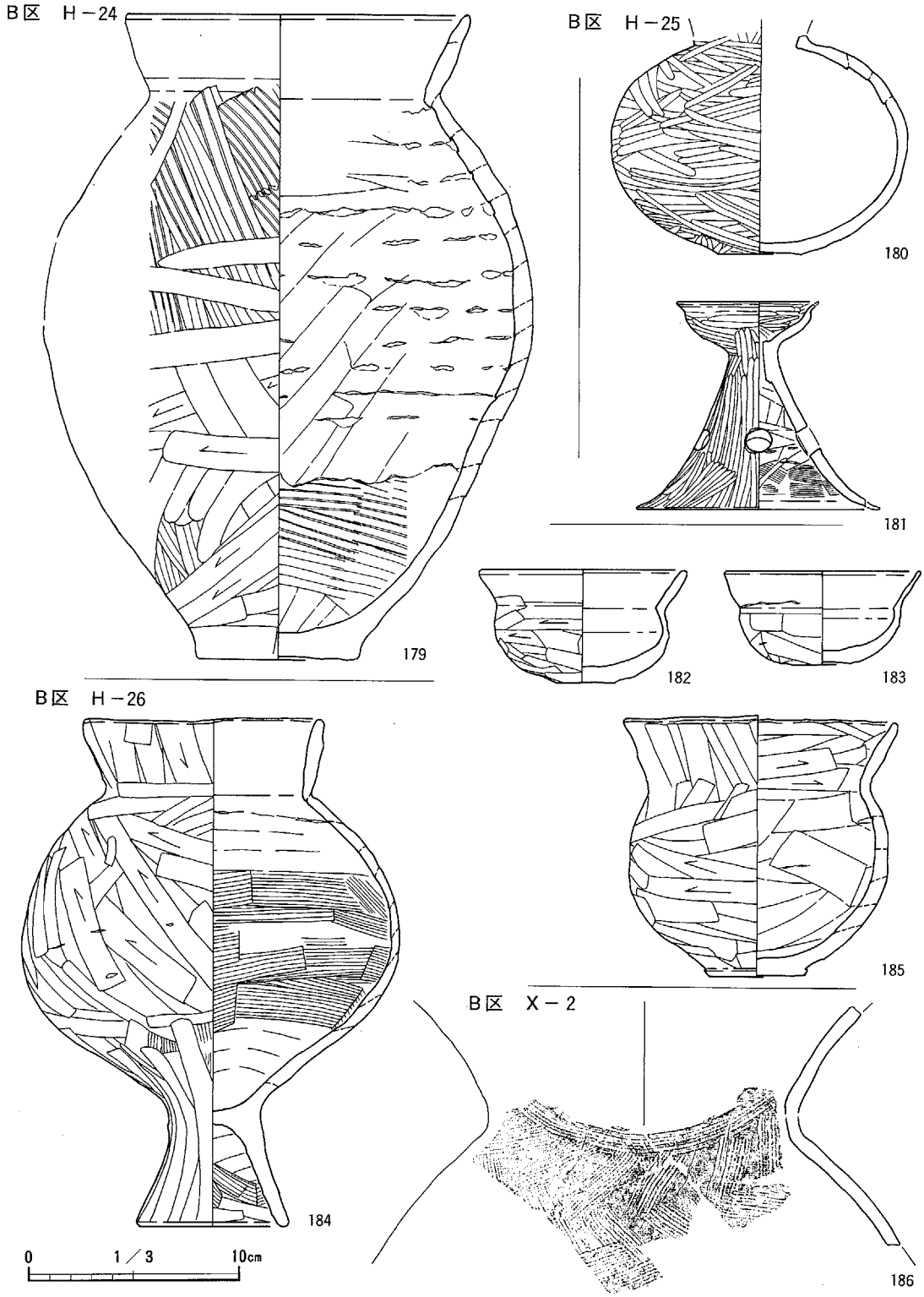


Fig. 52　B区H－24～26号住居址・X－2号地割れ出土の土器

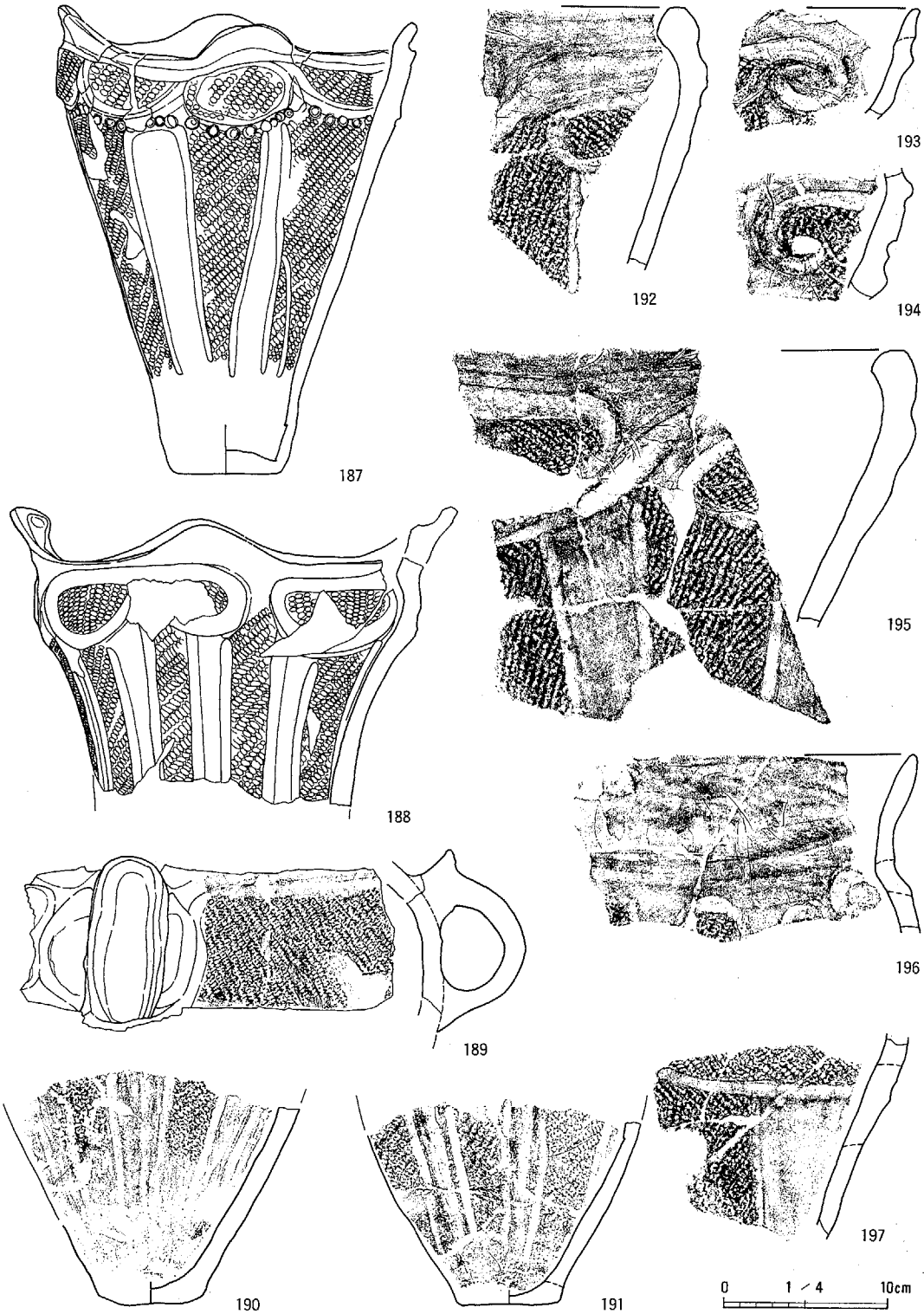


Fig. 53　B区Ｊ－１号住居址出土の土器

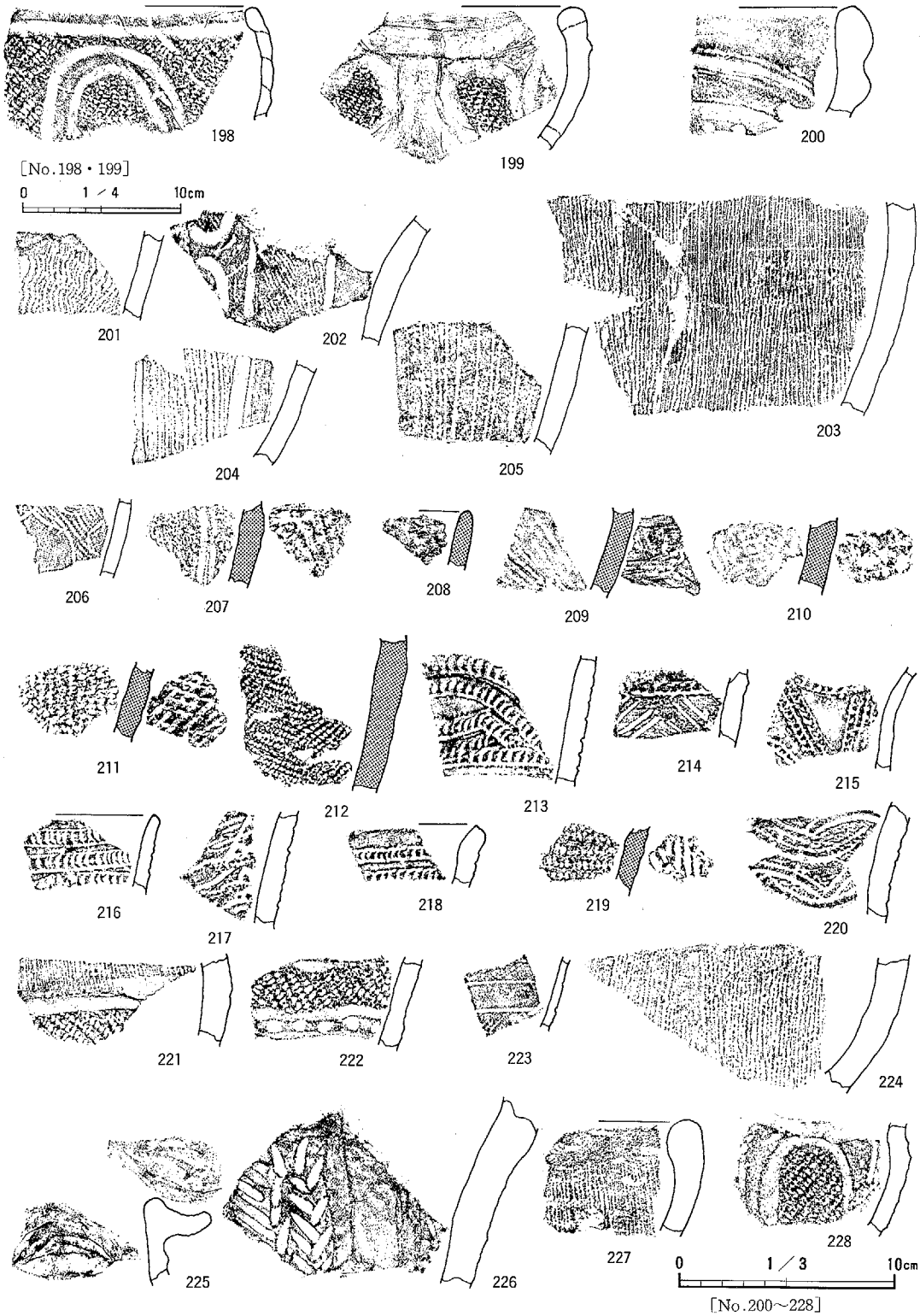


Fig. 54　B区出土の縄文土器

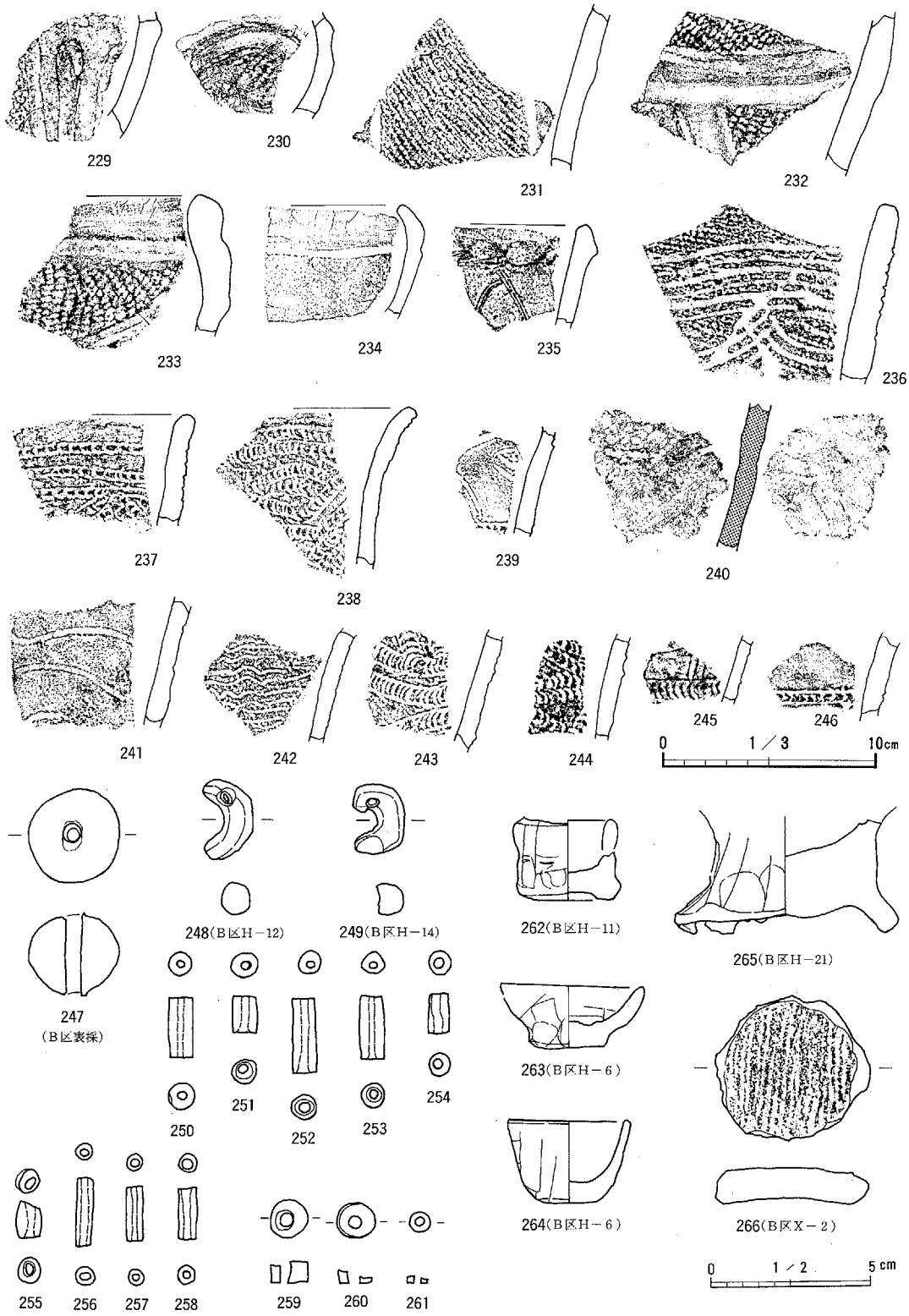


Fig. 55　B区出土の縄文土器・玉類・土製品

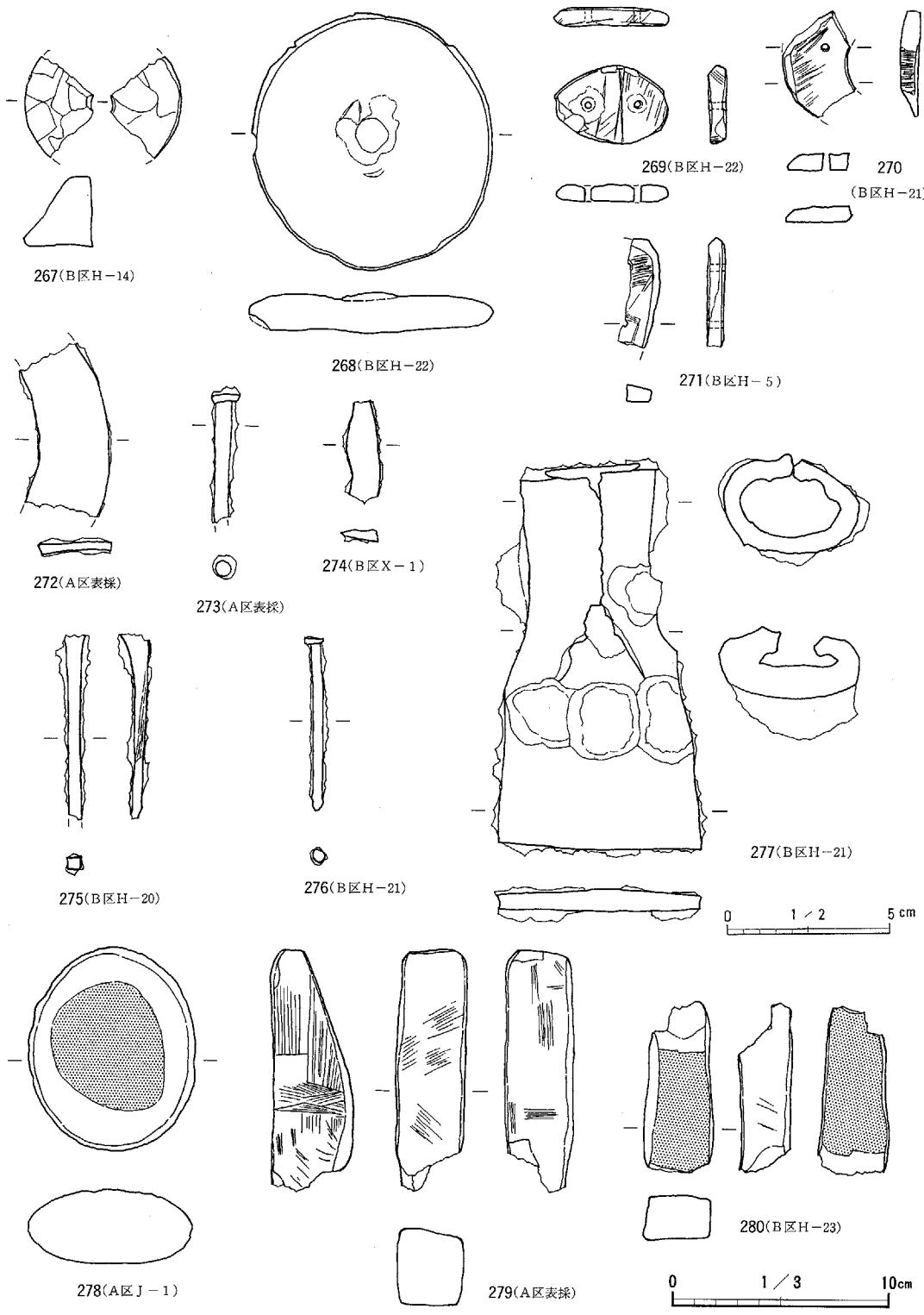


Fig. 56　土製品・鉄製品・石製品・石器

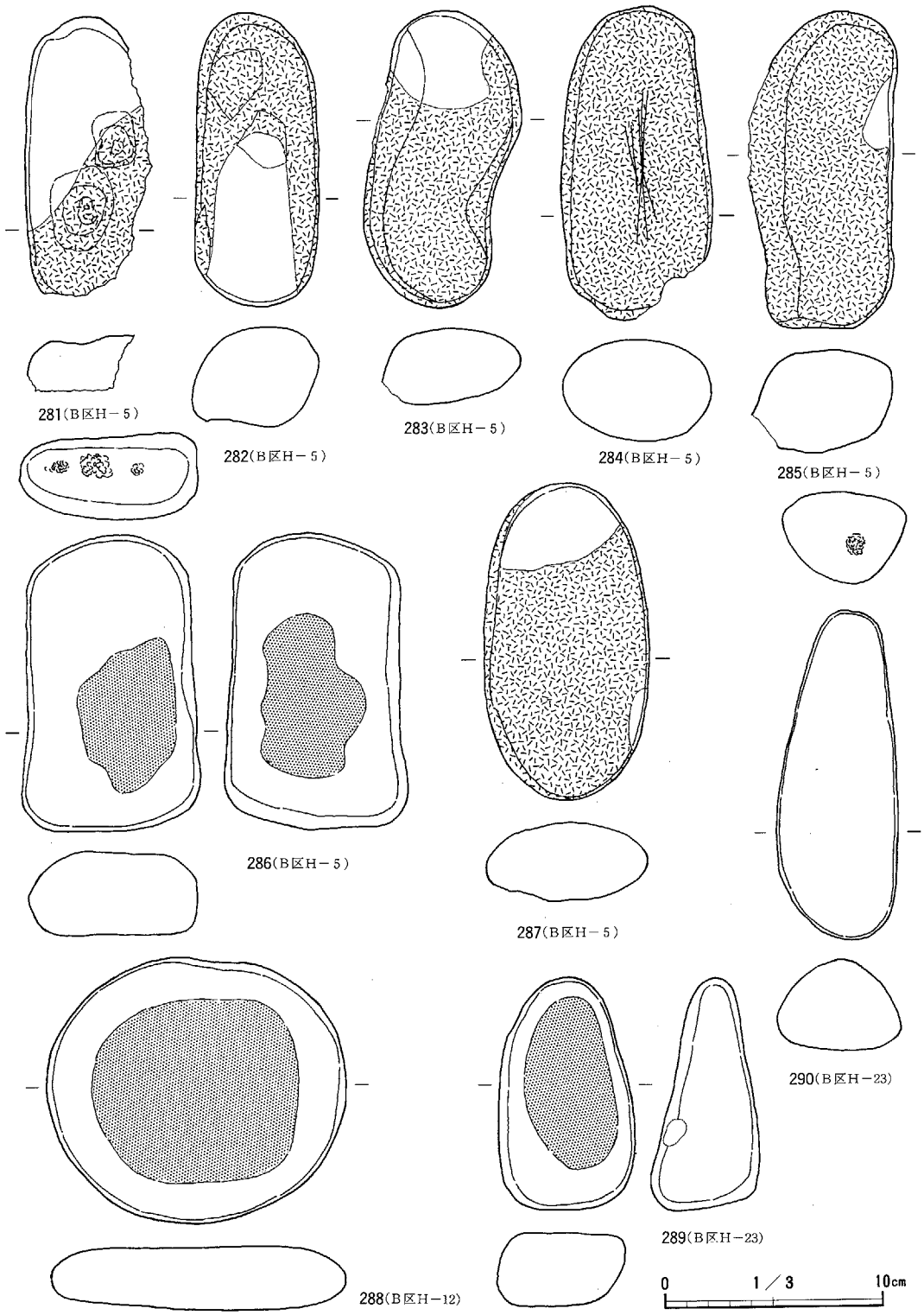


Fig. 57　B区出土の石器

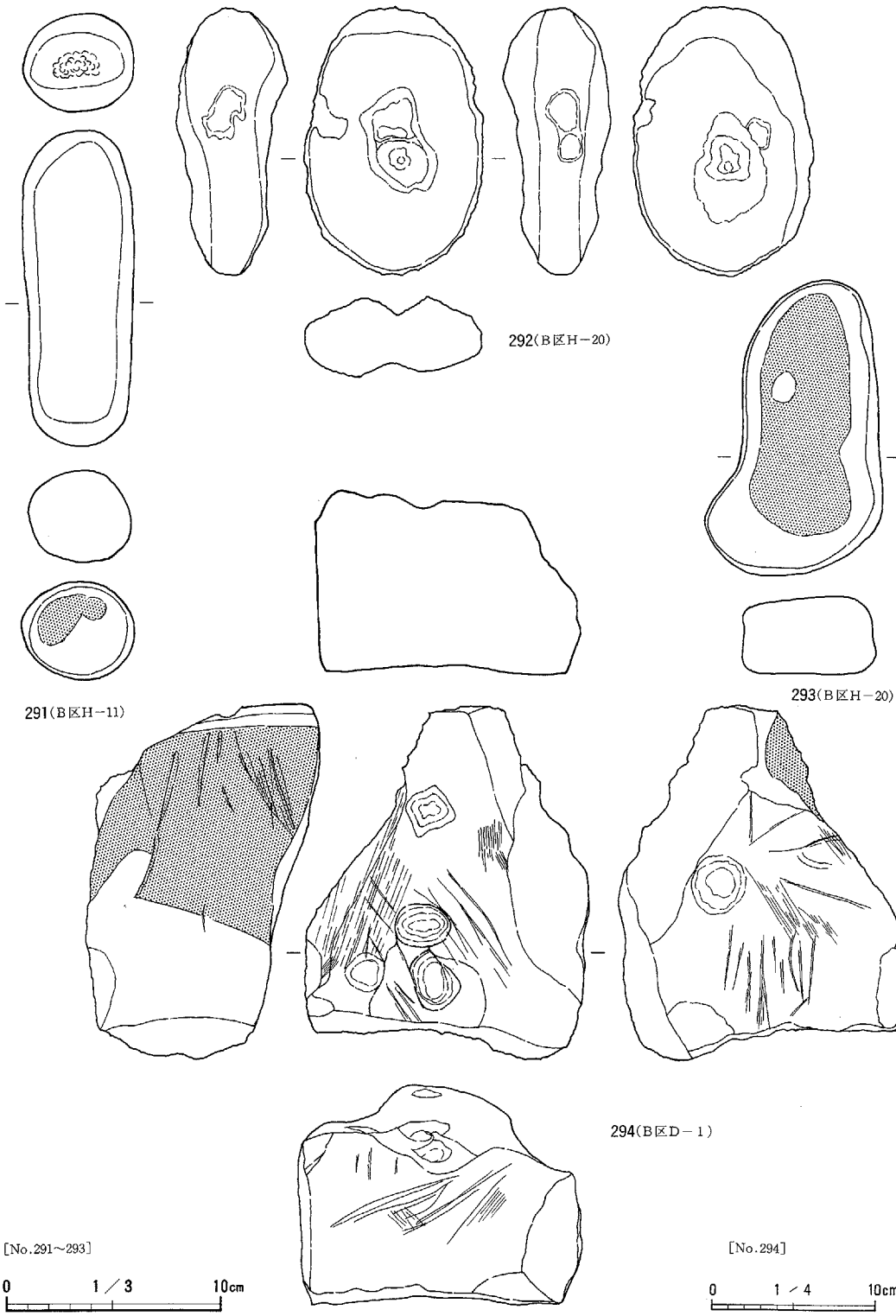


Fig. 58 B区出土の石器

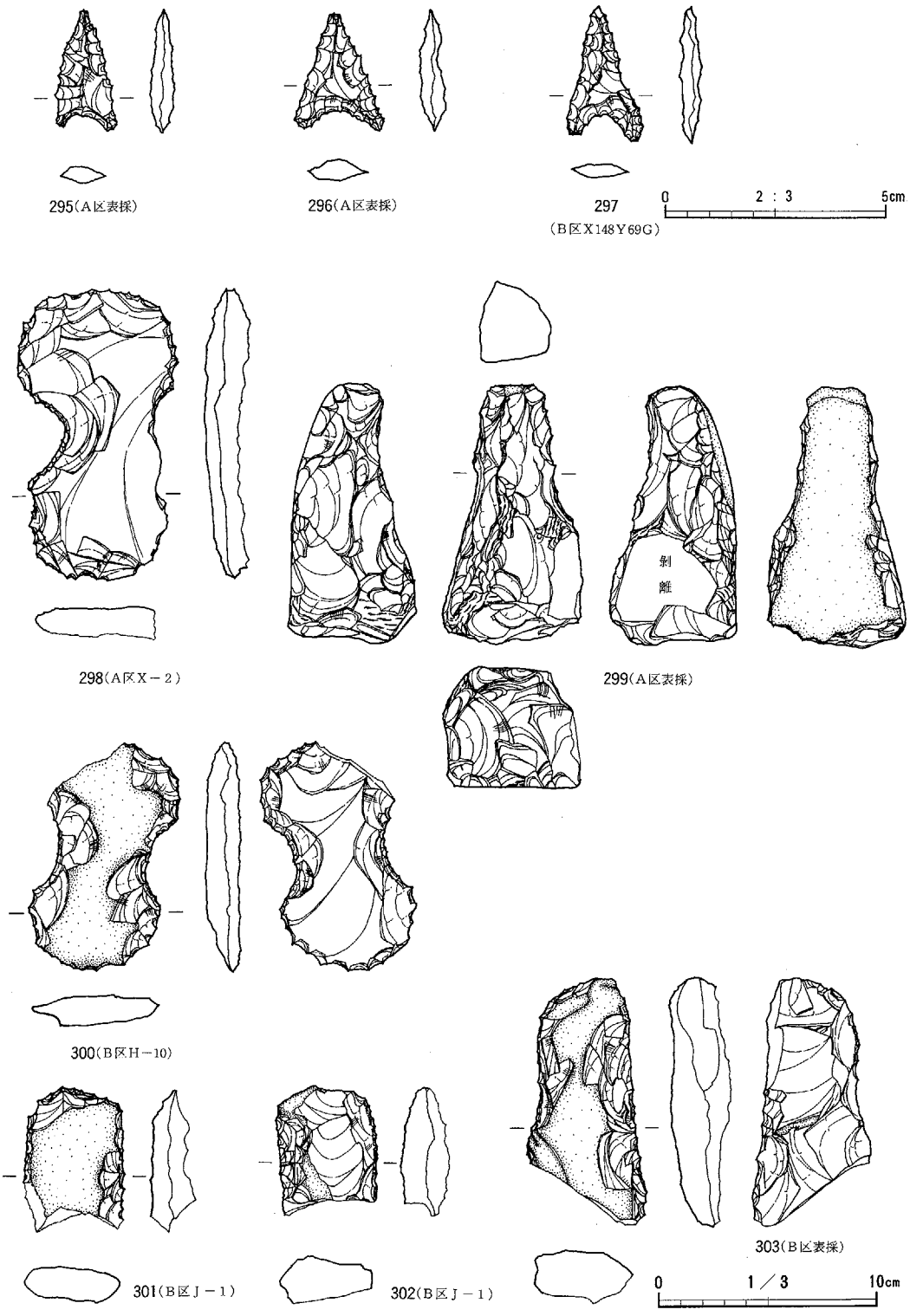
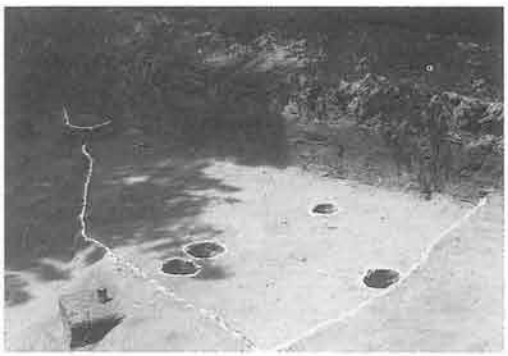

295(A区表採)
296(A区表採)
297
(B区X148Y69G)
0 2 : 3 5cm
剝離
298(A区X－2)
299(A区表採)
300(B区H－10)
301(B区J－1)
302(B区J－1)
303(B区表採)
0 1／3 10cm

Fig. 59 石器

1．A区北東部（西から）

2．A区北西部（西から）



3．A区J－1号住居址（南から）

4．A区H－1号住居址（南から）

5．A区H－1号住居址遺物出土状態（南から）

6．A区H-1号住居址柱穴内遺物出土状態(南から)

7．A区H－1号住居址炉（南から）

8．A区C－1号周溝墓（北西から）

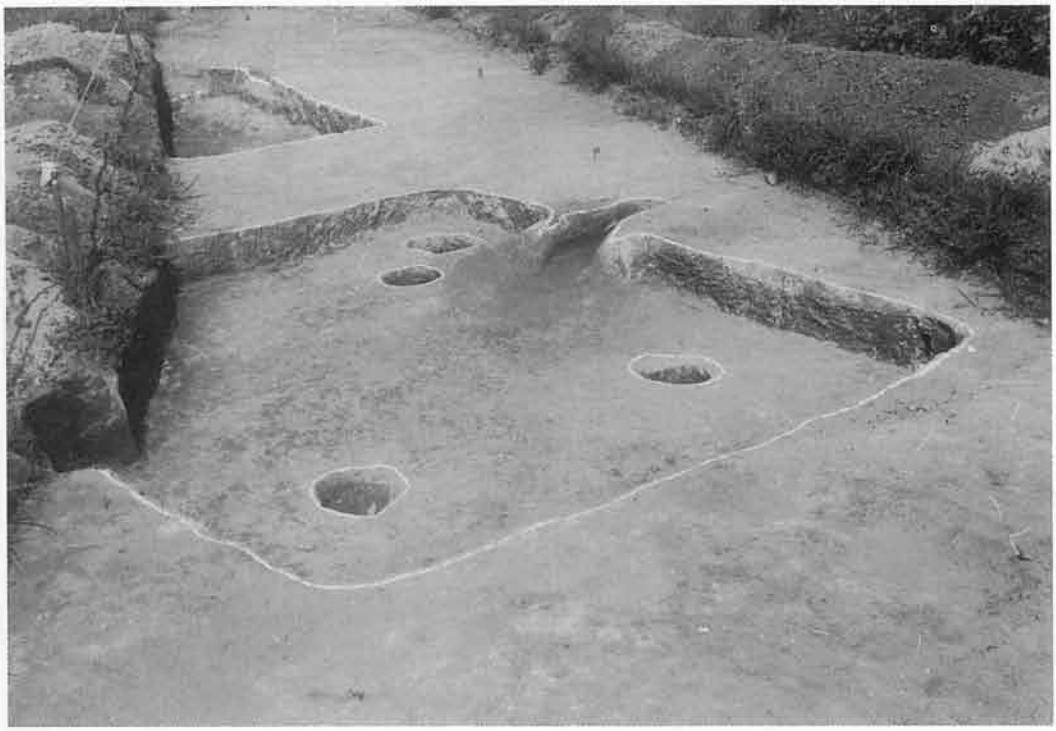
9．A区X－2号地割れ（北から）

10．A区W－1号溝（北から）

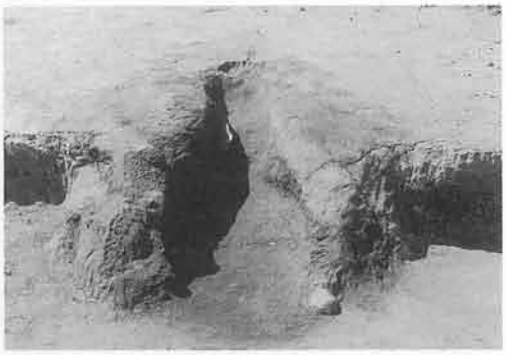
11．A区X－1号地割れ（南東から）

12．B区J－1号住居址（南から）

13．B区J－1号住居址炉（南から）



14. B区H－1号住居址とH－2号住居址（東から）



15. B区H－2号住居址竈（南から）

16. B区H－2号住居址遺物出土

17. B区H－3号住居址（北から）

18. B区H－3号住居址竈（東から）

19. B区H-3号住居址遺物出土状態（南から）

20. B区H－4号住居址（南から）

21. B区H－5号住居址（東から）

22. B区H-5号住居址遺物出土状態（西から）

23. B区H－6号住居址（北西から）

24. B区H-5号住居址遺物出土状態（南から）

25. B区H-5号住居址とH-7号住居址（北東から）

26. B区H-6号住居址遺物出土状態（南から）

27. B区H-6号住居址遺物出土状態（東から）

28. B区H-6号住居址竈付近遺物出土状態（北から）

29. B区H-6号住居址貯蔵穴内

30. B区H-6号住居址とH-8号住居址（南から）

31. B区H－8号住居址（南から）

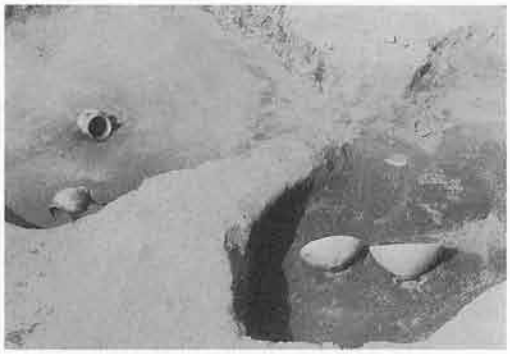
32. B区H-8号住居址柱穴内遺物出土状態（南から）

33. B区H-9号遺物出土状態住居址（南から）

34. B区H-9号住居址遺物出土状態（南から）

35. B区H-10号住居址とH-17号住居址（南から）

36. B区H－１１号住居址（南から）



37. B区H-11号住居址遺物出土状態①（南から）

38. B区H-11号住居址遺物出土状態②（南から）

39. B区H-11号住居址とH-12号住居址(南西から)

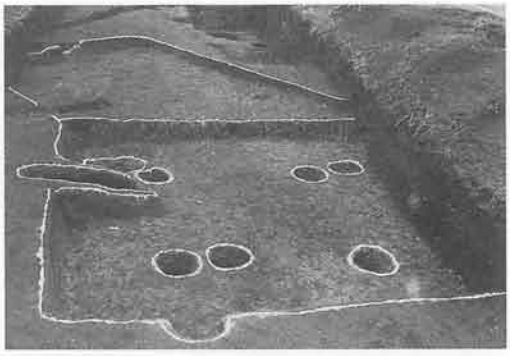
40. B区H－１４号住居址（北から）

41. B区H－１４号住居址竈（北から）

42. B区H-14号住居址竈遺物出土状態（北から）

43. B区H－１６号住居址（北から）

44. B区H-16号住居址貯蔵穴内遺物出土状況(南から)



45. B区H-18号住居址とH-19号住居址（北から）

46. B区H－19号住居址（北から）

47. B区H－19号住居址竈（西から）

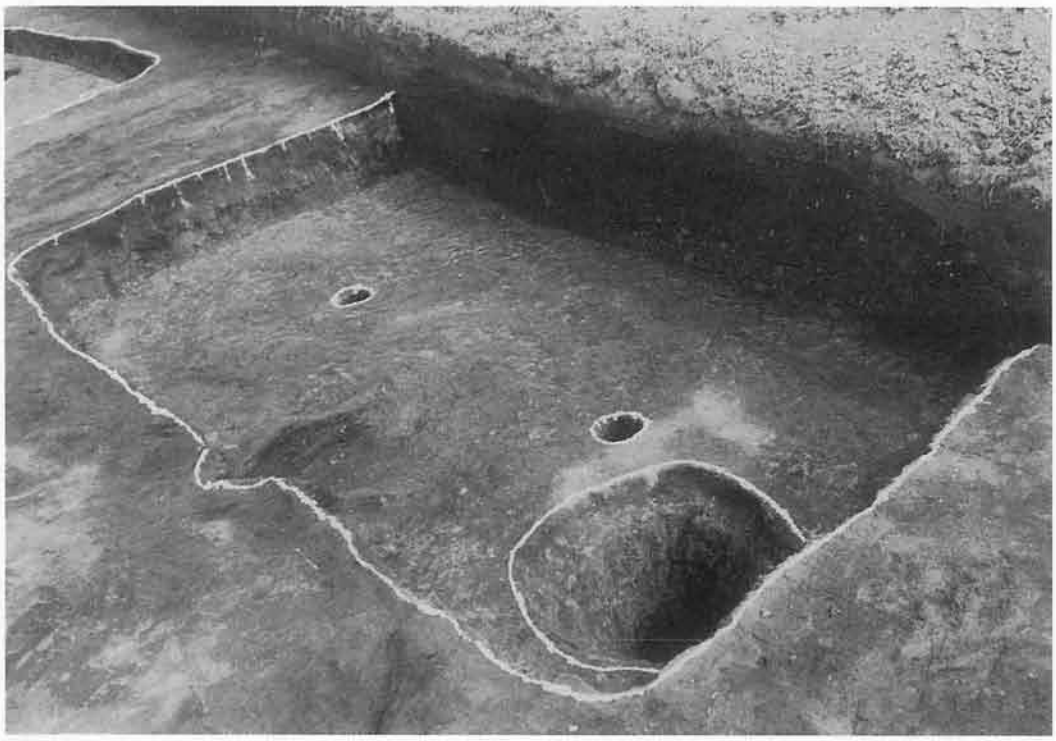
48. B区H-19号住居址遺物出土状態（東から）

49. B区H－２０号住居址（北から）

50. B区H-20号住居址粘土溜まり遺物出土状態(南西から)

51. B区H-22号住居址遺物出土状態（南から）

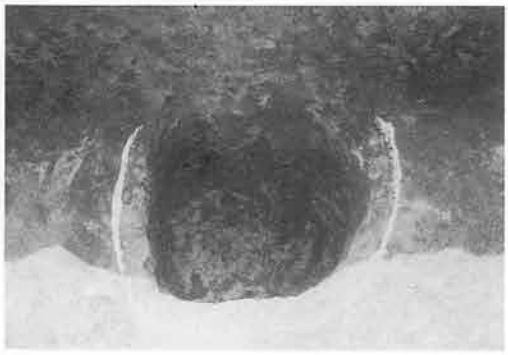
52. B区H－２１号住居址（北から）



53. B区H－22号住居址（南西から）

54. B区H-22号住居址遺物出土状態（西から）

55. B区H-23号住居址北側壁検出状態（南から）



56. B区H－23号住居址貯蔵穴（北から）

57. B区H-23号住居址遺物出土状態（北から）

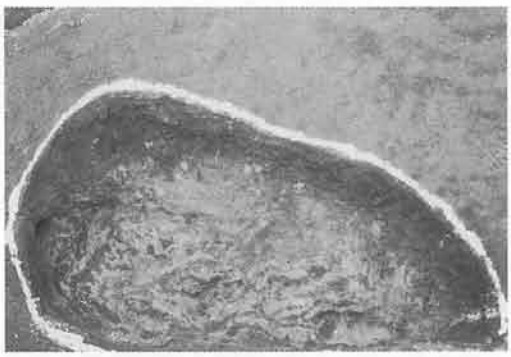
58. B区H-24号住居址遺物出土状態（北から）

59. B区H－25号住居址（北から）

60. B区H-25号住居址遺物出土状態(北から)

61. B区H－26号住居址（北東から）

62. B区H-26号住居址遺物出土状態(南東から)



63. B区D－1号土坑（西から）

64. B区X－1号地割れ（南から）

65. B区X－2号地割れ（西から）

1 (A区H－1)

2 (A区H－1)

3 (A区H－1)

4 (A区X－2)

5 (A区X－2)

7 (A区X－2)

14 (B区H－2)

15 (B区H－2)

16 (B区H－2)

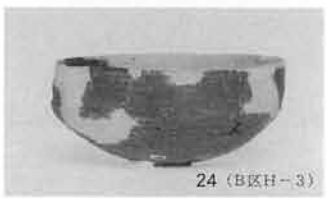
17 (B区H－2)

19 (B区H－2)

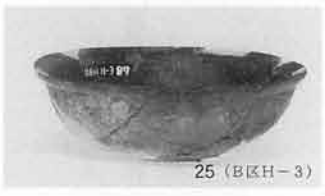
20 (B区H－2)

21 (B区H－3)

23 (B区H－3)


24 (B区H－3)

22 (B区H－3)


25 (B区H－3)

26 (B区H－3)

27 (B区H－3)

28 (B区H－3)

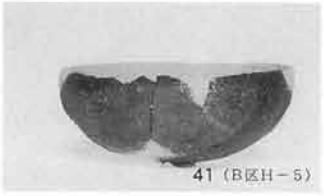
PL.12

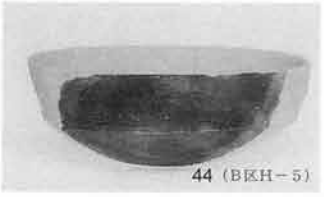
29 (B区H－3)

30 (B区H－3)

33 (B区H－3)

39 (B区H－5)


41 (B区H－5)


44 (B区H－5)

32 (B区H－3)

34 (B区H－3)

35 (B区H－3)

40 (B区H－5)

48 (B区H－5)

36 (B区H－3)

37 (B区H－4)

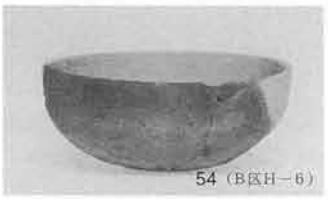
38 (B区H－5)

46 (B区H－5)

53 (B区H－6)

49 (B区H－7)

51
(B区H－7)


54 (B区H－6)

55 (B区H－6)

59 (B区H－6)

56
(B区H－6)

57
(B区H－6)

58
(B区H－6)

60
(B区H－6)

62 (B区H－6)

61
(B区H－6)

63 (B区H－6)

64
(B区H－6)

69 (B区H－6)

65
(B区H－6)

68 (B区H－6)

PL.14

70
(B区H－6)

72
(B区H－6)

73 (B区H－6)

74
(B区H－6)

76
(B区H－6)

75 (B区H－6)

77 (B区H－8)

78 (B区H－8)

79
(B区H－8)

83 (B区H－8)

84 (B区H－8)

85 (B区H－9)

86 (B区H－9)

87
(B区H－9)

88 (B区H－9)

89 (B区H－9)

92
(B区H－11)

93
(B区H－11)

94 (B区H−11)

95 (B区H−11)

96 (B区H−11)

97 (B区H−11)

99 (B区H−11)

101 (B区H−11)

103 (B区H−11)

104 (B区H−11)

105 (B区H−11)

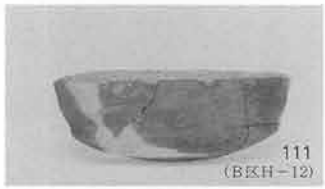
107 (B区H−11)

108 (B区H−11)

106 (B区H−11)

109 (B区H−11)

110 (B区H−12)


111 (B区H−12)

112 (B区H−12)

115 (B区H−14)

116 (B区H−14)

117 (B区H−14)

PL.16

113 (B区H－14)

118 (B区H－14)

119
(B区H－14)

120 (B区H－14)

114 (B区H－14)

123 (B区H－16)

122
(B区H－16)

124 (B区H－16)

125
(B区H－16)

127 (B区H－18)

130 (B区H－19)

126 (B区H－16)

136 (B区H－19)

133 (B区H－19)

134
(B区H－19)

139
(B区H－20)

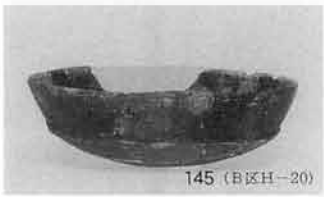
151
(B区H－22)

140
(B区H－20)

141 (B区H－20)

143 (B区H－20)

144 (B区H－20)


145 (B区H－20)

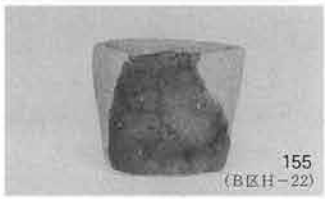
147 (B区H－21)

148
(B区H－21)

150 (B区H－21)

152
(B区H－22)

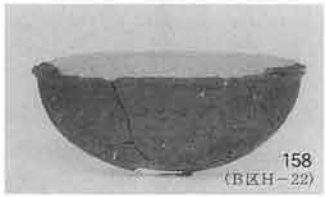
153
(B区H－22)


155
(B区H－22)

175 (B区H－23)

156 (B区H－22)

157
(B区H－22)


158
(B区H－22)

159
(B区H－22)

161
(B区H－22)

162
(B区H－22)

163
(B区H－22)

PL.18

165 (B区H－22)

166
(B区H－22)

167
(B区H－22)

168
(B区H－22)

169 (B区H－22)

170
(B区H－22)

171 (B区H－22)

172 (B区H－22)

173 (B区H－22)

174 (B区H－23)

176
(B区H－23)

178 (B区H－23)

179
(B区H－24)

180
(B区H－25)

181
(B区H－25)

182
(B区H－26)

184
(B区H－26)

183 (B区H－26)

185
(B区H－26)

187
(B区J－1)

189 (B区J－1)

188 (B区J－1)

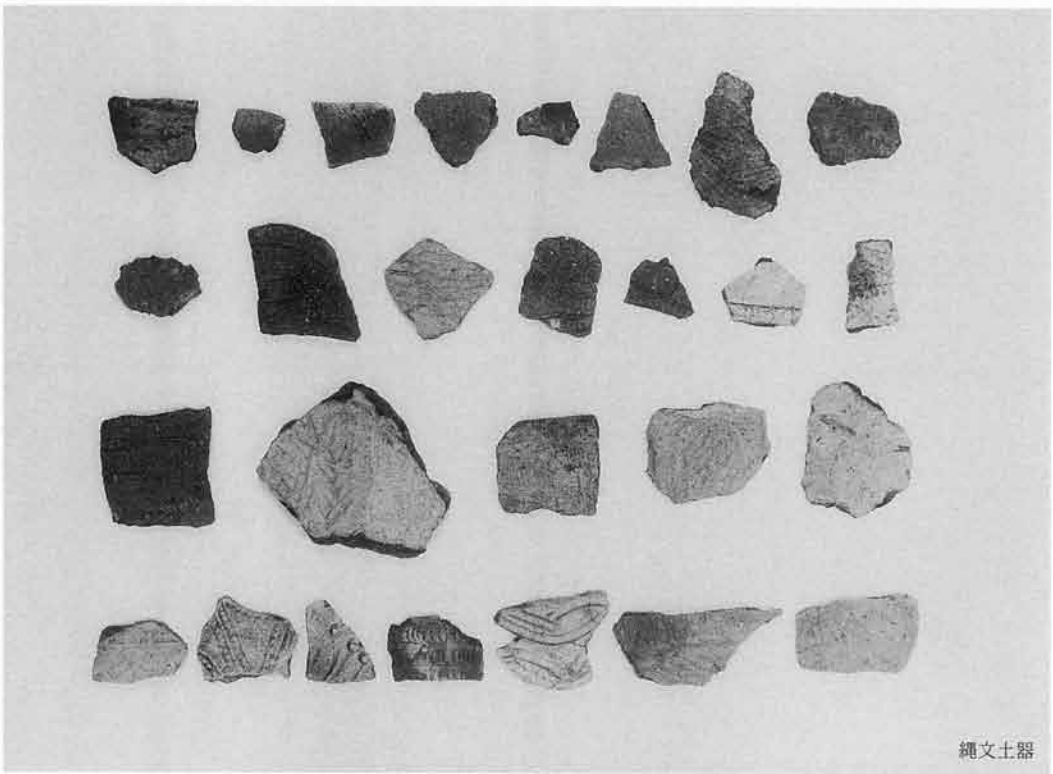
191 (B区J－1)

262 (B区H－11)

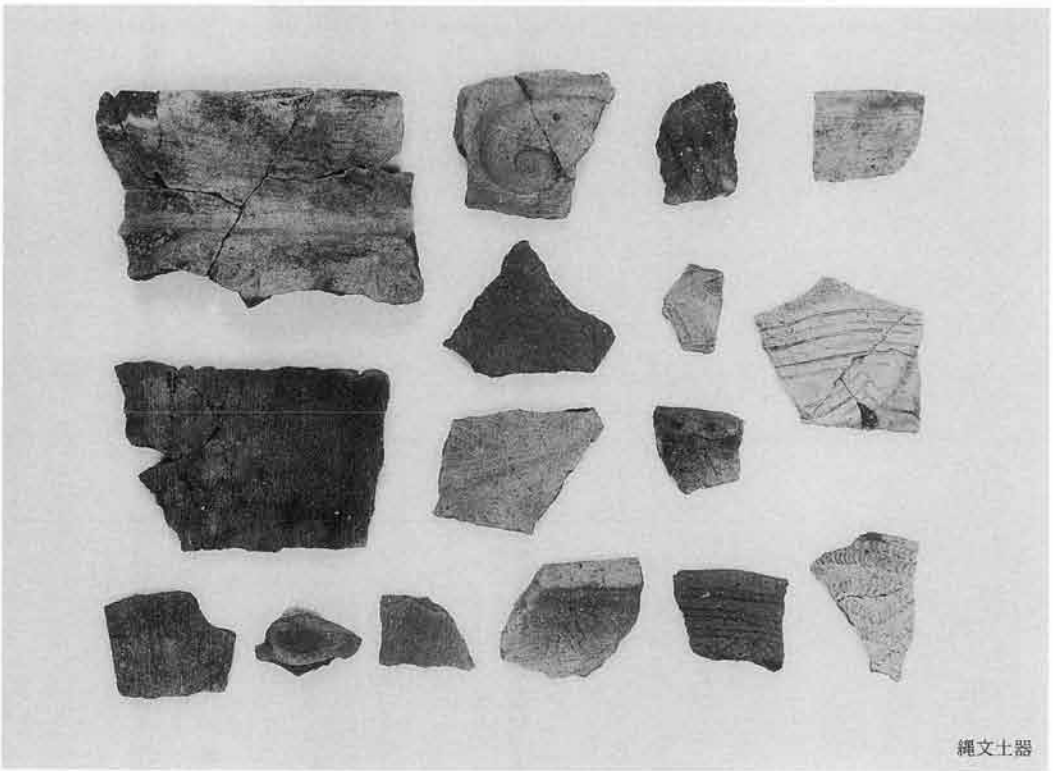
263 (B区H－6)

264 (B区H－6)

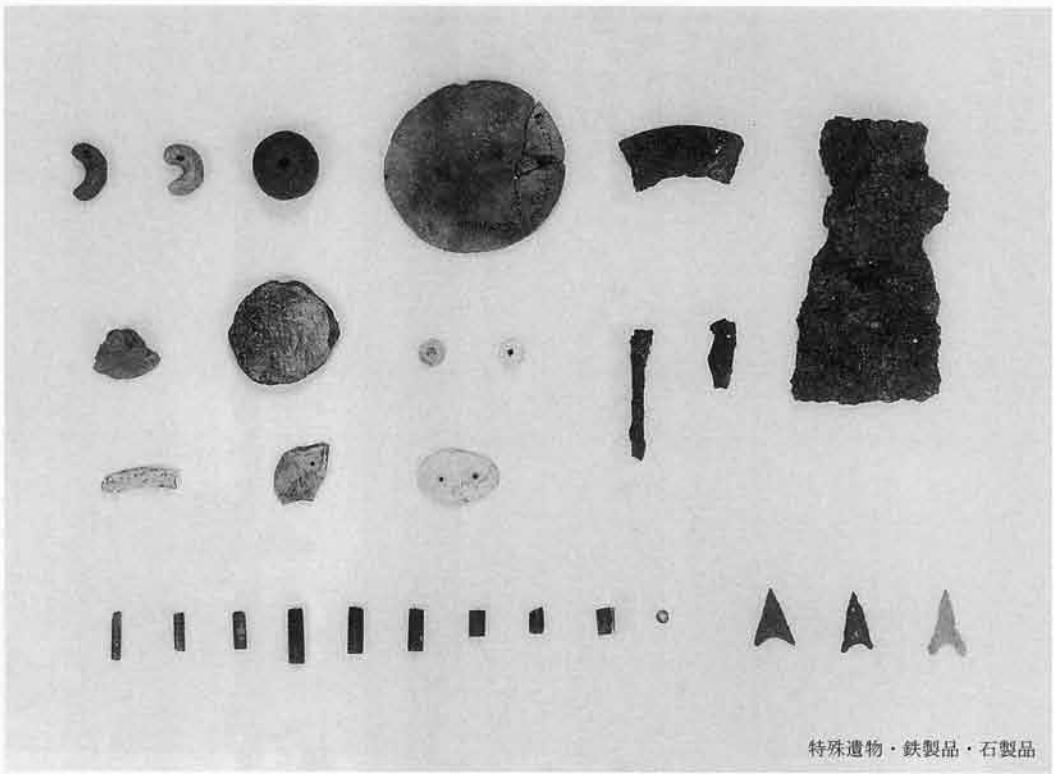
PL.20



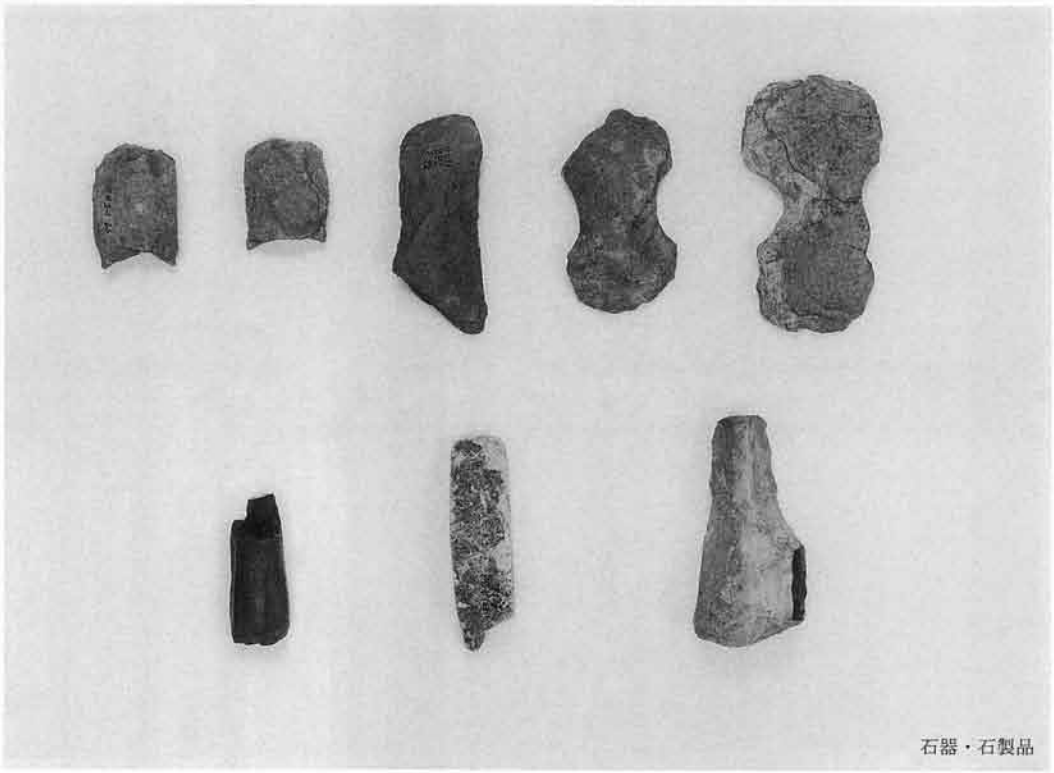
縄文土器



縄文土器



特殊遺物・鉄製品・石製品



石器・石製品

内堀遺跡群 XII

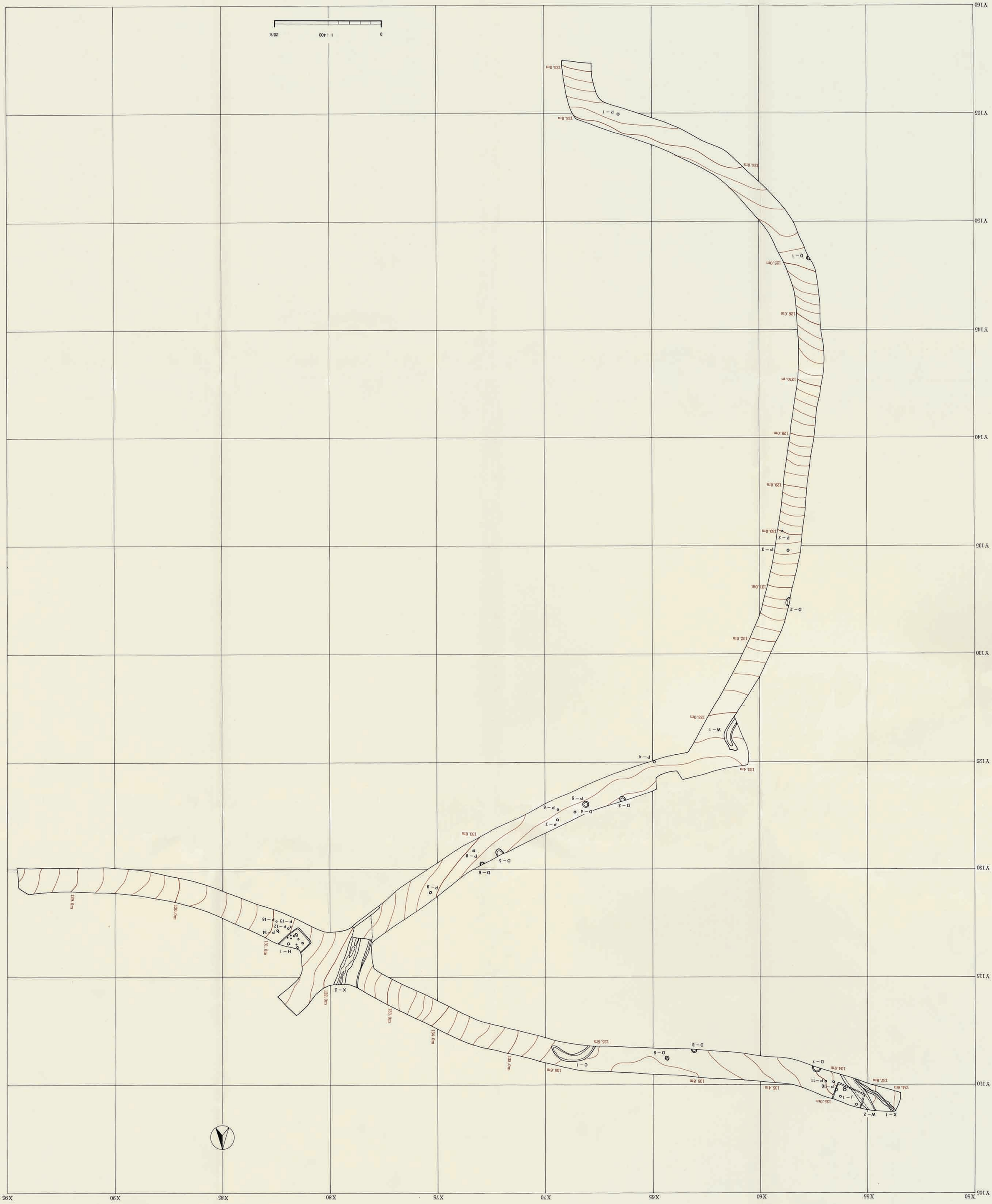
平成13年３月17日　印　刷
平成13年３月24日　発　行

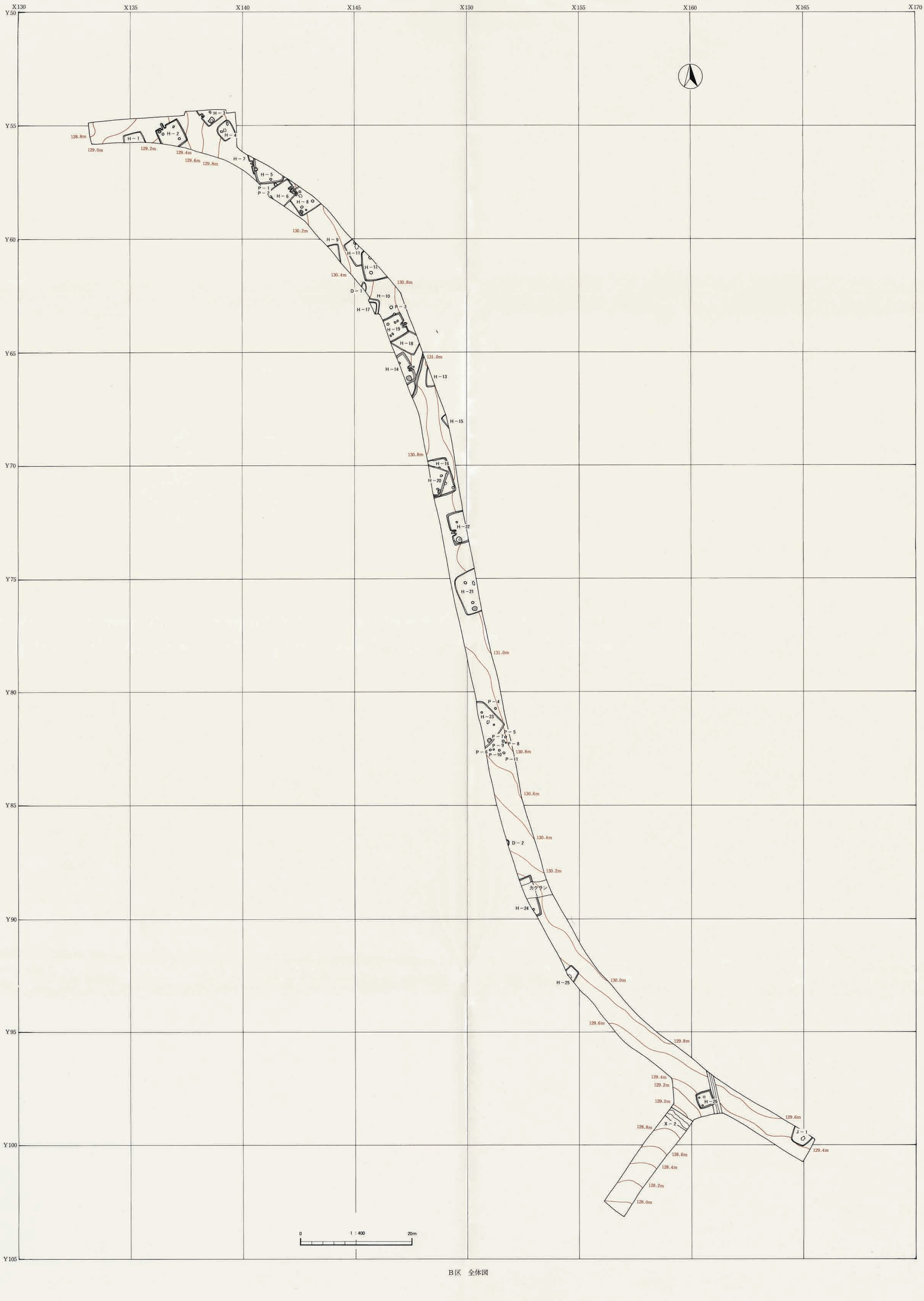
編集発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0007　前橋市上泉町664－４
TEL　027－231－9531
印　刷　上毎印刷工業株式会社

『内堀遺跡群ＸⅡ』　正誤表

ページ	位　置	誤	正
奥付	印刷年月日	平成１３年３月１７日	平成１２年３月１７日
奥付	発行年月日	平成１３年３月２４日	平成１２年３月２４日

A区 全体図


0
1 : 400
20m
Y160
Y155
Y150
Y145
Y140
Y135
Y130
Y125
Y120
Y115
Y110
Y105
X50
X55
X60
X65
X70
X75
X80
X85
X90
X95
123.0m
124.0m
125.0m
126.0m
127.0m
128.0m
129.0m
130.0m
131.0m
132.0m
133.0m
133.4m
134.0m
135.0m
135.4m
135.6m
135.8m
137.8m
P－1
P－2
P－3
P－4
P－5
P－6
P－7
P－8
P－9
P－10
P－11
P－12
P－13
P－14
P－15
D－1
D－2
D－3
D－4
D－5
D－6
D－7
D－8
D－9
W－1
W－2
X－1
X－2
C－1
H－1
J－1


X130
X135
X140
X145
X150
X155
X160
X165
X170
Y50
Y55
Y60
Y65
Y70
Y75
Y80
Y85
Y90
Y95
Y100
Y105
H－1
H－2
H－3
H－4
H－5
H－6
H－7
H－8
H－9
H－10
H－11
H－12
H－13
H－14
H－15
H－16
H－17
H－18
H－19
H－20
H－21
H－22
H－23
H－24
H－25
H－26
P－1
P－2
P－3
P－4
P－5
P－6
P－7
P－8
P－9
P－10
P－11
D－1
D－2
J－1
X－2
カクラン
128.8m
129.0m
129.2m
129.4m
129.6m
129.8m
130.2m
130.4m
130.8m
131.0m
130.8m
131.0m
130.8m
130.6m
130.4m
130.2m
130.0m
129.6m
129.8m
129.4m
129.2m
129.0m
129.6m
128.8m
128.6m
128.4m
128.2m
128.0m
129.4m
0
1：400
20m

B区　全体図